

Annual Report 2023

年 報 2023年(令和5年)度



JA 広島総合病院
JA. HIROSHIMA General Hospital

Annual Report 2023

年 報 2023年(令和5年)度

Contents

巻頭言 ——— 病院長の言葉	4
----------------------	---

トピックス

ブラックジャックセミナーを開催しました	6
第20回市民公開講座 テーマ「はじめませんか 人生会議」	7

病院の概要

病院概況	10
JA 広島総合病院のあゆみ	11

活動報告

総合診療科	14
呼吸器内科	15
循環器内科	17
腎臓内科	19
消化器内科	20
糖尿病代謝内科・糖尿病センター	22
小児科	23
外科	25
乳腺外科	26
整形外科	27
形成外科	28
脳神経外科	29
呼吸器外科	31
心臓血管外科	32
皮膚科	33
泌尿器科	34
産婦人科	35
眼科	36
耳鼻咽喉科	37
放射線治療科	38
画像診断部	39
麻酔科	40
歯科・口腔外科	42
救急・集中治療科	43
健康管理センター	45
病理診断科・病理研究検査科	47
研修医	48
看護部長室	49
外来	51
外来治療センター	52
地域救命救急センター 救命病棟	53
地域救命救急センター ICU・CCU	54
西4階病棟	55
西5階病棟	56
西6階病棟	57
西7階病棟	58
西8階病棟	59
東3階病棟	60
東4階病棟	61
東5階病棟	62

東 7 階病棟	63
手術室	64
居宅介護支援事業所	65
訪問看護ステーション	66
薬剤部	67
臨床研究検査科	68
放射線科	70
臨床工学科	71
リハビリテーション科	72
栄養科	73
診療情報管理科	74
医療安全管理室	75
総合医療相談室	76
地域医療連携室	77
施設資材課	78
総務課	79
災害対策ワーキングチーム (DMAT)	80
栄養サポートチーム (NST)	81
呼吸療法サポートチーム (RST)	82
感染防止対策室 (ICT)	83
緩和ケアチーム	85
心臓リハビリテーションチーム	86
がん化学療法チーム	87
膵がん・胆道がん教室チーム	88
認知症ケアサポートチーム	89
各種委員会	90

実績

著書・論文	102
書籍・雑誌編集	106
学会発表	107
学会座長	116
研究会講演・発表	117
研究会座長	122
地域活動	125
雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演	127
合同カンファレンス	128

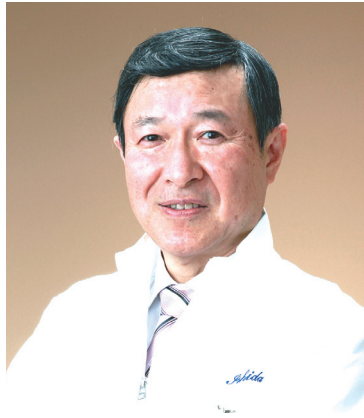
クラブ活動

華道部	130
テニス部	131
伯友会（ゴルフ同好会）	132
サッカー部	133
フットサル部	134
バスケットボール部	135

※野球部につきましては、新型コロナウイルス感染症の対応として 2023 年度は活動を自粛いたしました。

資料

統計資料	138
------------	-----



巻 頭 言

2019 年末に始まった新型コロナウイルスのパンデミックは、3 年半の歳月を経て 2023 年 5 月に 5 類感染症への引き下げで一区切りを迎えました。日々発表される新規感染者・入院・死者数の増減に一喜一憂したり、当院入院患者さんや従業員に起きたクラスター発生に肝を冷やしたり、自由な時間が自粛で失われたりと、出口のなかなか見えなかった 3 年半は本当に長かったです。改めて、奮闘いただいた全従業員の皆様に深い敬意と感謝を申し上げます。

コロナ禍収束とは対照的に世界情勢は混沌の 1 年でした、2022 年 2 月に始まったロシアによるウクライナ侵攻が長期戦の様相となる中で、2023 年 10 月にはパレスチナ自治区ガザ地区を実効支配するイスラム組織ハマスの戦闘員がイスラエル人の殺害・人質拉致を企てたことに端を発し、イスラエル軍が空爆・地上侵攻で応戦して一般住民に多数の死傷者を出す惨事が続きました。NATO vs. ロシア、イスラム諸国 vs. イスラエル、ミサイル実験を繰り返す北朝鮮、東シナ海や南シナ海の支配を狙う中国など、各国の利害関係が複雑に絡み合い、我が国にとっても脅威となっています。5 月に行われた被爆地広島での G7 サミットでは「核兵器のない世界の理想を共有した」と強調されましたが、その実現が全く見通せないのが本当に残念です。

明るい話題としては、3 月の WBC で侍ジャパンが野球の母国アメリカを決勝で下して 14 年ぶり 3 回目の優勝がありました。決勝戦前の「アメリカチームを憧れるのは止めましょう。憧れては超えられない。彼らへの憧れを捨て、勝つことだけ考えましょう」という大谷選手の名言は歴史に残るでしょう。大谷選手はその勢いのままメジャーリーグでも大活躍し、日本人初の本塁打王と二度目の最優秀選手を獲得し、「日本野球の強さ」をアメリカ国民に印象づけました。また将棋界では、藤井聡太さんが 10 月に史上初の八冠全制覇という歴史的快挙を 21 歳の若さで達成して注目を浴びました。

広島総合病院の 2023 年は、コロナ禍で中止していた行事が次々復活し、12 月には創立記念パーティーを 443 名参加者で 4 年ぶりに開催し、活気が戻ってきました。トピックスでは、いずれも 4 年ぶりの開催となった「さくらびあ」での市民公開講座（テーマ：ACP）と地元高校生を対象としたブラックジャックセミナー（高校生外科セミナー）を取り上げました。その他、各部署の「ポストコロナ」における活動状況を披露させていただきましたので、ご高覧いただければ幸甚です。

末尾になりますが、長年にわたり年報編集委員長をお願いしております辻山修司先生をはじめ、発刊に尽力された全てのスタッフの皆様に深謝申し上げます。

2024 年 7 月

広島県厚生農業協同組合連合会
広島総合病院
病院長 石田 和史

ブラックジャックセミナーを開催しました

JA 広島総合病院は8月17日（木）に4年振りとなる、高校生を対象としたブラックジャックセミナー（ジョンソン・エンド・ジョンソン共催）を開催しました。このセミナーは、実際の医療機器を用い、模擬体験を通じて外科に関心・興味を持ってもらうことを目的としています。近年はコロナ禍で開催を見送っていましたが、今年度から再開し、10回目の開催を迎えることができました。約130名の応募があり、過去最多となる46名の高校生に参加いただきました。



胆嚢摘出体験の様子

各グループに分かれて、外科医師、手術室看護師の指導のもと実習をしました。実習キットを用いての縫合・糸結びの練習や胆嚢摘出体験、実際の内視鏡器具を使用した模擬手術体験を行いました。昼食の時間には、若手外科医師が制作した外科医の1日を紹介した動画を見て、外科の仕事への理解を深めました。

参加者からは「将来、どの道に進もうかと悩んでいましたが、このセミナーに来て医学の道に進もうと決心しました」等、セミナーを通して医療に興味を持ってくれた高校生がたくさんいました。久々の開催となった本セミナーは大盛況となりました。



糸結び体験の様子

第20回 市民公開講座
テーマ「はじめませんか 人生会議」

当院の市民公開講座は、平成 22 年より年 2 回、平成 29 年以降は年 1 回の定期開催としており、令和 2 年は新型コロナウイルス感染症の流行により中止、令和 3 年には感染状況を鑑み YouTube を活用したオンデマンド配信による開催、令和 4 年には密集を避ける観点から会場は定員 100 名の事前予約制と Zoom によるライブ配信のハイブリッド形式による開催となっております。

今回、令和5年は従前どおり市民の皆様と顔と顔が見える形で開催したいという想いで、定員1,000名の「ウッドワンさくらびあ大ホール」で無事に開催することが出来ました。

今回のテーマにある「人生会議」とは、もしもの
 ときのために、あなたが望む医療やケアについて前
 もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し
 話し合い、共有する取組のことですが、「人生会議」
 の知名度がまだまだ低いことから、市民の皆様に広
 く知っていただきたいという趣旨でテーマが決定し
 ました。

佐伯地区医師会 小笠原先生に『『人生会議』ってなんだろう』として、人生会議とは何なのかの概要を中心にお話ししていただきました。JA 広島総合病院 高場先生には「救急現場の葛藤」として、迅速な判断が求められる救急の現場において、救急医としての経験から人生会議の必要性についてお話ししていただきました。佐伯地区医師会 木村先生には「在宅医療から知る人生会議」として、在宅といった違った視点からの人生会議、JA 広島総合病院 田崎先生・岡田看護師には緩和ケアチームとしての活動についてのお話しや人生会議の大切さや難しさを考えるために開発されたカードゲームもしバナゲームを紹介していただきました。

参加された市民の皆様より、「いろいろ考える良
いきっかけになった。」「人生会議をしてみたい。」「家
族としっかり話し合いたいと思う。」などのご意見
を頂き、当講座が人生会議について少しでも考える
きっかけになっていれば幸いです。

オンデマンド配信は次回の講座開催を予定している時期までの9ヶ月としており、現時点で閲覧件数は347件となっています。開催日に参加できなかった皆様や再度聞きたい皆様、たくさんの方に閲覧していただけるよう、動画の構成や周知の方法について、引き続き検討していきたいと考えています。



会場の様子

■ Annual Report 2023 2023年(令和5年)度 年 報 ■

病 院 の 概 要

病院概況

[illegible]

JA 広島総合病院のあゆみ

昭和21年6月、佐伯郡内の町村長および町村農業会長の代表の方々が県農業会を訪れ、廿日市方面の緊急対策として、原子爆弾による負傷者に対する医療施設を設置するよう強い働きかけがあった。そのため、佐伯郡37ヶ町村および農業会が出資して、地御前村元旭兵器(株)の工員宿舎を買収し、農業会病院の誘致を決定する。

昭和22年12月23日、4診療科、スタッフ総員20名、60床の病床を有する農業会佐伯病院として開設された。その後、昭和37年と40年に相次いで増床と診療体制の充実を図り、昭和41年には総合病院の認可を受け、名称も佐伯総合病院と改称された。

爾来、同地域は広島市のベッドタウンとして開発が進み、診療圏人口の増加に伴って施設の狭隘化を来したため、昭和54年には大幅な増改築が行われ、これを機会に名称も現在の広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院と改められた。その後更なる人口増加に伴う医療需要の増大により、地域の中核的病院の性格をもつに至り、昭和55年には二次救急病院の指定を受け、また昭和59年および平成元年には増築増床工事が実施され430床となる。

更に平成9年5月には、施設の狭隘化と老朽化に対する対策として、新棟建設と既存棟の改築工事が開始され、平成10年10月末に新棟完成、平成12年2月には全工事が完了し、同年4月より578床となる。その後透析用ベッドへの転用により平成15年に570床、外来化学療法用ベッドに転用により平成20年に561床となる。

広島西二次保健医療圏の三次救急患者への速やかな高度医療の提供と、広島都市圏域全体の救急医療体制の充実強化のため、平成22年8月から平成23年2月にかけて救急棟新築工事が行われ、平成23年4月には「地域救命救急センター」19床を開設した。

昭和21年	8月	佐伯郡37ヶ町村および農業会が出資して地御前村元旭兵器(株)の工員宿舎を買収し農業会病院の誘致を決定
昭和22年	12月	診療科目(内科・外科・耳鼻科・歯科)、病床数60床、職員20名で広島県農業会佐伯病院として発足
昭和23年	4月	婦人科開設
昭和23年	6月	眼科新設
昭和24年	12月	結核病棟開設(一般49床、結核11床)
昭和25年	5月	外来診療室拡張のため(一般44床、結核11床)計55床に変更
昭和26年	3月	一般病床25床、結核病床25床計50床に変更
昭和29年	6月	一般病床37床、結核病床42床計79床に変更
昭和31年	7月	小児科新設
昭和37年	1月	病棟増築(一般130床、結核20床)
昭和37年	6月	皮膚泌尿器科新設
昭和37年	7月	整形外科新設
昭和40年	2月	病棟増築(一般160床、結核20床)
昭和41年	2月	総合病院の認可を受け、佐伯総合病院となる
昭和49年	9月	結核病床20床一般病床へ転用、16床増床し196床に変更
昭和54年	1月	脳神経外科新設、皮膚泌尿器科が分離独立し皮膚科・泌尿器科となる
昭和54年	4月	現在の広島県厚生農業協同組合連合会広島総合病院に名称変更
昭和55年	2月	第二次救急医療指定病院となる
昭和59年	7月	病棟増築100床(一般370床)
昭和60年	4月	麻酔科新設
昭和60年	9月	放射線科(治療部門)新設
昭和60年	10月	放射線治療棟完成
昭和63年	4月	心臓血管外科新設
昭和63年	7月	放射線科(診断部門)開設
平成元年	4月	精神科・心療内科新設
平成元年	4月	大竹市栗谷診療所の委託運営開始
平成元年	6月	病棟増築60床(430床)
平成2年	8月	形成外科新設
平成2年	11月	MRI棟完成
平成4年	3月	院内保育園開園
平成6年	5月	訪問看護ステーション開設
平成9年	2月	災害拠点病院指定
平成9年	9月	オーダーリングシステム稼働
平成10年	9月	広電・JA広島病院前駅開業式
平成10年	10月	新館西病棟落成
平成11年	4月	病棟増床59床(489床)
平成11年	11月	居宅介護支援事業所開設
平成12年	4月	病棟増床89床(578床)
平成12年	6月	開放型病床(20床)届出
平成13年	10月	呼吸器外科新設
平成15年	2月	一般病床8床を透析用ベッドに転用(570床)
平成15年	10月	臨床研修指定病院指定
平成16年	8月	地域医療支援病院
平成18年	8月	地域がん診療連携拠点病院指定
平成18年	8月	電子カルテシステム稼働
平成20年	4月	一般病床9床を外来化学療法用ベッドに転用(561床)
平成21年	4月	DPC対象病院
平成22年	4月	センター制度の導入(救急センター、循環器・呼吸器疾患センター、一般外科治療センター、健康管理センター、急性期リハビリテーションセンター)
平成23年	4月	神経内科新設
平成23年	4月	地域救命救急センター開設(19床)
平成23年	9月	へき地医療拠点病院
平成25年	2月	糖尿病センター
平成25年	4月	医療福祉支援センター
平成25年	4月	脊椎脊髄センター
平成25年	10月	内視鏡センター
平成26年	4月	電子カルテシステム更新
平成26年	10月	廿日市市地域医療拠点等整備に関する基本協定調印
平成26年	11月	第3駐車場運用開始
平成28年	10月	救命センターHCU病床の高規格化(ICU整備)のため、3床一般病床へ変更
平成28年	11月	老朽化に伴い医師住宅・看護師宿舎解体(平面駐車場整備)
平成30年	4月	総合診療科開設
平成30年	9月	外来化学療法治療室を東8階へ移設
平成30年	10月	病棟減少30床
令和元年	8月	第1駐車場へ立体駐車場建築工事開始
令和2年	3月	立体駐車場運用開始に伴い第3駐車場閉鎖
令和2年	4月	廿日市休日夜間急患センター開設
令和3年	7月	市道総合病院連絡線(横断歩道橋)開通
令和4年	3月	新棟建築着工
令和4年	5月	電子カルテシステム更新
令和6年	3月	新棟竣工

総合診療科

■ スタッフ

主任部長 溝 岡 雅 文 (1986 年卒)

日本内科学会総合内科専門医

日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医

■ 診療科紹介

2018 年 4 月に内科に新設された診療科です。当院の内科では、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病科、腎臓内科などの臓器別専門科が高度医療を提供していましたが、紹介状を持参されていない発熱、腹痛などの軽症患者さん、あるいはどの診療科にかかればよいのかわからない患者さんを円滑に診療するために開設されました。2019 年には総合診療専門医プログラム専攻医 1 人を含み 3 人に増員されましたが、退職・転勤などもあり 2020 年からは 1 人体制になっています。2021 年度からは、臨床研修での外来研修が必修となり、初期臨床研修医が診療チームに参加しています。外来診療は研修医と指導医の 2 人体制で、入院診療は内科専門医プログラムの専攻医の協力を得て 3 人体制で担当しています。

■ 総合内科医として

- 1) 特定臓器に偏った診療ではなく、患者さんの疾患背景や家族背景なども考慮した包括的な医療を提供します。
- 2) 病歴聴取、身体診察も重視します。
- 3) 患者さんの個別の状況に応じて、専門医、多職種と協同しながら診療しています。

■ 外来について

- ・対象年齢は、高校生以上です。
- ・診療は一診体制です。
- ・2021 年 4 月からは、新型コロナ流行もあり初診外来の完全予約制を導入しています。前日までに地域連携室経由で外来予約をお願いします。初診外来枠は、院外からは 2～3 枠、院内からは 2 枠を設けています。初診の場合には、30 分以上かけて病歴聴取、診察などを行い、検査・治療方針を決めています。

- ・原因不明の発熱、痛みなどの症状、および原因不明の検査値異常などの精査を行います。どの診療科を受診してよいかわからない場合も診療いたします。診察で疾患の専門診療科が決まった場合、および当科で精査ができない場合には院内もしくは院外の専門科にご紹介します。病状が安定した場合には、地域のクリニックの先生方にご紹介しています。

なお、診療枠やスタッフ不足により、救急車の受入、および緊急患者の受入要請に対応できないことがありますのでご理解・ご協力のほど宜しくお願いします。

■ 診療実績

2018～2023 年の 6 年間の外来（表 1）、入院（表 2）の実績は後述に示します。

表 1 年度別 総合診療科外来患者数

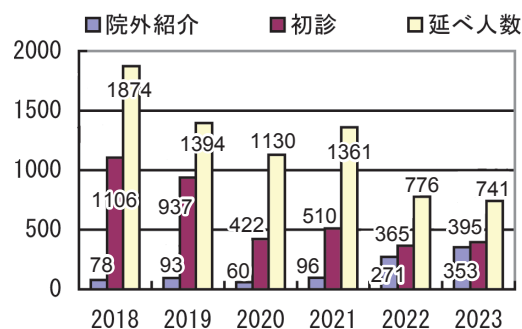
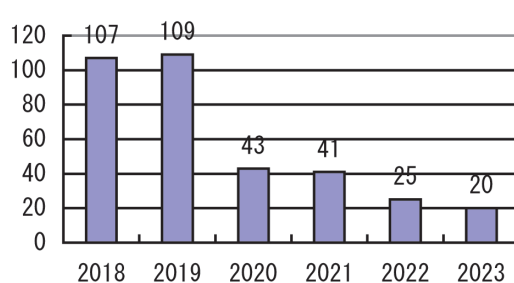


表 2 年度別 総合診療科入院患者数



入院患者の実数は 2021 年度は 41 人、2022 年度は 25 人、2023 年度は 20 人でした。入院経路で ER からの転科は 2021 年度 18 人、2022 年度 9 人、2023 年度 11 人でした。入院した原因は、尿路感染、誤嚥性肺炎などの感染症、偽痛風、菊池病などの膠原病疾患などでした。

呼吸器内科

■スタッフ

診療部長、呼吸器内科主任部長、内科専攻科部長

近 藤 丈 博 (1998 年卒)

日本呼吸器学会専門医・指導医

日本内科学会総合内科専門医

部 長 大 月 鷹 彦 (2007 年卒)

日本呼吸器学会専門医

日本内科学会総合内科専門医

医 員 長谷川 博 司 (2018 年卒)

医 員 三 上 英 吾 (2020 年卒)

■診療科紹介／トピックス

呼吸器内科の診療スタッフは総勢 4 名となっています。当科では肺がん代表される悪性腫瘍の診療だけでなく、多様な呼吸器疾患に伴う急性、慢性の呼吸不全や生理学的な呼吸機能障害、能力障害、社会的ハンディキャップに対する広い意味での医療的な支援形成を目指しています。今後は急性期にとどまらず、慢性期の治療とケア、リハビリテーション、在宅呼吸ケアなどと広がる有機的な支援体制が一層必要となってきています。「包括ケア」というキーワードは、このような状況から必然性を持って浮上してきました。この 10 年余りで ICU、一般病棟、在宅での人工呼吸が大きく変遷しつつあります。1990 年代半ばから非侵襲陽圧換気療法（NPPV）の導入が始まり、現在では慢性呼吸不全急性増悪時の人工呼吸の第一選択が NPPV となり、スタッフの習熟とともに、一般呼吸器病棟でも当たり前のように導入されるようになりました。そのような状況を背景として今後、急性期から慢性期にかけて「包括的呼吸ケア」という概念は今後一層の重要性を増してくるものと考えます。当科ではこのような時代の要請に合わせて、医師だけでなく病棟スタッフの教育・指導を行っています。

当科では以下のように呼吸器疾患の加療にあたっています。

【肺がん】

肺がんの治療法はここ数年でめざましい進歩を遂げています。分子標的薬剤は、耐性遺伝子を標的とした第3世代のEGFR-TKI(タグリッソ)の時代を迎え、また、ALK 阻害薬もアレセンサを始め、めざましい生存期間延長をもたらしています。さらに 2016 年から臨床現場で使用可能となった免疫チェックポイント阻害薬（オプジーボ、キイトルーダ）は、医療経済的な問題をはらんでいるものの、従来 EGFR-TKI や ALK 阻害薬の恩恵にあずかることのなかった扁平上皮癌の患者さんを中心に、大きな利益をもたらすこととなりました。当科ではこれらの新規薬剤を積極的に導入し、全国的に見ても高い水準の肺がん治療が行える体制を整えています。また、当院では初診から治療まで呼吸器外科と放射線治療部と連携し、最速で 2 週間程で診断後治療に入れます。広島市内の大病院では治療まで一ヶ月前後かかるにも関わらず、まだまだこの地域の患者さん達は広島市内の病院へ目を向けていると思われます。当院も広島市内と変わらないレベルの治療を行うことができることを知っていただき、もっと当院で肺がんの方々と診てあげることができればと思います。

さらに、当院では局所麻酔下胸腔鏡、超音波気管支鏡ガイド下針生検（EBUS-TBNA）などの最新の診断・治療技術を積極的に導入しています。

【感染症】

当科で扱うのは主に肺炎です。高齢化の影響で誤嚥性肺炎なども多く、繰り返される傾向にあり最近では治療に難渋する傾向があります。また、肺結核を早期診断し、外来加療を行うとともに結核病棟のある病院への紹介もしています。また、最近増加している非結核性抗酸菌症の加療も行っています。

【気管支喘息】

吸入ステロイドの普及に従い、10 年前と比べ喘息死は半数以下となっていますが、まだまだ吸入ステロイドは普及していないように思います。広島大学などと連携し、この地域の喘息患者さんに良い治療

があることを知ってもらうことが大事だと思っています。

【COPD（慢性閉塞性肺疾患）、肺気腫、慢性気管支炎など】

マスコミを通じての啓発運動により、ここ数年でだんだんこの疾患名も知られてきました。日本人の場合は喫煙が原因です。当院では早期診断し、吸入薬などによる加療や必要に応じて在宅酸素療法の導入を行っています。

【びまん性肺疾患】

特発性間質性肺炎などです。早期診断し、薬物が効くタイプを鑑別するのが大事ですが、当科では気管支鏡や画像診断で早期発見に努めています。

【睡眠時無呼吸症候群】

外来または入院で PSG 検査を行い、耳鼻咽喉科とも連携しつつ、CPAP 導入のサポートを行っています。最近は CPAP 治療に対応できる開業医の先生方も増えて来られ、当院で睡眠時無呼吸症候群の確定診断を受けた患者さんの CPAP 導入を積極的にお願ひしています。

その他にも様々な分野の呼吸器の疾患がありますが、当科は広島大学病院呼吸器内科や市中の病院の呼吸器科と連携を図り、最新の知見を吸収しつつ広島県西部地区の医療に貢献できればと思っています。

循環器内科

■スタッフ

主任部長（総合統括）

莊 川 知 己（1994 年卒）

日本循環器学会専門医

日本内科学会総合内科専門医

主任部長代理（心臓カテーテル室）

山 根 健 一（2005 年卒）

日本循環器学会専門医

日本心血管インターベンション学会専門医

主任部長代理（不整脈担当）

網 岡 道 孝（2009 年卒）

日本循環器学会専門医

日本内科学会総合内科専門医

部 長 新 田 和 宏（2010 年卒）

日本循環器学会専門医

日本内科学会総合内科専門医

部 長 藤 井 裕 人（2012 年卒）

日本循環器学会専門医

日本心血管インターベンション学会認定医

医 員 寺 本 知 生（2020 年卒）

心臓血管内治療科主任部長

辻 山 修 司（1987 年卒）

日本循環器学会専門医

■診療科紹介

当院循環器内科は総勢 7 名で活動しています（日本循環器学会専門医 6 名・日本心血管インターベンション治療学会指導医 1 名）。日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション学会研修施設です。

対象となる主な疾患は、心筋梗塞・狭心症などの冠動脈疾患、心不全、高血圧、高脂血症、徐脈や心房細動などの不整脈、肺塞栓腫症、肺高血圧症や、下肢動脈疾患などの循環器疾患であり、診断と治療を行っています。

心臓血管外科とも綿密な連携をとり冠動脈バイパス術、人工弁置換術など外科的治療の適応に関しても十分な検討を行い、治療方針を決定しています。また近隣の病院や開業医の先生方との連携に重点をおき、地域の先生向けの講演会などを開催し、その連携を深めると同時に速やかな受け入れが出来るように努めています。

広島県や広島大学病院が推進する心臓いきいき推進事業の広島県西部地区の中核病院として活動も継続しています。

また三次救急病院として地域に貢献出来るよう急

性期循環器疾患に対して休日・夜間も循環器内科医の待機体制をとり、24 時間 365 日緊急カテーテル検査・治療をおこなう体制をとっており広島県西部地域の循環器救急を担っています。

■診療実績

2023 年の当科の実績を表に示します。2023 年は、心臓カテーテル検査（診断を含）376 例を施行し、機能的虚血評価検査を 25 例に施行しています。経皮的冠動脈カテーテルインターベンション（PCI）症例 217 例で、緊急 PCI 症例も 112 件含まれています。また PCI 時には狭窄部の形態・プラーク性状分析、適切なステント留置・薬剤溶出性バルーンのため血管内超音波（IVUS）をほぼ全症例で使用しています。

高度の冠動脈石灰化病変に対して Rotablator を積極的に施行し確実な血行再建を目指しています。

重症の循環不全症例や心停止症例などに対しては大動脈内バルーンパンピング（IABP）31 件、経皮的心肺補助装置（ECMO）10 件施行しています。

不整脈では心房細動や上室性頻拍症、心室頻拍症に対してカテーテルアブレーションを積極的に施行し、症例数も増加傾向です。

	2023 年
年間延べ入院患者数	735
急性心筋梗塞	111
【生理学的検査】	
運動負荷試験	34
ホルター心電図	436
経胸壁心エコー	6,421
経食道心エコー	37
【心臓カテーテル検査】	
心臓カテーテル検査総数	376
機能的虚血評価検査	25
緊急カテーテル治療（PCI）	112
待機的 PCI	105
【不整脈関連】	
カテーテルアブレーション	100
ペースメーカー（ICD 含）植込み	65
【非侵襲的冠動脈検査】	
心臓核医学検査	265
冠動脈 CT	556
【心臓リハビリ】	
急性心筋梗塞／心不全（のべ）	7,403

また非侵襲的検査も多数実施しています。心臓 CT 検査（556 件）、心臓核医学検査（265 件）、肺血流シンチ（8 件）を施行しています。また 7,403 件の心臓超音波検査や 37 件の経食道心エコー検査、ホルター心電図の検査も 436 件施行しています。

また心臓いきいき推進事業の主軸として心臓リハビリを積極的に進め、のべ 7,403 件の実績でした。

【将来展望】

広島県西部地区の中核病院として、循環器急性期疾患の対応と、心不全パンデミックの時代に対応した慢性心不全などの循環器慢性疾患の対応を地域の先生方とともに積極的に行っていきます。

腎臓内科

■スタッフ

主任部長 下 田 大 紀 (2009 年卒)

日本腎臓学会専門医・指導医

日本透析医学会専門医

部 長 田 村 亮 (2011 年卒)

日本内科学会専門医・指導医

日本腎臓学会専門医・指導医

医 師 有 吉 寛 明 (2019 年卒)

医 師 藤 田 綾 子 (2021 年卒)

■診療科紹介

2023 年度より山内医師、河島医師、薬師寺医師が異動となり、新たに田村医師、有吉医師、藤田医師が着任しました。当院は日本腎臓学会研修施設および日本透析医学会教育関連施設です。広島西医療圏の医療機関から多くの患者さんを紹介していただいております。原発性糸球体疾患・尿細管間質性疾患・嚢胞性腎疾患などの一次性腎疾患、高血圧・糖尿病・膠原病・血液疾患に伴う二次性腎疾患、およびその結果として進行した慢性腎臓病はもちろん、急性腎障害、電解質異常などに対し幅広く診療に当たっています。

腎疾患治療では組織学的診断を重視しており、経皮的腎生検を積極的に施行し、診断に基づいた治療介入を行います。進行した慢性腎臓病に対しての腎生検は難しく、薬剤科・栄養科と協力し進展抑制に心がけています。ご高齢の患者さんが増加し、個別対応も重要になっており、今後ますます他職種連携は重要になります。また慢性腎臓病の方の生命予後に関わる、心血管疾患の予防も意識し診療にあたっています。

救急科のバックアップで急性腎障害や重症患者の血液浄化療法も可能です。急性腎障害からの慢性腎臓病の移行・増悪を防止するという観点から適切なマネージメント、フォローアップを心がけています。



当科での腎生検

血液透析においては 15 床の透析ベッドを臨床工学科とともに運用し、腹膜透析では看護科と協力して透析医療を行っています。加齢による腎機能低下を反映し高齢での透析導入例が増加している一方で、加齢による ADL 低下や多数の併存疾患のため非導入を希望する患者さんもおられます。看護科と協力して、情報提供と話し合いに基づいた患者さんの意思決定 (SDM: Shared decision -making) を支援しています。また腎移植を希望される場合には、移植医療について情報提供し移植専門施設に紹介しています。

■診療実績

2023 年度実績

腎生検数	42 例
血液透析導入数	27 名
血液透析件数 (延べ)	3,511 件
腹膜透析患者数	15 名 (2023 年度末時点)
シャント血管内治療	51 件
腎移植成立・献腎登録	3 件

■教育・研修活動

研究会、全国学会への聴講および発表、レジデントのセミナーなどへの参加を奨励しています。

消化器内科

■ スタッフ

消化器内科主任部長、内視鏡センター長、肝臓内科主任部長

相 坂 康 之 (1990 年卒)

消化器病学会専門医・指導医

肝臓学会専門医・指導医

膵・胆道内科主任部長、消化器内科部長

藤 本 佳 史 (1993 年卒)

消化器病学会専門医・指導医

膵臓学会認定指導医

食道・胃腸内科主任部長、内視鏡副センター長、消化器内科部長

古土井 明 (1993 年卒)

消化器病学会専門医・指導医

消化器内視鏡学会専門医・指導医

肝臓内科主任部長 (光学医療担当)

野 中 裕 広 (1997 年卒)

消化器病学会専門医・指導医

肝臓学会専門医・暫定指導医

消化器内科部長

趙 成 大 (1998 年卒)

消化器病学会専門医

消化器内視鏡学会専門医・指導医

消化器内科部長

吉 福 良 公 (2008 年卒)

消化器病学会専門医

消化器内視鏡学会専門医

消化器内科部長

森 豪 (2010 年卒)

消化器病学会専門医

消化器内科部長

佐 伯 翔 (2013 年卒)

日本内科学会認定医

医 員 住 井 悠 紀 (2020 年卒)

医 員 吉 田 航 大 (2020 年卒)

■ 診療科紹介とトピックス

消化器内科の診療スタッフは総勢 10 名となっています。消化器といっても多数の臓器があり、消化器内科が担当する疾患は多岐にわたります。当科では各臓器領域の専門指導医がスタッフ間で連携を取りながら診療にあたっており、すべての消化器疾患に適切に対応することができる体制となっています。

当科は、近隣の病院やクリニックとの連携に力を入れており、様々な勉強会、研究会共同活動を行っています。主な活動をあげると、RIGD Net (固い絆:

地域相互消化器医師ネットワーク)、膵癌胆道癌教室、広島胃瘻と経腸栄養療法研究会 (広島ページェント) などです。これらの活動に加えて、廿日市市、佐伯地区医師会と共同で開始した、廿日市市胃内視鏡検診があります。これは業務委託を受けた佐伯地区医師会とともに当科が住民の胃がん検診を精度高く行おうとする事業です。

当科では「膵臓がん胆道がん教室」という、患者さんやご家族を対象とした患者支援事業を行っています。当院医師や地域の先生方のみならず多職種専門職とともに毎月 2 回、全 4 回のシリーズで様々な催しを行っており、コロナの為一時中止をしていたものも再開して引き続き活動をしています。

肝臓領域では C 型肝炎に対する内服による抗ウイルス薬が引き続き行われており、8 週間から 12 週間という短い期間の治療で、治療効果は慢性肝炎から、非代償期肝硬変に関わらずほぼ 100% の高率になっています。

また、肝臓がん治療は従来の外科的切除、ラジオ波焼灼療法、肝動脈化学塞栓療法に加え、免疫チェックポイント阻害薬、血管新生阻害薬等を使った全身化学療法が使用され生存率の向上が期待される状況になっています。

また、非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) や非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH: ナッシュ) に対して NASH 専門外来を開設し、診療しています。さらに、全国多施設での共同研究を進めるとともに、糖尿病薬による NASH 改善の多施設共同の臨床研究なども進めています。

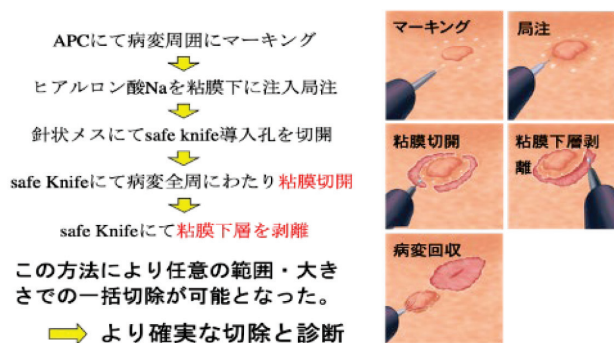
消化器内科のさまざまな検査処置を行う場である内視鏡センターでは、充実した内容の診療をしています。

内視鏡診断においては新しい内視鏡の導入により、特殊光による観察や拡大観察が可能となり、色素散布と併せて用いる事により微小病変の発見と共に診断の精度の向上に貢献しています。また、検診などでは経鼻内視鏡 (細径内視鏡) など人に優しい

内視鏡機器を使用しています。処置などの時には、安楽な内視鏡処置を目的として二酸化炭素送気による検査や鎮静麻酔下なども積極的に行っています。

食道、胃腸といった消化管の分野では、早期癌等に対して内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）という侵襲の少ない革新的な方法で癌切除を行っており、多くの患者さんに貢献しています。

内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）



また、胃瘻に関しては全国的に先進的な取り組みを行っている施設として知られています。

■研究活動

広島総合病院消化器内科は、実地臨床の中で積極的に臨床研究を行い本誌別記のとおり多数の学会発表や論文での報告を行っています。

■検査実績

消化器内科・内視鏡センター検査処置件数（2023年度）	
上部消化管内視鏡検査（含小腸内視鏡）	5,747
上部消化管内視鏡処置（含EUS）	-
十二指腸内視鏡検査処置（ERCP等）	508
小計	6,255
下部消化管内視鏡検査	2,604
下部消化管内視鏡処置治療	-
小計	2,604
全消化管検査処置合計	8,859
腹部超音波検査（含造影US）	1,654
腹部超音波下処置	85
超音波関連検査処置合計	1,741
その他（造影等）	-
消化器内科検査処置合計	10,600

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

■ スタッフ

病院長・糖尿病センター顧問

石田 和 史 (1986 年卒)
日本糖尿病学会研修指導医・専門医
日本内科学会指導医・認定内科医

主任部長 一 町 澄 宜 (2006 年卒)

日本糖尿病学会研修指導医・専門医
日本内分泌学会内分泌代謝科指導医・専門医

部 長 平 田 久美子 (1993 年卒)

日本糖尿病学会専門医
日本医師会認定産業医

副 部 長 肘 井 慧 子 (2015 年卒)

日本糖尿病学会専門医
日本内科学会認定内科医

日本糖尿病療養指導士：20 名

■ 診療状況

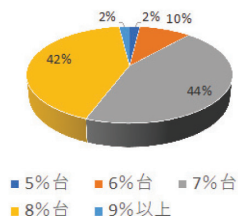
糖尿病 外来定期通院患者実数 計 2,614 名（平均年齢 69.6 歳、平均罹病期間 22.1 年、平均通院期間 15.9 年、インスリン治療者の割合 38.0%）

1 型糖尿病 4.2%、2 型糖尿病 93.9%、その他 1.9%

糖尿病入院患者 72 名／他科周術期管理 409 名
／他科急性期血糖管理 369 名、CGM 240 名
インスリンポンプ 4 名（SAP 1 名、CSII 3 名）

表 1 年間平均 HbA1c の内訳

1 型糖尿病 平均 7.8%



2 型糖尿病 平均 7.4%

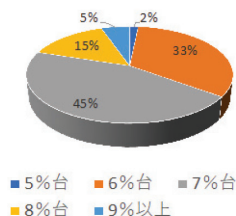
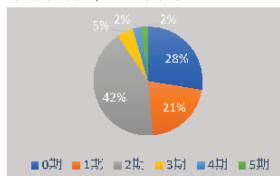
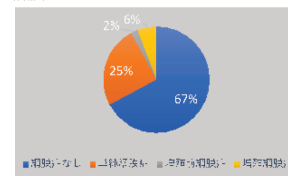


表 2 糖尿病合併症の内訳

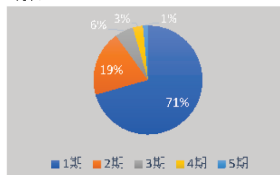
神経障害（CPTで判定）



網膜症



腎臓



大血管障害
・冠動脈疾患 12.2%
・脳血管障害 10.5%
・末梢動脈疾患 9.3%

甲状腺疾患 250 名（バセドウ病、慢性甲状腺炎のみ／糖尿病合併例を含む）※ 甲状腺腫瘍病変は他科で取り扱い

副腎疾患 77 名

■ 診療科紹介

当科は 2022 年度より私、一町が主任部長を拝命し 4 人体制で診療を行っています。主な対象疾患である糖尿病は、新規薬剤や医療デバイスの開発により治療戦略が年々変わってきています。GLP-1 受容体作動薬や SGLT2 阻害薬は心腎合併症抑制のエビデンスが集積し、ますます使用機会が増えています。また、更なる体重減少効果が期待できる GIP/GLP-1 受容体作動薬も上市され、肥満に対する薬物治療の選択肢が増えています。CGM はスマートフォンとの連動が一般的となり、利便性が高まりさらに普及しています。インスリンポンプ（SAP）はミニメド 780G システムから追加の補正インスリンも自動化されることで、患者さんの負担の軽減と血糖コントロールの改善が図られています。このような最新の治療を提供できるよう、医師だけでなく糖尿病療養指導士をはじめとしたコメディカルスタッフの教育・指導を行っています。糖尿病以外では、甲状腺・副腎・副甲状腺・下垂体などの内分泌疾患についても診療を行い、内分泌関連 irAE（免疫関連有害事象）にも迅速に対応できるよう、他科ともシームレスな連携をとり診療にあたっています。

小児科

■スタッフ

診療部長、小児科主任部長

辻 徹 郎 (1993 年卒)

日本小児科学会専門医・指導医

日本アレルギー学会専門医

部 長 横 山 信 子 (1994 年卒)

日本小児科学会専門医

部 長 藤 井 寛 (1996 年卒)

日本小児科学会専門医・指導医

日本腎臓病学会専門医

部 長 二 神 良 治 (2008 年卒)

日本小児科学会専門医

嘱託医師 中 畠 千恵子 (1970 年卒)

日本小児科学会専門医・指導医

嘱託医師 岡 畠 宏 易 (1980 年卒)

日本小児科学会専門医・指導医

日本アレルギー学会専門医・指導医

■診療科紹介

当科は、常勤医師 4 名、嘱託医師 2 名の計 6 名により外来、病棟診療を行っています。6 名全員が小児科専門医資格を有し、サブスペシャリティとして日本アレルギー学会専門医、日本腎臓病学会専門資格を有する医師も在籍しています。感染症診療などの一般的な小児科診療に加え、アレルギー疾患、腎・泌尿器疾患領域においては、特に専門性の高い診療も可能となっています。

■小児科診療トピックス

【アレルギーマーチの進展予防】

乳児湿疹やアトピー性皮膚炎がより重症であったり、遷延する経過を辿った場合、将来的な食物アレルギー、気管支喘息、アレルギー性鼻炎の合併率が上昇することが明らかになりました。アレルギー素因を有する子供が、成長とともに様々なアレルギー疾患を発症していく様子を“行進”になぞらえて“アレルギーマーチ”と呼びますが、アレルギーマーチの最初の段階にあたる乳児湿疹に対し、新生児期からの積極的なスキンケア～外用療法が推奨されるようになってきました。早期のスキンケア介入が特に有効と考えられている小児の特徴の一つとして、ア

レルギー疾患の家族歴が存在することがあげられます。乳児健診などを通じ、アレルギー疾患の発症リスクが高いと思われる場合、スキンケアの重要性を保護者の方に伝えることが重要です。

2023 年から 2024 年にかけて、重症アトピー性皮膚炎に適応のある生物学的製剤や JAK 阻害薬といった全身療法治療薬の一部の保険適応年齢が大幅に拡大され、乳幼児から使用可能となりました。この意味合いは、早期からのアトピー性皮膚炎の良好なコントロールを達成することが、その後のアレルギーマーチ進展予防にとっていかに大切であるかということの表れともとらえられます。

生物学的製剤

デュピルマブ（デュピクセント®） 6 ヶ月以上

ネモリズマブ（ミチーガ®） 6 歳以上

JAK 阻害薬

バリシチニブ（オルミエント®） 2 歳以上

デルゴシチニブ（コレクチム®） 6 ヶ月以上

PDE4 阻害薬

ジファミラスト（モイゼルト®） 3 ヶ月以上

【反復性喘鳴、気管支喘息】

小児の気管支喘息においては、2000 年代に入り気道炎症をターゲットにした吸入ステロイド薬が薬物療法の中心となってから大幅に臨床症状のコントロールが改善しています。一方で、その長期予後に関しては、小児期の喘息の重症度や肺機能低下の有無が、成人期への喘息のキャリアオーバーや COPD などの合併と関係していることもわかってきました。

小児の反復性喘鳴、気管支喘息の発症に関わるリスク因子の一つとして、乳児期の重症下気道感染症の既往があげられます。この重症下気道感染症の主要な病原体としては、ライノウィルスと RS ウィルスが知られています。後者については、特に重症化リスクの高い在胎週数 36 週未満の早産児、先天性心疾患を有する児などを対象に、ヒト化抗 RSV モノクローナル抗体製剤（パリビズマブ）による感染・

重症化予防処置が行われてきました。唯一の欠点は流行期間を通じて毎月投与しなければいけないことでしたが、2024 年より新しい抗体製剤（ニルゼビマブ）が使用可能となりました。この製剤は半減期が延長されており、流行期に原則 1 回の投与で完了することが最大の利点です。また、保険外診療にはなりますが、正産産での出生の新生児、乳児への投与も可能となっています。更に、RS ウィルスに対するワクチン製剤の開発も相次いでおり、2024 年度より妊婦を対象としたワクチン接種が可能となりました。出産前の母親にワクチン接種により抗体産生を促し、その抗体が胎盤を通じて胎児に移行することで出生時からの RS ウィルス感染予防効果が期待できるものです。これらの RS ウィルス感染予防手段の充実が、将来の反復性喘鳴や小児気管支喘息患者の減少に寄与することが期待されます。

【食物アレルギー】

食物アレルギー診療に関しては、経口負荷試験による正確な原因食物の診断及び必要最低限の除去を行い、栄養面での問題を最小限にするとともに、近年は早期の耐性獲得を目的として、原因食物を普段から少量ずつ継続摂取する経口免疫療法も行っています（診療実績 1 参照）。

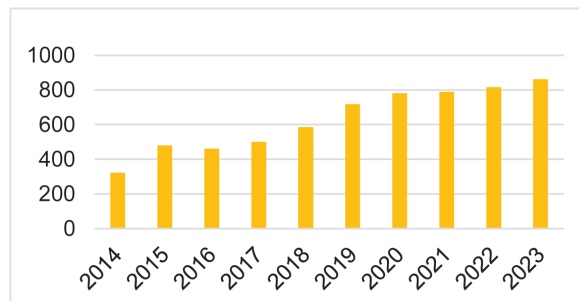
近年増加傾向にあるナッツアレルギーは、微量でも重篤なアレルギー症状を誘発するリスクが高く、特に注意が必要です。

【アレルギー性鼻炎】

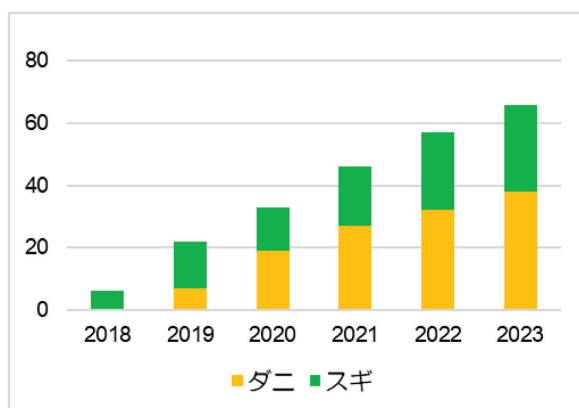
年々増加する花粉症は、今や国政でも扱われる時代となりました。花粉症を含むアレルギー性鼻炎の治療は、抗ヒスタミン薬や鼻腔噴霧ステロイド薬などが主体でしたが、これらはあくまで対症療法にすぎませんでした。近年は根本的治療も期待できる、安全性も高いアレルギー免疫療法（舌下免疫療法）が普及しつつあり、当科での治療症例も年々増えつつあります（診療実績 2 参照）。

■診療実績

食物経口負荷試験実施件数



アレルギー性鼻炎舌下免疫療法症例数



外科

■スタッフ

副院長、肝・胆・膵外科主任部長

佐々木 秀 (1991 年卒)
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本肝胆膵外科学会高度技能指導医

医療福祉支援センター長

中 光 篤 志 (1982 年卒)
日本外科学会専門医

消化管外科主任部長

香 山 茂 平 (1993 年卒)
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本内視鏡外科学会技術認定医 (大腸)

腹部救急治療科、緩和ケア科主任部長

田 崎 達 也 (1997 年卒)
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本内視鏡外科学会技術認定医 (ヘルニア)

消化管外科主任部長 (上部消化管外科担当)

杉 山 陽 一 (1997 年卒)
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本内視鏡外科学会技術認定医 (胃)

消化管外科部長

河 毛 利 顕 (2009 年卒)
日本消化器外科学会専門医・指導医

消化管外科部長

山 口 拓 朗 (2009 年卒)
日本消化器外科学会専門医・指導医

消化管外科部長

大 塚 裕 之 (2011 年卒)
日本消化器外科学会専門医・指導医

一般外科治療センター部長

田 原 俊 哉 (2014 年卒)
日本消化器外科学会専門医

一般外科治療センター医員

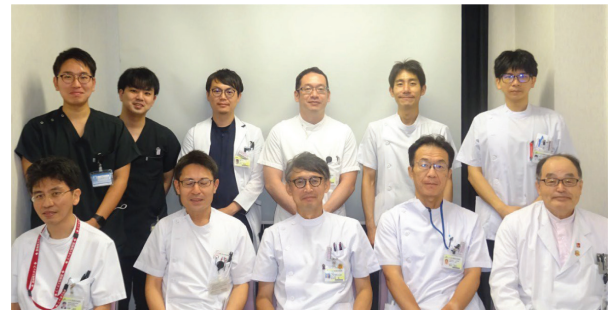
柴 田 浩 輔 (2020 年卒)

一般外科治療センター医員

宮 重 直 弥 (2021 年卒)

■診療科紹介

上部消化管 (杉山・河毛)、下部消化管 (香山・大塚)、肝・胆・膵 (佐々木・山口)、ヘルニア (田崎) の臓器別チームに分かれ、安全な手術と周術期管理をここがけています。各チームリーダーはそれぞれの領域で、日本内視鏡外科学会技術認定医資格 (胃、大腸、ヘルニア)、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医資格を有しています。各学会の評議員として活躍し、治療成績を積極的に論文・学会発表をするとともに、次世代の高度技能専門医、内視鏡外科技術認定医を育成すべく、後輩の指導にあたっています。



■診療実績

主な手術件数は以下のとおりです。(カッコ内は内視鏡手術)

・上部消化管外科

食道悪性腫瘍手術 6 例 (6 例)、胃・十二指腸潰瘍 18 例 (13 例)、胃悪性腫瘍手術 62 例 (53 例)

・下部消化管外科

大腸悪性腫瘍手術 162 例 (136 例)、大腸良性疾患 25 例 (3 例)、虫垂疾患 61 例 (59 例)、その他の腸疾患 (腸閉塞、腹膜炎など) 46 例 (9 例)、直腸・肛門良性疾患 (痔核・痔瘻・ポリープ・直腸脱など) 32 例

・肝・胆・膵外科

肝切除 19 例 (9 例)、膵頭十二指腸切除 16 例、膵体尾部切除 10 例 (9 例)、膵全摘 1 例、胆嚢摘出 171 例 (161 例)、総胆管結石手術 4 例

・鼠径部・腹壁ヘルニア外科

鼠径部ヘルニア 247 例 (198 例)、腹壁ヘルニア 22 例 (8 例)、閉鎖孔ヘルニア 5 例 (3 例)

■研究活動

日本外科学会、日本消化器外科学会、日本肝胆膵外科学会、日本胃癌学会、日本外科感染症学会などの修練・認定施設です。

全国学会、広島臨床腫瘍外科研究グループなどが主催する多施設共同臨床研究に登録、参加しています。

日本環境感染学会および厚生労働省による手術部位感染サーベイランスに参加しています。

乳腺外科

■ スタッフ

主任部長 梶 谷 桂 子 (2001 年卒)
日本乳癌学会乳腺専門医・指導医
臨床遺伝専門医・指導医

部 長 板 垣 友 子 (2002 年卒)
日本乳癌学会乳腺専門医・指導医
日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医

■ 診療科紹介

2017 年から 2022 年は医師 3 名でしたが、2023 年度は上記乳腺専門医 2 名で診療を行いました。2024 年 2 月より大学病院より金曜日の午前中に医師を派遣し、外来支援していただき、少しでも待ち時間が短縮できるように留意しております。年間 276 名の初診患者さんに来院いただきました。

乳房超音波検査・マンモグラフィ検査は、すべて女性技師が担当しており、女性患者さんにも安心して検査を受けていただいております。マンモグラフィでの石灰化病変のみで超音波検査で病変が同定できない場合は、ステレオガイド下マンモトーム生検も可能となっています。

術前カンファレンスは多職種とおこない、患者さんの情報、病状を把握し、問題点があれば検討しています。

また、BRCA 遺伝子検査の適応がある患者さんには速やかに情報提供を行い、必要時には遺伝子診療部に紹介し、遺伝性乳癌卵巣がん症候群診療にも力を入れております。

積極的に地域連携パスの運用を行い、100 件程度の算定をすることができました。患者さんに継ぎ目・待ち時間のない診療を提供すべく努力しております。

広島西部においても全国と遜色ない乳腺診療が行えるように診療情報を更新していきます。

今後はがんゲノム医療連携病院・臨床腫瘍学会認定施設としてさらに症例を集積していけるよう努力して参ります。

■ 診療実績

(症例数、領域別の紹介、その他のトピックス)

〈手術〉

乳腺悪性腫瘍手術

胸筋温存乳房切除術	87
皮膚温存乳房切除術	1
乳頭温存乳房切除術	4
乳房部分切除術	63
腫瘍摘出術	7
小計 (件)	162

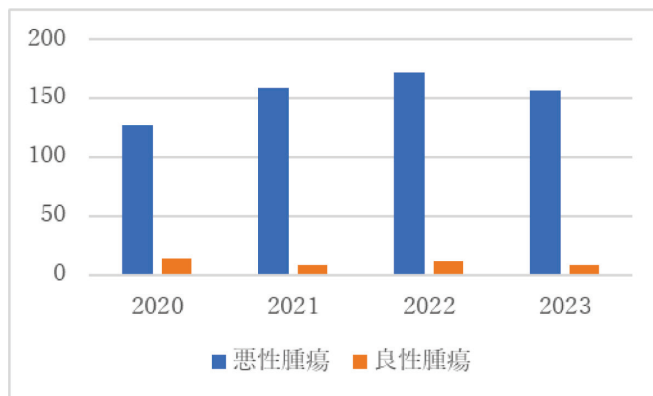
腋窩リンパ節郭清	26
センチネルリンパ節生検	
⇒ 腋窩リンパ節郭清	6
センチネルリンパ節生検	126

乳房再建

人工乳房再建	13
自家組織再建	2
植皮術	1

〈外来化学療法〉

術前化学療法	27
術後化学療法	18



整形外科

■スタッフ

名誉院長、非常勤医師

藤 本 吉 範 (1979 年卒)

日本整形外科学会専門医

日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医

診療部長、脊椎・脊髄センター長、整形外科主任部長

山 田 清 貴 (1999 年卒)

日本整形外科学会専門医

日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医

主任部長 橋 本 貴 士 (2000 年卒)

日本整形外科学会専門医

主任部長 平 松 武 (1998 年卒)

日本整形外科学会専門医

日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医

主任部長 土 井 一 義 (2001 年卒)

日本整形外科学会専門医

主任部長 水 野 尚 之 (2001 年卒)

日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医

日本骨粗鬆症学会認定医

部 長 宇治郷 諭 (2005 年卒)

日本整形外科学会専門医

日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医

医 員 松 島 大 地 (2020 年卒)

■診療科紹介

当院整形外科は広島県西部地区の基幹病院として地域の病院、医院の先生方と密接に連携を取りながら診療を進めています。2023 年度の初診患者数は 2,035 名、手術件数は 1,121 例でした。内訳は、脊椎・脊髄 747 例、外傷 263 例と、脊椎脊髄疾患や四肢の骨折などの外傷の手術が多いのが当院整形外科の特徴です。

■診療実績

脊椎脊髄疾患に対しては、体に負担の少ない最新の低侵襲治療に取り組んでいます。手術用顕微鏡を使用した低侵襲脊椎手術を中心に、骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的後弯矯正術（BKP）や、椎間板内酵素注入療法（ヘルニコア）を行っています。2013 年に開設した脊椎・脊髄センターは、脊椎・脊髄疾患の治療を医師とコメディカルが密接な連携を取りながらチームとしてより集学的に行うことを目

標としています。

骨折や靱帯損傷など整形外科の基本的な外傷は、2011 年に当院に開設された地域救命救急センターの医師と互いに協力しつつ、多くの患者さんの治療にあたっています。当院には多数の救急搬送がありますが、救命救急医による全身管理の上で、整形外科的外傷に対して質の高い治療を行うよう心がけています。また大腿骨頸部骨折の手術と後療法については、アマンリハビリテーション病院、廿日市記念病院、大野浦病院と当院で地域連携パスを使用した診療を行っており、円滑に治療が進むように努めています。

変形性関節症に対しては、股関節、膝関節に対する人工関節置換術を積極的に行っています。

特殊外来として 2019 年からは側弯症外来を開始しており、学童期に多い成長期の側弯症（特発性側弯症）や、成人脊柱変形（変性側弯症）の患者さんに対して専門的な治療を行っています。また、2022 年から骨粗鬆症外来を新設し、骨粗鬆症に対する二次骨折予防・骨粗鬆症治療地域医療連携を行っています。

■研究活動

手術症例数が多いのが当科の特徴です。しかし一方で学会や研究会での活動も大切と考え積極的に行っており、全国規模の学会や国際学会にも演題が採用され発表の機会が増えています。当科の治療成績は良好なものと思われますが、学会・研究会で発表し、評価を受けながら常にこれを向上させる姿勢を持ち続けていきたいと考えています。

形成外科

■ スタッフ

主任部長 長谷川 美 紗 (2003 年卒)
日本創傷外科学会専門医
日本形成外科学会領域指導医

■ 診療科紹介

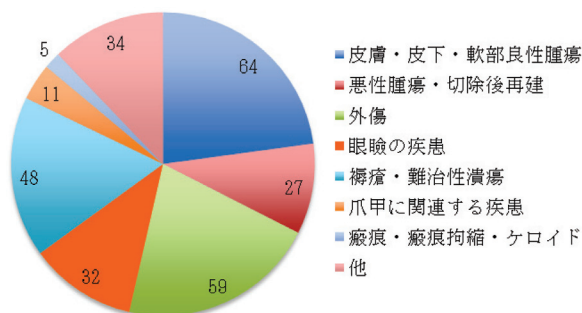
形成外科は、身体に生じた組織の異常や変形、欠損、または整容的な不満足に対して、あらゆる手法や特殊な技術を駆使し、機能のみならず形態的にもより正常に、より美しくすることによって、患者さんの生活の質の向上に貢献する、外科系の専門領域です。特定の臓器や部位が治療対象な訳ではありませんので、対象症例は多岐にわたります。

当科では、下肢の血流障害により生じた難治性潰瘍を多く手がけています。この疾患は当科だけでは治療が進まず、血管外科による血管治療や、看護師サイドのフットケア、リハビリや栄養指導などが不可欠でありチームで治療に当たっています。また乳腺外科と協力して一期的な乳房再建にも対応しています。その他に眼瞼下垂、顔面の皮膚腫瘍切除など、幅広い疾患に対応しています。

■ 診療実績

初診患者数	390 例
手術症例数	計 280 件
内訳 全身麻酔	70 件
腰麻・伝麻	32 件
局所麻酔	178 件

〈手術症例の内訳〉



昨年にくらべて初診患者数は 100 人以上増加し、コロナ禍でやや減少傾向にあった患者数ですが、今年は過去一番の伸びを記録しました。手術件数も約 70 件増加、症例の内訳は皮膚・皮下・軟部腫瘍、外傷、褥瘡・難治性潰瘍が上位を占めています。例年に比べて外傷が多くなっており、コロナ禍が明けて多くの方が活発に活動されたためではないかと推察しています。

■ 今後の展望

当科が開設して 10 年以上が経過しました。2012 年 4 月から 2022 年 3 月末までに、当科が治療に当たった虚血を伴う足病変は、合計 326 症例（男性 219 人、女性 107 人）でした。血管治療の方法は、血管内治療のみが 41 症例（12.6%）、バイパス＋血管内治療が 247 症例（75.8%）、無治療が 38 症例（11.7%）でした。

バイパス術の適応となる症例は、術後は著しく血流が改善しますので感染を制圧することができれば断端形成や植皮術などで創閉鎖を目指します。高齢や全身状態、血管の状態によってバイパス術の適応がない場合には、思うように血流の改善が得られないことも多く、当科的な積極的治療は行わず保存的に経過をみることもあります。最も足の救済が難しいと思うのは、実は虚血のない糖尿病性潰瘍で、感染の制御が極めて難しく容易に足根関節内にまで感染が波及してしまうためです。今後も他科やコメディカルと協力しながら足の救済に努めていこうと思っています。

脳神経外科

■スタッフ

副院長、主任部長

黒 木 一 彦 (1991 年広島大学卒)
日本脳神経外科専門医・技術指導医
日本脳卒中学会認定医

部 長 松 田 真 伍 (2014 年広島大学卒)
日本脳神経外科専門医
日本脳神経血管内治療学会認定専門医

医 員 竹 石 雄 介 (2016 年広島大学卒)
日本脳神経外科専門医
日本脳神経血管内治療学会認定専門医

上記のスタッフで地域市民の脳を 24 時間体制で守っています。

■診療科紹介

当科では脳梗塞、一過性の虚血発作、脳血管狭窄、脳出血、くも膜下出血、脳動静脈奇形、脳腫瘍、頭部外傷、髄膜炎、原因不明の意識障害、顔面けいれんや三叉神経痛、水頭症など多岐にわたって診療、治療を行っています。2023 年では 657 人の入院がありました。2023 年手術数は 226 例；くも膜下出血に対する脳動脈瘤手術 13 例（clipping 8 例、コイル塞栓 5 例）、未破裂脳動脈瘤に対する手術数 14 例（clipping 5 例、コイル塞栓 9 例）、頸動脈ステント留置術（CAS）23 例、脳腫瘍摘出術 18 例、血栓回収 42 例、開頭血腫除去術 11 例、慢性硬膜下血腫 57 例でした。

代表的な疾患である脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、脳腫瘍における最近の治療について簡単に説明したいと思います。

【脳梗塞】大きく分けて脳塞栓症と脳血栓症に分類できます。脳塞栓症は心房細動などが原因となり、心臓などで形成された血栓が太い脳血管を閉塞する疾患です。致死になることが多く、予防が極めて重要と考えています。最近の抗凝固薬は副作用の出血率が低く、他の薬との併用や食事に制限が必要なく、内服しやすくなっています。また心房細動による内頸動脈や中大脳動脈塞栓症例ではカテーテルに

よる血栓除去治療を行っています。この治療も時間との戦いになり発症早期の脳梗塞患者が搬送されると担当脳神経外科医、救急外来医師、スタッフと役割分担しつつ検査から治療に移行しています。このため 3 人の医師が 24 時間常に待機状態を強いられる過酷な勤務状況です。

また、一過性脳虚血発作などで発症する頸部内頸動脈狭窄病変が増加傾向にあります。血管内壁にアテロームといわれる粥腫が塞栓源となったり、血流低下が症状の原因となったりします。当院ではカテーテル治療による血管拡張術（CAS）を行っています。血栓の状態や病変の位置などで治療方法の適応を判断しています。また、中大脳動脈狭窄も一過性脳虚血発作の原因として多くみられる疾患です。この病態に対しては、頭皮を栄養する浅側頭動脈を頭蓋内血管と吻合する浅側頭動脈 - 中大脳動脈吻合術が予防治療として有効です。

【脳出血】脳出血のほとんどが高血圧が原因です。高血圧管理に対する関心が高まり、開頭手術を要する脳出血の頻度は少なくなっています。出血量が多い場合には救命目的の開頭手術を行います。中等量の血腫量であれば機能改善を目的とした内視鏡を用いた、より低侵襲な治療の導入を検討しています。脳梗塞と同様に予防的治療、生活習慣の是正による血圧管理が何より重要だと考えています。

【くも膜下出血】脳動脈瘤が破裂を起こすことで生じる疾患で、発症時の重症度によって軽度の頭痛から突然死まで、その症状には大きな差がみられます。治療の目的は再出血予防であり、開頭クリッピング術と血管内コイル塞栓術があります。重症度、年齢、合併症、動脈瘤の部位・大きさ・形状により治療法を選択します。最近ではカテーテル器具のめざましい改善により多くの動脈瘤に適応が広がっています。また非常に大きな動脈瘤に対してこれまではほぼなすすべがない状況でしたが、フローダイバー

ターという特殊なステントを留置することで瘤の血栓化を誘導し、治療することができるようになりました。まだ一部の施設でしか、治療できないのですが、全国に普及しつつあります。

【脳腫瘍】脳腫瘍の発生率は1年間に10万人あたり10人くらいといわれ、そのほとんどが原因不明です。種類も細別すると100種類くらいありますが、70%は髄膜腫、神経膠腫、下垂体腫瘍です。脳腫瘍の多くは手術が必要と判断されますが、その目的には①腫瘍の種類を確認するため（生検）、②腫瘍の体積を減らし、放射線治療や化学療法を併用して治療する、③全摘出で治癒を目指す、と大別することができます。腫瘍の部位、広がりや神経機能を総合評価し、治療方針を個々に検討します。これまで当科では、年齢を考慮し手術治療を選択してきましたが、高齢者が以前より体力的に向上していること、手術技術、麻酔技術、術後管理が進歩していることから高齢者でも手術をためらう必要性は乏しいと感じています。85歳以上のかたも術後ADLを維持できていることを考慮すると単なる年齢のみで手術制限を行うべきでは無いと考えています。

【慢性硬膜下血腫】頭部外傷後1か月くらい経過して発症することが多い疾患です。硬膜下に徐々に血腫が貯留し、脳を圧迫することで歩行障害や手の巧緻運動障害、認知症などの症状を呈し、認知症と誤認されることもあります。穿頭洗浄術という簡単な手術で症状の改善がみられ、脳神経外科領域では最も多くみられる疾患です。最近はこの手術領域においてもより低侵襲の治療を目指し、針穴のような手術創で行う治療の導入を検討しています。

【三叉神経痛、顔面けいれん】食事や、歯磨き、洗顔などで顔の一部に電気がはしるような痛みが誘発される疾患を三叉神経痛といいます。

原因の多くは脳幹から三叉神経が分岐する部分

(REZ)に動脈が接触することで生じます。治療の第一選択はテグレトールというてんかんの薬で対処しますが、ふらつきやめまいといった副作用も多く、効果が乏しい場合には手術で神経と血管の接触部位を剥離します。

同じような神経と血管の接触で生じる疾患に顔面痙攣があります。こちらも同様の手術で治療できます。

このように様々な疾患、病状を脳神経外科では取り扱っています。お困りの点があれば遠慮無くご相談ください。



呼吸器外科

■スタッフ

主任部長 三 隅 啓 三 (2004 年卒)
呼吸器外科学会専門医
外科学会専門医
部 長 川 本 常 喬 (2011 年卒)
呼吸器外科学会専門医・評議員
外科学会専門医
医 員 森 田 峻 介 (2020 年卒)

■診療科紹介

当科は、日本において癌死亡の最大の原因である肺癌を中心に外科治療を行っております。肺悪性病変に対する手術療法や、気胸（血気胸）や膿胸に対する手術・ドレナージ、進行・再発または術前後の肺癌補助療法としての抗癌剤治療、外傷に対する治療などを行っております。2023 年度はこれまでで最多の 202 件の手術（原発性肺癌根治手術 116 件）を行いました。広島県西部唯一の呼吸器外科病院として広く患者様を受け入れ治療に当たっております。

■主な対症疾患

【原発性肺癌】

肺末梢の小型肺癌に対しては、これまで標準治療であった肺葉切除より切除範囲の小さい縮小手術（リンパ節郭清を伴う区域切除または部分切除）を胸腔鏡下で施行しております。

また、中枢性肺癌や局所進行肺癌に対しては他科との合同手術や術前後の化学療法、放射線療法を組み合わせて治療を行っています。当科での原発性肺癌に対する手術件数は例年 100 件程度でしたが、今年度は約 116 件でした。

【気胸】

再発症例や保存的に軽快しない症例に対し、完全胸腔鏡下に肺嚢胞切除や肺縫縮術を行っております。

【膿胸】

胸腔ドレナージおよび線維素溶解療法により治療を行っております。それでも改善しない場合は胸腔鏡下に膿胸腔搔爬を行います。

【縦隔腫瘍】

縦隔にできる胸腺腫や神経鞘腫を中心に主に胸腔鏡下に切除しています

【肺転移】

大腸癌、腎癌などの肺以外の悪性腫瘍の肺への転移病変を胸腔鏡下に切除しております

当科では手術以外に下記にも力を入れております。

【胸部 CT 検診】

喫煙者に対する CT 検診の有用性は国際的なランダム化試験で世界的に認められており、当科では手術以外にも肺癌の早期発見、早期治療の為に人間ドックのオプションとして行っております。

【防煙教育】

無償での社会貢献として、診療の合間にボランティアで近隣の小学校で喫煙防止教室の授業を行っています。一番重要な予防医療と認識して活動を継続していきます。

心臓血管外科

■ スタッフ

主任部長 濱 本 正 樹 (1995 年卒)

心臓血管外科専門医・修練指導医

外科学会専門医・指導医

主任部長 (血管外科担当)

小 林 平 (1999 年卒)

心臓血管外科専門医・修練指導医

外科学会専門医・指導医

副 部 長 岡 崎 孝 宣 (2016 年卒)

心臓血管外科専門医

腹部大動脈ステントグラフト指導医

副 部 長 奥 迫 諒 (2017 年卒)

外科専門医

■ 診療科紹介

【心臓疾患】

2023 年の心臓手術は、冠動脈手術 (CABG) が 14 件 (単独 7 件、複合 7 件)、弁膜症手術が 38 件でした。CABG のうち、単独例が 7 件、弁膜症手術や大動脈手術との複合例が 7 件でした。単独 CABG では約 80% で体外循環を使用しない低侵襲なバイパス術を実施しています。弁膜症手術は、大動脈弁疾患主体の手術が 20 件、僧帽弁疾患主体の手術が 17 件、三尖弁疾患主体の手術が 1 件となっています。2022 年 4 月より右開胸による低侵襲心臓手術 MICS (minimally invasive cardiac surgery) を導入しており、弁膜症手術の約 60% で実施しました。

心臓再手術も増加傾向にあり、弁膜症手術における生体弁構造劣化による逆流再発が再手術の理由となっています。2023 年は 5 件の人工弁再置換術を実施しました。

【胸部大動脈疾患】

2023 年の胸部大動脈疾患に対する手術数は 17 件でした。そのうち Stanford A 型急性大動脈解離に対する緊急手術 10 件、真性大動脈瘤に対する手術 5 件、人工血管感染に対する上行再置換術 1 件、慢性大動脈解離に対する手術 1 件でした。入院死亡はなく 16 名が自宅退院、1 名が転院となっています。胸部大動脈疾患に対する手術は緊急例が多く、心停止、脳分離循環などの複雑な補助法を必須とする手術であ

るが故に麻酔科、臨床工学科、手術室看護師による卓越したサポートを受けて全手術を実施し、手術成績の改善・安定化を目指しています。

【腹部大動脈疾患】

腹部大動脈瘤は自覚症状はありませんが、破裂すると致命的な病気です。治療法として、開腹下での人工血管置換術もしくはステントグラフト内挿術があります。それぞれ長所・短所があるため、解剖学的な条件、年齢、基礎疾患、全身状態などを考慮し、外来で対話しながらライフスタイルに合わせて治療法を決めています。2023 年の腹部大動脈手術症例は 17 件 (人工血管置換術: 2 件、ステントグラフト内挿術: 15 件) でした。

【末梢動脈疾患】

重症下肢虚血は動脈硬化を背景とした下肢切断に至る可能性もある疾患です。外科的血行再建、血管内治療、血管新生療法など様々治療を組み合わせ、多職種での集学的治療により 9 割以上の症例で下肢救済ができるようになっています。2023 年は下腿動脈バイパス 51 例を含む 82 例の外科的血行再建を施行し、血管内治療は 336 例に施行しました。総大腿動脈病変に対してはウシ心膜パッチ形成を積極的に行っており、良好な成績が得られています。2022 年度の DPC 統計では末梢動脈疾患に対する外科的血行再建数は全国 4 位でした。

皮膚科

■スタッフ

主任部長 梅田直樹（2007年卒）
皮膚科専門医、熱傷専門医
部長 藤原愛純香（2013年卒）
皮膚科専門医
部長 水野麻紀（2011年卒）
皮膚科専門医
医員 住元遥香（2018年卒）
非常勤医師 吉屋直美（2001年卒）
皮膚科専門医

■診療科紹介

皮膚科の診療内容としては湿疹・皮膚炎群などの炎症性疾患、带状疱疹・蜂窩織炎などの感染症、皮膚の自己免疫疾患、良性・悪性の皮膚腫瘍など、皮膚疾患を全般的に扱っております。

外来は初診、再診を曜日ごとに完全に分けることで患者さんの待ち時間をより少なく、効率よく診療できるようになりました。地域連携を通してご紹介いただくと、初診の患者さんでもほとんどお持たせすることなく対応できるかと思えます。その一方で地域連携を通さず直接受診いただくと、かなりのお時間をお待ちいただくことになり、その日の予約状況によってはお受けできないこともあります。そのため、お手数ですが必ず地域連携を通して紹介いただくようお願いいたします。

急患については曜日ごとの初診担当医にお電話いただければ可能な限り対応させていただきます。火曜日の急患については梅田に問い合わせいただければ対応させていただきます。

外来担当医表

		月	火	水	木	金
外来診療前		朝の病棟カンファレンスおよび病棟処置				
午前	初診	梅田		天野	梅田	石田
		天野		梅田	天野	梅田
	再診	石田	手術 (手術室)	石田	石田	天野
		吉屋		吉屋		吉屋
午後		外来手術		外来手術		

■皮膚科領域のトピックス

近年、尋常性乾癬、アトピー性皮膚炎、じんま疹、化膿性汗腺炎に対して様々な生物学的製剤が使用可

能となっております。抗アレルギー薬の内服やステロイドの外用でも難治であるアトピー性皮膚炎やじんま疹に対しては劇的な効果が期待できます。尋常性乾癬については効き方に個人差がありますが、現在11種類の生物学的製剤が使用可能であり、治療の選択肢が広がっています。化膿性汗腺炎については重症度に応じて手術と生物学的製剤を組み合わせで治療します。

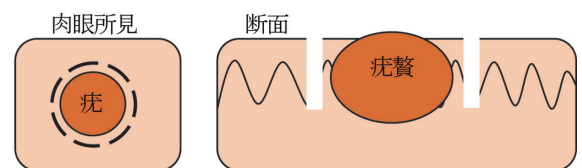
また、2022年6月難治性の円形脱毛症（脱毛面積50%以上）に対してJAK阻害薬であるバリシチニブが保険適応となりました。

■当科での2023年度の試み

・尋常性疣贅に対するレーザーいぼ剥ぎ法

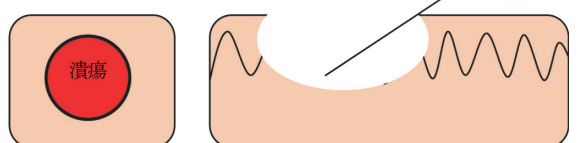
尋常性疣贅はありふれた疾患ですが、万人が完治する有効な治療法はありません。液体窒素療法やサリチル酸ワセリンの外用などで加療されることが多いですが、何年も治療を継続しても難治な方も多数おられます。そのような方に対して2020年7月より炭酸ガスレーザーを使用したいぼ剥ぎ法を行っています。数年来治療をするも難治である方を中心にいぼ剥ぎを行っておりますが、現在のところ、7割程度の方で術後の再発なく経過しています。

レーザーいぼ剥ぎ法のシエマ



①疣贅周辺を縁取るよう1mm離してレーザーで焼灼。
(疣自体は直接焼灼しない)

②鋭匙で鈍的に疣を剥離し、疣を摘出する。



③かなり出血するのでレーザーで止血する。

④軟膏処置で上皮化を待つ。(深さにより1～3週間必要)

泌尿器科

■ スタッフ

主任部長 加 藤 昌 生 (1996 年卒)
日本泌尿器科学会専門医、指導医
日本排尿機能学会認定医

部 長 上 野 剛 志 (2009 年卒)
日本泌尿器科学会専門医、指導医
日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医

医 員 浅 海 昭 宏 (2019 年卒)

医 員 吉 岡 勇 人 (2021 年卒)

顧 問 松 原 昭 郎 (1985 年卒)

■ 診療科紹介

多くの手術を開腹手術から腹腔鏡手術に移行し、
腹腔鏡技術認定医 2 人体制で、質の高い腹腔鏡手術
を実践しております。

腎癌の手術は腎機能温存のために可能な限り腹腔
鏡下腎部分切除を行っております。

浸潤性膀胱癌の手術は腹腔鏡下膀胱全摘除術を
行っております。高齢の患者様に対しても適用範囲
が広がりました。

前立腺癌の手術は腹腔鏡下前立腺全摘除術を行っ
ております。術後の早期尿禁制を図るために、適用
症例に対しては可能な限り神経温存を意図した手術
を行っております。

女性泌尿器科にも積極的に取り組んでおります。
腹圧性尿失禁に対する中部尿道スリング手術 (TVT)、
骨盤臓器脱に対する腹腔鏡下仙骨脛固定術 (LSC)
を行っております。

■ 診療実績 (2023 年 手術件数)

・ 前立腺	
腹腔鏡下前立腺全摘除術	85
経尿道的前立腺切除術	21
・ 腎尿管副腎	
腹腔鏡下副腎摘除術	6
腹腔鏡下腎摘除術	9
腹腔鏡下腎尿管全摘除術	24
腹腔鏡下腎部分切除術	9

・ 膀胱	
経尿道的膀胱腫瘍切除術	224
腹腔鏡下膀胱全摘除術	12
・ 結石	
体外衝撃波結石破碎術	67
経尿道的尿管結石破碎術	58
経尿道的膀胱結石破碎術	28
・ 陰茎・陰囊	
陰囊水腫手術	7
包茎手術	9
・ 女性泌尿器科	
LSC	15
TVT	2
尿道脱切除術	3



産婦人科

■ スタッフ

主任部長 中西 慶喜 (1984 年卒)
日本産科婦人科学会専門医・指導医
女性ヘルスケア専門医・暫定指導医

部長 高本 晴子 (1996 年卒)
日本産科婦人科学会専門医・指導医
母体保護法指定医師

副部長 竹石 直子 (2016 年卒)
日本産科婦人科学会専門医
母体保護法指定医師

医員 平井 雄一郎 (2017 年卒)
日本産科婦人科学会専門医

医員 宮岡 愛 (2017 年卒)
日本産科婦人科学会専門医

■ 診療科紹介

2023 年 3 月末で西本医師が退職し、4 月から宮岡医師が赴任しました。

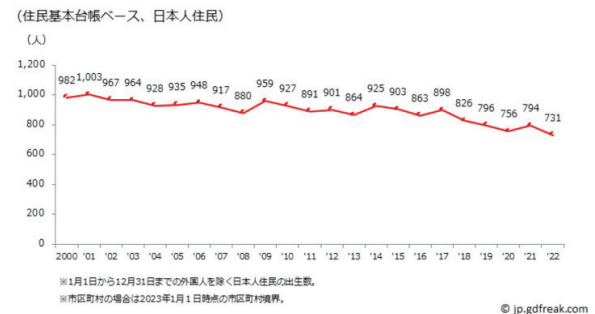
診療内容は平日午前中に外来診療を行い、月・水・金の午後に手術をしています。火曜日と木曜日の午後には子宮鏡や子宮卵管造影などの検査を行っています。当院ではセミオープンシステムを導入しており、大竹市ではシルククリニック、廿日市市では青葉レディースクリニックとかとうレディースクリニック、広島市では鈴峰今中病院とさくらウィメンズクリニックに妊婦健診ができるかかりつけ医として健診をお願いしています。休日・夜間等の緊急時にかかりつけ医に連絡がとれないときは、最終的に当院が受け入れ病院となるシステムを広島県西部地域保健対策協議会で構築しています。また産婦人科病棟には開放病床があり、さくらウィメンズクリニックの天下先生が毎週水曜日に手術をされています。

■ 産科診療実績

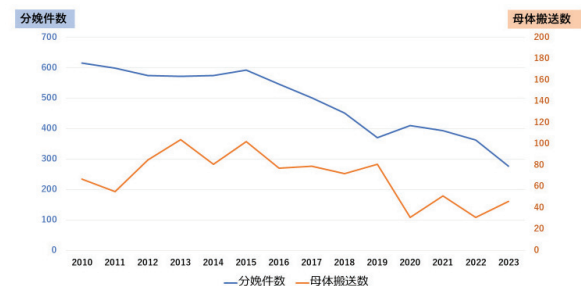
2023 年の分娩数は 277 件でした。そのうち帝王切開は 87 件で全分娩件数の 31.4% となり当院始めて以来初めて帝王切開での分娩が 30% を越えました。また母体搬送については近医産院やクリニックから受け入れを行っており、2023 年には 46 件の受け入れを行いました。ただし当院には NICU がなく、

35 週未満での早産が予想される場合には他院へ搬送をしています。当院から他院に搬送した症例は 9 件でそのうち県立広島病院と土谷総合病院にそれぞれ 4 件、広島大学病院に 1 件でした。

廿日市市の出生数の推移



当院の分娩・母体搬送実績



■ 良性婦人科診療実績

良性疾患での手術実績ですが、以前では開腹手術を行っていた症例の半数以上は腹腔鏡下での手術を行っています。腹腔鏡下ではなく開腹での手術を選択する症例は大部分が巨大な子宮筋腫や卵巣腫瘍である場合や高度の癒着が予想される場合です。

子宮全摘術	42 例 (うち腹腔鏡手術 22 例)
子宮筋腫核出術	9 例 (うち腹腔鏡手術 05 例)
卵巣腫瘍手術	63 例 (うち腹腔鏡手術 45 例)
子宮脱手術	15 例 (うち腹腔鏡手術 00 例)
異所性妊娠	3 例 (うち腹腔鏡手術 02 例)
子宮鏡下手術	38 例

■ 今後の展望・トピックス

2024 年 3 月末で新棟（南棟）が完成し、産婦人科病棟は 4 月末に南 4 階に引っ越しをします。また外来は 6 月 3 日から南棟 4 階で診療を開始します。

眼科

■ スタッフ

主任部長 二井 宏 紀 (1986 年卒)
眼科専門医

医 員 丹 京 雄 也 (2019 年卒)

医 員 宮 田 真弓子 (2015 年卒) 2024 年 2 月～

■ 診療科紹介

2023 年度の眼科スタッフは医師は昨年同様、当院が 24 年目の二井宏紀医師と、2 年目になる丹京雄也医師の 2 診体制です。二井医師が 2024 年 4 月より退職されるため、2024 年 2 月から私（宮田）が赴任してきました。他は、看護師が 3 名、視能訓練士が 3 名、事務が 1 名です。

■ 診療実績

午前は外来診療、手術は週 3 回午後から行っており、概ね一日 4～5 例行っていました。

2023 年度手術件数は、白内障 317 例（全例 PEA + IOL）、緑内障 87 例（緑内障単独手術 31 例、緑内障・白内障同時手術 56 例）、緑内障手術の内訳は、線維柱帯切開術が 73 例（ μ LOT）、線維柱帯切除術が 16 例（うち EXPRESS7 例）、白内障手術併用線維柱帯切開術が 55 例、白内障手術併用線維柱帯切除術が 3 例、白内障手術併用隅角癒着解離術が 1 例、線維柱帯切除術後濾過胞再建術 14 例、翼状片 3 例、その他 3 例で計 446 例でした。緑内障手術は昨年同様、2016 年末から合併症の少ない極小切開緑内障手術（低侵襲緑内障手術）であるマイクロフック線維柱帯切開術眼内法（ μ LOT）を積極的に行っており、良好な結果を得られています。この術式では入院期間も概ね 1 週間以内で済み、早期の通常生活への復帰が可能です。白内障手術は、極小切開白内障手術（切開幅 2.2mm）を行っています。幸い 2023 年度も白内障手術・緑内障手術ともに、最も忌むべき合併症である術後感染や駆逐性出血はありませんでした。糖尿病網膜症・加齢黄斑変性症・網膜静脈閉塞症に対しては昨年と同様マキユエイドテノン嚢下注射とルセンティス・アイリーア硝子体注射に加えて、バビー

スモが入り、210 例ほど注射しております。（術後感染の可能性を少しでも減らすため手術室で行っていました）

■ 研究活動

手術症例の多い緑内障・白内障をメインに学会報告・論文発表を行っています。

耳鼻咽喉科

■スタッフ

主任部長 高 本 宗 男 (1992 年卒)
日本耳鼻咽喉科学会専門医
専門研修指導医
部 長 有 木 雅 彦 (2011 年卒)
日本耳鼻咽喉科学会専門医
医 師 二階堂 靖 訓 (2020 年卒)

■診療科紹介

2022 年度に在籍していた安藤医師の広島大学病院への転勤に伴い広島大学病院から二階堂医師が赴任されました。2023 年度も引き続き 3 人体制にて耳鼻咽喉科全般の診療にあたりました。

■診療実績

それまでのような重症化する危険性が少なくなったため、2023 年 5 月に新型コロナ肺炎は感染症法 5 類に変更され、その対応取り扱いが以前よりゆるやかになりました。ただし新型コロナウイルスの感染症自体がなくなったわけではなく、耳鼻咽喉科外来では本人や紹介元医院では見過ごされている新型コロナ感染症による咽頭喉頭炎の診療がかえって多くなりました。

診療患者数 手術件数

2022 年度までと比べて外来診療患者数や手術件数もかなりコロナ禍以前にもどりつつあります。

表 1 耳鼻咽喉科 外来診療患者数の推移
耳鼻科外来患者数 (人)

	総計
2023 年	9,611
2022 年	8,519
2021 年	8,469

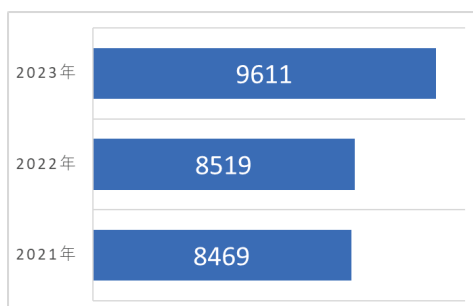


表 2 耳鼻咽喉科 手術種類別の件数推移

手術件数 多い順 (件)

	扁桃・ アデノイド	内視鏡下鼻手術	甲状腺手術	全手術件数
2023 年	76	63	14	241
2022 年	57	37	13	183
2021 年	48	59	8	208



放射線治療科

■ スタッフ

主任部長 伊 東 淳 (1995 年卒)
 日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会共同認定放射線治療専門医
 日本がん治療認定医機構認定がん治療認定医

科 長 海老谷 京 子 (診療放射線技師)

主 任 砂 田 研 二 (診療放射線技師)

他 ローテーション技師 2 名
 看護師 2 名 (うち 1 名ががん放射線療法看護認定看護師)
 事務 1 名

■ 診療科紹介

放射線治療は手術、抗がん剤と並ぶ癌治療の 3 本柱です。

メスを入れずに癌を治療する、したがって体にやさしい治療であることが放射線治療の特徴です。また、臓器を残す(温存する)ため機能・形態が温存可能というメリットがあります。

また、(治癒をめざした)根治照射から(症状軽減のための)緩和照射まで、その役割は多岐にわたります。

全身のあらゆる疾患が対象になるので

月曜日：放射線治療カンファレンス(当科医師、大学病院医師、診療放射線技師、看護師)

火曜日：緩和ケアカンファレンス(呼吸器内科・循環器内科・外科・精神科・栄養科・リハビリ・薬剤部・地域連携・当科)

水曜日：cancer board(消化器内科・外科・画像診断部・当科)

水曜日：呼吸器カンファレンス(呼吸器内科・呼吸器外科・画像診断部・当科)

金曜日：頭頸部癌カンファレンス(耳鼻咽喉科・当科)と院内でもカンファレンスが多いのも当科の特徴です。

他には(昨年とあまり変わりませんが)、

1. IMRT、体幹部定位照射といった高精度放射線治療を行っている一般病院である。
2. 化学放射線療法では抗癌剤の効果を最大限に活かすよう時間調整している。
3. 毎回 EPID で写真を撮り、より正確な照射を行う

よう取り組んでいる。

などが当科の特徴といえるかと思います。

2024 年 9 月に直線加速器の更新が予定されており、最新鋭の機器が整備される予定です。今後もがん拠点病院における放射線治療部門として、広島県西部の癌治療に貢献していきたいと考えています。

■ 診療実績

1) 脳・脊髄	2
2) 頭頸部	17
3) 食道	19
4) 肺・気管・縦隔	43
4) のうち肺	43
5) 乳腺	75
6) 肝・胆・膵	3
7) 胃・小腸・大腸	18
8) 婦人科	1
9) 泌尿器系	47
9) のうち前立腺	37
10) 造血器・リンパ系	2
11) 皮膚・骨軟部	5
12) その他(悪性)	2
13) 良性疾患	4

2023 年度の新患数は 238 人(昨年度 223 人)、のべ治療患者数は 249 人(昨年度 229 人)です。新患の原発巣別内訳は上記のとおりです。

高精度放射線治療としては、前立腺癌の IMRT を 11 人(昨年度 13 人)に、体幹部定位照射を 2 人(昨年度 6 人)に施行しています。定位照射(脳)は 0 人(昨年度 0 人)でした。

他に 2019 年度より、前立腺癌の骨転移に対し塩化ラジウム内用療法を開始し、2019-2020 年度に計 3 人治療を行い良好な症状改善効果を得られています。治療対象が限られるため本年度は治療施行がない状況です。

■ 研究活動

2001 年 4 月更新の直線加速器を使用しており、機器の更新時期を迎えていること、医師 1 人体制のためマンパワー不足もあり対外的な活動に手が回らない状況です。

画像診断部

■ スタッフ

主任部長 西 原 礼 介 (1995 年卒)

放射線診断専門医

部 長 海 地 陽 子 (2003 年卒)

放射線診断専門医

副 部 長 東 堀 遥 (2015 年卒)

放射線診断専門医

医 員 東 野 諒 (2020 年卒)

医 員 橋 本 悠希子 (2021 年卒)

■ 診療科紹介

- CT、MRI、核医学等各種検査の画像診断や、胃透視の読影をしています。
- IVR は、肝細胞癌に対する TACE、救命センターの外傷、動脈出血に対する塞栓術などを行っています。
- Nonvascular IVR として CT ガイド下生検、CT ガイド下膿瘍ドレナージを行っています。
- 検診では脳ドックを行い、希望者には結果説明や頸動脈エコーを行っています。また胃透視の読影を行っています。
- 開業医から依頼された CT、MRI や核医学などの検査や画像診断を行っています。
- 救急外来から依頼された時間外読影を iPad を利用して在宅で行っています。
- 呼吸器内科・呼吸器外科・放射線治療科の三科カンファレンス、整形外科カンファレンスへの参加、救命センターとの画像カンファレンス、乳腺カンファレンスを毎週行っています。
- 2017 年 11 月に導入された 256 列 Revolution CT で dual energy 撮影が可能になり、物質の弁別など従来と異なる CT を施行しています。

■ 診療実績

(2023 年度撮影件数)

CT	22,420 件
MRI	7,439 件
核医学	1,280 件
Vascular IVR (画診施行)	61 件
Non-vascular IVR	
CT 下生検	25 件
CT 下ドレナージ	39 件

麻酔科

■ スタッフ

主任部長 大 下 恭 子 (1992 年卒)

日本麻酔科学会麻酔指導医

日本ペインクリニック学会専門医

主任部長 新 澤 正 秀 (1993 年卒)

日本麻酔科学会指導医

日本心臓血管麻酔専門医

主任部長 本 多 亮 子 (1998 年卒)

日本麻酔科学会麻酔指導医

臨床研究指導医

主任部長 村 上 俊 介 (1998 年卒)

日本麻酔科学会専門医

主任部長 石 橋 優 和 (1998 年卒)

日本麻酔科学会指導医

主任部長 原 木 俊 明 ((2001 年卒)

日本麻酔科学会麻酔指導医

臨床研修指導医

部 長 渡 辺 る み (1993 年卒)

日本麻酔科学会認定医

部 長 河 本 佐 誉 子 (2008 年卒)

日本麻酔科学会専門医

副 部 長 大 田 智 子 (2014 年卒)

日本麻酔科学会専門医

医 員 村 岡 由 樹 (2017 年卒)

医 員 小早川 亮 太 (2019 年卒)

医 員 秋 田 大 輔 (2017 年卒)

医 員 筒 井 華 子 (2019 年卒)

■ 診療科紹介

安心して手術を受けていただくために術前診察を行い、一人一人の患者様に最適な麻酔方法を選択しています。生体モニターだけでなく、脳波や筋弛緩モニターを全手術室に装備しており、きめ細かい麻酔管理をおこなっています。硬膜外麻酔や末梢神経ブロックを積極的に全身麻酔と併用し、術後も快適に過ごせるように悪心・嘔吐の予防や術後疼痛管理にも力を入れています。

ペインクリニック外来は月から金曜日の午前中に行っています。日本ペインクリニック学会認定指導施設となり、専門医の育成に取り組んでいます。

教育面では、救急救命士教育（気管挿管、静脈確保）、特定行為看護師の養成、術後疼痛管理研修な

どを行っています。今年度は1名の麻酔領域特定看護師が活動を開始し、マンパワー不足の解消や手術室の高稼働化に貢献しています。

■ 診療実績

2023 年度は新型コロナウイルス感染症による手術制限もなく、総手術件数は 5,230 件とコロナ前の水準に戻っています。麻酔科管理は 3,969 件で、3,852 件が全身麻酔症例でした。

	全症例 (%)	麻酔科管理 (%)
総数	5,230	3,969
予定・臨時	4,693 (89.7)	3,506 (88.3)
当日緊急	537 (10.3)	463 (11.7)

麻酔科管理症例の診療科別内訳は、外科 1,032、整形外科 1,056、泌尿器科 583、産婦人科 245、心臓血管外科 187、耳鼻科 220、乳腺外科 168、呼吸器外科 201、脳神経外科 83、口腔外科 84、形成外科 34、皮膚科 43、眼科 17、救急科 14、麻酔科 3 症例となっています。また、血管造影室など手術室外での全身麻酔管理も行いました。

ペインクリニック外来の新患患者は 77 名、内訳は帯状疱疹関連の痛み 38 名、腰下肢痛 11 名、末梢神経障害性疼痛 7 名、顔面痛 4 名、癌性疼痛 4 名、上肢痛 3 名、肋骨骨折 3 名、その他 7 名でした。帯状疱疹の亜急性期の痛みや外傷や術後の疼痛に対しては神経ブロックの併用を積極的に行っています。

■ 診療科としての今後の展望・トピックス・研究活動

8 月より麻酔科医、手術室看護師、薬剤師、臨床工学技士で構成される術後疼痛管理チームの活動を開始しました。全身麻酔後のオピオイドの持続投与を行っている患者を対象に術翌日から 3 日間チーム回診を行うと、1 日 100 点の加算を算定することができます。副作用対策やきめ細かい用量調整を行うことで良好な鎮痛効果が得られ術後早期回復を促すことを目標としています。

特定行為看護師による麻酔管理に対しても麻酔管理料Ⅱが算定できるようになり、比較的全身状態の

安定した患者様の術中管理を担当してもらっています。来年度からは今年度研修を修了した1名が加わって2名となり、増加し続ける麻酔症例数に対応すべく臨床経験を重ねてもらっています。

研究活動としては新規麻酔薬レミマゾラムについての研究（薬物動態モデル、覚醒時間、術後せん妄に与える影響）、大腿骨近位部骨折手術における腸骨筋膜下ブロックの有用性の検討、帯状疱疹関連痛の初診時神経障害性疼痛スコアが予後へ及ぼす影響などについて検討を行い、学会発表、論文作成を行っています。



術後疼痛管理チームによる回診

歯科・口腔外科

■ スタッフ

主任部長 島 末 洋 (1996 年卒)
日本口腔外科学会専門医・指導医
臨床歯科医研修指導医
部長 大井 尚志 (2014 年卒)
日本口腔外科学会認定医
臨床歯科医研修指導医

■ 診療科紹介

JA 広島総合病院歯科口腔外科は、歯科医師 2 名、歯科衛生士 3 名、事務職員 2 名の体制で診療を行っています。

業務内容は、口腔外科がメインであるため虫歯治療や義歯作成等の一般歯科診療は行っておらず、顎顔面の外傷・骨折、悪性腫瘍（口腔がん、唾液腺腫瘍）、顎骨腫瘍・嚢胞、難抜歯（埋伏智歯、有病者の抜歯等）、歯性感染症（蜂窩織炎、膿瘍、薬剤性顎骨壊死、上顎洞炎等）、顎関節症等の顎顔面領域の疾患を取り扱っております。月曜、木曜日は全身麻酔での手術、火曜、水曜日は外来小手術を行っています。

また、病院歯科として 2013 年より全身麻酔の手術や化学療法を受ける患者の全身管理の一環として口腔ケア（周術期口腔機能管理等）を行っています。外科や麻酔科を始めとする様々な診療科と医科歯科連携を行い、周術期口腔管理を行っています。

■ 診療実績

2023 年度 全身麻酔手術

埋伏歯抜歯術	26 件
顎骨腫瘍・嚢胞摘出術	37 件
舌悪性腫瘍切除術（舌癌）	7 件
腐骨除去術	6 件
頬粘膜腫瘍切除術	2 件
下顎骨骨折観血的整復術	3 件
口唇悪性腫瘍切除術	1 件
顎下腺摘出術	1 件
上顎洞根治術	1 件

外来小手術：骨内埋伏歯、水平埋伏歯抜歯術、顎骨嚢胞摘出、創傷処理、口腔内外消炎術、唾石摘

出術、腐骨除去術、歯槽骨観血的整復術、腫瘍摘出術（口唇、頬粘膜、舌、顎骨）等 1,000 件

■ 研究活動

日本口腔外科学会認定研修施設であり、口腔外科疾患調査や口腔がん登録に参加しています。



救急・集中治療科

■ スタッフ

地域救命救急センター長、副院長

吉田 研一 (1984 年卒)

医学博士

日本救急医学会専門医

主任部長 櫻谷 正明 (2007 年卒)

日本救急医学会専門医

日本集中治療医学会専門医

部長 河村 夏生 (2010 年卒)

日本救急医学会専門医

部長 高場 章宏 (2011 年卒)

日本救急医学会専門医

日本集中治療医学会専門医

副部長 筒井 徹 (2013 年卒)

日本救急医学会

医員 前澤 俊憲 (2016 年卒)

日本救急医学会専門医

日本集中治療医学会専門医

医員 岩田 和佳奈 (2017 年卒)

日本救急医学会専門医

医員 千々和 可伶 (2019 年卒)

日本救急医学会

医員 飛弾 美紗都 (2019 年卒)

日本救急医学会

医員 齋藤 奈実 (2019 年卒)

日本救急医学会

■ 診療科の紹介

2023 年度、当科は部分勤務（6 か月）を含む総勢 10 名で救急・集中治療の診療を施行しました。また当院は日本救急医学会認定救急専門医研修基幹病院（専攻医 2 名）でもあります。

救急・集中治療科は、内科系、外科系を問わず呼吸、循環、代謝その他の重篤な急性機能不全の患者を収容し、強力かつ集中的に緊急治療・看護を行うことにより、その効果を期待する部門です。

2011 年 4 月から地域救命救急センターとして組織変更し、いわゆる三次救急体制が正式に発足されました。地域に愛され信頼される急性期病院として、さらに設備と体制の整備を進めていく計画です。ご支援をよろしくお願いいたします。

■ 診療実績

2020 年度

年間救急搬送患者数 3,996 台

年間救急来院患者数 6,786 人

2021 年度

年間救急搬送患者数 3,313 台

年間救急来院患者数 6,003 人

2022 年度

年間救急搬送患者数 3,617 台

年間救急来院患者数 6,042 人

2023 年度

年間救急搬送患者数 3,766 台

年間救急来院患者数 6,043 人

■ 研究活動

①重症感染症（敗血症）患者の救命率の向上

重症感染症（敗血症）は、細菌によって引き起こされた全身性炎症反応症候群（SIRS）です。細菌感染症の全身に波及したもので非常に重篤な状態であり、無治療ではショック、DIC、多臓器不全などから早晚死に至ります。もともとの体力低下を背景としていることが多く、治療成績も決して良好ではありません。当院でもその死亡率は高く、28-38%（2008-20015 年）の患者さんが亡くなっています。

Surviving Sepsis Campaign Guideline 2021 では循環管理だけではなく感染対策、続発する臓器不全や周辺病態に対しての集中治療が示されています。当院では特に初期蘇生の循環管理について積極的に推し進めています。

②脳低温療法の導入

脳低温療法とは、脳が障害を受けた際に脳の障害がそれ以上進行することを防止するため、体温を低く保つ治療法です。通常、脳が重大な障害を受けた際には脳組織に浮腫が起こるほか、カテコールアミンやフリーラジカルなどが放出され、進行的に組織が破壊されていきます。救急の脳障

害においては、この進行的な脳組織の破壊を抑制することで救命率・機能予後の向上が見込まれ、またそれを抑制する事が重要な課題となっています。

蘇生ガイドライン 2020 でも脳低温療法が新たに加えられたことを契機に、当院でも水冷式ブランケットを用いて患者の体温を 34℃程度に下げること、代謝機能を低下させて、脳内での有害な反応の進行速度を抑え、蘇生後脳症の治療成績の向上に努めています。

③オートプシー・イメージングの検討

オートプシー・イメージング（Autopsy imaging、Ai）とは、狭義では死亡時画像診断のことです。コンピュータ断層撮影（CT）や核磁気共鳴画像法（MRI）などによって撮影された死後画像により、死体にどのような器質的病変を生じているのかを診断することによって、死亡時の病態把握、死因の究明を目的とします。

当院では 2007 年よりオートプシー・イメージングを導入し画像診断部の支援のもとに、Ai 認定施設（クラス A）となっています。救急搬送された患者のうち、340 例近くの Ai 施行にて、約 4 割の患者の死亡原因の診断・推定に役立ちました。

救急搬送される症例には、自宅での服毒自殺や幼児虐待などの外因死の可能性のある症例が含まれます。体表の情報からこれらを判断するには限界があり、Ai を取り入れることにより、正確な判断ができる可能性が高まります。外因死などが疑われる場合には、所轄の警察署へ届け出るとともに、今後も死因究明のため積極的に Ai を施行していきます。

健康管理センター

■スタッフ

センター長、主任部長、臨床研究検査科部長

碓 井 裕 史 (1977 年卒業)

日本人間ドック学会認定医・産業医

課長(事務職) 三 口 顕 介

主 任 生 田 佑 子

保健師 5 名

事務 3 名

派遣職員(健診処理担当) 3 名

(運転管理業務) 1 名

業務委託(受付・予約) 4 名

臨時職員(医師 5 名、看護師 6 名、臨床検査技師 2 名)

【取得資格】

人間ドックアドバイザー 5 名

第一種衛生管理者 1 名

【所属学会】

日本人間ドック学会、日本癌学会、日本農村医学会

【担当事務局】

広島県農村医学研究所、広島県農村医学研究会

日本農村医学会

■概要

当センターでは厚生連の基本理念に基づき、JA グループ・行政・医師会との連携によって広島県西部地域の JA 組合員、住民の健康管理活動の推進に努めています。病院併設型の機能を活かし、診療部門、臨床研究検査科、中央放射線科など優れたスタッフの協力により精度の高い健診活動に取り組んでいます。

■主な活動内容

1. 施設内健診

当院独自の人間ドックに加え、廿日市市、広島市、大竹市、各健康保険組合等の委託ドック、各種がん検診他を行いました。

2. 巡回健診

JA グループ、廿日市市、佐伯地区医師会等の委託健診を中心に年間 90 会場以上実施しています。

3. 地域の健康教育活動

JA 組合員健康教室や JA 広報誌の執筆活動を行っています。健診後には結果の報告会を実施し、

健康相談を行い、農業祭への参加や講演依頼の対応は積極的に取り組んでいます。

■事業の紹介

当センターでは、ホスピタリティマインドを大切にした健診を心がけており、受診者ひとりひとりの健康に関する心配事に目を向けています。日頃の生活習慣を見直し、より健康的な習慣に取り組むきっかけになれるような健診をめざしています。

前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防対策を講じながら事業を行いました。契約している事業所、健保組合、市町の担当者と打ち合わせを行い、安全に安心して受けていただけるように実施しました。

健診を受けていただくだけでなく、精密検査が必要であると診断された方には、医療機関へ受診していただけるように健診結果書と一緒に紹介状を発行しています。未受診、未把握の方には 4 か月後に再度受診を促す手紙を郵送しています。精検受診率をあげるための対策として、①消化器内科、内科外来の協力のもと、2018 年 7 月より大腸がん検診で精密検査が必要である受診者に対しては、人間ドック当日に当院での受診を勧めています。人間ドック当日に精密検査の予約ができること、容易に予約できることで、受診者の通院回数や待ち時間等の負担を減らすことができ、受診者からも好評です。② 2022 年 7 月より精密検査が必要である受診者に、Web による紹介予約システムを導入し、スムーズに受診ができるような体制作りに努めています。

生活習慣病の早期発見およびその予防、がんの早期発見だけでなく、地域に寄り添った活動ができるようにスタッフ一同、心をこめて事業を展開したいと思います。

■ 2023 年度活動実績

○施設内健診

	受診者数 (人)
入院ドック	11
外来ドック	2,737
協会けんぽ健診	1,459
原爆 (一般・がん・二世)	106
脳ドック	272
肺ドック	121
脾ドック	75
個別子宮がん検診	77
個別乳がん検診	76
個別大腸がん検診	26
健康診断 (一般・簡易)	507
当院職員健康診断	1,236
個別特定健診	68
骨密度検診	145
計	6,917

○巡回健診

	実施日数 (日)	受診者数 (人)
生活習慣病予防健診	19	494
職員健診	64	3,134
健康診断	6	554
特定・後期高齢者健診	4	273
大腸がん検診	4	250
肝炎検査	4	22
計	101	4,727

○保健指導

	受診者数 (人)	
特定保健指導	63	
施設内保健指導	2,512	
	実施回数 (回)	受診者数 (人)
健康教育	4	106
巡回健診後の事後指導	5	57

■ 2023 年度がん検診部位別精密検査受診状況

○施設内健診

		受診者数 (人)	要精検者数 (人)	要精検率 (%)	精検受診者数 (人)	精検受診率 (%)	がん発見数 (人)	がん発見率 (%)
胃部	バリウム	1010	29	2.9	18	62.1	0	0
	カメラ	2,245	114	5.1	98	86.0	8	0.36
胸部	レントゲン	4,943	92	1.9	60	65.2	3	0.06
	CT	121	21	17.4	11	52.4	1	0.83
大腸 (便潜血反応)		3,961	181	4.6	116	64.1	2	0.05
乳部		1,031	51	4.9	36	70.6	3	0.29
子宮頸部		919	17	1.8	16	94.1	0	0
前立腺 (PSA)		480	32	6.7	25	78.1	9	1.88

○巡回検診

	受診者数 (人)	要精検者数 (人)	要精検率 (%)	精検受診者数 (人)	精検受診率 (%)	がん発見数 (人)	がん発見率 (%)
胃部間接レントゲン	—	—	—	—	—	—	—
胸部レントゲン	3,736	41	1.1	21	51.2	2	0.05
大腸 (便潜血反応)	1,659	73	4.4	30	41.1	3	0.18
前立腺 (PSA)	424	11	2.6	5	45.5	0	0

※ 2020 年度より巡回胃がん検診は中止

病理診断科・病理研究検査科

■ スタッフ

主任部長 在 津 潤 一 (2007 年卒)
 日本病理学会病理専門医・分子病理専門医
 日本臨床細胞学会細胞診専門医
 主任部長代理 杉 山 陽 一 (兼務)
 科 長 高 田 愛
 主 任 住 田 美 栄
 主 任 永 田 郁 子
 医師 (兼務含む) 2 名
 臨床検査技師 7 名
 事務 1 名
 非常勤医師 3 名

■ 認定資格取得

細胞検査士	4 名
国際細胞検査士	2 名
二級甲類臨床病理技術士	4 名
	(病理学 4)
特化物四アルキル鉛等作業主任者	3 名
認定病理検査技師	2 名
がんゲノム医療コーディネーター	2 名
診療情報管理士	1 名
医療情報技師	1 名
緊急臨床検査士	1 名

■ 所属学会

日本病理学会
 日本臨床細胞学会
 日本臨床衛生検査技師会

■ 業務内容

病理組織検査・細胞診検査・病理解剖
 検査件数 (2023 年度)

組織検査	5,825 件
術中迅速検査	356 件
細胞診検査	6,316 件
迅速細胞診検査	234 件
病理解剖	1 件

■ トピックス

〈凍結組織切片作製装置クリオスタットの機器更新〉

クリオスタットは凍結組織切片の作製に使用する機器です。組織を凍結させることにより薄切に適した硬さをもたせ、-20℃に設定したクリオスタット内の凍結ミクロトームにより5μmの厚さに薄切し、標本作製します。

凍結組織切片作製法は術中迅速診断にはなくてはならない手法であり、腎生検や皮膚生検の診断に用いる免疫蛍光抗体法にも凍結組織切片が必要です。

2023 年度 各診療科の術中迅速検査件数

呼吸器外科	136 件
乳腺外科	135 件
外科	34 件
耳鼻咽喉科	14 件
脳外科	11 件
歯科口腔外科	9 件
泌尿器科	9 件
婦人科	4 件
整形外科	3 件
合 計	355 件



研修医

■ スタッフ

〈2 年次初期臨床研修医〉

石田瑞季、岩見卓保、江口真理奈、枝廣 建、
奥本尚範、木村祐登、諏訪敬昭、藤井貴頌、
八幡朗広、渡部亮平

〈1 年次初期臨床研修医〉

伊藤大起、大谷晃平、尾崎彩織、黒崎佳奈、
三反畑亮、杉村 泰、中河友里、中田一嘉、
丸山基治、森田智也、竹島実季、山本祐大

■ 概要

初期臨床研修医 2 年次 10 名、1 年次 12 名の計 22 名が所属しています。それぞれが当院の初期臨床研修プログラムに沿って、各診療科をローテーションしながら研修を行なっています。

■ 活動内容

〈初期臨床研修プログラム〉

1 年次は内科 6 ヶ月、外科系 1 ヶ月、麻酔科 1 ヶ月、救急集中治療科 2 ヶ月の計 10 ヶ月が必修科となり、残りの 2 ヶ月は自由に選択することができます。2 年次は産婦人科 1 ヶ月、小児科 1 ヶ月、精神科 1 ヶ月、地域医療 1 ヶ月が必修となり、残りの期間は自由選択となります。

1 年次は満遍なく各科を回ること、医師としての基本的な考え方を身につけつつ、2 年次で各々が将来進みたい診療科に合わせたローテーション選択を行うことが可能です。当院にない診療科であっても、希望があれば他病院での研修が可能な場合もあり、非常にフレキシブルな研修プログラムであると感じています。

〈救急対応〉

日々の診療に加えて、救命救急センターにて夜間・休日の日当直業務を行なっています。救急医 1 名・一般当直医 1 名に加えて、1 年次・2 年次研修医が 1 名ずつの計 4 名で診療時間外に救急外来を受診された患者さんの対応をしています。

基本的に、初期対応を研修医が行い上級医に相談し、治療方針等を決定します。緊急度の高い疾患も

多いですが、その際は必ず救急医と一緒に診療するようになっています。他病院の研修と比較しても、研修医の判断に対して根拠や理由を求められる機会が多く、また上級医の目を必ず通すため、EBM を意識した診療を身につけることができるとともに、患者さんにとっても適切な医療が提供できていると感じています。当院救命救急センターは、年間救急搬送件数が 3,000 件以上、年間来院患者数が 5,000 人以上であり、研修医にとっての日当直業務は軽症から重症まで幅広い症例を経験する貴重な機会でもあります。

〈勉強会〉

毎週火曜日には、Early Bird Lecture という研修医のための勉強会が開かれています。そこでは研修医が 15 分、上級医が 30 分程度の講義が行われています。初期研修医として、発表の練習になるだけでなく、スライド作成の過程で症例・疾患を深く理解することにもつながります。また、参考書を読むだけでは得難い、最新の知見や expert opinion を学ぶ非常に良い機会となっています。

〈最後に〉

日々、上級医の先生方がご自身の診療を行いながらも、講義やご指導をいただいている現状は、我々研修医にとって非常に有意義でありがたい時間だと感じています。2 年後には自身で医療判断を下さなければいけなくなるため、この限られた期間で出来る限りの事を吸収できるよう、日々精進いたします。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。



看護部長室

■スタッフ

看護部長 藤 本 七津美

看護副部長 佐 藤 澄 香

久 保 知 子

村 中 好 美 (医療安全管理室兼務)

川 村 洋 子 (総合医療福祉相談室兼務)

■概要

看護科職員数は664名(2023年4月1日現在)で病院内最大の人員数です。今年度は看護科目標を、「心と心の通い合うハートふるナースィング～急性期病院の役割を果たし、地域へつながる看護を提供しよう」とし、質の高い看護の提供に努めています。

■看護部の活動

1. 看護の質向上に関する活動

○看護実践能力の開発支援

広島厚生連3病院共通のクリニカルラダー認定制度を推進し、今年度はラダーⅠ36名、ラダーⅡ92名、ラダーⅢ15名ラダーⅤ1名の認定を受けました。

○e-ラーニングによる学習支援

クリニカルラダー取得に際しては研修受講を必須とするなど看護の質を確保するための教育も注視しています。また、診療報酬の加算要件の看護補助者関連の研修にも活用しています。

2. 看護職員の職務満足の向上に関する活動

○広島県版自己点検ツール「チャレンジ」の活用

今年度も広島県版自己点検ツール「チャレンジ」に参加を呼びかけ回答率は9割を上回りました。12月科長会ONEアップセミナーでは各部署の科長が次年度へ向けて職場環境改善の取り組みを発表しました。

3. 主任会、看護科委員会の活動

2023年11月10日(金)、主任対象の看護管理研修Ⅰではマネジメントラダーをもとに主任としての役割や自己の行動を具体的に考えることを目的に行いました。テーマ「理想の職場づくり」と

題して当院公認心理師の佐藤亜弥先生による講義、交流分析(ストロークングプロフィール)の実施、グループワークでは「個々を高め合う職場」、「毎日行きたくなる職場」、「助け合う職場」など理想の職場を目指す意気込みを感じる研修会でした。

3月の主任会実践報告会では急性期看護チームは次年度の計画は看護補助者の指示出しの運用に取り組むことを述べ、今後の看護補助者との協働推進に期待したいです。

がん看護研修の企画・実施および今後のリンクナースの活用検討、退院後訪問の手順書の見直しなど活動の成果や次年度に繋がる課題を発表することが出来ました。

4. 看護の普及啓発に関する活動

○ふれあい看護体験

2023年8月4日 高校生30名の参加

救急看護認定看護師が救急看護についての講義と患者役、看護師役になってAEDの使い方を体験することが出来ました。参加された学生さんからは「AEDの使い方がよく分かった。将来は看護師を目指したい」などの感想をいただきました。

5. 看護の人材確保と定着推進活動

○育児休暇中の職場復帰支援

今年度は7月、12月に対象42名に科長、スタッフからの温かいメッセージカードと育児・復職についてのリーフレットを郵送しました。その後のアンケートでは「働いていたことを思い出した」「復帰したい」「気にかけていただいてうれしいです」などの回答がありました。

○病院見学会

2023年7月2日、2024年1月27日、2月24日、3月24日に対面で計4回開催し、計140名の看護学生の参加がありました。看護部長による病院概要の説明、先輩看護師からのメッセージ、ワールドカフェを行い、参加者から「看護師や病棟の雰囲気が感じられてよかった」などの声をいただきました。

6. トピックス

○病棟クラークを新設し、1名のクラークが2部署を担当し、書類の整理、電話対応など行っています。病棟クラーク導入前後の評価では業務の中断時間が減った、科長としてベツトサイドに行く時間が増えたなど意見があり、看護師が専門的な業務に専念できる職場環境づくりに繋がっています。

○学生看護補助者のバイトを新設し、7名が一般病棟で入院患者の見守りや物品の片付けなどで看護師と共に療養生活の援助にあたりました。学生からは楽しく看護が学べる、病院に慣れることが自信になる等の声があり、今後も看護師として働く体験を積みキャリア形成に繋がるように次世代の育成を支援して参ります。

外 来

■スタッフ

科 長	平 舛 仁 美 (内視鏡センター)
	中 元 美 恵 (糖尿病センター)
	新 田 克 己 (外科系・外来科長室)
	本 山 敏 恵 (内科・中央採血室)
	門 内 美 鈴 (中央検査処置室・地域救命救急センター外来)
主 任	坂 手 友 子 (内視鏡センター)
	益 田 尚 恵 (外科系・外来科長室)
	平 野 有 紀 (内科・中央採血室)
	槌 井 美 穂 (中央検査処置室)
	辻 幸 枝 (地域救命救急センター外来)
副 主 任	武 重 知 香 (内視鏡センター)
	田 中 猛 (外科外来)
	井 川 真 奈 (眼科外来)
	米 田 直 美 (中央採血室)
	森 本 さおり (地域救命救急センター外来)

他看護師 82 名、看護補助者 1 名、洗浄員 5 名

■概要

外来は、各診療科、糖尿病センターと地域救命救急センターの診療部門の他に内視鏡センター、中央採血室、中央検査処置室の検査部門があります。

2023 年度の外来受診者は 1 日あたり 932 名、救急車受け入れ件数は年間 4,473 件でした。内視鏡件数 10,756 件／年、血管造影検査治療件数は 1,191 件／年でした。

外来診療部門では、再診患者の待ち時間短縮に向けて予約制の確立に取り組みました。患者満足度調査では 78% の患者が「普通～満足」と回答した一方で「変わらない」という回答もあり、今後も患者に満足していただけるように取り組みます。

■看護活動

内科外来では、がん患者に対して「生活のしやすさ質問票」を通して多職種で連携し介入しています。また、膵がん教室に参加し継続看護ができるよう病棟と連携強化を図りました。退院後、患者に聞き取りを行う時間を設け、顔の見える関わりを強化しました。

外科系外来は、コロナ禍が明けて外来患者が増加しているため、各診療科で幅広く業務できる看護師を配置して処置・急患対応の応援体制の確立に取り組みました。

中央検査処置室では他職種カンファレンス、急変対応シミュレーションを実施しました。記録の見本

を作成し標準的な記録ができるよう業務改善に取り組みました。

救急外来では、外来患者の地域連携の強化のため総合医療相談室との連携を推進しています。

内視鏡センターでは、休日日勤を開始し 24 時間、内視鏡検査ができる体制を確立しました。

■教育

各診療科の応援体制強化や病棟との連携に向けて勉強会、シミュレーション、関連部署への見学を計画的に実施しました。検査や治療を学ぶ機会となり、日々の看護実践につなげています。

今年度は看護科委員会の委員がリンクナースとして外来部門全体で活動し BLS、AED、挿管介助の急変対応や災害防災のシミュレーションを行いました。

一般診療科と内視鏡センターで 1 回／月の勉強会や倫理カンファレンスを行っています。

■アピール

外来ではオープンホスピタルのポスター展で 3 題発表しました。

■研究

「脳卒中初期診療における Stroke clock の使用感に関する検討 Pilot Study」

○佐々木開生、山崎克仁

「外来鎮静下内視鏡における安静時間変更後の実態調査」

○村上真千子、坂手友子、平舛仁美



救急外来 シミュレーションの様子

外来治療センター

■スタッフ

科 長 中 元 美 恵

主 任 手 嶋 未 貴

他 人工透析室 9名

外来化学療法室 8名

放射線治療科 2名

病棟兼務看護補助者 1名

【資格取得】

がん化学療法看護認定看護師 奥 村 麻 美

がん放射線療法看護認定看護師 河 野 佐代子

■概要

透析室は東8階に14床あり、外来・入院患者の血液透析を実施しています。外来化学療法室も同階に17床設置しており、外来患者の化学療法を実施しています。放射線治療科は、1階MR棟に隣接し外来・入院患者の治療を行っています。外来治療センターでは多職種のスタッフと常に連携しチーム医療を行っています。

■看護

透析室は外来患者の維持透析をはじめ、急性期疾患の検査や治療のために入院された患者のバックアップ透析を実施しています。週1回、医師・臨床工学技士・看護師でカンファレンスを実施し、情報共有すると共に統一した看護が提供できるように努めています。腹膜透析患者の定期受診外来では、問診聴取や腹膜透析チューブ交換を実施しています。腎不全患者には、腎代替療法選択を支援しています。「腹膜透析」、「血液透析」、「腎移植」について情報提供し、患者にとって最適の治療を理解・納得して選択できるようにサポートしています。

当院はがん診療連携拠点病院であり、がん化学療法を受けられる患者が年々増加しています。昨年度より化学療法ベッド予約システムが稼動し、患者の待ち時間が短縮されてスムーズに治療が受けられるようになりました。がん化学療法看護認定看護師を中心に、専門的知識や技術の向上に努めながら看護実践しています。

患者やご家族が抱える様々な問題に対して、多職種と連携しながらサポートしています。

放射線治療科では、根治的・予防的・緩和的など

治療目的が様々であるため、それぞれ患者・ご家族に寄り添った看護が提供できるように取り組んでいます。

■教育

外来治療センターでは一般的知識だけでなく、専門的知識と対応が求められるため実践力の維持・向上が期待できる研修や教育に取り組み、自己研鑽に努めています。外来化学療法室・透析室では救急看護認定看護師により急変対応トレーニングを受けて、急変対応を学びました。

毎月1回、外来治療センター合同倫理カンファレンスを実施し、倫理的課題に取り組んでいます。看護学生の成人看護学実習の受け入れを支援しています。

■院内研究発表

外来化学療法室におけるセルフケア向上にむけたとりくみ

～自己管理日誌を使用した患者看護師間のコミュニケーションを通して～

○山本磨央 奥村麻美 岡田佳奈子 岩本春美
三浦弥生 田原奈緒子 堤智里 長谷川景菜

■トピックス

第14回ふれあいポスター展に出展し、受賞することができました。

最優秀賞：外来化学療法室

秋の味覚改善祭り～味覚の改善にレッツトライ!!～

優秀賞：人工透析室

腎臓の機能が悪くなったら

～あなたらしく生活するために～



地域救命救急センター 救命病棟

■スタッフ

科 長 阿 部 伸 也
主 任 坂 井 真理子、山 本 はずき、
長 岡 雄 一
副 主 任 中 村 香 織、坂 井 利 名
他 看護師 25 名 看護補助者 1 名

■概要

2011 年に地域救命救急センターが開設され、救急外来・病棟として救急患者の受け入れを行ってきましたが、2018 年 4 月より地域救命救急センター救命病棟として新たにスタートしました。病床数 8 床（うち個室 1 床）を有し、救命救急入院料の対象患者を中心に受け入れています。小児、産科を除く全科の救急患者が入室可能であり、2023 年は年間入室患者数 1,039 名、平均滞在日数 2.7 日でした。2023 年 5 月から COVID-19 が 5 類感染症に移行されたことや救急患者の受け入れ数が増加したことにより、救命救急加算対象患者は入室患者数の 83.9%でした。

■看護

4:1 の看護体制をとっており、安心・安全な看護を効果的に提供できるようにしています。今年度よりペアナーシングを行い始めたことにより、日勤帯では 2 名の看護師で複数の患者への対応を行いました。そのことにより昨年度以上にペアで協力しながら、重症度が高い患者への看護を行っています。

当病棟には急激な体調・病状の変化に伴って入室される患者が多く、多くのご家族が不安を強く抱えておられます。そのため「患者家族看護」に重点を置き、患者やそのご家族の権利を守りながらご家族の方の意志決定を支援し、気持ちに寄り添う看護の提供を心がけています。その一つとして、倫理カンファレンスを行ない患者とそのご家族の気持ちを考え最良な看護介入ができるように取り組んでいます。

■教育

新人看護師教育はプリセプターが中心となり、年間の教育計画を立てて評価しながら、個人の成長に合わせて進めています。日常生活援助から疾患・検査など根拠から丁寧に指導をしています。また定期的にプリセプター会議を行い新人の成長を確認し、必要時には勉強会の企画や教育計画の修正を行っています。

スタッフ全体教育では、勉強会チームを結成して科長や主任と協働して勉強会の企画・運営を行いました。院外研修会に参加したスタッフや日頃の看護場面で気になったことや全体に知って欲しいと思う内容について、伝達講習会を行いました。

COVID-19 の重症感染者を受け入れるため、感染看護の知識や技術の獲得、感染対策への意識の向上に向けて看護科感染対策委員と共に取り組んでいます。また他部署からの異動者には病棟内のゾーニング・防護服の着脱方法の勉強会を行い、患者と看護師の安全を守るように今年度変化の多かった感染対策についても適宜マニュアルを修正していきました。

病棟応援を通じて自部署では経験の少ないケアや処置などを実践的に学びながら、救急病棟看護師としてジェネラリストとして、ステップアップ出来るように日々奮闘しています。



■研究発表

2023 年度 院内看護研究発表会

「震災における災害実働シミュレーションを行って看護師の意識変容」

研究者：師井香奈、大田実優

地域救命救急センター ICU・CCU

■ スタッフ

科 長 吾 郷 志津枝 (医療メディエーター)
主 任 岩 藤 美 穂、大 野 真由美
副 主 任 西 村 直 子
他 看護師 31 名

■ 病棟の概要

ICU は生命維持装置、患者監視装置などを用いての診療を必要とする患者の集中治療・看護を行う病棟です。対象は緊急入院患者、大手術後の患者および院内の急変患者であり、その治療に全力で対応をしています。ICU は特定集中治療室管理料 3 を取得しています。病床数は 8 床で 2 対 1 の看護体制です。

■ 看護

看護師の勤務形態は病院内で唯一の 3 交代制であり、24 時間 2 対 1 で切れ目のない看護を行っています。

今年は 5 つの病棟活動チームを編成しテーマごとに活動しました。どのチームもリーダーを中心にチーム活動を積極的に行いました。

1. 医療安全チーム

今年度は薬剤・内服に関わるインシデントに注目し、予防策を考えました。病棟薬剤師と協力して配合変化表を新規に作成し、運用を開始しています。

2. 物品管理チーム

数多くの医療材料を病棟で管理しているため、毎年新人を含めて、SPD の運用の勉強会を行っています。

緊急時にすぐに使用できるよう管理方法を見直しました。

3. 合併症予防・感染管理チーム

急性期リハビリテーションを看護師主体で実施しました。土日祝日も含めて、集中治療の現場での患者のリハビリテーションを実施し、少しでも PICS 予防につながるよう介入しています。また、昨年度に引き続き VAP 予防に力を入れ、挿管固定器具の工夫や統一した口腔ケアが実施できるよう取り組みを行いました。

4. 栄養管理・褥瘡予防チーム

早期栄養管理加算取得しており、新人・異動者へ向けて栄養管理についての勉強会を実施しました。褥瘡予防の意識付けのため、危険因子評価表・対策計画書に関する記録を徹底し、発生時の記録を充実できるように取り組みました。

5. 家族看護チーム

有志で集まったチームです。看護カンファレンスを入室 1 日目、3 日目に実施できるようシステムをつくりました。話し合う内容も統一し、入室した患者へ適切な看護ケアが実施できているか、より良い看護実践ができないかを検討しました。

院内看護研究発表会では、活動報告として『定期的なカンファレンスの定着に向けた取り組み』について発表しました。3 交代制で看護師間の情報共有が課題でしたが、定期的なカンファレンスが定着し、情報共有が容易となり、一貫性のある看護ケアの提供ができるようになりました。今後は他職種を含めて、患者のケアカンファレンスが開催できるよう取り組んでいきたいです。

■ 教育

新人教育はプリセプター制を取っています。プリセプターは心に寄り添ってもらうお姉さんの役割で、新人に声をかけ悩みや思いを聞いてくれています。技術については病棟全体で基本的な看護技術だけでなく、集中治療領域で必要なアセスメント能力や技術を指導しています。

西 4 階病棟

■スタッフ

科 長 丸 澤 葉志子

主 任 前 田 智 子、麻 川 真 代

副 主 任 川 岡 めぐみ、下 谷 恵 子

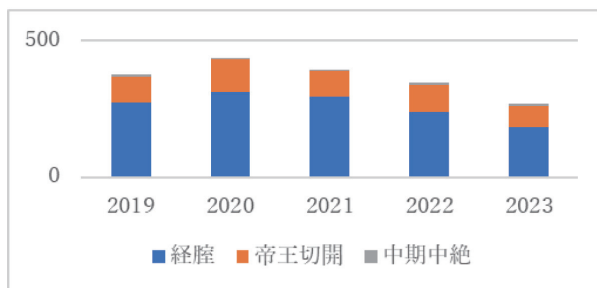
その他 看護師 13 名、助産師 15 名、看護補助者 2 名

■病棟概要

西 4 階病棟は病床数 46 床、産婦人科・乳腺外科
その他診療科の女性患者を受け入れています。

産婦人科では外来と病棟の一元化となっており、
特に妊産婦の継続看護の充実を目指しています。病
床稼働率は 61.8%、看護必要度は 47.1%、平均在院
日数 7.4 日、分娩件数は年々減少傾向にあり、経膈
分娩 184 件、帝王切開 78 件でした。市の委託事業
として産後ケアの受け入れをしています。2023 年度
の産後ケア利用者は宿泊型延べ 24 名、日帰り延べ 9
名でした。

分娩件数の推移



乳腺外科では乳癌手術、化学療法、緩和ケアと術
前から緩和ケアまでのがん看護を提供しています。

■看護

2023 年度の病棟目標

1. 安全管理・感染管理ができ患者さんが安心して
療養できる環境の提供ができる。
2. 看護の質向上を目指したカンファレンスの定着
ができる。
3. スタッフ個々のラダーレベルに沿った自己研鑽・
人材育成ができる。

1 に対して、妊婦のコロナ陽性患者の受け入れの
ためのマニュアル整備、出産時は分娩室ではなく、

4 人床を分娩室として利用し感染管理に努めました。

2 に対して、癌患者の意思決定支援・緩和ケアに
ついての倫理カンファレンスを他職種とともに実施
しました。



3 に対して、ラダー取得を目指して研修を積極的
に受けていきました。

■教育

新卒の看護師 2 名、助産師 1 名を受け入れました。
また、学生看護補助者の受け入れも行いました。

産婦人科外来と病棟一元化をしており、産婦人科
外来業務のできる看護師を 2 名育成しました。今後
は病棟スタッフ全員が外来業務もできるよう教育を
すすめていきます。

■院外活動

看護協会の委託事業である「いのちの授業」を行
い院外での教育活動に取り組んでいます。助産師が
高校生に対して「性について」「いのちについて」
の講義を行いました。

■院内における研究発表

乳癌患者のアドバンス・ケア・プランニング (ACP)
について考える一下半身マヒが生じ ADL が低下した
患者・家族とのかかわりー

発表者 前田智子

西 5 階病棟

■スタッフ

科 長 西 村 留 美
主 任 高 野 正 義、美 濃 智 子
副 主 任 安 尾 由 佳、石 井 真 奈 美
他 看護師 33 名、看護補助者 3 名、夜間看護補助者 2 名

■病棟の概要

診療科は整形外科で主に脊椎疾患患者の看護、急性期の看護を行っています。勤務体制は 2 交代勤務です。

2023 年度の整形外科手術件数は 1,121 件、病床稼働率は 87.1%、平均在日数は 14.2 日でした。

■看護



当科では固定チーム＋受け持ち制を行っており、入院時に患者さんへ受け持ち看護師が挨拶し、入院から退院までを責任をもって継続した看護を提供することに努めています。

昨年度、「頸椎パス」「経皮的椎体形成術パス」が完成し、2023 年度パス適応率 53%でした。

標準的な治療経過をもとに、医療の効率化や質の向上などを図るだけでなく、個別性のある看護を提供することを心がけています。

また、二次骨折予防のための骨折リエゾンサービス（FLS）を行うため、骨粗鬆症リエゾン資格取得者は看護師 3 名、薬剤師 1 名が在中しています。月 1 回のチームカンファレンスを行い啓蒙活動を実施しています。また、倫理カンファレンスを月 1 回開催し、よりよい看護のあり方は何かをスタッフ全員で摸索し、毎日の看護実践をよりよいものにすることを心がけています。

■教育

スタッフ全員のキャリアラダー認定合格を目指すと共に、リーダーや実習指導者を育成しスタッフがさらに成長できるよう支援を続けています。

「整形外科看護にやりがいを持ち、働きやすい職場作り」を病棟目標の一つに挙げ、新人看護師とリーダー育成にペアナーシング制度を取り入れ安心・安全な看護を提供しています。

整形外科に限らず、緊急入院などで他科の受け入れも積極的に行いました。幅広い知識や看護が求められるため、分からないことはマニュアルや診療科別処置手順などを確認し、安全に看護実践するよう心がけています。



■院内研究サポートを受ける

頸部骨折の認知症高齢患者を対象にしたレクリエーションがもたらす BPSD への影響について～BPSD スケールを用いて～

谷川綾太、枝川龍平、酒井奈菜

西 6 階病棟

■スタッフ

科 長 古 井 良 子

主 任 高 原 さおり、平 本 梨 恵、
砂 田 亮

副 主 任 小 田 浩 子

他 他 看護師 29 名、日勤看護補助者 3 名、夜間看護補助者 2 名

■概要

当病棟は病床数 55 床、個室 7 床を有する病棟です。消化器外科を中心に患者の受け入れを行っています。勤務体制は 2 交代勤務です。

2023 年度の病床稼働率は 81.4%、在院日数は 11.8 日、消化器外科の年間手術件数は 907 件となっています。

■看護活動

『2023 年度の病棟目標』は、

- ①多職種で協働し、がん患者を地域へつなぐ看護ができる
- ②看護職として成長していくためのプロセスを自ら考え行動することができる
- ③業務の見直し・改善を行い、健全な病院経営を意識し行動できる

と設定し、周術期看護や化学療法や緩和ケアを中心に看護を展開しています。在宅復帰を目指し、地域連携室や相談員など多職種と連携をはかり、早期より退院支援に力を入れています。

西 6 階病棟では「ストーマチーム」、「緩和ケア・化学療法チーム」、「クリニカルパス・看護計画チーム」の 3 つのチームに分け、それぞれの専門性を強化し病棟全体の看護の質向上に努めています。また、病棟での役割に応じてスタッフ個人で年間目標を立て、外部研修や e ラーニングに積極的に参加し、自己研鑽に励んでいます。

看護体制は固定チーム・デパートナリーシップ・ナースィングシステムを導入しています。看護師が 2 人 1 組となり、パートナーシップを発揮しながらタイムリーな患者対応と切れ目ない看護ケアの提供をしています。また、倫理的視点を踏まえたカンファレンスを毎日行い看護の方向性の共有をしています。

ます。前年度に引き続き、看護師と看護補助者での適切なタスクシフト・シェアを行い業務の効率化を図っています。日勤看護補助者と夜間看護補助者の間でも業務分担を行い、負担の軽減に努めています。今後も安全で質の高い看護を提供できるように取り組んでいきます。

■教育

2023 年度は 3 名の新人看護師を迎え、アソシエイトとプリセプターが中心となり年間計画を基に月間目標を立案しました。実習経験に差があるため、積極的に面談を行い新人看護師一人ひとりのレディネスを把握しました。それぞれに合わせた指導方法を考え、それを他のスタッフと共有し病棟全体で育てるということを意識しました。プリセプティとの面談も定期的に行い不安や悩みなどをフォローできる体制を整えました。プリセプターの負担や悩みなどはアソシエイトに相談し、解決に役立てることができています。

新人看護師だけでなくアソシエイトやプリセプターも自己の看護を振り返り成長する機会となりました。今後も病棟全体で成長できる教育体制を構築していきます。



■看護研究

テーマ：A 病院における消化器がん手術を受ける患者の身体運動機能や精神的苦痛と QOL の関連性について

研究者：○吉村 珠美、國政 李紗、砂田 亮

患者対象に調査を行っています。今後も看護研究に取り組んでいきます。

西 7 階病棟

■ スタッフ

科 長 宮 本 英 美

主 任 森 田 敬 子、中 村 希

副 主 任 立 石 久 子

他 看護師 29 名、日勤看護補助者 3 名 夜間看護補助者 2 名

病棟クラーク 1 名

■ 病棟概要

当病棟は病床数 55 床、個室（院内唯一の特別室 1 床を含む）7 室、4 人部屋 12 室を有する内科病棟です。

消化器内科を中心に呼吸器内科、消化器外科等の患者を受け入れています。消化器内科年間平均入院患者数 47.2 名、平均在院日数 13.3 日、平均稼働率 85.8%でした。

消化器内科疾患の診断、治療のための内視鏡検査を行っています。内視鏡検査・治療も多く、2023 年度は ERCP（内視鏡的逆行性膵胆管造影）だけでも 508 件、前年度 352 件であり症例件数は増加しています。

■ 看護活動

看護体制は固定チームナースングとペアナースングを併用しています。正規職員と定時又は時短職員がペアとなり、検査の搬送・入院受け入れ・ケアを行っています。

カンファレンスでは療養支援、身体抑制、褥瘡、栄養、転倒、倫理的配慮などに関することを話しチーム内で共有し、看護やケア方法の検討をして実施しています。

他職種と協働し月に 2 回、膵がん・胆道がんの患者・家族を対象とした「膵がん教室」を開催しています。患者同士の交流の場であり、治療や薬の副作用など早い段階で情報提供し、前向きに治療できるよう関わっています。対象患者は内科外来看護師と情報共有し、退院後も継続看護を行い連携しています。

■ 教育

勉強会担当スタッフが中心になって、一年間の病棟勉強会を計画しています。2023 年度は消化器内科

医師から内視鏡検査について、化学療法認定看護師より化学療法について勉強会をしていただきました。

新人看護教育については、プリセプターが中心となり一年間の教育計画を立て進めていきます。さらに月ごとに目標を立てて評価・修正し、それらを共有しスタッフ全員で育てていけるように関わっています。

■ 研究内容

「院内研究発表」

社会情勢と患者家族のニーズに合わせた膵がん教室

○酒井ゆき 三村奈央 立石久子

「膵疾患フォーラム 広島西」2024 年 2 月 9 日

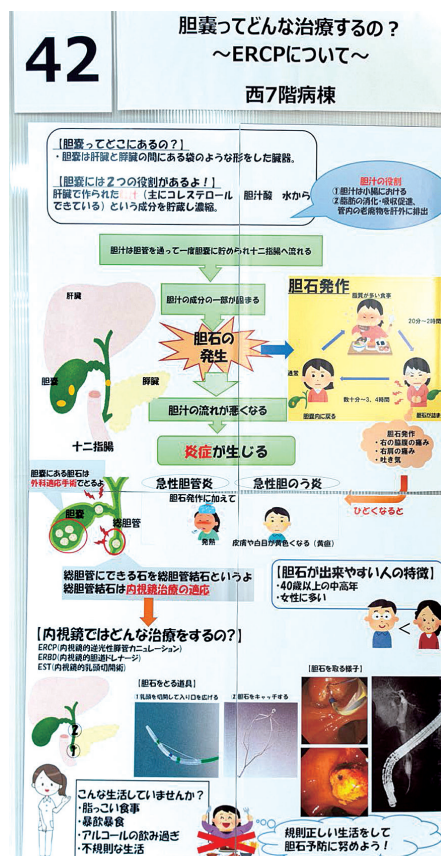
膵がん教室 10 年の歩み：患者アンケート報告

○三村奈央 酒井ゆき 立石久子

■ 院内ポスター展

胆嚢ってどんな治療するの？

～ ERCP について～



西 8 階病棟

■スタッフ

科 長 今 本 紀 生

主 任 土 井 紘 子

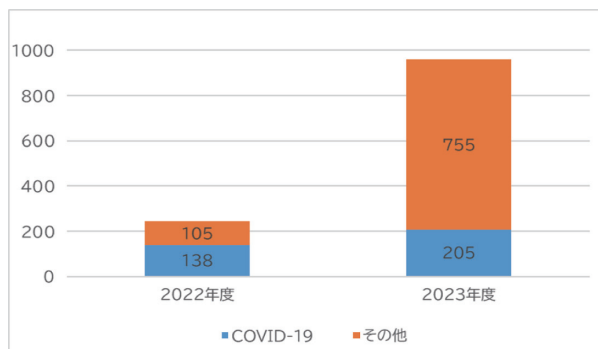
副 主 任 萩 原 久 美 子

他 看護師 24 名、日勤看護補助者 2 名

夜間看護補助者 1 名

■病棟概要

2020 年 8 月より COVID-19 感染患者専門病棟として稼働し、軽症から中等症Ⅱの患者を受け入れていましたが、2023 年 5 月に COVID-19 感染症の位置づけが 5 類へ変更となり、一般病棟として稼働しています。主な診療科は呼吸器内科ですが、COVID-19 感染症患者の受け入れも継続しながら段階的に病床数を増加させ、主科に関わらず短期の検査入院などの受け入れ病床として稼働しています。その結果、入院患者数は 2022 年と比較して約 4 倍に増加しました。



■看護活動

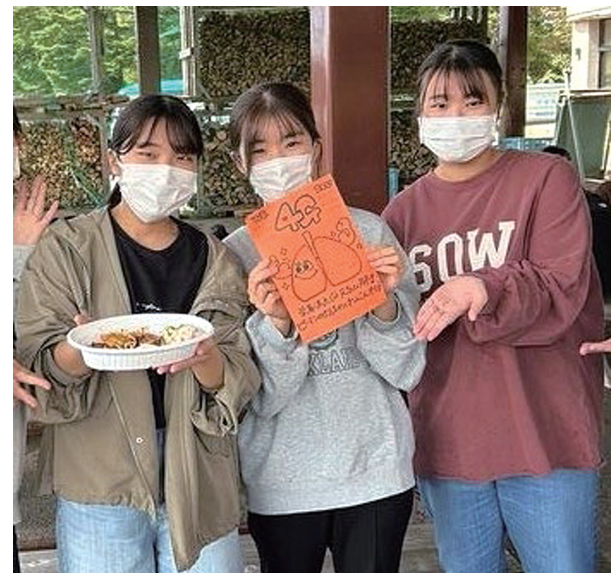
コロナ禍においては新人看護師の配置が見送られていましたが、2023 年度は 3 名の新人看護師の配置がありました。看護方式はパートナーシップ・ナーシング・システムを取り入れ、新人・若手看護師の育成に役立てています。さらに業務開始時に療養支援ミニカンファレンスを開催し、患者の安全対策の共有や患者の看護問題の見直しを行い、日常生活支援の具体的な介入方法の検討や、終末期患者の最期の在り方について検討しています。

また、呼吸器内科多職種カンファレンスが再開と

なり、看護師も積極的に参加し、早期退院に向けた不安要素や介入すべきポイントの確認を行っています。

■教育

がん化学療法の実施経験のないスタッフが多く、安全に施行できるように、がん化学療法看護認定看護師にマニュアルに沿った内容の研修会を実施してもらいました。また、がん・非がん患者の緩和ケアで使用する医療用麻薬について緩和ケア認定看護師に講義をお願いし、看護実践に活かしています。



新人看護師研修 オータムデイキャンプ

東 3 階病棟

■ スタッフ

科 長 岡 本 信 子
主 任 松 浦 美由紀、杉 中 知 子
副 主 任 黒 河 拓 矢
他 看護師 29 名、看護補助者 4 名、病棟クラーク 1 名

■ 概要

東 3 階病棟は循環器内科・心臓血管外科を主とする混合病棟です。循環器内科は心筋梗塞・狭心症のカテーテル検査や治療、不整脈や心不全の患者、心臓血管外科は心臓弁膜症・虚血性心疾患の外科的治療が必要な患者が入院されます。

■ 看護

看護体制は固定チームナースングで、チームリーダーを中心に質の高い看護の提供に努めています。日々、チームカンファレンスで意見を出し合い、患者情報の共有やケア計画の見直しを行っています。

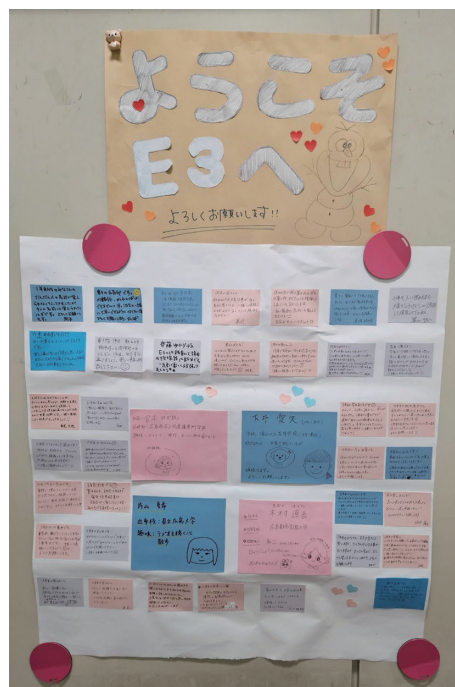
【在宅への退院支援】

高齢患者が住み慣れた地域へ戻るためには入院早期から退院支援が必要です。リンクナースが中心となりスタッフが退院支援カンファレンスに積極的に参加したことで、これまで以上に入院前の生活状況などの情報収集や多職種との情報共有、退院後の生活を見据えたケアを実践することができました。



■ 教育

教育担当主任・副主任を中心に立案した教育計画をもとに、スタッフ全員で新人看護師の育成に取り組んでいます。また、医師や認定看護師、他職種にも講師を依頼し、専門的な知識の習得に努めています。



■ 院内における研究・発表

院内看護研究発表会

「循環器病棟看護師の ACP に関する意識調査」

○主田ゆり 花川杏佳 奥田汐織 藤井杏梨

東 4 階病棟

■スタッフ

科 長 後 藤 友 美
主 任 畝 小百合、竹 村 美 鈴
副 主 任 山 崎 美 佳、平 木 一 枝
他 看護師 30 名 看護補助者 3 名
夜間看護補助者 2 名

■病棟の概要

【診療科】泌尿器科・耳鼻咽喉科・眼科・小児科
小児科外来兼務
【病床数】43 床
【平均在院日数】7.4 日
【病床稼働率】86.0%
【クリニカルパス適応率】47.9%
泌尿器科：70.1% 眼科：98.1% 耳鼻科：27.7%

■看護

2023 年度の目標

- ①病院機能に準じた急性期看護・がん看護・地域看護を提供しよう。
- ②看護専門職として豊かな感性と倫理観を備え、自ら考えて行動しよう。
- ③将来につながる健全な病院経営に参画しよう。

看護方式はパートナーシップ・ナースング・システムを取り入れ、看護師 2 人 1 組でパートナーシップを発揮しながら患者に常に寄り添い安全・安楽な看護を提供しています。

クリニカルパス、勉強会・マニュアル整理、医療安全、業務改善などチーム分けをおこない、病棟全体の業務改善や医療安全に対するスタッフの意識の向上、インシデントの発生数の減少をめざしています。

小児入院加算の算定病棟でもあり、15 歳未満の様々な疾患の患児を受け入れています。当病棟は小児科外来も兼務しており、外来時から関わりを持ち、患児・家族が安心して入院生活を送れるよう継続看護を行っています。

病床稼働率の高い病棟ですが、多職種と連携を図り、クリニカルパスを充実させています。医療内容

を標準化し、スタッフ全員で患者さんの治療計画を共有しています。入院中の生活の流れを理解して患者さんが安心して入院生活を送っていただけるよう、今後も多職種と連携し、クリニカルパスの充実に努めます。



■教育

2023 年度新人看護師 3 名が新たに加わりました。プリセプター制を導入しており、プリセプターと教育担当主任・副主任が主となり、年間教育計画を立案し病棟全体で新人教育を行っています。それぞれが知識・技術を習得しリーダーを取得できるようにがんばりました。

毎月 1 回は病棟全体で倫理カンファレンスを実施し、倫理観の向上に努めています。個々に参加した研修については、研修後自部署内にて伝達講習を行いました。また、泌尿器科、眼科の診療科医師や病棟薬剤師へ勉強会を依頼し、疾病や看護の観察点、薬剤について理解を深めることができました。今後も患者さんにより安全な看護が提供できるように質の向上に努めていきます。

■院内における研究発表

認知症患者の個別性に応じた看護
～ケースカンファレンスを行い統一した看護を目指して～

研究者：○平田七海 中宮靖子

東 5 階病棟

■ スタッフ

科 長 岡 崎 祐 也
主 任 岡 本 真 理、伊 藤 昭 範
副 主 任 大 峯 珠 己、中 野 あゆみ
他 看護師 28 名、日勤看護補助者 3 名、夜間看護補助者 2 名

■ 病棟の概要

【診療科】脳神経外科、口腔外科、皮膚科 他

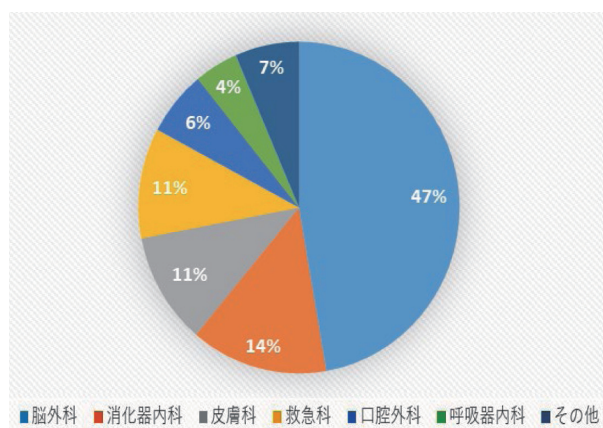
【病床数】52 床（観察室 12 床、重症個室 2 床含む）

2023 年度の入院患者の診療科は脳外科 47%、消化器内科 14%、皮膚科 11%、救急・集中診療科 11%、口腔外科 6%、呼吸器内科 4%、その他 7% でした。

半数を占める脳神経外科の入院患者は脳卒中（脳出血・脳梗塞・脳塞栓症・くも膜下出血）による緊急入院です。入院後早期にリハビリテーションを開始しています。地域の回復期リハビリテーション病院と地域連携パスを活用し、切れ目なくリハビリを継続できる環境を提供しています。

週に一度脳神経外科カンファレンスを開催しています。多職種で情報共有を行い、問題点に対して早期解決ができるよう連携を図っています。

入院患者診療科の概要



■ 看護

2023 年度の病棟目標

1. 予期せぬ急変、合併症がなく退院、転院に繋げる看護が提供できる。
2. 働きやすい環境を整え、健康で働きがいのある

職場をつくる。

2022 年度から開始したセル看護提供方式も定着し、勤務交代時には各チームでカンファレンスを実施しています。また、夜勤開始時には夜勤看護師、夜間看護補助者で情報共有を行い、安全な療養環境を整えることができるよう、サポート体制を取っています。

■ 教育

新人看護師が 3 名配属になりました。プリセプターをはじめ、スタッフ全員で教育できるように毎月指導方法の共有を行いました。3 名の看護師はリーダーを受講することができました。

各看護科委員会担当のスタッフは自部署でのリンクナースとして勉強会や OJT を実施し、スタッフ教育を行いました。

月に一度は病棟全体で倫理カンファレンスを実施し、感性と倫理観の向上に努めています。今後も患者さんにより安全な看護が提供できるように質の向上に努めいきます。

■ 院内における研究・発表

軽症脳卒中患者の発症後の体験

～その後の人生を見据えた ACP 支援への示唆～

古川由美子、岡崎祐也

東 7 階病棟

■スタッフ

科 長 加賀美 昌 美
主 任 岩 崎 文 江、岡 崎 裕 美
副 主 任 大 浦 真 美、中 田 恵 梨
他 看護スタッフ 31 名
看護補助者 日勤 2 名 夜勤 2 名
糖尿病看護認定看護師 1 名、糖尿病療養指導士 4 名

■概要

○主たる診療科

心臓血管外科：閉塞性動脈硬化症、腹部大動脈瘤、
下肢静脈瘤

呼吸器外科：肺癌、気胸、膿胸、縦隔気腫

糖尿病代謝内科：糖尿病教育入院、血糖コントロール、
内分泌検査、糖尿病性ケトアシドーシス

腎臓内科：血液透析、腹膜透析、慢性腎不全、ネ
フローゼ症候群 他

○病床数：52 床（うち重症個室 3 床を含む）

○看護方式：固定チームナーシング

○勤務体制：変則 2 交替制

■看護

当病棟では多職種連携に力を入れており、それぞれの主たる診療科別で多職種合同カンファレンスを行っています。

火曜日：心臓血管外科

水曜日：糖尿病代謝内科

木曜日：腎臓内科

金曜日：呼吸器外科

カンファレンスは医師を中心に、それぞれの職種が情報提供を行いながら、患者さんの治療の方向性を共有しています。また糖尿病センターに病棟看護師が療養指導に行くことで、外来でかかりつけの患者さんが病棟へ入院することになっても情報が途切れないよう、病棟・外来の一元化を図ることで、よりシームレスな関わりができるようにしています。

また下肢血管疾患やステロイド治療などの疾患や治療の影響もあり、急性期病院でありながら在院日数が長期化することもあることから、総合医療相談

室とも協力し在宅への退院支援や、呼吸器外科パスの作成、近隣の医療機関へ転院を行うなど、長期化する在院日数の短縮に日々奮闘しています。

■教育

新人看護師への教育では年間計画を作成し、1 年間を通じて部署全体で関わっています。常に試行錯誤しながらですが、まず新人看護師が看護師をやめたいと思わないように先輩たちがしっかりとフォローを行いました。中でも 3 年目の看護師はプリセプターとして新人のことを特に気にかけて、悩みや学習等の相談の架け橋となっています。

今年度はラダーⅠ～Ⅱまで取得予定の看護師が 10 名おり主任・副主任と共に面接を行い申請を出すことができました。

■その他

23 年度の 3 月より看護体制を固定チームナーシングからセル看護へ変更しました。セル看護になり看護師一人一人の負担の軽減をはじめ、患者さんのそばにいたることができるので、早めの対応が可能となりました。日々、修正見直しを行いながら患者さんにもスタッフにもよい方向に進めばよいと思います。下の写真はセル看護になりフロアリーダー以外はナースステーションに誰もいない状況です。



手術室

■スタッフ

科 長 山 村 健 二
主 任 加 藤 智 恵、丸 川 綾、
中 村 多恵子
副 主 任 越 智 美由紀、松 村 健 司
看護師 37 名（特定行為看護師 2 名）
臨床工学士 2 名
看護補助者 1 名
クラーク 1 名
委託業者（日本ステリ、清掃・滅菌・中材業務）

■病棟の概要

当院手術室は 13 診療科の手術を行っており、2023 年度の年間手術件数は 5,230 件でした。急性期病院の手術室として患者さんが安心して手術を受けられ、安全で円滑に手術が進行するように知識・技術の習得に励んでいます。

近年の医療環境の変化に伴い、手術室看護師に求められるスキルも多様化・高度化しています。2023 年 9 月に術後疼痛管理チーム（APS）が設立され、麻酔に従事する医師、看護師、薬剤師で術後疼痛回診を開始し、継続的な疼痛管理を行っています。チームで介入し鎮痛剤の効果や副作用の確認、より質の高い疼痛コントロールや副作用への対処を行い、患者さんの QOL の向上、離床の促進、術後合併症の減少、入院日数の短縮に努めています。

特定行為看護師 松村利奈に続き、手術室看護師 竹本舞も特定行為研修（術中麻酔領域パッケージ）を終了しました。



左：竹本 舞 右：松村 利奈

■看護

今年度の部署目標

- 1) 病院機能に準じた周術期看護を実践しよう。
 - ・療養支援を活かし、患者さんの生活を見据えた周術期看護を実践しよう。
- 2) 看護専門職として豊かな感性と倫理観を備え、自ら考えて行動しよう。
 - ・カンファレンスの場を持ちどのような看護を行ったのか振り返り共有し、倫理的感性を磨こう。
- 3) 将来につながる健全な病院経営に参画する。
 - ・現有の資源を大切に、1 人 1 人の経済的意識を高めよう。



■教育

2024 年新棟への移動に伴い、教育体制の見直しを行っています。手術室内の教育担当グループを中心に、“安心して手術業務や看護が実践できる環境”という手術室のスローガンを念頭におき、現在の教育体制を見直し、新たな教育体制を構築しています。夜勤 2 交代制であり、手術が行われていない時間は手術関連病棟への療養支援を実施しています。療養支援を通し術中看護だけではなく、術後も患者さんに関わることができる体制が確立したことは、外科系看護師のキャリアデザインの構築にも繋がっています。今後は患者さんの退院後の生活を見据え、術前から周術期という一連の流れで手術室看護師が患者さんやご家族と関わり、患者さんやご家族の退院後の不安を傾聴していきながら看護実践出来る体制構築を目指していきます。

居宅介護支援事業所

■スタッフ

管理者 奥 元 直 美

(介護支援専門員、看護師)

他 介護支援専門員(看護師) 1名

■概要

介護認定を受け、介護保険サービスを利用する方などからの相談に応じ、ご希望やお身体の状態を考慮して適切な介護サービスが受けられるように計画を立てたり、関係機関との連絡調整を行ったりします。当事業所は、急性期病院、訪問看護ステーションの併設であり、がん終末期の方や医療依存度の高い方を中心に、看護の視点を活かし、丁寧な観察と状況予測に努め、医療と介護の両面から、住み慣れた地域で自分らしい生活が送れるように、どのようなサービスを使ってどうしたら良いかを一緒に考えていきます。

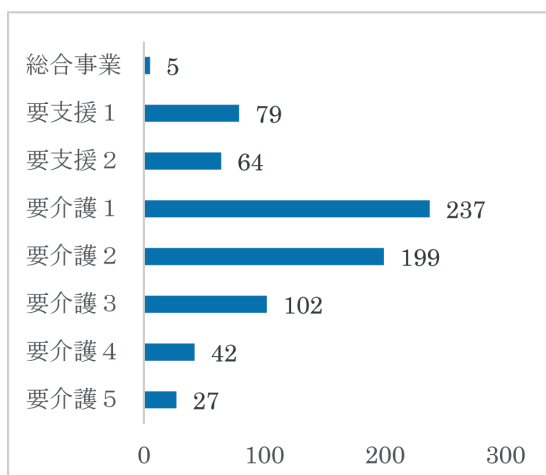
■実績

・年間実利用者数 63名

・新規利用者数 45名 終了者数 31名

・ターミナルケア加算 5名

※要介護度別利用者数(のべ人数)



・主な支援内容数(実績)

	年間総数	月平均
利用者宅訪問	846件	70.5件
サービス担当者会議	133件	11件
モニタリング	663件	55件
包括との連絡	81件	6.8件
他機関との連携	308件	25.6件
医師との連携	93件	7.8件
医療機関との連携	121件	10件

■教育

廿日市市地域包括支援センター、広島県介護支援専門員協会、廿日市市介護支援専門員連絡協議会、廿日市市五師士会、院内外の研修に主にオンラインで参加し自己研鑽に努めています。地域ケア会議や自立支援個別ケア会議にも参加しています。

■その他

・R5/12/21 介護保険事業所運営指導終了

・R6/2/6 ケアプラン点検終了

・R5年度 主任ケアマネ研修終了

(研修期間：R5/8/30～R6/2/14)

薬剤部

■スタッフ

部長 中島 恵子

科長 磯貝 明彦

科長補佐 松本 里恵、平井 俊明

主任 森生 美和、角井 碧、

正 畠 和 美、白井 敦史、

向井 一樹

薬剤師 計 37 名（産休 3 名含む）事務 6 名

■認定資格取得

病院薬学認定薬剤師 13 名、がん薬物療法専門薬剤師 2 名、がん薬物療法認定薬剤師 2 名、感染制御認定薬剤師 1 名、研修センター認定実務実習指導薬剤師 4 名、研修センター認定実務実習指導薬剤師 4 名、漢方薬・生薬認定薬剤師 1 名、医療薬学専門薬剤師 1 名、外来がん治療認定薬剤師 3 名、緩和医療暫定指導薬剤師 3 名、緩和薬物療法認定薬剤師 3 名、感染制御認定薬剤師 1 名、麻薬教育認定薬剤師 1 名、抗菌化学療法認定薬剤師 3 名、周術期管理チーム薬剤師 3 名、小児喘息アレルギーエデュケーター 1 名、心臓リハビリテーション指導士 1 名、高血圧・循環器病予防療養指導士 1 名、日本糖尿病療養指導士 6 名、NST 専門療法士 3 名、骨粗鬆症マネージャー 1 名、腎臓病療養指導士 1 名、心不全療養指導士 1 名、公認スポーツファーマシスト 2 名、NR・サプリメントアドバイザー 1 名、高度医療安全推進者 1 名、老年薬学認定薬剤師 1 名、心不全療養指導士、世話人等

全国厚生連病院薬剤長会議理事 1 名、県病院薬剤師会理事 1 名、県病院薬剤師会委員会（医薬品情報委員 1 名、地域医療連携支援検討委員 1 名、専門薬剤師委員〈感染〉1 名、〈がん緩和〉1 名、〈糖尿病〉1 名、薬剤業務委員 1 名）、日本緩和医療薬学会社員（評議員）2 名、循環器薬物治療研究会コアメンバー 1 名

■認定施設基準

日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修施設

日本緩和医療薬会緩和医療専門薬剤師研修施設

■部門紹介

西 4、西 5、西 6、西 7、西 8、東 3、東 4、東 5、東 7、
HCU、ICU 病棟に病棟薬剤師を配置

がん化学療法専任 3 名 ICT 専任 1 名

NST 専任 1 名 緩和ケア専任 1 名

チーム医療への参画（ICT、NST、医療安全管理、RST、緩和ケア、認知症ケアサポート、心臓リハビリテーション）、糖尿病教室、心臓病教室、膵臓教室、各診療科カンファレンスへの参画

■業務実績

調剤業務：外来 460 枚／日（院外処方箋発行率 0%）

入院 244 枚／日

注射調剤 833 件／日

TDM（VCM・TEIC・ABK）17 症例／月

TPN 調製 74 件／月 院内製剤 45 品目

抗がん剤無菌調製：外来 22 件／日 入院 4 件／日

がん指導管理料 3 算定（薬剤部のみ）284 件／年

薬剤管理指導算定件数 497 件／月 治験 12 件／年

持参薬鑑別 217 件／月 実務実習 8 名／年

薬品管理、医薬品情報（DI）、後発医薬品選定、抗がん剤レジメン構築・管理

■研究その他

全病棟に専任薬剤師を配置。医師・看護師等、他職



種と協働し、地域連携にも目を向けた情報提供を心がけ、患者の入院時から退院後までのシームレスで適切な薬学的管理に努めています。

外来患者に対しても、全処方監査し、疑義照会や情報提供および患者への服薬指導を通じ、薬剤師の専門職能を活かして、多岐にわたる医薬品適正使用のゲートキーパーとして日々の業務を遂行しています。

また、医薬品の出荷調整、欠品についてタイムリーな情報収集による在庫管理を行い、適正かつ安全な薬物治療の実現に大きく貢献しています。

臨床研究検査科

■スタッフ

主任部長 一 町 澄 宜 (兼務)
 部長 碓 井 裕 史 (兼務)
 精度管理部長 藤 井 隆 (専任)
 科 長 福 岡 達 仁
 科長補佐 三 舩 正 志、小 松 浩 基
 主 任 山 本 加代子、長 尾 専、
 藤 岡 朋 子、池 部 晃 司、
 荒 瀬 美 幸
 副 主 任 嶋 田 恵 美、霜 津 宏 典
 北 村 紀 恵、池 田 光 泰
 臨床検査技師 (役職者、産休・育休者含) 44 名
 助手 2 名

■認定資格取得

歯学博士 1 名 認定管理検査技師 1 名
 認定輸血検査技師 2 名 認定臨床化学者 1 名
 認定血液検査技師 2 名 認定一般検査技師 1 名
 認定臨床微生物検査技師 1 名
 認定心電図検査技師 6 名 認定心電図専門士 2 名
 認定化学・免疫化学精度保証管理検査技師 1 名
 認定認知症領域検査技師 1 名 血管診療技師 4 名
 術中モニタリング認定技師 2 名
 超音波検査士 9 名
 (循環器 4・消化器 2・泌尿器 2・健診 1)
 感染制御認定微生物検査技師 1 名
 日本糖尿病療養指導士 2 名
 遺伝子分析科学認定士 1 名
 二級臨床検査士 17 名
 (血液 6・一般 2 微生物 2・免疫血清 2・臨床化学 1・
 循環生理 7・脳神経 1・呼吸生理 2・緊急 8 名)
 POCT 測定認定士 2 名 聴力測定技術者 1 名
 認定 POC コーディネータ 1 名
 医療情報技師 3 名 第 1 種衛生管理者 1 名
 衛生工学衛生管理者 1 名 医療環境管理士 1 名
 毒物劇物取扱責任者 5 名 危険物取扱者 4 名
 特別管理産業廃棄物管理責任者 1 名
 上級バイオ技術者 2 名 DMAT 隊員 1 名

■施設基準

日本臨床衛生検査技師会 精度保証施設認証

■論文・学会発表等

論文：1 題 学会発表：6 題、学会座長：2 題、研究会公演発表：10 題、研究会座長：2 題

■主な検査項目と年度実績

『検体検査：検体数』

血算：109,741 凝固：21,815 尿一般：54,821

生化学・免疫：137,964 輸血：2,850

『微生物検査：検体数』

細菌培養：5,863 血液培養：4,648

抗酸菌培養：519 新型コロナ関連：8,468

『生理検査：件数』

心電図：26,335 CAVI：3,142 超音波検査：14,776

肺機能：1,489 オペ室モニタリング (心外、整形、脳外等)：263

■部門内定期研修会 (計 11 回)

* 血液ガス分析について

* コミュニケーションについて

* メンタルヘルス研修

* 血液培養の採取方法について

* 救急患者データ～高血糖編～

* 心電図：基礎編

* 救急患者のデータの読み方～感染症編～

* 髄液検査の意義とその手技について

* 救急患者のデータの読み方～生理検査編～

* 大規模災害机上訓練の報告

* 精度管理：医師会・技師会フォトサーベイの解説

■外部精度管理調査報告

* 日本臨床衛生検査技師会：99.6% (259/260)

* 日本医師会：99.7 点 (653/655)

* 広島県医師会：100% (115/115)

* 日本超音波検査学会 (心臓領域 / 血管領域)：評価 A

■トピックス

免疫学的検査項目・血中薬物濃度等の測定機器 BM6010（日本電子）の老朽化（2008年～15年間稼働）により、TBA-1500FR（キャノンメディカルシステムズ）が後継機種として2023年4月1日より稼働開始されました。従来機種と比較し、処理速度は800test／時から1300test／hourへと強化され、結果報告までの迅速化に寄与するとともに、メンテナンスの簡素化によりスタッフの負担も軽減しました。また、2024年の新棟移転時に導入予定である生化学項目測定機器 TBA-FX8（キャノンメディカルシステムズ）と共通する消耗品が多く、コスト削減が見込める予定です。



放射線科

■ スタッフ

主任部長 西 原 礼 介 (兼務)
 科 長 山 口 裕 之
 科長補佐 本 山 貴 志
 主 任 高 畑 明
 主 任 砂 田 研 二
 主 任 下土居 一
 主 任 柳 井 環
 副 主 任 中 河 聖 司
 副 主 任 池 田 将 敏
 診療放射線技師 (役職者含む) 24 名

■ 取得資格

第 1 種放射線取扱主任者	5 名
エックス線作業主任者	5 名
ガンマ線透過写真撮影作業主任者	3 名
第一種作業環境測定士 (放射線)	1 名
検診マンモグラフィ撮影認定技師	2 名
核医学専門技師	1 名
磁気共鳴 (MR) 専門技術者	2 名
救急撮影認定技師	1 名
X 線 CT 認定技師	5 名
医療情報技師	2 名
肺がん CT 検診認定技師	3 名
医用画像情報管理士	1 名
臨床実習指導教員	2 名
Ai 認定診療放射線技師	3 名
放射線管理士	1 名
放射線機器管理士	1 名
ICLS プロバイダー	1 名
ISLS プロバイダー	1 名
画像等手術支援認定診療放射線技師	2 名

■ 所属学会

日本診療放射線技師会 日本放射線技術学会
 日本乳癌検診学会 オートプシーイメージング学会
 日本核医学技術学会 日本 CT 技術学会
 日本超音波検査学会 日本磁気共鳴医学会
 日本医療情報学会 日本乳腺甲状腺超音波学会

■ 世話人等

公益社団法人 日本診療放射線技師会代議員
 公益社団法人 広島県診療放射線技師会副会長
 公益社団法人 広島県放射線技師会西部地区理事
 日本核医学技術学会中国・四国地方会会長
 広島臨床画像研修会幹事 (事務局)

■ 認定施設基準

日本乳がん検診精度管理中央機構認定マンモグラフィ検診施設画像認定施設

■ 部内研修会 (1 回/月)

2023 年度は新型コロナウイルス感染症のため中止

■ 業務内容 (トピックス)

既に院内で使用されている富士フィルムメディカル社製 3D 画像解析システム SYNAPS VINCENT が 2023 年 10 月にリプレイスされました。オプションソフトとして、①脳解析、②遅延造影解析 (CT)、③心筋 Tx Map、④脾臓解析、⑤直腸解析 (図 1)、⑥ IVR シミュレータ、⑦ 4D フローが新たに追加されました。

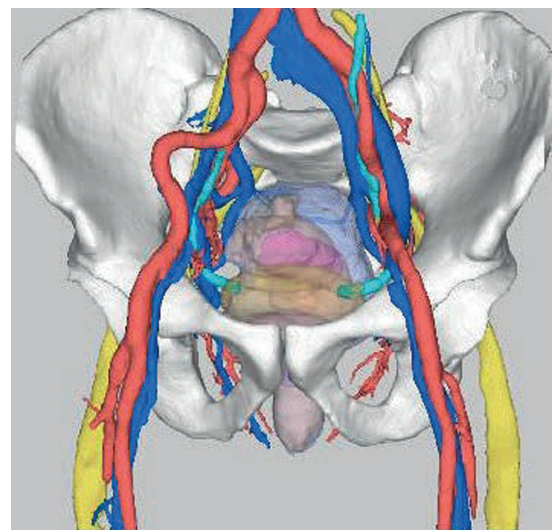


図 1 骨盤領域の MRI 画像 (T2WI 3D シーケンス) から直腸や直腸周囲の血管、神経などを抽出し画像構築することにより術前シミュレーションが可能となった。

臨床工学科

■スタッフ

主任部長 莊 川 知 己

科 長 瀬 尾 憲 由

主 任 荒 田 晋 二 平 野 恵 子

臨床工学技士（CE）15名（科長・主任含む）

【認定資格取得】

- ・体外循環認定士：5名
- ・3学会合同呼吸療法認定士：8名
- ・透析技術認定士：3名
- ・不整脈治療専門臨床工学技士：1名
- ・呼吸治療専門臨床工学技士：1名
- ・集中治療専門臨床工学技士：1名
- ・集中治療認定臨床工学技士：1名
- ・消化器内視鏡技師：5名
- ・臨床高気圧酸素治療装置操作技師：1名

【所属学会】

日本臨床工学技士会・日本体外循環技術医学会・日本集中治療医学会・日本呼吸療法医学会・日本人工臓器学会・日本高気圧環境・潜水医学会・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会・日本透析医学会・日本消化器内視鏡技師会・広島県臨床工学技士会

■部門紹介

臨床工学技士は、医師や看護師とチームを組んで「生命維持管理装置の操作や各種医療機器の保守点検・修理」を行います。臨床工学科は現在15名で様々な業務を行っており、手術室・人工透析室・集中治療室・血管造影検査室・内視鏡センター・一般病棟など院内の様々な分野に従事させていただいています。

■業務内容

『手術室業務』

- ・人工心肺症例数：64例
- ・整形外科立ち会い症例

頸椎・脊椎固定：80例 上肢・下肢：162例

下肢関節置換：106例

『EVT立ち会い業務』

- ・EVT症例数：391例

『救急・集中治療業務』

- ・急性血液浄化症例数

CHDF：89例 アフェレーシス：16例

- ・補助循環業務

VA・VV—ECMO：12例 IABP：25例

『循環器業務』

- ・心臓カテーテル検査・治療

CAG：162例 PCI：223例

- ・不整脈検査・治療

PMI：54例 PMR：19例 ICD：2例

ABL：108例

『血液浄化業務』

- ・慢性血液透析症例数：3,914例

『高気圧酸素治療業務』

- ・症例数：462例

主な疾患：突発性難聴・末梢循環障害など

『内視鏡業務』

- ・ESD・ERCP・EMR各症例数

ESD：174例 ERCP：518例 EMR：543例

『慢性期・在宅医療支援業務』

- ・HOT導入症例数：28例

■トピックス

『新規 ECMO 装置導入』

ECMO装置を新しく更新しました。以前の装置で装着をした状態で他院へ搬送した際、搬送を考慮した装置ではなかったことで難渋した経験から、次期装置は搬送にも適した装置と考えていました。結果、ゲティンゲのカルディオヘルプが該当したため、導入しました。導入後に他院への搬送がありましたが、以前の装置よりも容易に扱うことができました。また該当機器はヘリコプターでの搬送にも対応しているので、他県へ搬送が必要な場合にも使用可能です。



リハビリテーション科

■スタッフ

センター長 小林 平 (兼務)
 部長 黒木 一彦 (兼務)
 部長 橋本 貴士 (兼務)
 部長 新田 和宏 (兼務)
 科長 村上 嘉章
 科長補佐 本間 智明
 主任 小林 恭子、折手 祐一、
 飛鷹 恵理、上田 雅美、
 井場 和敏、益田 真吾
 理学療法士 13名 (役職者含む)
 作業療法士 5名 (役職者含む)
 言語聴覚士 4名 (役職者含む)

■認定資格取得

がんリハビリテーション研修修了者	20名
リンパ浮腫複合的治療技術者	2名
3学会合同呼吸療法認定士	10名
心臓リハビリテーション指導士	2名
日本糖尿病療養指導士	2名
腎臓リハビリテーション指導士	1名
認知症ケア専門士	2名
児童発達支援士	2名
発達障害コミュニケーションサポーター	1名
認定理学療法士 (代謝・循環器領域)	3名
認定言語聴覚士 (摂食・嚥下領域)	2名
日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士	1名

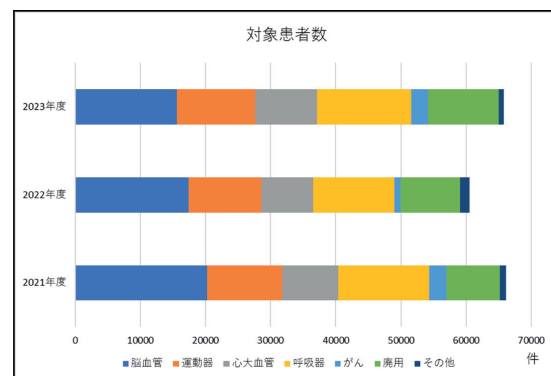
■部門紹介

当科では入院患者さんを中心に、院内全科からのリハビリテーションの依頼を受けております。入院直後や手術後早期の超急性期から終末期まで、多種多様な疾患をもたれた患者さんに入院後早期から退院されるまで継続して介入しています。障害や疾患を持つ方々の残存機能を最大限に高めながら、その人らしい生活を実現するために、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士がそれぞれの専門性を活かしながら、協同してリハビリテーションを実施しています。

■認定施設基準

運動器リハビリテーション料 (I)
 呼吸器リハビリテーション料 (I)
 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
 心大血管リハビリテーション料 (I)
 がん患者リハビリテーション料 (I)

【業務実績】



■所有管理機器

自転車エルゴメーター・トレッドミル・渦流浴・ホットパック・起立台・低周波・スパイロメーター・心臓リハビリテーション専用モニター

■トピックス

今年度から骨折の再発予防を目的とした骨粗鬆症のチーム医療が開始となり、そのチームに理学療法士も参加しております。月1回のカンファレンスを行い、骨折にて入院された患者さんに対して再発防止のために多職種協同して介入しております。当科では理学療法士の立場から、患者さんが再度骨折されないよう、運動指導など行い、再発予防に努めていきたいと思っております。



栄養科

■スタッフ

主任部長 下 田 大 紀 (兼務)

科 長 河 本 良 美

主 任 上 村 真由美

副 主 任 長曾我部 弘 子

他 9 名

委託 (調理部門) (株) 日米クック

[人員配置]

外来指導担当 常時 3 名

病棟担当 各 1 名

NST 専従 1 名 (上村 真由美)

[取得資格]

病態栄養専門管理栄養士 3 名

日本糖尿病療養指導士 4 名

NST 専門療法士 3 名

がん病態栄養専門管理栄養士 1 名

周術期・救急集中治療専門療法士

(臨床栄養代謝専門療法士) 1 名

[所属学会]

日本病態栄養学会 7 名

日本臨床栄養代謝学会 4 名

日本糖尿病学会 1 名

■業務内容

[栄養指導]

栄養食事指導では、患者さんの食生活・食習慣などを考慮した個別指導や、集団指導を実施しています。

〈2023 年度 実績〉

・個別指導

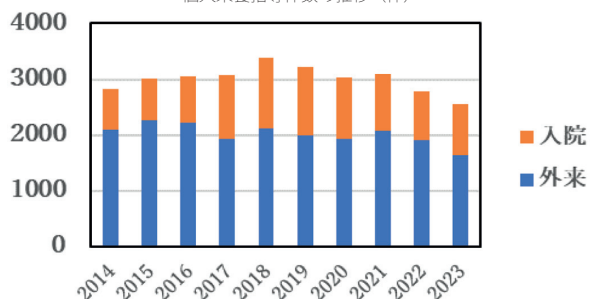
外来	1,642 件	入院	913 件
糖尿病	876 件	心血管疾患	498 件
心血管疾患	262 件	糖尿病	89 件
その他	504 件	その他	326 件

・集団指導 35 件

糖尿病教室 1 回/週 (毎週 火曜日)

腎臓病調理実習 (感染対策のため中止)

個人栄養指導件数の推移 (件)



[給食]

調理部門の協力のもと、安全で美味しい食事の提供を心がけています。

〈2023 年度 実績 (月平均)〉

一般食 10,434 食/月 特別食 16,726 食/月

■施設基準

入院時食事療養 (I)

■その他活動内容

患者サービス：行事食、全国統一献立

参加チーム活動：NST、褥瘡、緩和ケア、

認知症ケア、RST

(2023 年度は感染対策のため以下中止)

集団栄養教育：妊産婦教室、心臓病教室

■トピックス

2023 年 11 月 23 日に行われた第 11 回オープンホスピタルの特別企画として、JA 産直ふれあい市場よりりん菜の「ばあ〜ばのキッチン」と「栄養科」がコラボしたヘルシー弁当を販売しました。現在も病院内食として提供している人気メニューの中から、『鶏のマスタード焼き』と『ササミのパン粉焼き』の 2 種類の弁当を作っていただきました。昼過ぎには完売となり、地域のみなさまにも、1 食あたり塩分 2g

と薄味でも美味しく食べられる食事を味わっていただけたのではないかと思います。

JA 広島総合病院
第 11 回 オープンホスピタル 特別企画

ヘルシー弁当 販売します!

ばあ〜ばのキッチン JA 広島総合病院 栄養科

限定 20 食
JA 広島総合病院 人気病院メニュー
鶏のマスタード焼き弁当

JA 産直ふれあい市場「よりん菜」にて
11月23日(木) 限定
400円

限定 10 食
どちらも
1食 塩分2g
体にやさしくうす味でも
しっかり美味しいお弁当を
試してみませんか?

JA 広島総合病院 人気病院メニュー
ササミのパン粉焼き弁当

診療情報管理科

■ スタッフ

科 長 田 中 俊 樹

他 8 名

【資格取得】（科長を含む）

診療情報管理士	6 名
院内がん登録実務中級認定者	1 名
院内がん登録実務初級認定者	1 名
医療情報技師	1 名
施設基準管理士	1 名

【所属学会】

日本診療情報管理士会
日本医療情報学会

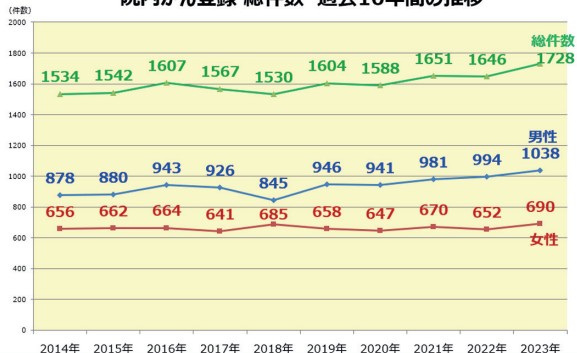
■ 活動報告

〈がん登録業務〉

地域がん診療連携拠点病院として、院内がん登録は国へ、全国がん登録は県へデータ提出を行っています。

2023 年は、初めて登録件数が 1,700 件台となりました。また、院内がん登録実務初級認定者に 1 名合格いたしました。これからも院内がん登録業務のさらなる精度向上を目指し、引き続き研鑽に励みます。

院内がん登録 総件数 過去10年間の推移



2023 年院内がん登録 局在別内訳：1,728 件

大腸	315	脳（頭蓋内）・中枢神経	24	子宮	58
胃	205	脊髄	5	卵巣	5
肝	38	皮膚	81	前立腺	183
肺	170	口唇・口腔／唾液腺	27	膀胱	97
乳腺	181	咽頭・喉頭	34	腎	29
食道	52	鼻腔・副鼻腔	3	腎盂・尿管	26
胆道	23	甲状腺	12	原発不明	6
脾臓	77			その他	77

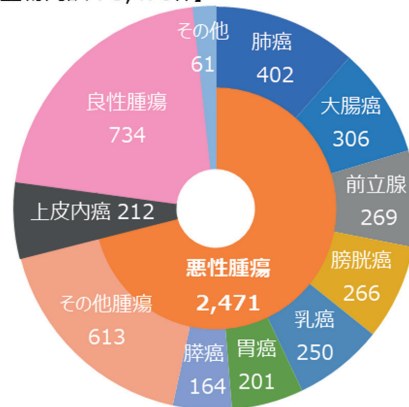
〈サマリ業務〉

医師の退院時サマリを基にして国際疾病分類によるコーディングを行っています。

2023 年度（総件数：14,035 件（転科を含む））

順位	病名（大分類）	件数
1	新生物（C00-D48）	3,478
2	循環器系の疾患（I00-I99）	2,075
3	消化器系の疾患（K00-K93）	1,898
4	呼吸器系の疾患（J00-J99）	1,155
5	損傷、中毒およびその他の外因の影響（S00-T98）	1,153
6	腎尿路生殖器系の疾患（N00-N99）	881
7	筋骨格系および結合組織の疾患（M00-M99）	834
8	感染症及び寄生虫症（A00-B99）	463
9	妊娠、分娩および産じょく〈褥〉（O00-O99）	388
10	その他の疾患	1,710

【新生物内訳：3,478件】



〈Medoc スキャン業務〉

当科へ搬入された同意書等は内容点検後、即日（不備分を除く）スキャンし、不備分は都度対応を行っています。スキャン後の同意書等は 6 ヶ月間保管し、その後破棄処分しています。（タイムスタンプが付与され、電子データの原本性が担保されるため）

また、同意書等の記載不備が減少するよう、可視化し、各部署へ詳細な不備内容を還元しています。

〈量的点検〉

2 ヶ月に一度量的点検を行っています。点検結果は、医師へ還元すると共に委員会や医局会でも点検結果を報告し、診療録の改善に努めています。

医療安全管理室

■スタッフ

室 長 黒 木 一 彦 (兼務)
次 長 山 田 清 貴 (兼務)
科 長 村 中 好 美
専従リスクマネージャー
主 任 坂 井 真理子 (2023 年 5 月より)
竹 野 香 織

【認定資格取得】

認定看護管理者
救急看護認定看護師

■部門紹介

医療安全管理室は「患者さんと医療提供者双方の安心・安全の確保」を目標に、医療事故防止対策委員会や院内 RM 管理部を中心に、安全な医療が提供できるよう各部門と連携を取りながら活動しています。

■活動内容

[院内 RM 管理部会]

毎週月曜日カンファレンスを開催しており、報告された事案について多職種で意見交換を行っています。視点が異なることで新たな課題が見えてくることもあり、リスク低減に向けた検討を進めています。また、一部署からの報告であっても対策は病院全体におよぶなど、組織対応につなげる事もあります。

・メンバー紹介

黒木 一彦 (副院長・医療安全管理室室長)
山田 清貴 (診療部長・医療安全管理室次長)
村中 好美 (看護部副部長・医療安全管理室科長)
荘川 知己 (主任部長)
松下 理恵、宮本 英美 (看護科長)
角井 碧 (薬剤師：薬剤部主任)
荒田 晋二 (臨床工学技師：臨床工学科主任)
藤岡 朋子 (臨床検査技師：臨床研究検査科主任)
池田 将敏 (診療放射線技師：放射線科副主任)
本間 智明 (理学療法士：リハビリテーション科科长補佐)
坂井 真理子 (看護科主任)
川本 沙来 (総務課)

[医療事故防止対策委員会]

委員は院内 RM 管理部会メンバーと各部門長等により構成されており、毎月第 3 木曜日が定例会議と

なっており、医療安全管理室からの提案事項の検討、本委員会関連事項の検討、医療安全研修会の企画実施、委員会の伝達を担っています。今年度は『正しい確認行動を実践し、安全な医療の提供に努める』ために、①院内ルールを守り、正しい確認行為を行う②名前は個人情報、適切に管理し個人情報を守ろう」を行動目標に取り組みました。

また、本委員会のメンバーによる院内 ROUND チームを編成し医療安全活動の推進および現場の安全活動の確認を行っています。

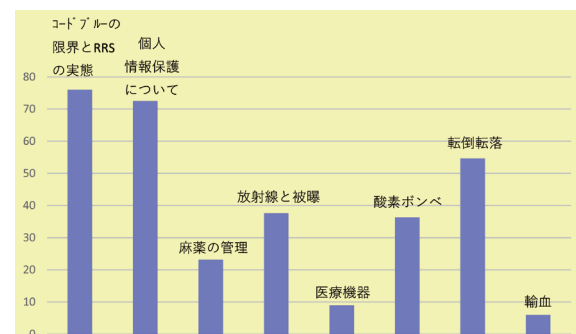
■認定施設基準

- ・医療安全対策加算 1
- ・医療安全対策地域連携加算 1

「医療安全対策地域連携加算」では、医療安全対策加算 1 を届出ている医療機関が相互評価を行っており、今年度の個別テーマは「転倒・転落」としました。訪問先で使用されている緩衝マットの使用状況を確認させていただき当院も導入する事となりました。また、加算 2 の施設については 2023 年度より 2 施設を訪問させていただいております。個々の施設の医療安全への取り組みを確認させていただき、自施設の状況を振り返る機会となっています。

■医療安全研修

医療安全確保のための職員研修については、感染対策を契機に集合研修から動画視聴による研修、その後の理解度テストへと変更しています。2023 年度全体の受講率は 95.2% ですが、テーマ毎の受講率は以下となります。引き続き医療安全活動において重要となるテーマでの研修企画を行っていきたいと考えています。



総合医療相談室

■ スタッフ

センター長 中 光 篤 志 (兼務)
 室 長 川 村 洋 子 (兼務)
 主 任 桐 山 葉 子 (社会福祉士)
 副 主 任 小 野 直 子 (看護師)
 他 社会福祉士 4 名 看護師 7 名

【認定資格取得】

- ・認定医療メディエーター B
- ・認定がん専門相談員

【所属学会】

- ・日本医療ソーシャルワーカー協会
- ・日本社会福祉士会
- ・日本医療ソーシャルワーク学会
- ・日本メディエーター協会

■ 部門紹介

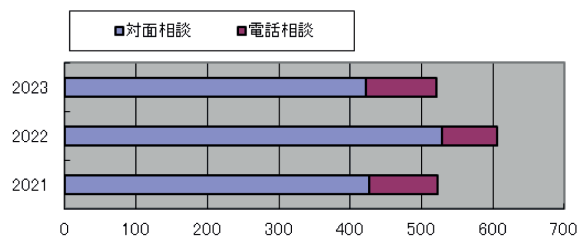
総合医療相談室では、患者・家族の身体的な心配事だけではなく、生活上の心配事に対しても社会福祉士・看護師相談を受けています。また、急性期の治療を終えられた患者さんは、転院や退院により療養生活の場が変化します。その際、個々の患者さんの病状や状態に応じて安心して生活できるように、入院早期から医療・福祉の両面から相談支援を行っています。また、地域の介護支援専門員（ケアマネジャー）と連携を図り、介護・福祉サービスの調整等を行っています。

相談件数（総合医療相談室）R5 年度

心理・社会的	2,349 件	受診・受療援助	444 件
退院援助	15,401 件	経済的援助	484 件
社会復帰支援	34 件	その他	109 件

当院は地域がん診療連携拠点病院として、がん相談支援センターを設置しています。がんの治療や緩和ケア、療養上のこと、生活についてなど、治療しながら生活をしていく上での不安や悩みなど多くの相談を受けています。今年度は、がんと診断された患者さんが今後の困ったときの相談の拠り所として、当センターを知ってもらうことを目的に、外来各科と連携強化を行い多くの方に立ち寄ってもらう取り組みを行いました。本年度のがん相談内容の上位は、①医療費・生活費・社会保障制度 ②不安・精神的苦痛 ③ホスピス・緩和ケア ④在宅医療 ⑤症状・副作用・後遺症でした。

相談件数（地域がん診療拠点病院報告分）R5 年度



相談者の受診状況 R5 年度

	2023 年度	2022 年度	2021 年度
自施設通院中	395 件	405 件	354 件
自施設入院中	115 件	179 件	150 件
他施設通院中	12 件	11 件	13 件
他施設入院中	7 件	5 件	7 件
その他	1 件	2 件	1 件

■ 医療と介護連携交流会

「顔の見える関係性による連携の構築に向けて」をテーマに、地域の介護支援専門員をお招きし、コロナ終息後久しぶりに開催することができました。

交流会では、医療と介護の連携をスムーズにするための方策、連携強化のためにそれぞれの立場でできることをグループで検討し、今後の連携に活かせる内容となりました。



開催日時：R5 年 12 月 13 日（水）13：30～15：00

会 場：当院管理棟 3 階大会議室

参加者：市内居宅介護支援事業所、地域包括支援センターの介護支援専門員 34 名

当院総合医療相談室 12 名

地域医療連携室

■スタッフ

センター長 中 光 篤 志 (兼務)
室 長 川 村 洋 子 (兼務)
事務職 3 名

■部門紹介

当院基本方針の「地域の医療機関と密接に連携した医療を提供する」ために、主に広島西医療圏及び広島市西部地域の医療機関と連携強化を図っています。また、地域医療支援病院として、紹介患者さんに対する医療提供や医療機器等の共同利用を通じた「かかりつけ医の支援」や「地域医療従事者への研修機会の提供」などの役割も担っています。

地域医療連携室では、地域のかかりつけ医、医療機関の窓口として医療連携に関わる業務を行っており、主に前方連携業務を担当しています。業務の内容としては、地域と連携する病院の窓口として、他医療機関等からの患者紹介を受けた際に患者さんをスムーズにお受け入れするための業務を行っています。ご紹介いただいた患者さんの情報収集や院内の調整等を行い、紹介元の医療機関と連携を図っています。紹介患者さんのデータは地域連携システムにより管理し、紹介元への情報提供やより良い予約紹介システムを構築するために活用しております。また、地域住民の方々や行政、介護保険施設等とも連携させていただいています。

【医療連携】

コロナウイルス感染症が「5 類感染症」に移行されたことにより、顔の見える連携を復活させ、近隣の医療機関への訪問を再開、医師懇話会については 4 年ぶりに開催させていただきました。

また、以前より当部署が地域住民の方に病院の機能や役割を知っていただくことを目的に発行していた広報誌を、8 年ぶりに発行いたしました。



紹介率・逆紹介率の推移

	紹介率	逆紹介率
2021 年度	94.9%	111.6%
2022 年度	94.8%	110.3%
2023 年度	92.1%	111.4%

■研修会等

【医療従事者】

地域医療従事者研修会は、感染対策として WEB による動画配信形式の研修も取り入れながら開催いたしました。以下に示した内容は対面開催にて特に参加者の多かったテーマです。

isCGM (間歇スキャン式持続血糖測定器) を活用した高齢の膵臓がん患者さんとの関わり	糖尿病看護認定看護師 中元美恵
在宅で心不全を観るための重要なポイント／在宅でできる運動とチェック	循環器内科医師 荘川知己 理学療法士 本間智明
ストーマケアトラブル時の対応について	皮膚・排泄ケア認定看護師 藤村雅子

【市民公開講座】

今年は「はじめませんか人生会議」と題して、従来どおりコロナによる制限無しで現地に開催することができ、当日は 339 名もの多くの方にご参加いただきました。

施設資材課

■ スタッフ

課長 上村 浩司	
他施設資材担当	4名（内派遣1名）
営繕担当	2名
エネルギーセンター	9名（内7名派遣）
洗濯場	3名委託
リネン庫	3名
中央材料室	4名委託
泌尿器科（洗浄）	1名

■ 業務内容

施設資材課は、病院の運営に必要な機器や物品等の購入、保守管理、廃棄を行う窓口を主な業務としています。

必要な機器の購入は、毎年、病院の投資計画に基づき、各診療科等の長から整備申請を受け、院長等とヒアリングを行いながら、年間の整備品目を定めます。整備予定となった医療機器等は順次整備（購入）手続きをしております。

医療機器の他に、病院運営に必要な消耗品も各部署からの要望をとりまとめ、調達しております。アイテム数は概ね900品目にのぼります。

中央材料室には、SPD（材料物流管理）システムが導入されており、約1,500品目の医療材料の出入庫を管理しています。

中央材料室



物品の保守管理部門として2名の営繕担当者があり、病院内のあらゆる施設の立付けから小物、備品を修理しております。プロ顔負けの技量でなんでも直してしまう頼もしい担当者です。

洗濯場、リネン庫の運営も当課が担当しております。洗濯場では週に約4,000枚の手術着やタオル等を大型洗濯機で洗濯します。

リネン庫では病棟で使われる布団やシーツを管理しており、毎日150組のシーツ、パット、枕を各病棟へ配っています。また、新採用看護職員の白衣の準備やマシンによる修繕を行っております。

泌尿器科では内視鏡検査後のファイバー洗浄を行っております。

エネルギーセンターは、病院の心臓部で、電気系統の制御、ボイラー、中央管理の冷温水発生機（冷房、暖房）を24時間体制で見守っています。

地震等発生時は、真っ先に駆けつけ、病院全体の保全に万全を帰しています。

■ トピックス

2023年度は、3次元画像解析ワークステーション、自動注射薬払出システム、生体情報モニター他64品目で、合計3億5千万円の整備を行いました。

また現在、既存病院の西側に新病棟の増築工事が行われています。建物増築に伴う医療機器整備も別途進め、最新のCTやMRI、リニアックなどの大型機器整備、また新しい手術室へ手術支援ロボット（da Vinci）を導入する予定です。

2024年2月時点 完成間近の新病棟



総務課

■スタッフ

課長 丹下 博紀

他総務担当 5名

医局秘書兼務 1名

病院安全管理室担当 1名

業務委託

電話交換室 6名

警備 8名

院内保育室 7名

■業務概要

総務課は、主に庶務業務、文書業務、渉外業務、予算管理業務、会計・経理業務等を担っています。そのため事業計画の策定や進捗管理、日々の現金支出から収支の月締め処理、年度終わりの決算や半期の仮決算処理等の経理一般から、院外からの来客の接待や院内の調整等、職員に対しては職員預り金の管理や共済資金の貸付等の福利厚生的な業務、学会、研修等へ出張する際の旅費支給も行うなど幅広い業務に従事しています。

そのほか、病院安全管理担当として警察OBを配置し、患者並びに職員の安全管理に努めています。

業務委託している、電話交換窓口に関すること、院内警備や利用者用駐車場に関すること、院内保育室に関すること等も総務課の業務となります。

今年度はアフターコロナということで、面会制限の緩和をはじめ病院としての大きな変化がありましたが、総務課としてはオープンホスピタルと創立記念パーティをともに4年ぶりに開催しました。特にオープンホスピタルにおいては、9つのJAが統合したJAひろしま（旧：JA佐伯中央）に依頼して、隣接するJA産直ふれあい市場「よりん菜」で同日に農協感謝祭を開催していただき、共同イベントを実現することができました。また広島大学大学院医系科学研究科循環器内科学の中野由紀子教授をお招きした院内講演会も開催しました。

新棟（南棟）建設に向けて、院内のセキュリティ設定の検討、モチーフやテーマカラーをはじめとしたデザインやサイン類の検討、ドクターヘリを受け

入れるためのヘリポートの運用検討に主に携わりました。また、完成後の式典やリーフレット作成やノベルティの選定等を進めました。

今後は南棟が稼働し、既存棟の改修に移行するなど患者サービスや職員の働き方に大きな変化が訪れますので、病院内外の円滑な運営のため、潤滑油としての役割を果たせるよう一層尽力していきます。



オープンホスピタル オープニングセレモニーの様子

災害対策ワーキングチーム (DMAT)

■ DMAT

Disaster Medical Associate Team

災害や事故などの現場に 48 時間以内に活動できる機動性をもった、専門的な訓練を受けた医療チームのことです。



■ DMAT チームメンバー

事務：川上多聞、山下雄三

医師：黒木一彦、杉山陽一、筒井 徹

診療放射線技師：高畑 明

看護師：阿部伸也、後藤友美、生田裕子、
谷川綾太、沖田 晃、竹野香織

■ 活動内容

2024 年 1 月 1 日 16 時 10 分、能登半島でマグニチュード 7.6 の地震が発生し、次いで大津波に襲われました。私達のチームは 1 月 10 日に第 5 次隊として広島県からの要請を受け、1 月 11 日に現地向けて出発しました。1 月 12 日に参集拠点となる能登総合病院に到着し、翌日から穴水総合病院の救急外来で支援を行いました。また、多くの避難所では感染症が蔓延しつつあり、DVT（深部静脈血栓症）を発症する危険性も懸念されていました。そのため、公民館や高齢者ケアハウスで生活されている被災者の健康状態も診察して廻りました。

現地の被害状況は、至る所で土砂崩れが発生しており、液状化現象によって道路も陥没し、多くの家屋が倒壊していました。さらに、断水は、被災者にとっても私たち支援者にとっても大きなストレスとなりました。

今回の派遣により、災害の恐ろしさを目の当たりにすることで、日常の当たり前がどれほど贅沢なこ

とか痛感させられました。災害は『いつかどこかにあるもの』ではなく、『いつでも、どこにでもあり得るもの』です。それを肝に銘じて日頃からの準備と心構えを、地域を守る災害拠点病院として行っていきたいと思います。



■ 災害対策ワーキングチーム

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災を契機に、防災・減災対策の重要性を再認識し、同年に発足したチームです。

現在、活動を一旦休止しておりますが、有事の際には有志によって積極的に活動できるよう備えておきたいと考えています。

(DMAT 看護師 竹野香織)

栄養サポートチーム (NST)

■ チーム概要

栄養サポートチーム (NST) は、栄養管理における専門的な知識を持つ多職種により構成されるチームで、当院では 2005 年 4 月より活動しています。

NST は栄養状態不良の方、経管栄養や経静脈栄養を行っている方、嚥下障害のある方など、特に栄養管理が治療上必要と考えられる患者様に対して回診やカンファレンスを行い、専門的な立場から最善の栄養管理に向けた提案を行っています。

■ NST メンバー

医師	下田 大紀、一町 澄宜、香山 茂平
歯科医師	大井 尚志
看護師	藤本 七津美、藤村 雅子
薬剤師	中島 恵子、埋橋 賢吾、下角 晃範
管理栄養士	上村 真由美、河本 良美、森田 菜津美、叶丸 采花
臨床検査技師	池田 光泰、村田 竜也、中野 文香、建川 結子
作業療法士	石井 葵
言語聴覚士	上田 雅美、新川 すずか
歯科衛生士	藤井 志穂

■ 活動内容

- ・ NST カンファレンス・ラウンド (NST メンバー)
毎週木曜日 14:00 または 15:00 ~ (カンファレンス)
14:30 または 15:30 ~ (ラウンド)
ラウンド後は栄養管理についてのコメントの記載、提案を行っています。
- ※ 2024 年 2 月 ~ 専従 → 専任制度へ変更に伴い、栄養サポートチーム加算算定上限数は 15 件 / 回へ変更しています。



〈栄養サポートチーム加算算定件数〉

2023 年度算定件数：延べ 713 件 (患者数 234 名)



- ・ NST-TPN カンファレンス (薬剤師、管理栄養士)

毎週水曜日 15:00 ~

高カロリー輸液投与中の患者を対象に、代謝性合併症や感染予防のため血糖値・肝機能・電解質・投与速度等の確認を行い、適正な輸液内容や管理についての提案を行っています。

- ・ 栄養管理推進委員会：毎月最終火曜日
- ・ ラダーⅢ研修：年 1 回

■ 2023 年度の Topics

NST 院内研修は感染対策などもあり、ここ数年は院内 web での開催としていましたが、4 年ぶりに集合研修会を再開しました。当日参加が難しい方には、院内 web で後日期間限定で閲覧できるようにしました。

- ・ 第 1 回 NST 院内研修会

「嚥下スクリーニングを復習しよう！」

言語聴覚士：上田 雅美

- ・ 第 2 回 NST 院内研修会

「健康的な食事とカリウム」

医師：下田 大紀

呼吸療法サポートチーム (RST)

■呼吸療法サポートチーム 〈Respiratory Support Team〉

人工呼吸器からの早期離脱や安全管理を目標に、集中治療室から在宅まで多職種で人工呼吸器装着患者さんをサポートしています。

〈目的〉

集中治療室（以下 ICU）で人工呼吸管理を行なった症例のうち、約 5% は ICU にて呼吸器離脱できず、一般病棟にて呼吸管理を継続しなければなりません。また、人工呼吸器装着患者さんの転院は、受け入れ先が限られていることから、決定までに時間がかかってしまう、かといって、在宅移行を選択されるケースが多いかということ、残念ながら介護力の問題から断念されるご家族が多いのも現状です。このような現状から、当院では ICU での人工呼吸管理開始と同時に、呼吸器離脱を見据え、多職種と連携し患者さんのサポートを行なっています。

また、人工呼吸療法は医療者の不安や負担も多い治療です。呼吸管理に慣れていない病棟でも、RST ラウンドを通じて、少しでも業務負担の軽減に繋がるようなサポートを心がけています。

〈メンバー〉

医 師 吉 田 研 一（委員長）・櫻 谷 正 明
 看護師 吾 郷 志津江
 理学療法士 内 山 明 子
 歯科衛生士 石 井 真 弓
 栄養士 八 幡 謙 吾
 薬剤師 増 田 健 二
 臨床検査技師 嶋 田 恵 美
 臨床工学士 平 野 恵 子

〈活動内容〉

毎週木曜日の 13:30 から、人工呼吸器装着患者さんの病室を訪問し、人工呼吸器周辺の環境整備や人工呼吸器離脱に向けての方向性について多職種で話し合います。人工呼吸器からの離脱は、設定だけを調整すればいいというわけではありません。呼吸に関する筋力やそれを維持する栄養、また薬剤による原疾患のコントロールなど様々な視点から患者さ

んの状態を評価する必要があります。

人工呼吸管理を安全に施行できるように RST メンバー全員でサポートしていきますので、何か疑問や不安に思うことがあれば気軽にお声がけいただければと思っています。



感染防止対策室 (ICT)

■ スタッフ

室 長 近 藤 丈 博 (兼任)
主 任 平 本 廉 昂 (専従)

■ 取得資格、所属学会

〔取得資格〕

Infection Control Doctor : ICD

感染管理認定看護師

〔所属学会〕

日本環境感染学会

日本感染管理ネットワーク学会

■ 部門紹介 (概要)

感染防止対策室は患者さんや医療従事者の安全確保を第一の目標として、院内感染対策委員会や ICT (院内感染対策チーム)、看護科感染対策委員会を中心とした各組織・部門と連携し、感染防止活動を支援する部門として機能しています。

特に ICT とは密に連携を図り、ラウンドや研修会など多くの業務を共同しています。

また、新型コロナウイルス感染症 (以下、コロナとする) の流行を契機に、医療機関だけでなく福祉施設等を含めた地域単位で感染対策の充実が必要不可欠であることが認識されるようになりました。今後も、当院が“組織的な感染防止対策の基幹的な役割”を果たす為の中心的な立場として、地域の各種機関と連携し感染対策の強化に努めて参ります。

■ ICT・AST コアメンバー紹介

〈医師〉

近藤 丈博 (呼吸器内科医師、感染防止対策室長)

杉山 陽一 (消化器外科医師)

〈薬剤師〉

角井 碧、正畠 和美、清上和也、羽生千晶

〈臨床検査技師〉

池部 晃司

〈看護師〉

今本 紀生、平本廉昂 (感染防止対策室専従)

〈事務 (医事課)〉

堤 昂志、今川陽奈子

■ 認定施設基準

「感染対策向上加算 1」

・ 10 施設と連携し年 4 回の合同カンファレンスを開催 (うち 1 回は佐伯地区医師会・保健所と連携し新興感染症を想定した合同訓練を実施)

・ 中電病院 ICT と連携し年 1 回の相互ラウンドを実施
「指導強化加算」

年 4 回以上連携施設等に赴き、院内感染対策に関する指導・助言を実施

「抗菌薬適正使用支援加算」

抗菌薬の適正使用や検査の適正利用の為の体制整備 (質の評価や院内研修会の開催)

■ 2023 年度の活動 (Topics)

当院は 2020 年度以降、感染症協力医療機関として専用病棟を編成し、コロナ患者対応を続けてきました。

コロナ禍においては、職員の行動制限や感染対策の徹底、また、患者さんにご協力いただきながら面会規制等も続けてきましたが、2023 年 5 月 8 日、コロナの感染症法の位置付けが 5 類へと移行したことに伴い、これまで特別対策として行ってきた以下のような制限について院内で協議し、ICT が中心となり見直しを行いました。

〈コロナ病棟 (西 8 階) ゾーニングの見直し〉

コロナ病棟としての全体のゾーニングを解除し、一部コロナ対応を継続しながら、同病棟に一般患者も入院できるようゾーニングの再検討を行いました。



〈患者家族面会制限の緩和〉

2020年4月より続けていた面会制限について、時間や人数に制限はありますが約3年ぶりに一部再開することができました。

制限緩和後、面会が原因と考えられる感染拡大の報告はありませんでした。

※令和5年5月8日以降※

面会制限の緩和について

当院では新型コロナウイルス感染症拡大防止のために面会禁止としておりましたが、感染症分類の変更に伴い、面会制限を以下のとおり緩和いたします。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

部署	時間	時間制限	人数
一般病棟	15:00～20:00	30分以内	2人まで
ICU	15:00～15:30 19:00～19:30	10分以内	1人のみ
検査検査センター	15:00～15:30 17:00～17:30 19:30～20:00	30分以内	2人まで

※面会、早退、遅退、待合室での面会時間短縮となります。

注意事項

- 面会者は原則、ご家族の方のみといたします
- マスク着用と手指消毒にご協力ください
- 風邪症状等ある方は面会をお控えください

病院長

面会時間や人数については感染状況を見ながら今後さらなる緩和を検討

2023年度も院内クラスターの発生はありましたが、その都度感染対策を見直し、強化することで短期間での収束に繋げることが出来ました。5類移行後もコロナは増減を繰り返しており、世間一般の対策が緩和されました。

今こそ院内での感染拡大防止対策の強化と継続が求められます。ICTは今後もあらゆる感染症に対し対策活動を続けて参ります。

〈5類移行後の院内ルールの見直しと周知〉

5月8日の5類移行後、患者・職員の隔離期間や、コロナ患者対応時の対策（PPEの使用基準、マスク着用など）について見直しを行い、職員への周知活動を行いました。

PPEレベル	防護具の種類	場面や状況、対策など	イメージ
レベル1	・サージカルマスク ・手袋	◎診察 ◎検温 ◎患者搬送（自立患者の付きそい、車椅子での搬送）	
レベル2	・サージカルマスク ・手袋 ・半袖エプロン	◎環境整備 ◎リネン交換	
レベル3	・サージカルマスク ・手袋 ・長袖ガウン ※必要に応じてアイガード	◎患者搬送（要介助により接触が考えられる場合） ◎保清ケア（清拭、陰部洗浄、オムツ交換など） ◎体位交換、移送 ◎汚物、吐物、廃液の処理など ◎器材の洗浄	
レベル4	・N95マスク ・手袋 ・長袖ガウン ・アイガード ※必要に応じてキャップ	◎エアロゾルの発生が考えられる処置やケアの際（気管挿管、抜管、口腔内・気管内吸引、食事介助など） ◎内視鏡検査、介助時	

免疫の低下したハイリスク患者への影響を考慮し、マスク着用については継続

マスク着用をお願い

令和5年3月13日より、マスクの着用は個人の判断に委ねられることになりました。一方、高齢者など重症化リスクの高い方への感染を防ぐため、医療機関等ではマスクの着用を推奨されています。（厚生労働省）
当院におきましても入館される皆様には、「マスクの着用」をお願いいたします。
また、入館に際しては検温にご協力いただき、発熱・咳等症状のある方はご遠慮いただきますようお願いいたします。
今後も感染を防ぐため、皆様のご理解、ご協力の程、宜しくお願いいたします。

安心して当院をご利用いただくためにも院内では引き続きマスク着用のご協力を宜しくお願い致します

緩和ケアチーム

メンバー紹介

主任部長 田 崎 達 也 (外科・緩和ケア科)
 部 長 大 下 恭 子 (麻酔科・緩和ケア科)
 部 長 伊 東 淳 (放射線治療科・緩和ケア科)
 部 長 大 月 鷹 彦 (呼吸器内科・緩和ケア科)
 精神科医師 (非常勤)
 西 崎 淳
 緩和ケア認定看護師
 岡 田 恵美子
 薬剤師 礪 貝 明 彦
 理学療法士 小 林 恭 子
 言語聴覚士 後 藤 優 佳
 公認心理師 佐 藤 亜 弥
 管理栄養士 松 下 有 紀
 社会福祉士・がん相談員
 正 畠 忠 貴
 がん相談員 益 村 勇 子 など



主な活動紹介

【チームカンファレンス・回診】

毎週火曜日にカンファレンスを開催し、多職種で治療方針を共有しています。2021 年からは山根クリニック 山根宏昭先生にもカンファレンスに参加していただき、在宅医療にスムーズに移行できるよう心がけています。

【薬剤調整】

個々の患者が使用する薬剤につき主治医と連携し調節し、症状緩和の必要な患者に対して患者・家族の理解が得られるよう薬剤指導を行っています。

【がん患者リハビリテーション】

がんを抱える患者の日常生活動作に対応します。2023 年度、緩和ケアチーム介入患者のべ 81 名にリハビリを行い、そのうち 30 名にがんリハビリを实

施しました。

【栄養相談】

管理栄養士が個々の患者に合う食事の工夫を患者・家族へ指導します。

【がんサロン】

2023 年度は 20 回開催しました。

【がん相談】

療養場所や在宅で受けられるサービスについて等、各種の相談に対応します。2023 年度の相談件数は 522 件で、多い順に 1) 医療費・生活費・生活保障制度 2) 不安・精神的苦痛 3) 緩和ケア 4) 在宅医療 5) 症状・副作用・後遺症でした。

【生活のしやすさに関する質問票】

がん患者への苦痛スクリーニングを行っています。

2023 年度 苦痛スクリーニング

総件数 4,524 件

外 来 3,030 件

病 棟 1,494 件

【がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会開催】

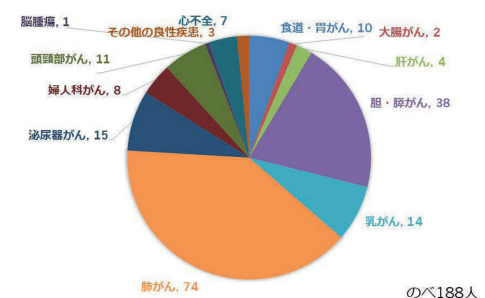
2023 年は 7 月に開催しました。外部講師として、山根クリニック 山根宏昭先生に「療養場所の選択と地域連携」を担当していただきました。在宅医療の実際について勉強させていただきました。

【第 20 回廿日市市民公開講座】

2023 年 12 月、「はじめませんか 人生会議」をテーマに開催しました。約 360 人の一般市民に参加していただきました。

緩和ケアチーム実績 (2023 年)

2023年緩和ケアチーム依頼内容



PEACE Palliative care & hospice program on symptom management and Assessment for Continuous medical education JIPPI

心臓リハビリテーションチーム

■設立趣旨

近年、増加する心血管疾患（狭心症、急性心筋梗塞、心臓弁膜症、胸・腹部大動脈瘤、末梢動脈疾患など）を有する患者さまに対し、包括的心臓リハビリテーション（以下、心リハ）を提供することを目的に活動しています。包括的心リハとは、心血管疾患を有する患者さまにおける社会復帰および再発予防を目的とし、運動療法や食事療法、薬物療法などの患者教育、生活指導などを包括した治療手段です。当院では2010年度よりチームアプローチを展開しています。

■メンバー紹介

（*心臓リハビリテーション指導士、**慢性心不全看護認定看護師、***心不全療養指導士）

医師 小林 平、新田 和宏*
長谷川 美紗
理学療法士 本間 智明*、河野 裕美
小島 輝久*、西谷 喜子
看護師 東3階病棟、東7階病棟、内科系外来、
外科系外来
正木 博之**
薬剤師 向井 一樹*、増田 健二***
江草 徳幸、小野塚 沙緒里
棚木 紗也加、片山 雄一朗
大原 由希子
栄養士 八幡 謙吾、森田 菜津美
前田 梨沙
相談員 浅川 由佳、小泉 智美
岡村 良太
その他 臨床検査技師、義肢装具士、臨床工学技師

■活動内容

東3：循環器内科多職種カンファレンス

心臓血管外科多職種カンファレンス

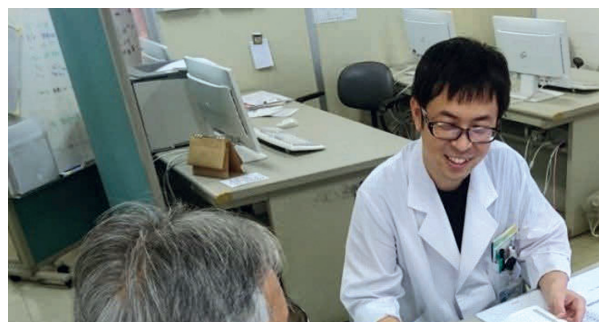
東7：心臓血管外科多職種カンファレンス及び回診

外来：循環器内科多職種カンファレンス

	心リハに関する活動	2023年度 (件)	2022年度 (件)	2021年度 (件)
入院	開心術・大血管術後心リハ	74	82	49
	急性心筋梗塞後心リハ	92	77	60
	抹消動脈疾患手術後心リハ	106	72	94
	心不全心リハ	274	228	229
外来	心リハ通院（新規エントリ）	32	34	43
	服薬支援	51	8	28
	栄養指導	267	216	176
その他	心肺運動負荷試験	22	15	4

—服薬支援の充実—

2023年度、薬剤師が新たに心不全療養指導士の資格を取得しました。これにより、心不全患者さまへの服薬支援がより充実した内容になっています。心不全患者さまは薬剤が多くなりがちですが、入院中に薬剤情報を提供し、退院後外来心リハ時に再説明することで、薬剤理解を深める取り組みをしています。また入院中に、服薬状況を確認し、退院後も適切に服薬が継続できるよう服薬形態を検討しています。外来心リハ時に継続して服薬確認をすることで、患者さまの生活状況に合わせた管理方法・調剤形態を提供することが出来ます。患者さまの服薬に関する不安や抵抗感を少しでも軽減できるよう努めています。



服薬支援の様子

—心肺運動負荷試験の再開—

コロナ感染拡大後は心肺運動負荷試験の実施件数が減少していましたが、運用を見直すことで実施件数が増加傾向となりました。心肺運動負荷試験では至適運動強度を評価することができ、安全な運動療法を行うためにも重要な検査です。退院時と外来心リハ終了時の運動能力を評価し、患者さまにも説明を行っています。



心肺運動負荷試験の様子

がん化学療法チーム

概要

当がん種に対して標準的治療もしくはそれに準ずる化学療法によるがん治療を安全・確実・安楽に実施されることを目的としています。多職種の専門性を持って、がん患者のQOL維持向上と副作用対策に寄与しています。また、当院は地域連携がん拠点病院として認可されています。

専従・専任スタッフ

がん化学療法委員長

佐々木 秀

がん化学療法看護認定看護師

奥村 麻美、野村 昌代

薬剤部部長補佐

中島 恵子

がん薬物療法認定薬剤師

平井 俊明

外来がん治療認定薬剤師

白井 敦史、埋橋 賢吾、
藤原 俊輔

看護師 岡田 佳奈子、岩本 春美、
三浦 弥生、田原 奈緒子、
山本 磨央、長谷川 景菜、
堤 智里

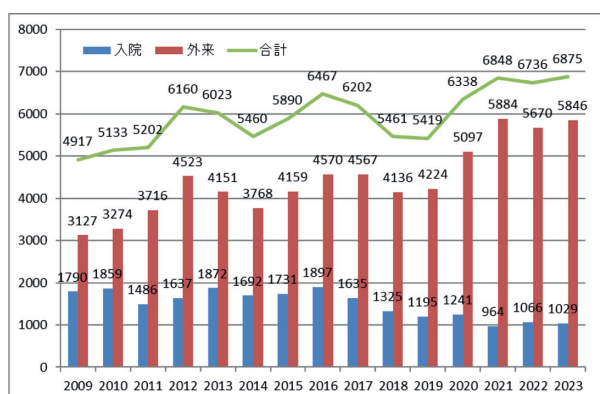
薬剤師 井手 淑江、檜垣 麻由美、
岡野 愛子

実績

2023年度外来治療件数：5,846件

2023年外来一日平均件数：24.2件

2023年入院治療件数：1,029件



がん患者指導管理料算定（旧がん患者カウンセリング料）

- ・2023年 がん患者登録 17,028件
- ・指導管理イ 380件
- ・指導管理ロ 225件
- ・指導管理ハ 500件
- 認定薬剤師算定 284件

活動報告

1) がん化学療法運営委員会…6回

詳細は委員会の項参照

2) その他

- ・毎週水曜日：消化器がんカンファレンス開催
- ・毎月第1・3水曜日：膵臓がん教室開催
- ・毎月第1水曜日：乳腺カンファレンス

トピックス

- ・7/31～ベッド予約システムを行っています。治療開始時の混雑が解消し、患者さんの不安・ストレス軽減に貢献しています。

教育

〔院内〕

- ・新人看護師研修
- ・看護ラダーⅢ研修
- ・がんワーキンググループ研修
- ・日本赤十字大学成人看護学Ⅲ実習指導

〔院外〕

- ・日本臨床腫瘍学会 irAE マネージメントセミナー WEB 開催チーム参加。

膵がん・胆道がん教室チーム

■はじめに

膵がん・胆道がんの患者さん、ご家族を対象としたがん教室を開催しています。当がん教室は、不安や疑問の解消を目的とした情報交換の場として、2013年より開始し、2020年からのCOVID-19パンデミックにより中断の期間もありましたが、個別対応から再開し、現在は月2回開催しています。担当スタッフは多職種のチームで運営しており、消化器内科医師、病棟・化学療法室看護師、薬剤師、管理栄養士、MSWに加え、外部より在宅医および笑いヨガ講師をお招きし、各分野の担当者より講演いただいております。

■メンバー紹介（主要メンバー）

医師 藤本佳史、森 豪、
佐伯 翔
看護師 野村昌代、本山敏恵、
平野有紀
立石久子、三村奈央、
酒井ゆき、宮本英美
薬剤師 埋橋賢吾、白井敦史
栄養科 河本良美、松下有紀、
叶丸采花
リハビリテーション科
小林 恭子
MSW 正 昌 忠 貴、岡村良太
〈外部講師〉
在宅医 小笠原英敬先生、山根宏昭先生、
木村真大先生、酒井 亮先生
笑いヨガ講師
松川裕子先生

■活動内容

コロナ禍の影響により、密集を避けるため患者さんごと家族に声かけを行い、感染対策を講じながら、原則1～2組を対象とした個別対応・不定期での教室再開となりました。少人数制のため参加予定者がいる週はいつでも開催できるようにしました。少ない月では1組の参加でしたが、多い月では、毎週開催することができました。膵がん教室の予約枠を設

けており、参加者を事前にスタッフが把握することができ、より個別性の高い指導を行えることで満足度の高い教室となりました。

2023年5月にコロナが第5類へ移行し、以前のような対面方式での教室開催をすることができるようになりました。場所を健康管理センターに変更し、在宅ケア、疾患の理解、抗癌剤治療、栄養指導、緩和ケア、医療費、リハビリ・運動といったテーマで、開催形式は講義形式になります。残り時間で参加者と医療者の対話を重視した教室に変更し、より患者さんやご家族の意向に添える教室になりました。

教室終了3ヶ月後、6ヶ月後に再度生活状況や困り事がないか面談を行い、継続的な関わりが持てるように工夫しています。また、場合に応じて、栄養指導や介護保険など社会保障制度の紹介など療養生活の支援を行いました。

今後も、参加したいと思えるような教室を目指し、スタッフ一同努力して参ります。

膵がん・胆道がん教室

開催日時：毎月第1・3水曜日 14:00～15:00
場 所：東棟2階 健康管理センター



※教室中の途中退室は可能です。体調に合わせてご参加下さい。

今後の予定
1月10日(水)・24日(水) 2月7日(水)・21日(水)
※1月のみ 第2・4水曜日に開催

＜＜＜プログラム＞＞＞

第1水曜日 「在宅医療について」 講師：地域の在宅医
「緩和ケアとACP」 講師：緩和ケアチーム
「医療費のお話」 講師：医療ソーシャルワーカー
「リハビリについて」 講師：理学療法士

第3水曜日 「病氣と治療について」 講師：医師
「抗がん剤治療について」 講師：薬剤師
「食事と栄養」 講師：管理栄養士

第3水曜日は**笑いヨガ**を行います。

自宅や遠方からインターネット（ZOOM）での参加も可能です。
下記のQRコードからお申し込みください。



この教室は広島県、国立がん研究センターの協力を得て、
地域がん診療連携拠点病院として実施しています。

お問い合わせ先
がん相談支援センター 正島
TEL 0829-36-3111(代)
0829-36-3270(直通)
FAX 0829-36-3160

認知症ケアサポートチーム

■メンバー紹介

専任医師

副院長、脳神経外科主任部長

黒 木 一 彦

認知症看護認定看護師

大 峯 珠 己

認知症看護認定看護師

有 本 ま い

医療ソーシャルワーカー

林 理 恵

管理栄養士 八 幡 謙 吾

薬剤師 石 津 克 紘

作業療法士 平 田 花穂里

地域では野村病院さんにご協力いただき、認知症初期集中支援チームの一員として、地域の認知機能が低下した高齢者が地域で安心して過ごす事ができるよう活動しています。



チーム

■設立趣旨

認知機能が低下した高齢者の方は、入院による環境変化や身体的苦痛が負担となり、行動・心理症状を発症しやすくなります。

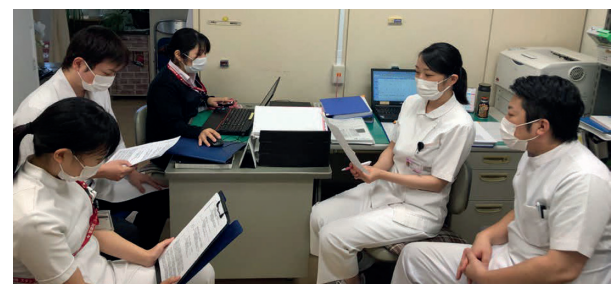
認知症による行動・心理症状や意思疎通の困難さが見られ、身体疾患の治療への影響が見込まれる患者さんに対し、認知症に特化した専門チームが関与することで、行動・心理症状の悪化を予防・緩和し円滑に治療が受けられることを目的として活動しています。

■活動内容

週に2日、主に火曜日と水曜日が活動日となっております。水曜日には多職種の様々な視点を取り入れてチームカンファレンスを行い、その後病棟ラウンドを行っています。

認知症をもつ、またはせん妄状にある高齢者の方々の対応や環境の提案・内服薬の調整、病棟でできるリハビリテーションの提案、認知症に関連した嚥下障害や食欲不振による食事内容の相談等をそれぞれの専門分野からアドバイスを行っております。

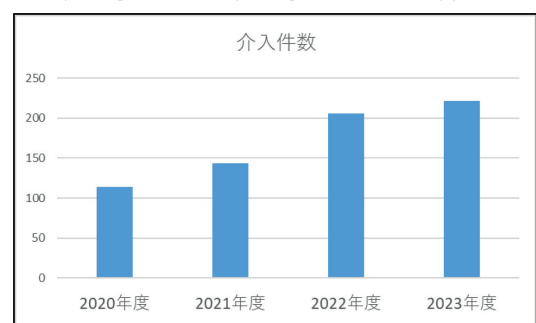
院内では各部署の看護師と協働し、定期的な研修会やカンファレンスを開催して、認知症ケアの質の向上に努めています。



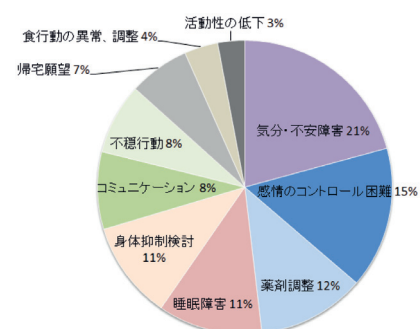
カンファレンスの様子

■介入件数

2023年4月～2024年3月 延べ221名



■介入内容



各種委員会

治験審査委員会

委員長 溝 岡 雅 文

1. 構成メンバー

委員長：医師

副委員長：医師

委員：医師 1 名、薬剤師 2 名、臨床検査技師 1 名、事務 2 名、外部委員 2 名

オブザーバー：病院長、事業局長

2. 設立趣旨

(1) 治験委員会は、「治験の原則」に従って、全ての被験者の人権の保護、安全性の保持及び福祉の向上を図ることを目的としています。また社会的に弱い立場にある者を被験者とする可能性のある治験には特に注意を払っています。

(2) 治験審査委員会は、倫理的、科学的及び医学的・薬学的観点から治験の実施及び継続等について審査を行っています。

3. 活動内容

治験審査委員会は原則として 1 ヶ月に 1 回開催します。

1) 2023 年度治験審査委員会開催概要

第 1 回 (2023/4/21) 報告事項 1 件

第 2 回 (2023/6/23) 報告事項 1 件

第 3 回 (2023/7/21) 報告事項 1 件

第 4 回 (2023/8/18) 報告事項 1 件

第 5 回 (2023/9/15) 報告事項 1 件

第 6 回 (2023/10/20) 報告事項 1 件

第 7 回 (2023/11/17) 報告事項 1 件

第 8 回 (2023/12/15) 報告事項 1 件

第 9 回 (2024/1/19) 報告事項 1 件

第 10 回 (2024/2/16) 報告事項 1 件

第 11 回 (2024/3/15) 報告事項 1 件

2) 2023 年度の実施治験総件数：12 件

3) 前年度からの継続治験 (5 件)

① ノボ ノルディスク ファーマ株式会社の依頼による非アルコール性脂肪肝炎患者を対象とした NN9535 の第 III 相試験 (ノボ ノルディスク

ファーマ)

② ノボ ノルディスク ファーマ株式会社の依頼による非アルコール性脂肪肝炎患者を対象とした NNC0194-0499 とセマグルチド併用の第 II 相試験 (ノボ ノルディスク ファーマ)

③ 糖尿病性多発神経障害患者を対象とした ONO-2910 の前期第 II 相試験 (小野薬品)

④ 住友ファーマ株式会社の依頼によるイメグリミン塩酸塩の腎機能障害を伴う日本人 2 型糖尿病患者を対象とした第 4 相長期投与試験 (住友ファーマ)

⑤ 急性非心原塞栓性虚血性脳卒中又は高リスク TIA 発症後の患者を対象に経口 F X I a 阻害薬 sundexian (BAY 2433334) の有効性及び安全性を検討する第 III 相試験 (バイエル)

4) 2023 年度からの新規治験 (5 件)

① キッセイ薬品工業株式会社の依頼による前期第 II 相試験 (キッセイ薬品)

② 中等度から重度の活動性を有する潰瘍性大腸炎患者を対象に、導入療法として ABX464 を 1 日 1 回投与した際の有効性及び安全性を評価するランダム化、二重盲検、プラセボ対照、多施設共同、第 III 相試験 (IQVIA サービシーズジャパン)

③ 中等度から重度の活動性を有する潰瘍性大腸炎患者を対象に、維持療法として ABX464 を 25mg 又は 50mg を 1 日 1 回投与した際の長期有効性及び安全性を評価するランダム化、二重盲検、プラセボ対照、多施設共同、第 III 相試験 (IQVIA サービシーズジャパン)

④ 急性虚血性脳卒中又は高リスク一過性脳虚血発作後の脳卒中の再発抑制を目的とした経口第 X I a 因子阻害薬 Milvexian の有効性及び安全性を評価する第 III 相、ランダム化、二重盲検、並行群間、プラセボ対照試験 (ヤンセンファーマ)

⑤ 非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) を対象とした治療アプリ CA-NASH の第 III 相試験 (CureApp)

5) 2023 年度の終了治験 (2 件)

① 急性心筋梗塞患者を対象としたエンパグリフロジ

ンの第Ⅲ相試験 (Fortrea Japan)

- ②日本新薬株式会社の依頼による NS-304 の後期第Ⅱ相試験 (日本新薬)

薬事委員会

委員長 溝 岡 雅 文

1. 構成メンバー

委員長：医師

副委員長：薬剤師

委員：医師 28 名、薬剤師 1 名、医療安全対策室 1 名、事務職 1 名

書記：薬剤師 1 名

オブザーバー：病院長、事業局長

2. 設立趣旨

当委員会は院内で使用する全ての医薬品に関わる諸問題について検討協議を行い、薬事全般にわたる病院長の諮問事項を審議、報告する機能と義務を負い、医薬品の安全かつ効率的な使用をはかることを目的としています。

任務は以下の通りです。

- 1) 新規採用申請薬品の審議
- 2) 薬品の適切な使用方法の協議と啓発
- 3) 在庫薬品の適切な管理と運用
- 4) 医薬品情報の周知活動
- 5) その他の医薬品に関する事項

3. 活動報告

委員会の開催は原則として月 1 回です。

1) 新規医薬品の採用審議

医薬品の採用は a) 一般採用医薬品 b) 用時購入医薬品 c) 患者限定医薬品に分類され、a) b) は委員会の審議対象、c) は特別措置として報告が行われます。

薬事委員会は採用の可否を審議決定しますが、1 増 1 減を原則とし、適正な在庫数になるよう努めています。

2) 薬品の適切な使用方法の協議と啓発

特に扱いに注意が必要な医薬品については、院内

での注意喚起についての運用も提案、審議されます。また、高額医薬品の常時在庫の可否も審議対象となり、適正な在庫管理について情報共有されています。

3) 在庫薬品の適切な管理と運用

先発品・ジェネリック医薬品とも、欠品・自主回収・出荷調整が相次いでいます。情報を迅速に入手、精査し、医薬品使用量についての協力要請も行い、適宜、迅速な情報提供に努め、安全な薬物治療の実現のための在庫管理を指揮しています。

また、後発品の使用推進は国策であるため、先発品から後発品の切り替えについて毎回審議し、当院の環境や薬剤使用状況に十分に配慮し、2023 年度は 11 件採用しました。病院運営に関わるため、情報収集能力を最大限発揮し、可能な限りでの後発医薬品係数取得を励行しています。

4) 医薬品情報の周知活動

医薬品の安全性情報や、適正使用に係わるトピックスがあれば、全スタッフに向け注意喚起を発信し、適正使用に貢献しています。

5) 2023 年度実績

2023 年度も医薬品の出荷調整、販売中止等による供給不安が続き、在庫確保に難渋しつつ、院内の医薬品適正使用推進に努めました。

当院の医薬品採用数 (2024 年 3 月 31 日時点)

一般採用		特定患者限定	105
内服薬	709		
注射薬	523		
外用薬	295		
その他	11		
一般採用 計	1,539		
用時購入 保険適応	77	RI 医薬品	113
その他 (ワクチン類)	15		
採用品数合計			1,769
ジェネリック医薬品			36

2023 年度 医薬品の総新規採用・総削除件数

()		内は後発品数
新規採用件数	52	(17)
削除件数	68	(13)

診療録管理委員会

委員長 辻 徹 郎

1. 構成メンバー

委員長：医師

委員：医師 5 名、薬剤師 1 名、看護師 2 名
事務部門 1 名、診療情報管理士 3 名オブザーバー：病院長、看護部長、事業局長
(計 13 名)

2. 設立趣旨

診療情報管理業務の円滑な運営のため、診療情報管理および診療記録に関する事項を検討、討議することを目的として、診療録管理委員会が設立されました。

3. 活動内容

〈退院時サマリ 2 週間以内記載率〉

当院は、「臨床研修指定病院」、「地域医療支援病院」であり、「救急救命センター」を有しているため、毎日医師への記載依頼を行っています。また、委員会、医局会への報告など普段から目に触れる機会を増やし、記載状況の把握や記載について意識してもらうための積極的な活動を行っています。

診療科別 退院時サマリ 2 週間以内記載率

2023 年 4 月～2024 年 3 月退院分 14,035 人（転科を含む）

診療科	2 週間以内 記載率	診療科	2 週間以内 記載率
総合診療科	100.0%	呼吸器外科	99.5%
呼吸器内科	98.7%	心臓血管外科	99.8%
循環器科	99.5%	皮膚科	98.8%
腎臓内科	100.0%	泌尿器科	99.4%
糖尿病代謝内科	100.0%	産婦人科	100.0%
消化器内科	99.8%	眼科	100.0%
小児科	100.0%	耳鼻咽喉科	100.0%
外科	99.6%	放射線治療科	100.0%
整形外科	99.4%	歯科口腔外科	100.0%
形成外科	100.0%	緩和ケア科	
乳腺外科	100.0%	救急・集中治療科	100.0%
神経外科	99.4%		
平均科別 2 週間以内記載率			99.7%

〈質的監査〉

質的監査は、医師同士で「日々の診療の判断材料の根拠となる診療情報」が正しく記載されているか監査を行っています。

電子カルテと退院時サマリの監査を年 3 回ずつ、年間計 6 回行っています。

今年度も、監査を行い発生した問題点は委員会で話し合い、必要な場合は現場に赴き対応しています。

また、年 1 回行う多職種による質的監査は、ペーパーレス監査を実施し、集計結果は委員会で討議しています。

質的監査および多職種による質的監査結果は、医師へ還元すると共に、委員会・医局会でも報告し、診療録の改善を担っています。

〈量的監査〉

算定に基づいた必要な記載、書類が揃っているかを目的に全退院患者の監査を行っています。

結果は関係部署へ配布すると共に、今後役に立てもらうため、詳細を記載したものを添付しています。

また、カルテの記載方法など、院内での統一ルールを再確認するため、医局会で説明を行っています。

〈その他の業務改善の内容〉

同意書申請（新規、修正・変更）

- ・院内 34
- ・院外 4

現行の運用で生じる様々な問題点を委員会で検討し、業務の改善を図っています。

衛生管理委員会

委員長 石 田 和 史

労働安全衛生法第 17 条及び第 18 条に基づき衛生管理委員会を設置し、原則毎月 1 回委員会を開催しています。

〈衛生管理委員会構成メンバー〉

委員長：病院長

委員：産業医 1 名・医師 2 名・薬剤師 1 名・臨床検査技師 2 名・看護師 5 名・診療放射線技師 2 名・

管理栄養士 1 名・事務職 2 名

オブザーバー：副院長・事業局長・事務部長
〈2023 年度の主な取り組み事項〉

1. 過重労働対策について

職員の超過勤務時間を毎月調査し、委員会で報告しています。月に 80 時間以上の超過勤務があった職員に対し、産業医による面接指導の案内を文書で行っています。また当院の 36 協定における上限である月 45 時間以上超過勤務した職員数の報告も併せて行っています。

2. 職員のメンタルヘルス対策について

職員に対し毎年 1 回ストレスチェックを実施する事が義務づけられており、8 月にストレスチェックを実施しました。高ストレス者へは面接勧奨文書を発布して外部医師による面接の実施、部署ごとの集団分析結果の検証等を行い、職場環境改善に向けて検討しました。

また、当院の公認心理師によるメンタルヘルス相談、メンタルヘルス不調者や新採用職員（研修医・看護職員）等に対して、面談を行っています。

3. 感染症検査及びワクチン接種等の状況

職員の入職時に麻疹、風疹、水痘、ムンプス、HBs 抗原・抗体検査、HCV 抗体検査を実施しています。B 型肝炎対策として、在職者および新入職者の中で、必要かつ希望する職員にワクチン接種を行いました。

またインフルエンザの流行に備えて、希望者を対象にインフルエンザワクチン接種を実施しました。

4. 結核患者接触職員の対応について

結核患者に接触した職員の追跡として、事例があるごとに、状況・検査結果・今後の検査予定等の報告をしています。また、結核患者接触のハイリスク部署の職員に対し、T スポット検査および年 2 回胸部 X 線検査を実施しています。

5. 職員健康診断について

職員健康診断の受診率を向上させるため、健康管理課と対策を話し合い、各部署の所属長への声かけ

を積極的に行っています。その結果、職員健康診断の受診率は夏期が 96.5%、冬期が 98.7%と、昨年度に引き続き高水準を維持しています。また、パソコンの使用頻度が高い者（事務職員、臨床検査技師、診療放射線技師、画像診断部医師、検査科医師）に対し情報機器作業健康診断を、フィルムバッチ着用者を対象に電離放射線健康診断を実施しました。

6. その他

作業環境測定（病理研究検査室・解剖室・滅菌保管室）を年に 2 回実施し、その結果を委員会で報告しています。なお、結果は全て「適切」となっています。

研修委員会

委員長 佐々木 秀

1. 構成メンバー

委員長：医師

委員：医師 10 名、看護師 1 名、薬剤師 1 名、臨床検査技師 1 名、臨床工学技士 1 名、管理栄養士 1 名、事務 4 名

オブザーバー：病院長、事業局長、看護部副部長、研修医

2. 設立趣旨

臨床研修委員会は初期臨床研修医の充実した研修を実現するため、基本的臨床能力の獲得・向上の支援、学術活動や生活面・精神面のサポートなど行っています。

3. 活動報告

〈院内研修・勉強会等〉

・オリエンテーション（4 月）

・Early Bird Lecture：毎週火曜日午前 7 時 15 分～8 時 研修医のプレゼン、上級医のレクチャー

・オープンカンファレンス：毎月第 3 水曜日、研修医の症例発表

・基本的臨床能力評価試験（1 月）

〈セミナー開催〉

イブニングセミナー

- ① 8/30：山本内科循環器科 院長 山本正治先生
 - ② 10/10：広島大学病院 感染症科 野村俊仁先生
 - ③ 2/5：聖路加国際病院 集中治療科 村上学先生
- 〈院外実習〉

- ・地域医療研修（日高徳洲会病院）
 - ・精神科研修（草津病院、メープルヒル病院、瀬野川病院）
 - ・ER アップデート 7月沖縄、2月東京
 - ・ハワイ大学 SimTiki 研修 1名参加
- 〈研修医サポート〉
- ・メンター制度：研修医1人ずつに上級医1人をメンターとして指名し、研修医のアドバイスやサポートを行う。
 - ・臨床心理士との面接（7月）
 - ・佐々木委員長との面接（9月、2月）

〈学生勧誘〉

- ・オールひろしま臨床研修病院オンライン合同説明会（2月）
- ・レジナビフェア 2023 福岡（5月）
- ・レジキャリフェア広島（7月）

〈表彰〉

- ・基本的臨床能力評価試験 優秀賞：岩見卓保、丸山基治
- ・Early Bird Lecture 最多出席賞：丸山基治（敬称略）
- ・研修医が選ぶベストオブ指導医：田村亮医師、有吉寛明医師



オリエンテーション風景



イブニングセミナー風景

地域がん診療連携拠点病院運営委員会

委員長 佐々木 秀

1. 構成メンバー

委員長：医師

副委員長：医師2名・看護師1名

委員：医師11名・看護師1名・薬剤師1名・診療放射線技師1名・管理栄養士1名・医療ソーシャルワーカー1名・診療情報管理士1名・事務職4名

オブザーバー：病院長・事業局長・看護部長

2. 設立趣旨

がんに関する自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者さんの療養生活の質について把握・評価し、課題認識を院内関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じるためにがん診療連携拠点病院運営委員会を設置しています。

その他にも広島県がん診療連携協議会や評価・改善部会において、都道府県がん診療連携拠点病院や地域がん診療連携拠点病院等と情報共有や相互評価を行っています。

3. 活動内容

がん診療連携拠点病院として、

- 集学的治療の提供
- 緩和ケアの提供
- 地域の医療機関との連携
- がん治療に関する専門的知識・技能を有する職員の配置
- がん相談支援センターの設置
- セカンドオピニオンの提示

- 院内がん登録
- がん医療に携わる医療従事者への研修
- がんゲノム医療の推進

上記の取り組みをより一層推進するために院内外の調整及び広島県がん診療連携協議会へ参加し、国のがんに関する現状や今後の展開について情報収集を行い、広島西医療圏のがん拠点病院としての機能を果たすべく取り組みを行っています。

がん化学療法運営委員会

委員長 佐々木 秀

1. 構成メンバー

委員長：医師

副委員長：医師

委員：医師 12 名、薬剤師 4 名、臨床検査技師 1 名
管理栄養士 1 名、看護師 4 名、事務 1 名

オブザーバー：病院長、事業局長、看護副部長

2. 設立趣旨

院内で施行されるがん化学療法に関する重要事項の審議および治療内容の妥当性を評価し、安全、適性かつ有効に行うことを目的としてがん化学療法運営委員会を設立しました。

主にがん化学療法のレジメンの管理及びがん化学療法を円滑に行うための運用管理を行っています。

3. 活動報告

委員会の開催

委員会の開催は二ヶ月毎に開催しました。

他に緊急な審査が必要な事項があったため、迅速審査を 5 回行いました。

【今年度の主な取り組み】

- ・レジメン施行件数報告
- ・がん患者指導管理料算定報告
- ・バイオ後続品導入に向けての検討
- ・がん化学療法同意書改訂の検討
- ・レジメンオーダー締め切りの周知徹底
- ・レジメンベッド予約システムとオーダーシステムの連携の検討

- ・制吐剤（NK-1 拮抗薬）のアロカリス導入の検討
- ・B 肝再活性化対策の検討
- ・IFR 対応の一部変更と過敏症対応プロトコール作成
- ・脊髄腫瘍（粘液乳頭状衣腫）に対するテモゾロミド＋RT 使用についての検討（適応外使用に関する審査）
- ・好中球減少時の加熱食の運用について
- ・重篤な副作用症例の共有

【レジメン管理】

新規登録レジメン：30 件

（アプレピタントありなし含む）

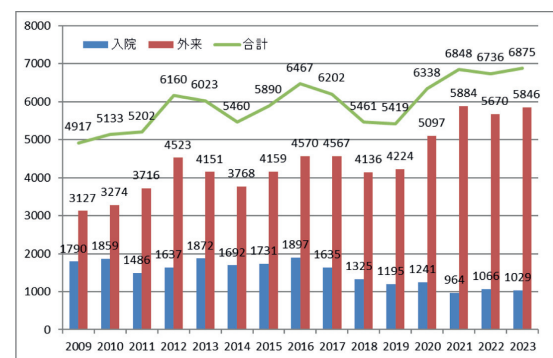
削除レジメン：1 件

更新レジメン：1 件

【実績】

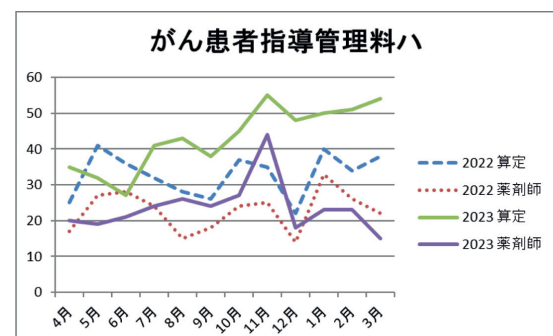
レジメン施行件数

2023 年度 治療件数	6,875 件
2023 年度 外来治療件数	5,846 件
2023 年度 入院治療件数	1,029 件



2023 年度 がん患者指導管理料算定

がん患者指導管理料の件数	519 件
算定時薬剤師指導数	284 件



輸血療法委員会

委員長 香山茂平

本年度も、輸血療法に関し安全性の確保ならびに適正使用の促進に向けた取り組みを行いました。

(5 回開催)

月別の診療科別輸血製剤使用単位数・アルブミン使用量報告、院内輸血マニュアルや輸血関連業務の運用の見直しについて継続的に審議しました。輸血療法に伴うインシデント事例は昨年同様、医療安全管理室と連携し、内容・発生要因・改善策について検討を行いました。

【構成メンバー】

委員長：医師

副委員長：臨床検査技師

委員：医師 4 名・看護師 6 名・薬剤師 2 名・臨床検査技師 2 名・臨床工学技士 1 名・事務職 2 名

オブザーバー：病院長・事業局長

【今年度の主な取り組み】

- ・ 製剤使用単位数報告・廃棄単位数報告
- ・ 輸血副反応報告・事例検証報告
- ・ アルブミン製剤使用分析
- ・ 輸血製剤・特定生物由来製品の適正使用の検討
- ・ 院内輸血療法マニュアル一部改訂および周知徹底
- ・ 輸血関連インシデントレポート
- ・ 輸血用血液製剤依頼画面変更についての検討
- ・ システム障害時の紙運用マニュアルについての検討

【院内合同研修会】

開催 e ラーニング形式

演題 システム障害と輸血療法について

講師 臨床研究検査科 山本 加代子

昨年度に引き続き、輸血用製剤の使用状況より集計分析等で適正使用に向け取り組みました。また、院内輸血療法マニュアルおよび同意書の一部改訂など輸血関連業務の運用見直しを行い、院内への周知徹底に努めました。

輸血用血液製剤依頼画面の変更についての検討やシステム障害時の紙運用マニュアルについても検討しており、来年度も継続審議を行います。

2023 年度 輸血用製剤 使用単位数・廃棄単位数・廃棄率

製剤名	使用単位数	廃棄単位数		使用単位数 合計	廃棄率
Ir-RBC-LR2	3,508	28	RBC	3,510	0.8%
Ir-WRC-LR2	2	0			
FFP-LR240	838	48	FFP	838	5.4%
FFP-LR480	0	0			
Ir-PC-LR5	45	0	PC	1,445	0.0%
Ir-PC-LR10	1,400	0			
Ir-PC-LR15	0	0			
Ir-WPC-LR	0	0			

2023 年度 自己血使用数・廃棄数

科別	貯血単位数	使用単位数	廃棄単位数
整形外科	76	36	40
産婦人科	8	0	8
合 計	84	36	48

2023 年度 特定生物由来製品使用状況

製 品	本 数
20% アルブミン	622
グロベニン I 2.5 g	13
グロベニン I 5 g	185
ケイセントラ静注用 1000	0
テタノブリン筋注 250 国際単位	112
ハプトグロビン静注	55
抗 D 人免疫グロブリン筋注	0
乾燥 HB グロブリン筋注	1
献血ノンスロン	26
フィブログロビン P	30
タコシール 3 × 2.5cm	84
タコシール 9.5 × 4.8cm	41
ベリプラスト P 組織接着用 1ml	11
ベリプラスト P 組織接着用 3ml	114
ベリプラスト P 組織接着用 5ml	86
アブラキサン点滴静注 100mg	755
5% アルブミン 250 ml	231
献血アルブミン 5% 静注	145
フロシール	143

倫理審査委員会

委員長 中光篤志

1. 構成メンバー

委員長：医師

副委員長：医師

委員：医師 5 名、看護師 3 名、薬剤師 2 名、臨床検査技師 1 名、事務職 4 名

外部委員 3 名

2. 設立趣旨

当院にて実施される人を対象とした研究につい

て、「ヘルシンキ宣言」の倫理的原則、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」並びに関連法規・通知等に基づいて、被験者となる患者さんの権利を尊重、個人情報保護し、研究が医学の進歩に寄与することを目的として設置されました。

3. 活動報告

委員会の開催は1ヶ月に1回、第3金曜日に行っており、2023年度の審査実績は新規91件、継続13件、薬剤の適応外使用・治療に関するもの2件でした。今後も倫理的・科学的妥当性の観点から研究者等の利益相反に関する情報も含め、中立的かつ公正に研究等の実施及び継続等について審査を行います。

コンプライアンス委員会

委員長 石 田 和 史

1. 構成メンバー

委員長：病院長

委員：医師10名・看護師3名・薬剤師1名・臨床検

査技師1名・事務職4名

2. 設立趣旨

コンプライアンスとは、法令、内部規程、業務マニュアル等を遵守することは勿論のこと、社会規範や倫理に即して、公正かつ公平な業務遂行を行うことです。そして、これらを実践することにより、発生の可能性のあるトラブルを事前に回避することにもなります。

当院の使命は、農家・組合員並びに地域住民の「命」と「健康」を守ることであり、その信頼に応えるためには、職員自らのたゆまぬ努力によってコンプライアンス態勢を確立していくことが重要です。また、コンプライアンスを重視した事業展開は、当院に対する信頼を高めるとともに、職員自身や職場をも守ることに繋がります。

逆に、重大なコンプライアンスの違反（不祥事件）の発生は、農家・組合員並びに地域住民の期待と信

頼を裏切り、社会的信用を失い、組織の存続さえ危ぶまれる事態になりかねません。

こうしたことを踏まえて、JA広島厚生連は2004年11月にコンプライアンス・マニュアルを制定し、役職員が遵守すべき行動規範等を明らかにするとともに、その徹底をはかるための内部組織・体制等の明確化を図りました。

当院ではコンプライアンス態勢の確立に向けて、2008年4月にコンプライアンス委員会を設置しました。

3. 活動内容

- ・ 病院コンプライアンスプログラムの策定（毎年度）
- ・ コンプライアンス委員会の開催（年3回）
- ・ コンプライアンス・マニュアル等を使用した各部署でのコンプライアンス研修依頼（毎月）
- ・ コンプライアンス関連の報道記事等を配布し職員へ注意喚起を実施
- ・ 院内研修の開催等

広報委員会

委員長 藤 井 隆

1. 構成メンバー

委員長：医師

副委員長：看護師1名、事務職1名

委員：薬剤師1名、放射線技師2名、臨床検査技師2名、臨床工学技士1名、理学療法士1名、栄養士1名、事務職6名

オブザーバー：病院長、事業局長

2. 設立趣旨

院内における各部署の活動を院外に周知することを目的として設立されました。各部署についての詳細な業績集としては年報がありますが、タイムリーな話題の広報も必要です。そのための手段の1つが広報誌「せと」であり、もう1つが「ホームページ」です。この2つを作成・管理するのが本委員会です。

3. 活動報告

委員会は年3回、広報誌「せと」の発行時期に合

わせて開催し、ホームページについても検討を行っています。

①広報誌「せと」

病院広報誌である「せと」は年3回（新年号・春夏号・秋冬号）発行しています。短時間で気軽に目を通すことができる小冊子で、新年号では年始の病院院長挨拶、春夏号と秋冬号では新任医師の紹介、院内のインフォメーション等を掲載しています。その他に診療科やメディカルスタッフ、チーム医療の紹介、看護科や医療福祉支援センターからのお知らせ、病院行事の案内や院内での出来事等をコンパクトにまとめて構成しています。

2023年は、春夏号で認知症ケアチームの紹介、マイナンバーカードを用いたオンライン資格確認について掲載しました。秋冬号では循環器内科、整形外科、緩和ケアチームの紹介のほか、末梢血管治療（EVT）に対する臨床工学科の取り組みについて掲載しました。新年号では第14回ふれあいポスター展、第11回オープンホスピタル、第20回市民公開講座について掲載しました。

②ホームページ

その時に応じた最新の話題や病院としてのイベント情報を盛り込んだトピックスを定期的に更新するように努めています。2022年1月より各部署が輪番制で記事の原稿を作成し、1か月に2回トピックスを更新しています。また、ホームページは毎年アクセス回数等の解析を行っています。2023年の4月から1年間のベスト10ニュースお知らせアクセスランキングを（表1）に示します。今年度は新棟運用開始やコロナウイルス収束に係るお知らせに多く目を向けていただいた結果となりました。

次に2022年度と2023年度の閲覧者数の推移（図1）を示します。2022年度に比べ今年度のホームページ閲覧者数は減少しました。

今後はホームページ全体の刷新を目指し、より必要な情報にたどり着きやすい利用者に配慮したホームページにしていく所存です。また、SNSを使用し

た広報に力を入れ、閲覧してもらう方々のニーズに沿った情報を提供していきます。

表1 ニュース・お知らせアクセス数ランキング
（2023年4月1日～2024年3月31日）

1	コロナウイルス関連について
2	休日夜間急患センターについて
3	病院駐車場のご案内について
4	新型コロナウイルス感染症のクラスター収束について
5	年末年始のお知らせ
6	能登半島被災地へ災害医療チーム（DAMT）を派遣いたしました
7	2022.4.5 新棟建設起工式が行われました
8	カフェ＆レストランリフレッシュオープンについて
9	すい臓がんの治療や患者さんの支援につながる自動販売機を設置しました
10	令和5年度 患者満足度調査

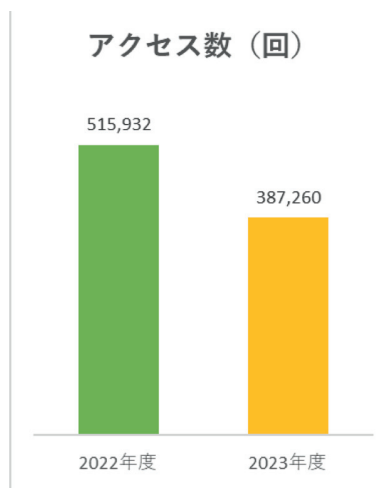


図1 当院のホームページ閲覧者数

アカデミック委員会

委員長 濱 本 正 樹

1. 構成メンバー

委員長：医師

副委員長：事業局長

委員：医師 3名、看護師 1名、薬剤部 1名

放射線科 1名、臨床研究検査科 1名

臨床工学科 1名、病理研究検査科 1名

栄養科 1名、リハビリテーション科 1名

総務課 1名、教育研修課 2名

オブザーバー：病院長、看護部長

2. 設立趣旨

当院の医療および学術活動の質をレベルアップし、院外研修や学会発表の奨励を行う目的で2010年に設立されました。

3. 活動内容

- ①学術奨励賞の設定、②病院年報の充実、③国内・国際学会発表、論文作成等、学術活動の活性化および支援活動、④他部署との情報交換、人的交流の促進と支援

今年度は委員会を4回開催しました。

4. 活動報告

(1) 第14回ふれあいポスター展

- 2023年11月6日から12月22日まで、各部署のオリジナリティーを十分に表現して作成したポスター47作品を院内に展示しました。

評価は、委員会メンバーによる院内審査に加え、外部審査員としてオープンホスピタルに会場した市民の皆様にも投票をお願いし（投票日：2023年11月23日、来場者202名）、以下のポスターが表彰されました。

表彰は、創立記念パーティーで行いました。

■表彰作品

賞	部 門	部 署
最優秀賞		外来化学療法室
優秀賞	医 局	外科
	看 護	東7階病棟
		人工透析室
	コメディカル	栄養科
	チーム活動他	認知症ケアチーム
	住民投票	臨床研究検査科
ラッキー賞		消化器内科

(2) 第14回アカデミー学術賞

学会および研究等において優れた論文を発表した職員を表彰しました。

賞	部 門	氏 名
最優秀賞	医 局	前澤 俊憲
	コメディカル	荒田 晋二
優秀賞	医 局	田崎 達也
		田原 俊哉
		岡崎 孝宣
		新田 和宏

(3) 国内・国際学会発表等の支援活動

学会への参加者等に「アカデミック研修費」を支給し、学術活動の支援を行っています。

■各診療科への支援状況

部 署	件 数
麻 酔 科	15
外 科	15
救急集中治療科	11
整 形 外 科	10
乳 腺 外 科	6
消 化 器 内 科	9
画 像 診 断 部	8
糖 尿 病 セ ン タ ー	6
循 環 器 内 科	6
心 臓 血 管 外 科	6
心 臓 血 管 外 科	9
泌 尿 器 科	3
歯 科 口 腔 外 科	3
乳 腺 外 科	3
腎 臓 内 科	2
呼 吸 器 内 科	1
産 婦 人 科	1
皮 膚 科	1
小 児 科	1
耳 鼻 咽 喉 科	1
呼 吸 器 外 科	1
臨床研修科（研修医）	6
看 護 科	3
合 計	112

著書・論文

循環器内科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Ten-Year Clinical Observation of Immunoglobuline G4-Related Coronary Periarthritis with Aneurysms	Kazuhiro Nitta, Masaki Hamamoto, Takashi Fujii, Tomoki Shokawa, Junichi Zaitsu	International Heart Journal	64: 512-517	2023 年

外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Surgical strategies for localized colorectal amyloidosis	Tahara S, Kohyama M, Nakamitsu A, Sugiyama Y, Tazaki T, Taogoshi H, Komo T, Yamaguchi T, Ueda M, Ishikawa A, Takahashi S, Sasaki M	Surg Case Rep.	27 ; 9, 66	2023 年
A rare case of multiple port site incisional hernias repaired by laparoscopy-assisted intraperitoneal onlay mesh: A case report	Tazaki T, Kohyama M, Sugiyama Y, Takahashi S, Sasaki M	International Journal of Surgery Case Reports	106	2023 年
思春期発症小腸間膜裂孔ヘルニアの1例	清戸 翔 田崎達也 香山茂平 杉山陽一 河毛利顕 山口拓朗 田原俊哉 土井寛文 高橋信也 佐々木秀	日本ヘルニア学会誌	9・3・40-44	2023 年
前回術式と再発形式から考える再発鼠径部ヘルニアに対する治療戦略	田崎達也 香山茂平 杉山陽一 河毛利顕 河毛利顕 田原俊哉 高橋信也 佐々木秀	日本内視鏡外科学会雑誌	28・5・252-259	2023 年
急性腹症を契機に診断された低異型度虫垂粘液性腫瘍の1例	岡本暢之 田崎達也 香山茂平 杉山陽一 中光篤志 高橋信也 佐々木秀	広島医学	76・7・276-278	2023 年
Long-term Complete Response to Trastuzumab Deruxtecan in a Case of Unresectable Gastric Cancer	Yamane H, Sugiyama Y, Komo T, Miyashige N, Shibata K, Shunya Tahara, Otsuka H, Yamaguchi T, Tazaki T, Koyama M, Nakamitsu A, Sasaki M	Case Reports in Oncology	17・1・463-470	2024 年
2023 年版技術認定取得者のための内視鏡外科診療ガイドライン（ヘルニア領域）	一般社団法人日本内視鏡外科学会／編（ヘルニア領域 分担執筆 田崎達也）	web 掲載	（真はついていません）	2023 年

乳腺外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
HER2 陽性乳癌の脊髄転移に対してトラスツマブデルクステカンが奏効した1例	手嶋真里乃 板垣友子 梶谷桂子 大原正裕 在津潤一 川淵義治	癌と化学療法	50 巻 6 号 719-722	2023 年
術前画像検査で嚢胞内乳癌が疑われた嚢胞内乳頭腫の1例	諏訪敬昭 板垣友子 梶谷桂子 大原正裕 在津潤一 勝矢 川淵義治	広島医学	76 巻 6 号 219-220	2023 年

整形外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
椎体終板障害と腰痛		整形外科	74 (6) : 526-532	2023 年
Balancing ability of patients with lumbar spinal canal stenosis		European Spine Journal	32 (12) : 4174-4183	2023 年

心臓血管外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
肺動脈内膜肉腫に対して腫瘍切除とコンポジットグラフトによる右室流出路再建を施行した一例	奥迫 諒 井上理紗 呉 晟名 江村尚悟 片山桂次郎 高崎泰一 高橋信也	日本心臓血管外科学会雑誌	Vol.52, No.5: 320-324	2023 年
The effects of high quality team medicine on outcomes of chronic limb-threatening ischemia patients with infrapopliteal bypass.	Kobayashi T, Hamamoto M, Okazaki T, Okusako R, Hasegawa M, Ishida K, Honma T, Ozawa M, Takahashi S.	Vascular	doi: 10.1177/17085381231194959	2023 年
Risk analysis and clinical outcomes in chronic limb-threatening ischemia patients with surgical site infection after distal bypass.	Kobayashi T, Hamamoto M, Okazaki T, Okusako R, Hasegawa M, Takahashi S.	Ann Vasc Surg	99 : 33-40	2024 年

著書・論文

Effectiveness of Unsupervised Exercise Therapy After Endovascular Treatment for an Iliac Occlusive Lesion. Vasc Endovascular Surg	Kobayashi T, Hamamoto M, Okazaki T, Tomota M, Fujiwara T, Honma T, Takahashi S	Vasc Endovascular Surg	57 : 331-338	2023 年
Comparison of Clinical Outcomes in Patients Undergoing Common Femoral Thromboendarterectomy With or Without Patch Angioplasty	Kobayashi T, Takahara M, Fujimura N, Ichihashi S, Kudo T, Okadome J, Obara H, Nakama T, Suzuki K, Yamaoka T	Eur J Vasc Endovasc Surg	65 : 870-877	2023 年
総大腿動脈閉塞性病変に対する血行再建	小林 平	日本血管外科学会雑誌	33 : 91-95	2024 年
Clinical Outcomes of Common Femoral Thromboendarterectomy with Bovine Pericardium Patch Angioplasty	Takanobu Okazaki (JA Hiroshima general hospital) , Taira Kobayashi, Shingo Mochizuki, Masamichi Ozawa, Kazuki Maeda, Risa Inoue, Daisuke Futagami, Hitoshi Tachibana, Katsutoshi Sato, Toshifumi Hiraoka, Mayu Tomota, Shogo Emura, Haruna Shimizu, Taiichi Takasaki, Hiroshi Kodama, and Shinya Takahashi	Annals of Vascular Surgery	98: 194-200	2024 年

産婦人科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
晩期肺再発を来した子宮体癌の3例	平井雄一郎 中西慶喜 西本裕美 竹石直子 佐々木美砂 高本晴子	現代産婦人科	71 (2) : 187-191	2022 年

画像診断部

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
造影CTで指摘し得た空腸 angioectasia の1例	坂原朝子	臨床放射線	Vol.68 No.5 : 475-479	2023 年
Effect of fatigue on the brain activity of radiologists while reading images	Yoko Kaichi et al.	Hiroshima J. Med. Sci.	Vol.72, No. 3-4, 33-39	2023 年

麻酔科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
第2章呼吸器合併症 6. 無気肺	原木俊明	オペナースィング 春期増刊 明日担当する患者さんに備える！術中・術後合併症 実践マスター	メディカ出版 96-101	2023 年
第2章呼吸器合併症 7. 気胸	原木俊明	オペナースィング 春期増刊 明日担当する患者さんに備える！術中・術後合併症 実践マスター	メディカ出版 102-107	2023 年
第2章呼吸器合併症 8. 肺水腫	原木俊明	オペナースィング 春期増刊 明日担当する患者さんに備える！術中・術後合併症 実践マスター	メディカ出版 108-114	2023 年
第7章局所麻酔における合併症 1. 硬膜穿刺後頭痛	大下恭子	オペナースィング 春期増刊 明日担当する患者さんに備える！術中・術後合併症 実践マスター	メディカ出版 260-265	2023 年
脊椎矯正術後の妊婦に対する帝王切開において超音波補助下に脊髄くも膜下麻酔を施行した1症例	宮地くる実 新澤正秀 本多亮子 村上俊介 石橋優和 原木俊明 河本佐蒼子 佐々木陽子 大下恭子	麻酔	72 巻・4 号・358-362	2023 年
Remimazolam-based anesthesia with flumazenil allows faster emergence than propofol-based anesthesia in older patients undergoing spinal surgery: A randomized controlled trial.	Yukari Toyota, Takashi Kondo, Kyoko Oshita, Toshiaki Haraki, Soshi Narasaki, Kenshiro Kido, Satoshi Kamiya, Ryuji Nakamura, Noboru Saeki, Yousuke T Horikawa, Yasuo M Tsutsumi	Medicine (Baltimore)	17 : 102 (46) : e36081.	2023 年

著書・論文

Efficacy of low-level Laser Therapy for Oral Mucositis in Hematologic Patients Undergoing Transplantation: A Single-Arm Prospective Study.	Hiromi Nishi,Susumu Horikoshi, Kouji Ohta,Tetsumi Yoshida, Noriyasu Fukushima,Kyoko Oshita, Syuichi Munenaga,Taro Edahiro, Hiroshi Ureshino,Hideo Shigeishi,Yukio Yoshioka, Masaru Konishi,Noriaki Ide,Yuma Ogawa, Rikou Marukawa,Tomoaki Shintani,Natumi Ino,Mikihito Kajiya,Naoya Kakimoto,Hiroki Ohge,Tatsuo Ichinohe, Hiroyuki Kawaguchi	Journal of Personalized Medicine	13 (11), 1603	2023 年
胸部傍脊椎ブロックを用いて疼痛管理を行った多発肋骨骨折の2症例	丸井夏美 原木俊明 小早川亮太 大田智子 河本佐誉子 石橋優和 村上俊介 大下恭子	広島医学	77 巻・3 号・100-104	2024 年

救急・集中治療科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
挿管前の呼吸管理	櫻谷正明	呼吸器内科	43 巻・5 号・498-504	2023 年
救急医からみた気管支喘息のポイント	高場章宏	みんなの呼吸器 Respica (レスピカ)	4 号	2023 年
集中治療における輸液制限の是非	櫻谷正明	ICU と CCU		
Neurological outcomes and reperfusion strategies in out-of-hospital cardiac arrest patients due to pulmonary embolism who underwent venoarterial extracorporeal membrane oxygenation: A post-hoc analysis of a multicenter retrospective cohort study	Sakuraya M, Hifumi T, Inoue A, Sakamoto T, Kuroda Y; SAVE-J II Study Group.	Resuscitation	volume 191・page 109926	2023 年
Lung-protective concept and noninvasive respiratory support	Sakuraya M.	Chest	volume 164・issue 4・814-815	2023 年
Prevalence, reasons, and timing of decisions to withhold/withdraw life-sustaining therapy for out-of-hospital cardiac arrest patients with extracorporeal cardiopulmonary resuscitation	Naito H, Sakuraya M, Hongo T, Takada H, Yumoto T, Yorifuji T, Hifumi T, Inoue A, Sakamoto T, Kuroda Y, Nakao A; SAVE-J II Study Group.	Critical Care	volume 27・issue 1・page 252	2023 年
The safety of peripherally inserted central venous catheters in critically ill patients: A retrospective observational study.	Maezawa T, Sakuraya M, Yoshida K.	J Vasc Access	volume 18; page 11297298231169059	2023 年

臨床研究検査科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
SARS-CoV-2 抗原定量検査の活用方法と有用性の検証	村田竜也	医学検査	Vol.72 No.2 (2023) pp.205-209	2023 年

臨床工学科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
できるエンジニアと言われるために3年目までに知っておきたい112のこと	荒田晋二	できるエンジニアと言われるために3年目までに知っておきたい112のこと	秀潤社 (Gakken) P124-127	2023 年
携帯型酸素濃縮装置の性能評価～呼吸回数が供給酸素濃度に与える影響～	荒田晋二	日本呼吸療法医学会誌	人工呼吸 Jpn J Respir Care 2023 ; 40 : 178-183	2023 年

著書・論文

栄養科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
ドクターに任される管理栄養士になる！経腸栄養 プランニング第2章症例で分かる	八幡謙吾	ニュートリションケ ア	メディカ出版 秋 期増刊 85-94 ページ	2023 年
重症患者の予後改善をめざす早期栄養介入のススメ「重症患者における栄養投与開始と栄養投与経 路の選択」	八幡謙吾	ニュートリションケ ア	メディカ出版 4 月号 120-125 ページ	2024 年

実績

書籍・雑誌編集

外科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
Tatsuya Tazaki	Asian Journal of Endoscopic Surgery	査読	—	日本内視鏡外科学会など
田崎達也	日本ヘルニア学会誌	査読 (学会誌委員)	—	日本ヘルニア学会
Tatsuya Tazaki	Surgical Case Reports	査読	—	日本外科学会
Tatsuya Tazaki	Journal of international Medical Reseach	査読	—	Springer Open
Yoichi Sugiyama	World journal of surgical oncology	査読	—	BMC
Yoichi Sugiyama	Europial journal of surgical oncology	査読	—	Elsevier Science

心臓血管外科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
濱本正樹	日本血管外科学会雑誌	③査読者 (JSVS-D-23-00026)		Medical Tribune Inc.
濱本正樹	日本血管外科学会雑誌	③査読者 (JSVS-D-23-00071)		Medical Tribune Inc.
濱本正樹	European Journal of Dermatology	③査読者 (EJDERM-2023-259- (557))		John Lobbey Eurotext Ltd
濱本正樹	Journal of Cardiothoracic Surgery	③査読者		BMC (Springer Nature)
濱本正樹	Journal of Cardiothoracic Surgery	③査読者		BMC (Springer Nature)
濱本正樹	Journal of Cardiothoracic Surgery	③査読者		BMC (Springer Nature)
濱本正樹	Reviews in Cardiovascular Medicine	③査読者 (RCM20601)		IMR press
濱本正樹	Cardiology and Angiology: An international Journal	③査読者 (Ms __ CA __ 108690)		
濱本正樹	Asian Journal of Research in Cardiovascular Diseases	③査読者 (Ms __ AJRCD __ 110257)		

病理診断科・病理研究検査科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
高田 愛	広島臨床検査	編集 (編集委員会副委員長)	第 12 巻	一般社団法人広島県臨床検査技師会

栄養科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
河本良美 上村真由美 森田菜津美 叶丸采花	糖尿病腎症重症化予防プログラムテキスト	日本糖尿病療養指導士		広島県医師会糖尿病対策推進会議 広島県糖尿病療養指導士認定機構 広島市健康福祉局保険年金課 広島県健康福祉局地域包括ケア・高齢者支援課

学会発表

実績

循環器内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
冠動脈瘤を合併した IgG4 関連冠動脈周囲炎を長期フォローし得た一例	新田和宏 藤井 隆 濱本正樹 寺本知生 藤原敬士 渡邊義和 荘川知己 前田幸治 辻山修司	第 31 回日本心血管インターベンション治療学会 学術集会 CVIT2023	2023 年 8 月 4～6 日	福岡市
ステント内再狭窄を繰り返す難治性狭心症の一例	新田和宏 寺本知生 藤井裕人 網岡道孝 山根健一 荘川知己 辻山修司 藤井 隆	第 29 回日本心血管インターベンション治療学会 中国四国地方会	2023 年 9 月 2～3 日	岡山市
長期フォローに心臓 CT が有用であった IgG4 関連疾患冠動脈周囲炎・瘤の一例	藤井 隆 新田和宏 荘川知己 心臓血管外科：濱本正樹 病理診断部門：在津潤一 放射線部門：山口裕之 下土居一	第 72 回日本農村医学会 学術総会	2023 年 10 月 19～20 日	秋田市
New Equation for Calculating Small Dense Low-Density Lipoprotein Cholesterol Based on Common Lipid Profiles of Non-Fasting Blood Samples	Takashi Fujii Tomokoi Teramoto, Yuto Fujii, Kazuhiro Nitta, Michitaka Amioka, Kenichi Yamane, Shuji Tujiyama, Tomokoi Shokawa	第 87 回日本循環器学会 学術集会	2024 年 3 月 8～10 日	神戸市
HER2 阻害薬による CTRCD に対する SGLT-2 阻害薬の使用経験	辻山修司 藤井 隆 荘川知己 山根健一 網岡道孝 新田和宏 藤井裕人 寺本知生	第 6 回日本腫瘍循環器学 会学術集会	2023 年 9 月 30 日～10 月 1 日	神戸市
ARNI が有効と考えられた HER2 阻害薬誘発心筋障害の 1 例	辻山修司 荘川知己 藤井 隆 山根健一 網岡道孝 新田和宏 藤井裕人 寺本知生	第 72 回日本農村医学会 学術総会	2023 年 10 月 19～20 日	秋田市
多剤併用療法が有効であった高齢者肺動脈性肺高血圧症の 1 例	荘川知己 寺本知生 藤井裕人 新田和宏 網岡道孝 山根健一 辻山修司 藤井 隆	第 8 回日本肺高血圧・肺 循環学会学術集会	2023 年 6 月 3～4 日	神戸市

消化器内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
MRI 脾ドックによる脾疾患スクリーニングのとりくみ	住井悠紀 吉田航大 佐伯 翔 森 豪 吉福良公 趙 成大 野中裕広 古土井明 藤本佳史 相坂康之	第 109 回日本消化器病学 会総会	2023 年 4 月 6 日	長崎市・ ハイブ リッド
MRI 脾ドックによる脾疾患スクリーニングの有用性	住井悠紀 吉田航大 佐伯 翔 森 豪 吉福良公 趙 成大 野中裕広 古土井明 藤本佳史 相坂康之	第 54 回日本脾臓学会大 会	2023 年 7 月 22 日	福岡市・ ハイブ リッド
EST 後出血に対して吸収性局所止血剤（ピュアスタット）を用いて止血が得られた 2 例	森 豪 佐伯 翔 野中裕広 藤本佳史	第 59 回日本胆道学術集 会	2023 年 9 月 14 日	札幌市・ ハイブ リッド
クリニカルパス普及への取組	藤本佳史 宮本英美 松下理恵 辻 凌平 奥田大輝	第 72 回農村医学会学術 総会	2023 年 10 月 19 日	秋田市
当院における内視鏡的消化管異物除去術の現況	吉田航大 野中裕広 住井悠紀 佐伯 翔 森 豪 吉福良公 趙 成大 古土井明 藤本佳史 相坂康之	第 31 回日本消化器内視 鏡学会総会	2023 年 11 月 2 日	神戸市・ ハイブ リッド
腸閉塞を呈した、腸管子宮内膜症の 1 例	吉田航大 吉福良公 住井悠紀 佐伯 翔 森 豪 趙 成大 野中裕広 古土井明 藤本佳史 相坂康之	第 131 回日本消化器内視 鏡学会中国支部例会	2023 年 11 月 18 日	松江市・ ハイブ リッド

糖尿病・代謝内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
SGLT2 阻害薬の腎保護効果について血清 Cr とシスタチン C の比較検討	一町澄宜 上野裕衣 平田久美子 石田和史	第 66 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2023 年 5 月 11～13 日	鹿児島市
糖尿病診療における脾癌の早期診断に寄与する因子の検討	平田久美子 上野裕衣 一町澄宜 石田和史	第 66 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2023 年 5 月 11～13 日	鹿児島市
投与時間帯の変更が血糖日内変動に与える影響は、持効型インスリンアナログ製剤の種類により明らかに異なる	石田和史 平田久美子 上野裕衣 一町澄宜	第 66 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2023 年 5 月 11～13 日	鹿児島市
背景の一致した 2 型糖尿病データベースを用いた、高血圧が神経障害に与える影響の検討	石田和史 肘井慧子 平田久美子 一町澄宜	第 61 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2023 年 10 月 27～28 日	松江市

学会発表

SARS-CoV-2 感染後に劇症 1 型糖尿病を発症した一例	石田瑞季 一町澄宜 肘井慧子 平田久美子 石田和史	第 61 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2023 年 10 月 27 ～ 28 日	松江市
SGLT2 阻害薬投与前後の SMI に関する検討	肘井慧子 平田久美子 一町澄宜 石田和史	第 61 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2023 年 10 月 27 ～ 28 日	松江市

小児科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
第 58 回日本小児腎臓病学会学術集会	藤井 寛	SRNS O-006 ～ O-010	2023 年 6 月 29 日～7 月 1 日	高槻市

外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
「アジア、世界における JHS: 国際化に向けて我々が今なすべきこと」活字での英語発信を増やすために	田崎達也	第 21 回日本ヘルニア学会学術集会	2023 年 5 月 26 ～ 27 日	大阪市
嵌頓鼠径部ヘルニアに対する緊急手術の治療成績	田崎達也 香山茂平 杉山陽一 河毛利顕 山口拓朗 田原俊哉 柴田浩輔 中光篤志 佐々木秀	第 21 回日本ヘルニア学会学術集会	2023 年 5 月 26 ～ 27 日	大阪市
自らの技術向上のため、術後 1 年のフォローは必要である	田崎達也 香山茂平 杉山陽一 河毛利顕 山口拓朗 田原俊哉 柴田浩輔 中光篤志 佐々木秀	第 21 回日本ヘルニア学会学術集会	2023 年 5 月 26 ～ 27 日	大阪市
TAPP 法後再発症例から考える、メッシュ選択と再発の関係	田崎達也 香山茂平 杉山陽一 河毛利顕 山口拓朗 田原俊哉 柴田浩輔 中光篤志 佐々木秀	第 21 回日本ヘルニア学会学術集会	2023 年 5 月 26 ～ 27 日	大阪市
診断に苦慮した思春期発症小腸間膜裂孔ヘルニアの 1 例	清戸 翔 田崎達也 香山茂平 杉山陽一 埴越宏幸 河毛利顕 山口拓朗 田原俊哉 土井寛文 柴田浩輔 中光篤志 佐々木秀	第 21 回日本ヘルニア学会学術集会	2023 年 5 月 26 ～ 27 日	大阪市
本邦の腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術の短期成績：多施設前向き観察研究	パウデルサシーム 池田義博 田崎達也 進 誠也 新田敏勝 若杉正樹 松村 勝 大西 直 吉岡慎一 山本海介 平野 聡	第 21 回日本ヘルニア学会学術集会	2023 年 5 月 26 ～ 27 日	大阪市
当院緩和ケアチームが介入した、心不全患者の検討	田崎達也 岡田恵美子 大月鷹彦 伊東淳 大下恭子	日本緩和医療学会第 5 回 中国・四国支部学術大会	2023 年 8 月 26 日	高松市
The frequency and risk factors of Chronic postoperative inguinal pain in Japan: A prospective, longitudinal nationwide survey	Narita M, Tazaki T, Miyaki Y, Miyagaki H, Kataoka M, Nitta T, Kimura M, Toshiyama R, Hama N, Kawaguchi Y, Hatano N, Sakamoto I, Takehara K, Teshima S, Kusumoto T, Fujiwara M, Naga T, Onishi T, Nuruki K, Kimura T, Nakagawa M, Takami Y	American Hernia Society 2023 Annual Meeting	2023 年 9 月 21 ～ 23 日	JW Marriott Austin, TX
当科での鼠径部ヘルニア修復術 10 年の成績	田崎達也 香山茂平 杉山陽一 河毛利顕 山口拓朗 大塚裕之 田原俊哉 柴田浩輔 宮重直弥 中光篤志 佐々木秀	第 76 回広島医学会総会	2023 年 11 月 26 日	広島市
鼠径部ヘルニア手術 10 年の変遷から考える、ヘルニア教育の課題	田崎達也 香山茂平 杉山陽一 河毛利顕 山口拓朗 大塚裕之 田原俊哉 中光篤志 佐々木秀	第 36 回日本内視鏡外科学会総会	2023 年 12 月 7 ～ 9 日	横浜市
再発鼠径部ヘルニア手術ー 10 年の症例推移から考える今後の展望ー	田崎達也 香山茂平 杉山陽一 河毛利顕 山口拓朗 大塚裕之 田原俊哉 中光篤志 佐々木秀	第 36 回日本内視鏡外科学会総会	2023 年 12 月 7 ～ 9 日	横浜市
Mannheim Peritonitis Index を用いた大腸憩室炎の治療選択	清戸 翔 田崎達也 香山茂平 柴田浩輔 土井寛文 田原俊哉 河毛利顕 山口拓朗 埴越宏幸 杉山陽一 中光篤志 佐々木秀	第 21 回日本消化器外科学会大会	2023 年 11 月 2 ～ 5 日	神戸市
当科での鼠径部ヘルニア修復術 10 年の成績	田崎達也 香山茂平 杉山陽一 河毛利顕 山口拓朗 大塚裕之 田原俊哉 柴田浩輔 宮重直弥 中光篤志 佐々木秀	第 34 回佐伯医学会総会	2024 年 2 月 4 日	廿日市市
嵌頓鼠径部ヘルニアに対する緊急手術の治療成績	田崎達也 山口拓朗 河毛利顕 大塚裕之 柴田浩輔 佐々木秀	第 60 回日本腹部救急医学会総会	2024 年 3 月 21 ～ 22 日	北九州市

学会発表

実績

閉鎖孔ヘルニア嵌頓に対する術式選択と治療成績	柴田浩輔 杉山陽一 大塚裕之 中光篤志	田崎達也 河毛利頭 田原俊哉 佐々木秀	香山茂平 山口拓朗 宮重直弥	第 60 回日本腹部救急医学会総会	2024 年 3 月 21 ~ 22 日	北九州市
直腸肛門周囲膿瘍術後の膿瘍腔に対する陰圧閉鎖療法の工夫	杉村 泰 香山茂平 山口拓朗 柴田浩輔	田原俊哉 杉山陽一 河毛利頭 宮重直弥	中光篤志 田崎達也 大塚裕之 佐々木秀	第 34 回佐伯医学会総会	2024 年 2 月 4 日	廿日市市
メッケル過失茎捻転による絞扼性腸閉塞をきたした一例	三反畑亮 山口拓朗	西原礼介 佐々木秀	柴田浩輔	第 34 回佐伯医学会総会	2024 年 2 月 4 日	廿日市市
当院における消化管間質腫瘍 (GIST: gastrointestinal stromal tumor) に対する手術手技	大谷晃平 田崎達也 大塚裕之 宮重直弥	杉山陽一 河毛利頭 田原俊哉 中光篤志	香山茂平 山口拓朗 柴田浩輔 佐々木秀	第 34 回佐伯医学会総会	2024 年 2 月 4 日	廿日市市
CY1 胃癌の治療成績と予後についての検討	宮重直弥 田崎達也 大塚裕之 中光篤志	杉山陽一 河毛利頭 田原俊哉 佐々木秀	香山茂平 山口拓朗 柴田浩輔	第 34 回佐伯医学会総会	2024 年 2 月 4 日	廿日市市
左鼠径ヘルニアに起因した、鈍的外傷による S 状結腸穿孔の 1 例	尾崎彩織 香山茂平 山口拓朗 柴田浩輔	宮重直哉 杉山陽一 大塚裕之 中光篤志	田崎達也 河毛利頭 田原俊哉 佐々木秀	第 188 回広島外科会・第 44 回日本臨床外科学会広島県支部学術集会	2024 年 3 月 2 日	広島市
当院で胃切除した CY 陽性胃癌の治療成績	杉山陽一 柴田浩輔 山口拓朗 中光篤志	河毛利頭 田原俊哉 田崎達也 佐々木秀	宮重直弥 大塚裕之 香山茂平	第 96 回日本胃癌学会総会	2024 年 2 月 28 日 ~ 3 月 1 日	京都市
胃流出路閉塞を伴う切除不能進行胃癌に対する胃切除とバイパス術の治療成績の検	河毛利頭 柴田浩輔 山口拓朗 中光篤志	杉山陽一 田原俊哉 田崎達也 佐々木秀	宮重直弥 大塚裕之 香山茂平	第 96 回日本胃癌学会総会	2024 年 2 月 28 日 ~ 3 月 1 日	京都市
集学的治療により R0 手術が可能となった進行胃癌の 1 例	柴田浩輔 宮重直弥 山口拓朗 中光篤志	杉山陽一 田原俊哉 田崎達也 佐々木秀	河毛利頭 大塚裕之 香山茂平	第 96 回日本胃癌学会総会	2024 年 2 月 28 日 ~ 3 月 1 日	京都市
イマチニブ投与中に胃軸捻転を起こした GIST の 1 例	宮重直弥 香山茂平 大塚裕之 中光篤志	杉山陽一 田崎達也 田原俊哉 佐々木秀	河毛利頭 山口拓朗 柴田浩輔	第 96 回日本胃癌学会総会	2024 年 2 月 28 日 ~ 3 月 1 日	京都市
Trastuzumab Deruxtecan の投与によって Complete response を長期維持している切除不能胃癌の一例	山根宏昭 中光篤志	杉山陽一 佐々木秀	河毛利頭	第 85 回日本臨床外科学会総会	2023 年 11 月 16 ~ 18 日	岡山市
Experiences with Trastuzumab Deruxtecan in 11 Cases of Advanced Gastric Cancer	Hiroaki Yamane, Yoichi Sugiyama, Toshiaki Komo, Atsushi Nakamitsu, Masaru Sasaki			第 21 回日本臨床腫瘍学会 (JSMO)	2024 年 2 月 22 ~ 24 日	名古屋市

乳腺外科

演題	発表者・協同研究者名			学会名	開催期間	開催都市
ホルモン陽性 HER2 陰性転移再発乳癌における骨転移単独例の予後予測	板垣友子 川淵義治	梶谷桂子	大原正裕	第 31 回日本乳癌学会学術総会	2023 年 6 月 29 日～7 月 1 日	横浜市
転移性乳癌に対するアルブミン懸濁型/パクリタキセルとアテゾリズマブ投与中に両側黄斑浮腫を発症した一例	山根宏昭 大原正裕	板垣友子	梶谷桂子	第 31 回日本乳癌学会学術総会	2023 年 6 月 29 日～7 月 1 日	横浜市
乳癌脳転移症例の臨床病理学的因子と予後の検討	梶谷桂子	板垣友子	大原正裕	第 31 回日本乳癌学会学術総会	2023 年 6 月 29 日～7 月 1 日	横浜市
CDK4/6 阻害剤の治療成績とその後の治療の検討	大原正裕	板垣友子	梶谷桂子	第 31 回日本乳癌学会学術総会	2023 年 6 月 29 日～7 月 1 日	横浜市
術前画像検査で嚢胞内癌が疑われた嚢胞内乳頭腫の一例	板垣友子 川淵義治	大原正裕	梶谷桂子	第 20 回日本乳癌学会中国四国地方会	2023 年 9 月 22 ～ 23 日	広島市

学会発表

整形外科

演題	発表者・協同研究者名			学会名	開催期間	開催都市
腰椎椎間板ヘルニアの術式別治療成績	松島大地 橋本貴士	宇治郷諭 水野尚之	山田清貴 藤本吉範	第140回中部日本整形外 科災害外科学会	2023年4月 7～8日	奈良市
高齢者腰椎変性側弯症の腰痛に対するターゲット 療法	山田清貴 平松 武 宇治郷諭 亀井直輔	中前稔生 橋本貴士 土川雄司 安達伸生	中西一義 水野尚之 松島大地 藤本吉範	第52回日本脊椎脊髄病 学会	2023年4月 13～15日	札幌市
腰椎椎間板ヘルニアの術式別治療成績	松島大地 橋本貴士 土川雄司 藤本吉範	宇治郷諭 水野尚之 亀井直輔	山田清貴 平松 武 安達伸生	第52回日本脊椎脊髄病 学会	2023年4月 13～15日	札幌市
高齢者腰椎変性側弯症における椎間孔狭窄に対す る低侵襲治療—椎体間固定との比較—	宇治郷諭 水野尚之 松島大地 中西一義	山田清貴 平松 武 中前稔生 安達伸生	橋本貴士 土川雄司 亀井直輔 藤本吉範	第52回日本脊椎脊髄病 学会学術集会	2023年4月 13～15日	札幌市
腰部脊柱管狭窄症患者のバランス能力—術前後の 比較—	宇治郷諭 水野尚之 松島大地 藤本吉範	山田清貴 平松 武 亀井直輔	橋本貴士 土川雄司 安達伸生	第96回日本整形外科学 会学術総会	2023年5月 11～14日	横浜市
高齢者腰椎変性側弯症における椎間孔狭窄に対す る最小侵襲脊椎手術	松島大地 橋本貴士 土井一義 安達伸生	宇治郷諭 水野尚之 中前稔生 藤本吉範	山田清貴 平松 武 亀井直輔	第11回中四国 MIST 研究 会	2023年7月 29日	松江市
診断に苦慮した馬尾嵌頓の一例	松島大地 橋本貴士 土井一義	宇治郷諭 水野尚之 藤本吉範	山田清貴 平松 武	第241回広島整形外科研 究会	2023年9月 30日	広島市
VP から BKP への変遷	山田清貴 水野尚之 松島大地	橋本貴士 土井一義 藤本吉範	平松 武 宇治郷諭	第26回日本低侵襲脊椎 外科学会	2023年11月 16～17日	福岡市
骨粗鬆症性椎体骨折に対する BKP	山田清貴 水野尚之 松島大地	橋本貴士 土井一義 藤本吉範	平松 武 宇治郷諭	第26回日本低侵襲脊椎 外科学会	2023年11月 16～17日	福岡市
高齢者腰椎変性側弯症に対する低侵襲治療—椎体間 固定との比較—	宇治郷諭 土井一義 松島大地	山田清貴 水野尚之 藤本吉範	橋本貴士 平松 武	第98回西日本脊椎研究 会	2023年11月 18日	福岡市
高齢者腰椎変性側弯症における椎体終板骨髄浮腫 と腰痛	山田清貴 平松 武 宇治郷諭 亀井直輔	中前稔生 橋本貴士 土川雄司 安達伸生	中西一義 水野尚之 松島大地 藤本吉範	第31回日本腰痛学会	2023年12月 1～2日	徳島市
腰椎変性側弯症における慢性腰痛と骨髄浮腫	山田清貴			第206回備後整形外科医 会学術講演会	2023年7月 1日	福山市
腰椎変性側弯症における慢性腰痛と骨髄浮腫	山田清貴			第3回北海道脊椎懇話会	2023年7月 7日	旭川市
骨粗鬆症性椎体骨折に対する椎体形成術の適応と 限界	山田清貴			第131回信州整形外科懇 話会	2023年8月 26日	松本市
高齢者脊椎疾患に対する骨セメントを用いた低侵 襲手術	山田清貴			リハビリテーション・ ケア合同研究大会広島 2023	2023年10月 26～27日	広島市
脊柱管狭窄症の病態と治療	山田清貴			第57回広島県女性薬剤 師会研修会	2023年11月 25日	広島市
骨粗鬆症性椎体骨折に対する手術療法	宇治郷諭 土井一義 松島大地	山田清貴 水野尚之 藤本吉範	橋本貴士 平松 武	Spine Web Seminar in Hiroshima West.	2023年12月 7日	広島市

形成外科

演題	発表者・協同研究者名		学会名	開催期間	開催都市
形成外科の立場から考えた EVT の適応と限界	長谷川美紗		第15回日本創傷外科学 会総会・学術集会	2023年7月 13～14日	東京都 中央区

学会発表

心臓血管外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
後方アプローチによる遠位腓骨動脈へのバイパス術で救済できた一例	奥迫 諒 小林 平 濱本正樹 岡崎孝宣	日本血管外科学会中国四国地方会第53回総会	2023年7月29日	広島市
当院での止血デバイス ExoSeal の使用成績	奥迫 諒 小林 平 濱本正樹 岡崎孝宣	日本血管外科学会中国四国地方会第53回総会	2023年7月29日	広島市
重症下肢虚血治療の現状と遺伝子治療用製品コラジェンへの期待	小林 平	第51回日本血管外科学会総会	2023年5月31日～6月2日	東京都新宿区
CFAを含む病変に対する血行再建	小林 平	第51回日本血管外科学会総会	2023年5月31日～6月2日	東京都新宿区
BK領域、BEST-CLIの結果を本邦にあてはめられるのか？	小林 平	第29回日本血管内治療学会学術総会	2023年6月30日～7月1日	東京都港区
浅大腿動脈病変に対して薬剤溶出性バルーンを第一選択とする意義とその成績	小林 平	第5回日本フットケア・足病医学会中四国地方会	2023年9月9日	高松市
ワンチームで挑む重症下肢虚血	小林 平	第85回日本臨床外科学会総会	2023年11月16～18日	岡山市
ワンチームで挑む重症下肢虚血	岡崎孝宣 (JA 広島総合病院) 小林 平 濱本正樹 友田真由 長谷川美紗	第51回日本血管外科学会学術総会	2023年5月31日～6月2日	東京都新宿区
大腿動脈内膜摘除におけるウシ心膜パッチ形成の多施設共同研究	岡崎孝宣 (JA 広島総合病院) 小林 平 濱本正樹 奥迫 諒	第53回日本血管外科学会中国四国地方会	2023年7月29日	広島市
下肢末梢動脈疾患に対する多施設前向きデータベース構築とその治療の現状	岡崎孝宣 (JA 広島総合病院) 小林 平 濱本正樹 奥迫 諒	第54回日本血管外科学会中国四国地方会	2023年7月30日	広島市
総大腿動脈内膜摘除に対して直接縫合閉鎖とウシ心膜パッチ形成を用いて閉鎖し、直接縫合閉鎖した部位のみ再狭窄をきたした一例	岡崎孝宣 (JA 広島総合病院) 小林 平 濱本正樹 奥迫 諒	第64回日本脈管学会学術総会	2023年10月26～27日	横浜市

泌尿器科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
閉塞性腎盂腎炎や尿管狭窄に対して尿管ステントを定期交換している症例の臨床的検討	吉岡勇人 浅海昭宏 上野剛志 加藤昌生 松原昭郎	西日本泌尿器科学会総会	2023年11月4日	松山市

眼科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
Infusion misdirection syndrome の2例	丹京雄也 二井宏紀	第82回広島県眼科学会	2023年11月12日	広島市
脳静脈血栓症に伴ううっ血乳頭の2例	丹京雄也 二井宏紀	第303回広島眼科症例検討会	2024年1月11日	広島市

画像診断部

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
若年男性の仙腸関節炎による腸腰筋膿瘍の一例	橋本悠希子	第138回日本医学放射線学会中国・四国地方会	2023年6月24～25日	倉敷市
胃癌術後に比較的急速に増大した腸間膜デスマイド腫瘍の1例	東野 諒	第138回日本医学放射線学会中国・四国地方会	2023年6月24～25日	倉敷市
右下肺静脈損傷による心タンポナーデの1例	江口真理奈	第138回日本医学放射線学会中国・四国地方会	2023年6月24～25日	倉敷市
小脳半球に発生した gliosarcoma の1例	海地陽子	第59回日本医学放射線学会秋季臨床大会	2023年9月15日～10月31日	徳島市
神経放射線に詳しい放射線診断医を目指して	海地陽子	第53回日本神経放射線学会	2024年2月9～10日	さいたま市
Detection of bone marrow edema in vertebral compression fractures using deep learning segmentation and quantitative material density imaging in fast kVp-switched dual energy CT	西原礼介	RSNA2023	2023年11月26～30日	シカゴ

学会発表

麻酔科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
人工股関節置換術の周術期鎮痛における単径上腸骨筋膜下ブロックの有用性の検討	石橋優和 大下恭子	日本区域麻酔学会第 10 回学術集会	2023 年 4 月 14～15 日	大阪市・ハイブリッド
レミマゾラム (RmZI) の薬物動態モデルに関して、年齢、性、ASA 分類なども考慮した Masui らのモデルの方が性別を考慮していない従来のモデルに比して、実際の全身麻酔患者での覚醒濃度の性差が小さい	中尾正和 石橋優和 大下恭子 ト部智晶 池尻佑美 増井健一	日本麻酔科学会第 70 回学術集会	2023 年 6 月 1～3 日	神戸市・ハイブリッド
高齢者脊椎手術におけるレミマゾラムの投与が術後せん妄の発生に与える影響	小早川亮太 河本佐誉子 村上俊介 原木俊明 大下恭子	日本麻酔科学会第 70 回学術集会	2023 年 6 月 1～3 日	神戸市・ハイブリッド
大腿骨近位部骨折手術における単径上腸骨筋膜下ブロックの有用性の検討	大田智子 本多亮子 渡辺るみ 石橋優和 大下恭子	日本麻酔科学会第 70 回学術集会	2023 年 6 月 1～3 日	神戸市・ハイブリッド
レミマゾラムの投与方法による催眠作用発現時間の比較検討	原木俊明 大下恭子 村上俊介 渡辺るみ 本多亮子 新澤正秀	日本麻酔科学会第 70 回学術集会	2023 年 6 月 1～3 日	神戸市・ハイブリッド
高齢者脊椎手術におけるレミマゾラムおよびプロポフォール術後覚醒時間に関する多施設共同ランダム化単盲検並行群間比較試験	豊田有加里 近藤隆志 大下恭子 中村隆治 佐伯 昇 堤保夫	日本麻酔科学会第 70 回学術集会	2023 年 6 月 1～3 日	神戸市・ハイブリッド
アロマターゼ阻害薬はホルマリンテストの疼痛反応を増強する	片桐知明 大下恭子 田口志麻 白石成二 堤 保夫	日本ペインクリニック学会第 57 回学術集会	2023 年 7 月 13～15 日	佐賀市
麻酔科ペインクリニック外来で関与した多発肋骨骨折の疼痛管理	原木俊明 大下恭子 村上俊介	日本ペインクリニック学会第 57 回学術集会	2023 年 7 月 13～15 日	佐賀市
ブレガバリンからミロガバリンへの変更効果と副作用	田口志麻 大下恭子 池尻佑美 梅田絢子 蜂須賀瑠美子 中村隆治 堤 保夫	日本ペインクリニック学会第 57 回学術集会	2023 年 7 月 13～15 日	佐賀市
巨大胸腺腫摘出術の麻酔経験	小早川亮太 新澤正秀 原木俊明 石橋優和 河本佐誉子 大下恭子	日本麻酔科学会中国・四国支部第 60 回学術集会	23 年 9 月 9 日	徳島市
顕微鏡的多発血管炎を合併した不安定狭心症の 1 例	大田智子 新澤正秀 小早川亮太 原木俊明 大下恭子	日本心臓血管麻酔学会第 28 回学術大会	2023 年 9 月 16～17 日	奈良市
全身麻酔困難症例に対して PECS ブロックと鎮静で麻酔管理を行った 2 症例	小早川亮太 原木俊明 大田智子 河本佐誉子 石橋優和 本多亮子 新澤正秀 大下恭子	日本臨床麻酔学会第 43 回大会	2023 年 12 月 7～9 日	宮崎市
Masui sex-dependent pharmacokinetic model for remimazolam had same EC50 in both sexes at extubation after general anaesthesia, whereas the other two sex-independent models had different EC50s between males and females	M. Nakao 1 2 K. Masui 3 R. Nakamura 4 T. Urabe 1 M. Ishibashi 2 K. Ohshita 2	Euroanaesthesia 2023	2023 年 6 月 3～5 日	グラスゴー

歯科口腔外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
口底部に生じた孤立性線維性腫瘍の 1 例	大井尚志 島末 洋 石田陽子 安藤俊範 小野重弘 相川友直	第 1 回若手口腔外科医	2023 年 7 月 29～30 日	大阪市
口底部に生じた孤立性線維性腫瘍の 1 例	大井尚志 島末 洋 石田陽子 安藤俊範 小野重弘 相川友直	第 68 回日本口腔外科学会総会・学術大会	2023 年 11 月 10～12 日	大阪市

救急・集中治療科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
10 年後の呼吸療法～いつ誰がどこでどうやるんでしょう？～	櫻谷正明	第 33 回日本臨床工学会	2023 年 7 月 21～23 日	広島市
VA-ECMO を使用した肺塞栓症による院外心停止患者の転帰について	櫻谷正明	日本集中治療医学会第 7 回中国・四国支部学術集会	2023 年 7 月 30 日	岡山市
NPPV 管理中にカプノグラフィーを使ってみよう	櫻谷正明	第 45 回日本呼吸療法医学会学術集会	2023 年 8 月 5～6 日	名古屋市
自発呼吸トライアルのちょっとマニアックな話	櫻谷正明	第 45 回日本呼吸療法医学会学術集会	2023 年 8 月 5～6 日	名古屋市

学会発表

急性期 NPPV における呼気 CO2 モニターの重要性	櫻谷正明	第 45 回日本呼吸療法医学会学術集会	2023 年 8 月 5～6 日	名古屋市
End-tidal carbon dioxide monitoring during noninvasive ventilation in patients with acute respiratory failure due to cardiopulmonary edema: a pilot clinical study	M. Sakuraya	第 35 回欧州集中治療医学会学術集会	21-25 October 2023	Milan
J-SSCG における輸液戦略の変更点と制限的輸液戦略の推奨に至った背景	櫻谷正明 福田龍将 松嶋麻子	第 51 回日本集中治療医学会学術集会	2024 年 3 月 16 日	札幌市
本邦 ICU における抜管後呼吸療法の変遷—JIPAD データを用いたコホート研究—	前澤俊憲	第 51 回日本集中治療医学会学術集会	2024 年 3 月 14 日	札幌市

西 4 階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
看護職と夜間看護補助者との協働推進のための現状と今後の課題	丸澤葉志子	第 54 回日本看護学会学術集会	2023 年 11 月 8～9 日	横浜市

西 5 階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
整形外科病棟における骨粗鬆症予防に向けた患者の食事に対する意識の実態調査	奥田 蓮 日野大志	日本農村医学学会	2023 年 10 月 19～20 日	秋田市
手指消毒の使用回数向上のための取り組み	山下雄代 新宅大地	日本農村医学学会	2023 年 10 月 19～20 日	秋田市

西 8 階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
新型コロナウイルス感染症病棟における災害対策	沖田 晃 竹貞綾子 今本紀生	日本災害看護学会第 25 回年次大会	2023 年 9 月 2～3 日	姫路市
新型コロナウイルス感染症病棟での効果的なオンライン面会の検討	田中美穂 瀬戸正樹 竹貞綾子	第 73 回日本病院学会	2023 年 9 月 21～22 日	仙台市
新型コロナウイルス感染症患者入院病棟からの災害時避難	今本紀生 平本廉昂	第 38 回日本環境感染学会総会・学術集会	2023 年 7 月 20～22 日	横浜市
OJT によるスキんケア～陰部洗浄・オムツ交換の新採用者教育～	南部智江	広島県看護協会廿日市支部看護研究発表会	2024 年 2 月 4 日	廿日市市

東 3 階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
病棟看護師における退院支援実践に関する現状調査	築山千春 小野直子 松田琴子	第 34 回佐伯医学会総会	2024 年 2 月 4 日	廿日市市

薬剤部

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
依存性物質が非がん性慢性疼痛における鎮痛薬の使用状況に及ぼす影響	江草徳幸 平井俊明 向井一樹 藤原俊輔 吉田 玲 岡野愛子 檜垣麻友美 埋橋賢吾 白井敦史 磯貝明彦 中島恵子	第 16 回日本緩和医療薬学会	2023 年 5 月 27～28 日	神戸市
うっ血性心不全の症状コントロールにモルヒネ CSI が有効であった 1 例	向井一樹 江草徳幸 吉田 玲 平井俊明 磯貝明彦 中島恵子	第 62 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会	2023 年 10 月 28～29 日	高知市
実践！心不全患者のモニタリング～心臓リハビリテーション指導士はどうしてる？～	向井一樹	第 33 回日本医療薬学会年会	2023 年 11 月 3～5 日	仙台市
外来処方箋の発行様式が異なるがん拠点病院の医療用麻薬に対する保険薬局薬剤師の薬学的管理の比較	平井俊明 江草徳幸 栗原晋太郎 磯貝明彦 中島恵子 安原昌子 渡邊英晶 山下大介 安保圭介	第 33 回日本医療薬学会年会	2023 年 11 月 3～5 日	仙台市
始めてみよう！みんなで考える心臓リハビリテーション（心不全編）	向井一樹	日本心臓リハビリテーション学会第 9 回中国支部地方会	2023 年 11 月 18 日	米子市

学会発表

臨床研究検査科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
HPLC 法による HbA1c 分析から一酸化炭素中毒の早期発見につながった症例について	内藤美里	第 56 回中四国支部医学検査学会	2023 年 9 月 16 ～ 17 日	松山市
Haemophilus influenzae におけるドライプレート 栄研 DP44 および IAO1 MIC Pro の性能評価	池田光泰 平井未来 池部晃司 福岡達仁	2023 年度日本臨床衛生検査技師会中四国支部医学検査学会（第 56 回）	2023 年 9 月 16 ～ 17 日	松山市
ハンズオンセミナー（心臓超音波検査）：講師	北村紀恵	2023 年度日本臨床衛生検査技師会中四国支部医学検査学会（第 56 回）	2023 年 9 月 16 ～ 17 日	松山市
悪性リンパ腫に伴う寒冷凝集素及び自己抗体によって輸血検査の判定に苦慮した一症例	村田竜也 岡田未来依 荒瀬美幸 山本加代子 三舛正志 福岡達仁 青江耕平 藤井 隆 武島幸男	第 72 回日本農村医学会	2023 年 10 月 19 ～ 20 日	秋田市
耳漏検体から Brevibacterium otitidis が検出された 9 症例の解析	池田光泰 池部晃司 福岡達仁	第 35 回日本臨床微生物学会総会・学術集会	2024 年 2 月 9 ～ 11 日	横浜市
希釈液の加温によって血球算定が可能となった寒冷凝集の一例	小森麻由 男谷和佳 今澤夏実 村田竜也 岡田未来依 荒瀬美幸 山本加代子 三舛正志 福岡達仁	第 41 回広島県医学検査学会	2024 年 2 月 18 日	呉市

臨床工学科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
在宅人工呼吸療法を経験して～臨床工学技士としての取り組み～	平野恵子	第 5 回日本在宅医療連合学会大会	2023 年 6 月 24 日	新潟市
「I0/90 コンセプト」達成に向けたチームでの取り組み効果	田中智子	第 69 回日本不整脈心電学会学術大会	2023 年 7 月 7 ～ 9 日	札幌市
「在宅医療における臨床工学技士への期待」在宅人工呼吸療法と臨床工学技士	平野恵子	第 33 回日本臨床工学会	2023 年 7 月 21 ～ 23 日	広島市
「在宅人工呼吸器関連業務における CE の関わりとこれからの方向性」当院における在宅人工呼吸療法業務の変化～在宅酸素療法介入へ～	平野恵子	第 33 回日本臨床工学会	2023 年 7 月 21 ～ 23 日	広島市
人工呼吸器装着患者の理学療法における臨床工学技士の役割	赤毛凌我	第 45 回日本呼吸療法医学会学術集会	2023 年 8 月 5 ～ 6 日	名古屋市
ECMO 装置選定～院外搬送を経験して～	瀬尾憲由	第 48 回日本体外循環技術医学会大会	2023 年 10 月 20 ～ 21 日	仙台市
「迷わず行けよ 行けばわかるさ！～スペシャリストを目指して～」呼吸治療専門臨床工学技士の立場から	荒田晋二	第 13 回中四国臨床工学会	2023 年 10 月 28 ～ 29 日	米子市
ハンズオン SBT 実践～人工呼吸器離脱に向けたアセスメント～	荒田晋二	第 33 回日本臨床工学会	2023 年 7 月 21 ～ 23 日	広島市
CareLink SmartSync デバイスマネージャーと Zoom を用いた遠隔フォローアップの有用性	田中智子	第 33 回日本臨床工学会	2023 年 7 月 21 ～ 23 日	広島市
NPPV ハンズオンセミナー	荒田晋二	第 45 回日本呼吸療法医学会学術集会	2023 年 8 月 5 ～ 6 日	名古屋市
「ONE TEAM」修理抑制に向け思いを 1 つにする大切さ 広総 STYLE	藤田雄樹	第 40 回関東消化器内視鏡技師学会	2023 年 11 月 18 ～ 19 日	千代田区

栄養科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
長期栄養指導不実施の高齢者糖尿病への栄養指導についての検討	河本良美 上村真由美 森田菜津美 叶丸采花 一町澄宜 石田和史	第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会	2023 年 5 月 11 ～ 13 日	鹿児島市
術後補助化学療法中に CGM を用いて栄養管理を行った高齢膵全摘術患者の 1 例	河本良美 森田菜津美 神田史那 佐々木秀 平田久美子 下田大紀	第 27 回日本病態栄養学会年次学術集会	2024 年 1 月 26 ～ 28 日	京都市
糖質ダイエット下における摂取脂質組成を考慮した栄養指導により改善をみた脂質異常症の一例	前田梨沙 河本良美 藤井 隆 下田大紀	第 34 回佐伯医学会総会	2024 年 2 月 4 日	廿日市市

学会発表

栄養サポートチーム（NST）

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
TPN カンファレンス実施が代謝性合併症予防に及ぼす影響についての検証	下角晃範 埴橋賢吾 中島恵子 上村真由美 一町澄宜 下田大紀 香山茂平	第 15 回日本臨床栄養代謝学会中四国支部学術集会	2023 年 9 月 27 日～ 10 月 10 日	web 開催

感染防止対策室（ICT）

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
新型コロナウイルス感染症患者入院病棟からの災害時避難～患者受け入れ病棟を有する病院への実態調査と当院の取り組み～	発表者：今本紀生 共同研究者：平本廉昂	第 38 回日本環境感染学会総会・学術集会	2023 年 7 月 20 ～ 22 日	横浜市

緩和ケアチーム

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
当院緩和ケアチームが介入した、心不全患者の検討	田崎達也 岡田恵美子 大月鷹彦 伊東 淳 大下恭子	日本緩和医療学会第 5 回中国・四国支部学術大会	2023 年 8 月 26 日	高松市

学会座長

糖尿病・代謝内科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第66回日本糖尿病学会年次学術集会	石田和史	口演 42 / 神経障害 2	2023 年 5 月 11 ～ 13 日	鹿児島市
第61回日本糖尿病学会中国四国地方会	石田和史	2 型糖尿病②	2023 年 10 月 27 ～ 28 日	松江市

外科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第21回日本ヘルニア学会学術集会	田崎達也	支部推薦演題一嵌頓ヘルニア	2023 年 5 月 26 ～ 27 日	大阪市
第60回日本腹部救急医学会総会	田崎達也	研修医・学生発表演題「急性腹症 1」	2024 年 3 月 21 ～ 22 日	北九州市
第39回日本臨床栄養代謝学会学術集会	香山茂平	ミニオーラル 14 カテーテル管理	2024 年 2 月 15 ～ 16 日	横浜市

乳腺外科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第31回日本乳癌学会学術総会	板垣友子	ポスター	2023 年 6 月 29 日～7 月 1 日	横浜市

心臓血管外科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第53回日本血管外科中四国地方会	小林 平	特別講演	2023 年 7 月 29 日	広島市
第53回日本血管外科中四国地方会	小林 平	スポンサーセミナー	2023 年 7 月 29 日	広島市
第53回日本血管外科中四国地方会	小林 平	アフターヌーンセミナー 2	2023 年 7 月 29 日	広島市

麻酔科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
日本麻酔科学会中国・四国支部第60回学術集会	大下恭子	一般演題 ペイン・緩和	2023 年 9 月 9 日	徳島市

救急・集中治療科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
日本集中治療医学会第7回中国・四国支部学術集会	高場章宏	シンポジウム 6「特定行為研修のその後（専門性の発揮とは）」	2023 年 7 月 30 日	岡山市

臨床研究検査科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第72回日本医学検査学会	村田竜也	一般演題	2023 年 5 月 20 ～ 21 日	高崎市
第56回中四国支部医学検査学会	丸山恭平	生化学免疫部門	2023 年 9 月 16 ～ 17 日	松山市

放射線科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第35回日本核医学技術学会中国・四国地方会	高畑 明	理事長講演	2023 年 6 月 24 日	倉敷市
第19回中四国放射線医療技術フォーラム	田丸隆行	一般撮影・画像工学 -2	2023 年 11 月 18 日	山口市

臨床工学科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第45回日本呼吸療法医学会学術集会	荒田晋二	呼吸療法におけるコメディカルの関わり	2023 年 8 月 5 ～ 6 日	名古屋市
第45回日本呼吸療法医学会学術集会	荒田晋二	呼吸療法における臨床工学技士の可能性～理想と現実～	2023 年 8 月 5 ～ 6 日	名古屋市

研究会講演・発表

循環器内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第43回せとうちCT・MRI勉強会	長期フォローに冠動脈CTが有用であったIgG4関連冠動脈周囲炎・瘤	新田和宏	2023年4月8日 松山市ハイブリット	
佐伯地区医師会学術講演会	高血圧治療の考え方	新田和宏	2023年4月25日 廿日市市ハイブリット	ノバルティスファーマ、大塚製薬
Medtronic 症例検討会 HBR × HTR treatment	治療に難渋した心不全合併の垂急性 心筋梗塞症例	新田和宏	2023年4月28日 広島市	Medtronic
心不全地域病診連携講演会～心不全のABC～	心不全ステージC～当院での治療方針～	新田和宏	2023年6月28日 広島市ハイブリット	ノバルティスファーマ、大塚製薬
心不全地域病診連携講演会～心不全のABC～	心不全ステージC～当院での治療方針～	新田和宏	2023年7月10日 廿日市市ハイブリット	ノバルティスファーマ、大塚製薬
広島西部循環器疾患の病診連携を考えるin廿日市・大竹	様々な角度から考える心臓CTの有用性	藤井裕人	2023年6月12日 廿日市市ハイブリット	Boston Scientific、第一三共
広島西部循環器疾患の病診連携を考えるin佐伯区・西区	様々な角度から考える心臓CTの有用性	藤井裕人	2023年8月7日 広島市ハイブリッド	Boston Scientific、第一三共
心不全地域病診連携講演会～心不全のABC～	心不全ステージA & B～症状なければ大丈夫ですか？～	辻山修司	2023年6月28日 広島市ハイブリッド	ノバルティスファーマ、大塚製薬
心不全地域病診連携講演会～心不全のABC～	心不全ステージA & B～症状なければ大丈夫ですか？～	辻山修司	2023年7月10日 廿日市市ハイブリッド	大塚製薬、ノバルティスファーマ
広島西部循環器疾患の病診連携を考えるin廿日市・大竹	当院でのPCIと抗血栓療法	山根健一	2023年6月12日 廿日市市ハイブリット	Boston Scientific、第一三共
広島西部循環器疾患の病診連携を考えるin佐伯区・西区	当院でのPCIと抗血栓療法	山根健一	2023年8月7日 廿日市市ハイブリット	Boston Scientific、第一三共

消化器内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第46回広島県農村医学研究会	すい臓がんの早期発見を目指すHi-PEACEプロジェクトに対するJA広島総合病院の取り組み	佐伯 翔	2024年2月17日 広島市	
第34回佐伯医学会総会	当院における内視鏡的消化管異物除去術の現況	吉田航大 野中裕広 住井悠紀 佐伯 翔 森 豪 吉福良公 趙 成大 古土井明 藤本佳史 相坂康之	2024年2月4日 広島市・ハイブリッド	佐伯地区医師会
痔疾患フォーラム広島西	当院における痔瘻診療の現状	森 豪	2024年2月9日 廿日市市・ハイブリッド	ヴィアトリス製薬株式会社

糖尿病・代謝内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
糖尿病合併症について考える会～末梢性神経障害性疼痛～	糖尿病合併症のピットフォール	一町澄宜	2023年6月16日 広島市	第一三共株式会社
広島大学病院内分泌・糖尿病内科研修医セミナー	血糖コントロールの実践 インスリンに慣れよう	一町澄宜	2023年7月1日 広島市	ノボ ノルディスクファーマ株式会社
第40回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	1) 新たに登場した経口血糖降下薬の使用経験 2) 2型糖尿病の薬物療法アップデート	1) 石田和史 2) 一町澄宜	2023年4月12日 廿日市市	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・佐伯地区医師会・帝人ヘルスケア株式会社
第612回広島市内科医会学術講演会	最新のガイドラインを踏まえた糖尿病治療について	一町澄宜	2023年9月21日 WEB開催	広島市内科医会・MSD株式会社
わが街医療連携セミナーin広島県西部	広島総合病院の医療提供体制の特徴と課題～広島県西部に求められる医療連携を考える～	石田和史	2023年9月27日 廿日市市	佐伯地区医師会・大竹市医師会・第一三共株式会社
第22回糖尿病性合併症薬物治療研究会	SGLT2阻害薬投与によるSMIに及ぼす影響	肘井慧子	2023年11月2日 広島市	糖尿病性合併症薬物治療研究会・アステラス製薬株式会社

研究会講演・発表

広島県西部地区脂質異常症を考える会	各診療科からみた脂質異常症治療	一町澄宜	2024年2月22日 廿日市市	佐伯地区医師会・興和株式会社
第41回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	1) 高インスリン血症による低血糖の鑑別について 2) 最近増えている内分泌疾患 irAR (Immune-related adverse event: 免疫関連有害事象) について	1) 肘井慧子 2) 一町澄宜	2023年8月9日 廿日市市	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・佐伯地区医師会・LifeScan Japan 株式会社

小児科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第51回広島小児アレルギー感染免疫研究会	誘発性喉頭閉塞症の合併が疑われた小児重症喘息の1例	辻 徹郎	2023年9月21日 広島市	杏林製薬共済

外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
牧港中央病院院内学術講演	心不全における緩和ケア	田崎達也	2023年6月23日 浦添市	牧港中央病院
第18回中国四国ヘルニア手術研究会	超高齢者の腹壁瘢痕ヘルニアに対して onlay mesh repair で修復した1例	田崎達也 香山茂平 杉山陽一 河毛利顕 山口拓朗 大塚裕之 田原俊哉 柴田浩輔 宮重直哉 中光篤志 佐々木秀	2023年7月1日 岡山市	中国四国ヘルニア手術研究会
第18回中国四国ヘルニア手術研究会	正中腹膜外到達法で修復した閉鎖孔ヘルニア嵌頓の1例	柴田浩輔 田崎達也 香山茂平 杉山陽一 河毛利顕 山口拓朗 大塚裕之 田原俊哉 宮重直哉 中光篤志 佐々木秀	2023年7月1日 岡山市	中国四国ヘルニア手術研究会
第18回中国四国ヘルニア手術研究会	診断に苦慮した思春期発症小腸間膜裂孔ヘルニアの1例	清戸 翔 田崎達也 香山茂平 杉山陽一 埜越宏幸 河毛利顕 山口拓朗 田原俊哉 土井寛文 柴田浩輔 中光篤志 佐々木秀	2023年7月1日 岡山市	中国四国ヘルニア手術研究会
佐伯地区医師会外科会総会	鼠径部・腹壁ヘルニア診療のエビデンス	田崎達也	2023年7月6日 廿日市市	佐伯地区医師会
大阪掖済会病院教育セミナー	鼠径部ヘルニアについて	田崎達也	2023年7月25日 web	大阪掖済会病院
第22回同門会研究報告会	CY1 胃癌の治療成績と予後についての検討	宮重直弥 杉山陽一 香山茂平 田崎達也 河毛利顕 山口拓朗 大塚裕之 田原俊哉 柴田浩輔 中光篤志 佐々木秀	2023年10月14日 広島市	広島大学第一外科同門会
第11回沖縄ヘルニア研究会	鼠径部ヘルニア手術10年の変遷から考える、ヘルニア教育の課題	田崎達也	2024年1月7日 南風原町	沖縄ヘルニア研究会
第18回千葉ヘルニア研究会	腹壁ヘルニアの予防、治療における基本とエビデンス	田崎達也	2024年1月27日 千葉市	千葉ヘルニア研究会
第8回埼玉ヘルニア研究会	腹壁ヘルニアの予防、治療における基本とエビデンス	田崎達也	2024年3月30日 さいたま市	埼玉ヘルニア研究会
第60回広島内視鏡下外科手術研究会	TAPP法でのコスト削減を目的とした、メッシュ縫合固定の試み	田原俊哉 田崎達也 香山茂平 杉山陽一 河毛利顕 山口拓朗 大塚裕之 柴田浩輔 宮重直弥 中光篤志 佐々木秀	2024年3月8日 広島市	広島内視鏡下外科手術研究会
がん患者さんの痛みに関する Total Care ～急性期から緩和ケアまで考える～	当院外科の診療体制と、緩和ケア	田崎達也	2024年3月5日 廿日市市	佐伯地区医師会、第一三共株式会社
脾疾患フォーラム広島西	非腫瘍性脾病変の臨床病理学的検討	山口拓朗	2024年2月9日 廿日市市	ヴィアトリス製薬株式会社

研究会講演・発表

広島食道カンファレンス	胸部食道癌に対する手術手技	杉山陽一	2023 年 10 月 30 日 広島市	エチコン
山口県消化管セミナー	HER2 陽性胃癌の治療戦略	杉山陽一	2023 年 9 月 6 日 web 開催	第一三共
Gastric cancer web seminar	明日から出来る HER2 陽性胃癌～手術 検体の取り扱い、レジメン移行の工夫～	杉山陽一	2023 年 9 月 19 日 千葉市ハイブリッド	第一三共

乳腺外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
オンコロジー領域担当 MR 社内研修会	転移再発 HER2 陰性乳癌の治療戦略	梶谷桂子	2023 年 11 月 2 日 広島市	第一三共株式会社

心臓血管外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 22 回同門会研究報告会	当院での止血デバイス ExoSeal の使用 成績	奥迫 諒	2023 年 10 月 13 日 広島市	広島大学第一外科
第 68 回循環器病研究会	肺塞栓症を併発した左膝窩静脈瘤の 一例	奥迫 諒	2023 年 12 月 9 日 広島市	広島心臓血管外科、循環 器内科
佐伯地区広仁会	浅大腿動脈病変に対する薬剤溶出性 バルーンの有効性	小林 平	2023 年 10 月 12 日 廿日市市	佐伯地区広仁会
NEXT2023	IN.PACT in Fem-pop EVT	小林 平	2023 年 11 月 2 日 奈良市	日本メドトロニック株式 会社
NEXT2023	POBA 再考	小林 平	2023 年 11 月 3 日 奈良市	カネカメディックス株式 会社
Medtronic EVT Case Conference For CLTI	CLTI における EVT の適応～外科の立 場からみる～	小林 平	2023 年 11 月 17 日 大阪市	日本メドトロニック株式 会社
血管外科医が考える SFA 治療戦略 2023	私が考える DCB の使い分け	小林 平	2023 年 12 月 20 日 web 開催	ボストン・サイエンティ フィック ジャパン株式 会社
第 32 回広島心臓血管手術手 技研究会	当院における僧帽弁および三尖弁手 術	濱本正樹	2024 年 2 月 3 日 広島市	CLS ベーリング株式会社
Hiroshima EVT Summit 2023	Case presentation	岡崎孝宣	2023 年 9 月 30 日 広島市	メディコン
VaSC in hiroshima	Distal bypass に逆行性 EVT を併用し た一例	岡崎孝宣	2024 年 3 月 23 日 広島市	ボストン株式会社
FUSION EVT Conference	特別講演 3 人	コメンテーター	2024 年 1 月 6 日 広島市	日本メドトロニック株式 会社、株式会社島津製作 所、株式会社東海メディ カルプロダクツ、株式会 社カネカメディックス

画像診断部

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 401 回広島大学放射線 診断カンファレンス	小腸 angioectasia の一例	坂原朝子	2023 年 4 月 7 日 広島市	広島大学医学部放射線診 断科
第 435 回広島大学放射線 診断カンファレンス	下腹部腫瘍の 1 例	東野諒	2023 年 5 月 25 日 広島市	広島大学医学部放射線診 断科
第 442 回広島大学放射線 診断カンファレンス	gliosarcoma の 1 例	海地陽子	2023 年 7 月 27 日 広島市	広島大学医学部放射線診 断科
第 37 回中四 NR 研究会	急激に増悪した脊髄病変	海地陽子	2023 年 10 月 28 日 高松市	中四 NR 研究会
第 38 回中四 NR 研究会	頭蓋内と鼻腔にまたがる巨大病変	海地陽子	2024 年 3 月 30 日 岡山市	中四 NR 研究会

研究会講演・発表

麻酔科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
シームレスな在宅がん診療を考える会 in Hiroshima	神経障害性疼痛の診断と治療～薬物療法と神経ブロック～	大下恭子	2023 年 7 月 4 日 廿日市市	第一三共株式会社
岩国内科医会	神経障害性疼痛～様々な原因・病態と臨床的アプローチ～	大下恭子	2023 年 11 月 10 日 岩国市・ハイブリッド	第一三共株式会社
大竹市医師会月例会	神経障害性疼痛～様々な原因・病態と臨床的アプローチ～	大下恭子	2023 年 11 月 18 日 大竹市・ハイブリッド	第一三共株式会社
MRCS 広島「広島周術期管理セミナー」	術前患者評価について～麻酔科医の目線から～	大下恭子	2024 年 2 月 3 日 広島市	コヴィディエンジャパン株式会社

病理診断科・病理研究検査科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 43 回広島県臨床検査精度管理向上研修会	第 51 回精度管理調査結果の評価・解説 総評	水野誠士	2024 年 3 月 10 日 広島市・ハイブリット	一般社団法人広島県医師会、一般社団法人広島県臨床検査技師会

薬剤部

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島ハートセンター院内勉強会	心リハから見る薬剤	向井一樹	2023 年 7 月 14 日 web 開催	広島ハートセンター
制吐療法講演会 in 広島	臨床現場における制吐療法の実際	埋橋賢吾	2023 年 9 月 23 日 広島市	大鵬薬品工業株式会社
地域医療従事者研修会	薬の注意点～知っておいてほしい薬の知識～	平井俊明	2023 年 11 月 9 日 廿日市市	JA 広島総合病院医療福祉支援センター
広島県病院薬剤師会研究発表会	広島県病院薬剤師地域医療連携支援検討委員会の取り組みと今後の展開	白井敦史	2023 年 11 月 18 日 広島市	広島県病院薬剤師会
広島循環器薬物療法研究会	高齢者リハビリテーションのゴールを薬剤師がアシストする～QOLの維持・向上～	向井一樹	2024 年 3 月 15 日 web 開催	トーアエイヨー株式会社
がん化学療法と連携に関する研修会 in JA 広島総合病院	当院におけるがん化学療法の最近の話題	埋橋賢吾	2024 年 3 月 29 日 web 開催	JA 広島総合病院薬剤部

臨床研究検査科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
令和 5 年第 1 回血液研修会	認定血液検査技師 受験報告	岡田未来依	2023 年 5 月 27 日 広島市・ハイブリッド	広島県臨床検査技師会
2023 年度第一回広島県臨床微生物部門研修会	令和 4 年度広島県臨床検査精度管理調査（微生物）の解説	池田光泰	2023 年 6 月 3 日 広島市	広島県臨床検査技師会
遺伝子分析科学認定士（初級）試験指定講習会	遺伝子分析科学認定士合格者より	池田光泰	2023 年 6 月 18 日 東京都・事前収録	日本臨床検査同学院
第一回生理部門研修会	心電図を学ぼう～基礎編～	建川結子	2023 年 6 月 24 日 広島市・ハイブリット	広島県技師会
輸血検査研修会	どっちの写真かな？～検査前準備編～	村田竜也	2023 年 7 月 29 日 web 開催	広島県臨床検査技師会
令和 5 年第 2 回血液研修会	久しぶりに末梢血を顕微鏡で見ましよう 症例解説	岡田未来依	2023 年 8 月 27 日 広島市	広島県臨床検査技師会
認定血液検査技師取得に向けた講習会③	認定血液検査技師取得のための模擬テスト（末梢血編）	岡田未来依	2023 年 10 月 21 日 広島市	広島県臨床検査技師会
第 26 回検査部長・技師長連絡会議	精度管理の法改正に対する SOP（標準作業手順書）【生理検査】	霜津宏典	2024 年 3 月 10 日 広島市	広島県臨床検査技師会
第 43 回広島県臨床検査精度管理向上研修会	令和 5 年度広島県臨床検査精度管理調査 微生物フォトサーベイ	池田光泰	2024 年 3 月 10 日 広島市	広島県医師会

研究会講演・発表

心エコー研究会	ファブリー病	小原健吾	2024年3月19日 広島市	心エコー研究会
---------	--------	------	-------------------	---------

放射線科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
診療放射線技師のためのフレッシュャーズセミナー	当直で役立つ救急 CT を学ぼう	山口裕之	2023年8月27日 広島市	(公社) 日本診療放射線技師会
第38回広島臨床画像研修会	Dual Energy CT の臨床。造影剤量減量への活用	下土居一	2023年10月14日 広島市	バイエル薬品株式会社
令和5年度広島県診療放射線技師会西部支部研修会	胆膵 CT 検査～広総バージョン～	横田 径	2023年11月24日 広島市	(公社) 広島県診療放射線技師会
令和5年度診療放射線技師基礎学術講習会 CT 検査	撮影技術1 (患者接遇・画像解剖)	田丸隆行	2024年2月25日 広島市	(公社) 日本診療放射線技師会

臨床工学科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第19回中国地区消化器内視鏡研究会	内視鏡センターにおけるリユースデバイスの管理について	渡壁昌幸	2023年9月10日 web 開催	
第18回広島県消化器内視鏡技師研究会	内視鏡機器点検の Morning Routine 一毎朝の点検は大事!! 当院の内視鏡機器管理全般をご紹介	藤田雄樹	2023年11月23日 広島市	

リハビリテーション科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第40回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	コロナ禍からみえたサルコペニアの予防と対策	佐藤昌永	2023年4月12日 廿日市市	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会、佐伯地区医師会、帝人ヘルスケア株式会社

栄養科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第38回 NST を本音で語る会	重症患者の栄養管理を円滑に行うための当院でのスタッフ教育	八幡謙吾	2023年8月19日 広島市	共催：NST を本音で語る会、アボットジャパン合同会社、株式会社クリニコ、ニューとリー株式会社、株式会社明治 後援：日本臨床栄養代謝学会
JMS 社内講演会	ICU での栄養管理の実際と経腸栄養ポンプの必要性について	八幡謙吾	2024年3月7日 広島市	株式会社 JMS

緩和ケアチーム

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
牧港中央病院院内学術講演	心不全における緩和ケア	田崎達也	2023年6月23日 浦添市	牧港中央病院
がん患者さんの痛みに関する Total Care ～急性期から緩和ケアまで考える～	当院外科の診療体制と、緩和ケア	田崎達也	2024年3月5日 廿日市市	佐伯地区医師会、第一三共株式会社
シームレスな在宅がん診療を考える会	神経障害性疼痛の診断と治療～薬物療法と神経ブロック～	大下恭子	2023年7月4日 廿日市市	佐伯地区医師会・第一三共株式会社

研究会座長

循環器内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島県西部地区脂質異常症を考える会	荘川知己	各診療科からみた脂質異常治療	JA 広島総合病院 藤井 隆野中裕広 一町澄宜	2024 年 2 月 22 日 廿日市市・ハイブリッド	興和株式会社
佐伯地区医師会学術講演会	荘川知己	高血圧治療の考え方 With ARNI 時代の降圧療法の戦略的アプローチ	JA 広島総合病院 循環器内科 新田和宏 大西内科 ハートクリニック 大西勝也	2023 年 4 月 25 日 廿日市市・ハイブリッド	大塚製薬
高尿酸血症 Consensus Meeting	辻山修司	パネルディスカッション	JA 広島総合病院腎臓内科 下田大紀 平田 内科小児科医院 平田英生 JA 広島総合病院 糖尿病代謝内科 一町澄宜 JA 広島総合病院 循環器内科 荘川知己	2023 年 7 月 13 日 廿日市市・ハイブリッド	佐伯地区医師会・広島市佐伯区医師会・大竹市医師会・持田製薬
慢性心不全治療検討会	荘川知己	慢性心不全に対する New Normal Approach ～ SGLT2 阻害薬が導く心不全治療の変革～	徳島大学循環器内科 助教 伊勢貴之	2023 年 6 月 6 日 WEB 開催	小野薬品工業株式会社
佐伯地区医師会学術講演会	荘川知己	DAPA-HF,DAPA-CKD,DELIVER 試験 後、SGLT2 阻 害 薬 Dapagliflozin による 糖 尿 病、心 不 全・CKD 診 療 ～ Dapagliflozin が心不全・CKD、心・腎連関に及ぼす影響～	陣内病院循環器内科 部長 杉山正悟	2024 年 2 月 20 日 廿日市市・ハイブリッド	小野薬品工業株式会社

消化器内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
佐伯地区医師会学術講演会	相坂康之	漢方薬で解決 胃もたれから便秘まで～消化管のトータルコーディネート～	富永和作	2023 年 6 月 20 日 廿日市市・ハイブリッド	佐伯地区医師会、株式会社ツムラ
膵疾患フォーラム広島西	藤本佳史	当院における膵癌診療の現状、非腫瘍性膵病変の臨床病理学的検討	山口拓朗	2024 年 2 月 9 日 廿日市市・ハイブリッド	ヴィアトリス製薬株式会社

糖尿病・代謝内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
佐伯地区糖尿病先進デバイスセミナー	一町澄宜	先進デバイスを用いた糖尿病診療のコツ	徳島大学先端酵素学研究所 糖尿病臨床・研究開発センター 准教授 黒田暁生先生	2023 年 5 月 26 日 ライブ配信	テルモ株式会社
Diabetes Care Seminar	一町澄宜	SGLT2 阻害剤が教えてくれたこと	しまだ循環器・糖尿病内科クリニック 院長 島田健永先生	2023 年 9 月 27 日 広島市	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社・日本イーライリリー株式会社
広島西部地区高齢者糖尿病治療を考える会	一町澄宜	高齢者の糖尿病診療について考える～ SGLT2 阻害薬のリスクとベネフィット～	広島赤十字・原爆病院 内分泌・代謝内科 部長 亀井望先生	2023 年 11 月 9 日 ライブ配信	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社・日本イーライリリー株式会社
広島県内科会学術講演会	石田和史	このクスリで 2 型糖尿病の治療戦略は大きく変わる！	東邦大学医学部内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌学分野 教授 弘世貴久先生	2023 年 12 月 15 日 広島市	広島県内科会・ノボ ノルディスクファーマ株式会社
糖尿病診療 Up To Date	一町澄宜 石田和史	健康寿命延伸を目指した高齢者糖尿病診療～動ける体を守る～	かなざわ内科 糖尿病・骨粗しょう症クリニック 院長 金沢一平 先生	2024 年 2 月 29 日 ライブ配信	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社・日本イーライリリー株式会社
高齢者糖尿病の治療戦略	石田和史	高齢者の糖尿病治療 UPDATE	広島赤十字・原爆病院 内分泌・代謝内科 部長 亀井望先生	2024 年 3 月 8 日 広島市	住友ファーマ株式会社
CKD with diabetes Forum ～慢性腎臓病の進行を防ぐために～	一町澄宜	循環器内科医の視点から 2 型糖尿病合併 CKD を考える	広島大学大学院医系科学研究科 循環器内科学 診療講師 宇都宮裕人先生	2024 年 3 月 28 日 広島市	バイエル薬品株式会社

研究会座長

小児科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第51回広島小児アレルギー感染免疫研究会	辻 徹郎	小児アレルギー性鼻炎の診断と治療	川島佳代子	2023年9月21日 広島市	杏林製薬共催

外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第10回 OSVD HERNIA BASIC	田崎達也	若手発掘、エキスパートとどう違うの？ TAPP を楽しく！	藤井友優	2023年4月17日 web 開催	Surgical Force
第11回 OSVD HERNIA BASIC	田崎達也	若手発掘、エキスパートとどう違うの？ TAPP を楽しく！	鄭 晁剛	2023年6月15日 web 開催	Surgical Force
第18回中国四国ヘルニア手術研究会	田崎達也	腹腔鏡下用径ヘルニア修復術 (TAPP) での技術認定取得のための工夫とその実際	四方祐子	2023年7月1日 岡山市	中国四国ヘルニア手術研究会
シームレスな在宅がん診療を考える会	田崎達也	在宅医療のあるべき姿—総合病院から訪問診療への真の連携	石川哲大	2023年7月4日 廿日市市	佐伯地区医師会・第一三共株式会社
第12回 OSVD HERNIA BASIC	田崎達也	高位腹膜切開 TAPP のコツ 未編集動画から学ぶ	今村清隆	2023年8月4日 web 開催	Surgical Force
第14回 OSVD HERNIA BASIC	田崎達也	L3 症例に対する TAPP、環状と高位の違い、それぞれの工夫	田中 稔 今村清隆	2023年11月2日 web 開催	Surgical Force
がん患者さんの痛みに関する Total Care ～急性期から緩和ケアまで考える～	佐々木秀	抗がん薬治療による末梢神経障害 (CIPN) のマネジメント	松原淳一	2024年3月5日 廿日市市	佐伯地区医師会、第一三共株式会社
膀胱癌フォーラム広島西	佐々木秀	膀胱癌早期診断 UP-TO-DATE	花田敬士	2024年2月9日 廿日市市	ヴィアトリス製薬株式会社
第36回 広島外科フォーラム	佐々木秀	SSI と腹腔内感染症、膀胱癌治療に関する最新知見	嶋田徳光 上村健一郎	2024年3月21日 広島市	広島外科フォーラム、MSD 株式会社
ロボット手術体験セミナー	佐々木秀	ロボット支援手術の実際と今後	稗田圭介	2023年6月1日 廿日市市	インテュイティブサージカル合同会社

心臓血管外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島 LEAD 座談会	小林 平	当院の臨床成績から見た SFA 複雑病変の治療戦略	三井信介	2023年9月15日 広島市	日本ゴア合同会社
Hiroshima Peripheral stent graft meeting	小林 平	九大関連施設の治療成績からみた GVG 提唱の CLTI アルゴリズムの検証	森崎浩一	2023年4月21日 広島市	日本ゴア合同会社
中四国 EVT カンファレンス	小林 平	手術オプションの無い CLTI の EVT 症例	弓場健一郎	2023年6月7日 web 開催	株式会社メディコスヒラタ
第3回中四国 EVT カンファレンス	小林 平	高度石灰化病変に対する血管内治療と戦略とテクニック	佐藤友保	2024年3月27日 web 開催	株式会社メディコスヒラタ
Hiroshima EVT summit 2023	小林 平	My Just Stream からの DCB	金子健二郎	2023年9月30日 広島市	株式会社メディコン
Hiroshima EVT summit 202	小林 平	LEAD：橈骨動脈アプローチ再考	市橋成夫	2023年11月2日 奈良市	NEXT
Fusion EVT Conference 2024	小林 平	Case Conference	医師3名	2024年1月6日 広島市	日本メドトロニック株式会社
XenoSure 症例検討会 in 山口	小林 平	総大 腿動脈病変における XenoSure の使用経験	群谷篤史	2023年11月24日 山口市	レメイトバスキュラー合同会社
中四国・関東 POBA summit 2023	小林 平	Special Lecture	山岡輝年 戸谷直樹	2024年2月8日 web 開催	カネカメディックス株式会社
VaSC in Hiroshima	小林 平	一般演題	医師4名	2024年3月23日 広島市	ボストン・サイエンティフィックジャパン株式会社

研究会座長

産婦人科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
西部地区産婦人科医会 学術講演会	中西慶喜	患者ニーズに応える月経困難 症治療～私はこうやって LEP 製剤を使い分けています！～	深沢瞳子	2023 年 7 月 6 日 広島市	西部地区産婦人科医 会、佐伯地区医師会、 あすか製薬株式会社
西部地区産婦人科医会 学術講演会	中西慶喜	月経困難症治療のパラダイム シフト～患者に合わせたオー ダーメイド治療～	阪埜浩司	2023 年 11 月 30 日 広島市	西部地区産婦人科医 会、佐伯地区医師会、 持田製薬株式会社

病理診断科・病理研究検査科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 76 回広島病理集談 会	在津潤一	スライドカンファレンス	服部結ほか 青江耕平ほか	2024 年 3 月 9 日 広島市	広島大学大学院医系 科学研究科病理学教 室

薬剤部

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 96 回広島県病院薬 剤師会薬剤業務研修会	平井俊明 大塚識稔	薬剤師が学ぶ臨床推論	東加奈子 川口 崇 小暮宗介	2023 年 11 月 11 日 広島市	広島県病院薬剤師会 薬剤業務委員会・中 外製薬株式会社
広島県病院薬剤師研修 会	白井敦史	薬剤師の連携は薬剤管理サマ リー作成だけで十分か？（急 性期病院・中小病院・保険薬 局の立場から）	菅原隆文 寺岡 豊 高橋久美子	2023 年 12 月 2 日 広島市	広島県病院薬剤師会 薬剤業務委員会・広 島県薬剤師会・大塚 製薬工場
広島県病院薬剤師会地 域医療連携支援検討委 員会研修会	白井敦史	糖尿病連携シリーズ研修会～ 質の高い服薬フォローアップ を实践しよう～	石田 翔 栗原鑑三 厚田幸一郎	2024 年 2 月 29 日 広島市	広島県病院薬剤師専 門委員会（糖尿病）・ 広島県病院薬剤師会 地域医療連携支援検 討委員会・広島県薬 剤師会・株式会社ア ステム

臨床研究検査科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島県臨床検査技師会 第 1 回生物化学分析部 門研修会	丸山恭平	血液ガス分析について基礎か ら学ぼう	濱田宏輝	2023 年 9 月 13 日 WEB 開催	広島県臨床検査技師 会・シーメンスヘル スケアダイアグノス ティクス株式会社
広島県臨床検査技師会 第 2 回生物化学分析部 門研修会	丸山恭平	検体検査の再測定・再検査と 臨床に必要なデータチェック	桑 克彦	2023 年 11 月 21 日 WEB 開催	広島県臨床検査技師 会・ロシュダイアグ ノスティクス株式 会社

放射線科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 20 回広島国際 フォーラム	秋里恭平	Deep learning CT image reconstruction の性能を測る！	川島広貴	2023 年 7 月 22 日 広島市	バイエル薬品株式 会社

緩和ケアチーム

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
シームレスな在宅がん 診療を考える会	田崎達也	在宅医療のあるべき姿～総合 病院から訪問診療への真の連 携	石川哲大	2023 年 7 月 4 日 廿日市市	佐伯地区医師会・第 一三共株式会社

地域活動

糖尿病・代謝内科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第18回あいプラザまつり	糖尿病代謝内科医師・コメディカル	地域住民	2023年11月5日 廿日市市		43人

小児科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
病弱児セミナー「こどもの慢性心疾患・腎疾患」	藤井 寛	保育・教育関係者	2024年1月20日 広島市	難病相談室	40人

外科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第20回廿日市市市民公開講座	田崎達也	廿日市市民など	2023年12月3日 廿日市市		360人

救急・集中治療科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第20回市民公開講座「はじめませんか人生会議」	高場章宏	市民	2023年12月5日 廿日市市		300人

外来

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
医療従事者研修会	山崎克仁	近隣医療施設の医療者	2024年6月3～30日 オンデマンド配信	JA広島総合病院	視聴者 120人
がん相談窓口	山崎克仁	一般市民	2024年2月26日 地域連携室	JA広島総合病院	5人

薬剤部

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
あいプラザまつり	瀧口幸子 片山雄一朗	地域住民	2023年11月5日 廿日市市		200名

放射線科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
レントゲン習慣イベント	山口裕之	市民	2023年11月5日 シャレオ中央広場		200人

臨床工学科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
ふれあいサロン「あなたの健康寿命は運動でもっと延ばせる！」	小島輝久 益田真吾	一般市民	2023年11月30日 廿日市市		130人

栄養科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
おしゃべりサロン 講師「がんと食事について」	河本良美	がん患者・医療従事者	2023年4月24日 廿日市市		
地域医療従事者研修会「経腸栄養剤の特徴を知ろう～目的に合った使用をめざして～」	上村真由美	地域医療従事者	2024年1月11日 廿日市市		16人

地域活動

感染防止対策室（ICT）

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
広島県感染症医療支援チーム活動	今本紀生 平本廉昂	施設職員	2023年6月27日 廿日市市		
広島県感染症医療支援チーム活動	今本紀生 平本廉昂	施設職員	2023年8月18日 廿日市市		
広島県感染症医療支援チーム活動	今本紀生 平本廉昂	施設職員	2023年9月4日 廿日市市		
高齢者福祉施設職員等講習事業	平本廉昂	・廿日市市老人福祉施設連絡協議会員・管内有料老人ホーム職員	2023年10月3日 廿日市市		
感染症対応能力向上に関する研修会	平本廉昂	施設職員	2023年10月24日 廿日市市		
福祉医療施設における感染症対策研修会	平本廉昂	施設職員	2023年11月30日 廿日市市		
看護協会研修「感染管理（実践編）」ファシリテーター	平本廉昂	病院職員	2023年12月5日 広島市		
地域医療従事者研修会	平本廉昂	廿日市地域医療従事者	2023年12月12～26日 Web開催		
新興感染症対策研修会（訓練）	平本廉昂	・JA広島総合病院院内予防に関する地域連携合同カンファレンス参加医療機関・大竹市医師会・佐伯地区医師会・管内医療機関（病院、診療所）・管内関係機関（薬剤師会、看護協会、消防署警察署、市など）・保健所	2024年1月25日 廿日市市・ハイブリッド		
広島県感染症医療支援チーム活動	今本紀生 平本廉昂	施設職員	2024年2月28日 廿日市市		

緩和ケアチーム

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第20回廿日市市市民公開講座	田崎達也 岡田恵美子	廿日市市民など	2023年12月3日 廿日市市		360人

雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演

画像診断部

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
海地陽子	画像診断道場・若年男性の右上肢筋力低下…原因は？	日本医事新報 No.5209	(株) 日本医事新報社	2024 年 2 月 24 日
海地陽子	涙腺の腫大…診断は？	日本医事新報 No.5214	(株) 日本医事新報社	2024 年 3 月 30 日

外来

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
山崎克仁	脳梗塞の原因	メディカ出版 FitNS	メディカ出版	未定 (有料オンライン)
山崎克仁	脳梗塞の原因病型	メディカ出版 FitNS	メディカ出版	未定 (有料オンライン)
山崎克仁	脳梗塞の治療	メディカ出版 FitNS	メディカ出版	未定 (有料オンライン)

合同カンファレンス

糖尿病・代謝内科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
第40回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	広島県西部地区糖尿病診療に関わる医師・コメディカル	2023年4月12日 廿日市市	
第41回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	広島県西部地区糖尿病診療に関わる医師・コメディカル	2023年8月9日 廿日市市	

感染防止対策室（ICT）

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
令和5年度第1回広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携合同カンファレンス	近藤丈博	連携施設 ICT（10施設）	2023年6月28日	
令和5年度第2回広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携合同カンファレンス	近藤丈博	連携施設 ICT（10施設）	2023年8月23日	
令和5年度第3回広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携合同カンファレンス	近藤丈博	連携施設 ICT（10施設）	2023年11月22日 Web開催	
・令和5年度第4回広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携合同カンファレンス・新興感染症対策研修会（訓練）・令和5年度新型インフルエンザ等実地研修	近藤丈博	・JA広島総合病院院内予防に関する地域連携合同カンファレンス参加医療機関・大竹市医師会・佐伯地区医師会・管内医療機関（病院、診療所）・管内関係機関（薬剤師会、看護協会、消防署、警察署、市など）・保健所	2024年1月25日 廿日市市・ハイブリッド	

緩和ケアチーム

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
広島県がん診療従事者対象緩和ケア研修会	田崎達也	医療者	2023年7月8日 廿日市市	

華道部

■クラブ概要

部員数：20名

代 表：臨床研究検査科 荒瀬／藤岡
放射線科 柳井

メンバー職種：医師・臨床検査技師・診療放射線
技師・看護師・事務職員など

■活動内容

華道部は新型コロナウイルス感染症流行のため休部していましたが、2023年度よりプリザーブドフラワー教室の活動を再開しました。

プリザーブドフラワーのレッスンは、廿日市市の商店街『今井生花店』より先生をお迎えし、季節に合わせたプリザーブドフラワーのアレンジメントなどを作成しています。不定期開催（およそ隔月）で部員の他に、グループウェア掲示板にてレッスンのご案内をし、参加希望者を広く募っています。中棟3階の職員休憩室で17時30分より1時間30分程度で、参加者は個々に作品を作ります。

■2023年度の活動報告

6月22日・23日（15名参加）

7月26日・27日（14名参加）

9月13日・28日（13名参加）

11月21日（10名参加）

12月21日（13名参加）

2月22日（7名参加）



■クラブアピール

プリザーブドフラワーのレッスンは、先生の作成された店頭販売ではなかなか見かけない季節を彩る作品サンプルを基に、材料を揃えていただき作成します。お花は天然の物を保存加工されており3年以上、管理次第では5年10年と飾って楽しむことができます。天然の花材はどれ一つ同じ物はありませんし、サンプル通りに作る決まりもありません。作成者の個性が光る作品を皆さんでワイワイ、時に集中して作り、楽しんでいます。作成の基本技術については先生に教えてもらいフォローもバッチリ。初心者から熟練者？も素敵な仕上がりになります。個人で準備する物は持ち帰り用の袋だけ！是非ご参加ください。



コロナ禍以前では池坊流派の生け花教室も行っていましたが、こちらは現在休止中となっています。

テニス部

クラブ概要

・部員数：11名

代 表：総合医療相談員 正 嶋 忠 貴

・メンバー（職種）：

医師・研修医・薬剤師・社会福祉士・看護師・
事務職員など

活動内容

・練習場所：佐伯運動公園（佐伯区五日市町）

・練習日：毎月1～2回 火曜日

・時 間：19：00～21：00

・活動時期：3月～11月 冬は休部

人が集まった時は、不定期で活動していますので、
いつでも声をかけてください。

・参加費、部費は徴収していません

・試合

第37回広島医療メイト杯

広島県医師テニス協会が主催する広島医療メイト杯（広島県職域対抗テニス大会）に参加しました。今年は諸事情で人数が集まらなかったため、1チームのみのエントリーとなりました。



Bブロック

試合結果										
Aブロック										
①	広島大学	内科	★	6-2	6-3	6-3	6-3	6-3	6-3	3-0 1
②	広島大学	内科	★	6-2	6-3	6-3	6-3	6-3	6-3	3-0 1
③	広島大学	内科	★	6-2	6-3	6-3	6-3	6-3	6-3	3-0 1
④	広島大学	内科	★	6-2	6-3	6-3	6-3	6-3	6-3	3-0 1
⑤	広島大学	内科	★	6-2	6-3	6-3	6-3	6-3	6-3	3-0 1
Bブロック										
①	マツダ	★	6-0	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	3-1 2
②	マツダ	★	6-0	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	3-1 2
③	マツダ	★	6-0	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	3-1 2
④	マツダ	★	6-0	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	3-1 2
⑤	マツダ	★	6-0	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	3-1 2
Cブロック										
①	JA	★	6-0	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	3-1 2
②	JA	★	6-0	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	3-1 2
③	JA	★	6-0	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	3-1 2
④	JA	★	6-0	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	3-1 2
⑤	JA	★	6-0	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	3-1 2
Dブロック										
①	JA	★	6-0	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	3-1 2
②	JA	★	6-0	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	3-1 2
③	JA	★	6-0	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	3-1 2
④	JA	★	6-0	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	3-1 2
⑤	JA	★	6-0	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1	3-1 2

結果みごと優勝です。来年は1つ上のAブロックで挑戦です。

交流会

慰労会、親睦会、忘年会（新年会）を行っています。

クラブアピール

経験している人達が優しく教えてくれますので、初めての方、久しぶりの方、子供と一緒にやってみようかなと思っている方大歓迎です。もちろんバシバシやりたい方も・・・。

色々な職種の人達とも顔見知りになりますよ。



試合風景

ゴルフ部（伯友会）

■クラブ概要

部員数：20 名

メンバー構成：医師、研修医、看護師、理学療法士、
社会福祉士

伯友会は昭和 45 年に活動を開始した大変歴史の
永いゴルフ同好会で、現在年 4 回の定期コンペを行っ
ています。ゴルフを通して親睦を図ると共に、地域
の医師会、歯科医師や薬剤師ともゴルフコンペを通
じて交流を図り病診連携に貢献しています。

■活動報告

第 188 回 伯友会コンペ

6 月 18 日 広島佐伯カントリー倶楽部、13 名参加

優 勝 高野正義（看護師）

準優勝 山本祐大（研修医）

3 位 長岡雄一（看護師）

第 189 回 伯友会コンペ

9 月 3 日 美和ゴルフクラブ、6 名参加

優 勝 山本祐大（研修医）

準優勝 大村翔太郎（看護師）

3 位 小深田義勝（OB）

第 190 回 伯友会コンペ

11 月 5 日 広島佐伯カントリー倶楽部、8 名参加

優 勝 佐伯翔（消化器内科）

準優勝 兼見良典（OB）

3 位 関口善孝（OB）

第 191 回 伯友会コンペ

11 月 5 日 広島安佐ゴルフクラブ、13 名参加

優 勝 小深田義勝（OB）

準優勝 碓井裕史（健康管理センター）

3 位 大加瀬浩一郎（ゲルベ・ジャパン）



第 188 回 伯友会コンペ

サッカー部

■クラブ概要

通称：広総ラツィオ

創設：19〇〇年

■活動内容・報告

練習

毎週月曜・金曜 20:00～21:30

場所：廿日市市サッカー場

三井ディスプレイグリーンフィールド

練習は廿日市FCが主催する練習に参加させていただき、地域の方々と共に汗を流して楽しんでいます。

■エンジョイエイトリーグ

廿日市サッカー協会が主体となっていて行われている社会人リーグに年間を通して参加しています。

ここ最近の順位は中盤の位置にいますが、毎年一つでも上の順位に行けるように楽しく頑張っています。

■クラブアピール

サッカーがやりたい方、運動がしたい方いつでも大歓迎ですので一緒に楽しみましょう。

ガチガチのサッカーではなくエンジョイサッカーなので気軽に参加していただけます。

コロナも解除されて心置きなく活動できるようになったので、皆さんの参加をお待ちしています。



フットサル部

■クラブ概要

- ・創 立：2014年8月
- ・代 表：栄養科 八幡 謙吾
- ・部員数：参加したことあれば部員扱い
※部費は徴収していません
- ・メンバー：
医師、研修医、看護師、管理栄養士、
臨床検査技師、臨床工学技士、放射線技師、
事務など当院職員、委託職員、元職員、
元委託職員やその家族

■活動内容

- ・定期練習：毎月1回 19:30～21:30
活動場所：ミズノフットサルプラザ広島（観音）他
参加費：1回 0～500円



※適宜懇親会や歓迎会あり

■クラブアピール

日々のストレスと運動不足解消、他職種交流を目的とし、2014年8月より活動を開始しています。

フットサルは、サッカーと違って接触プレーが少ないため、初心者や女性も一緒にプレーしやすいのが特徴です。

コロナ禍で2019年から活動自粛を余儀なくされましたが、2022年11月より活動を再開しています。

参加メンバーは随時募集中です！チーム医療を実践する上で、職種の垣根をこえた交流を行うことがとても大切だと感じています。院内に友達を増やして、楽しく仕事をしましょう♪



(2023. 8. 30)

★フットサル部に

興味をもってくれた方は
藤田、丸山、八幡など
写真に写っている人まで
お気軽にどうぞ！



バスケットボール部

■クラブ概要

- ・部員数：15 名程度
- ・部員（職種）
臨床研修医、看護師、診療放射線技師、検査技師、臨床工学者

■活動内容

- ・練習場所：阿品台中学校 体育館
- ・日時：毎週木曜日
- ・時間：19 時～ 21 時

■年間行事

2 月：メディカルバスケ（広島）、ホスピタルカップ（岡山）

■クラブアピール

広総バスケ部は 2012 年度から活動を開始し、メンバーも医師から事務職員まで幅広い職種で構成されています。発足当初は、「バスケがやりたい!」という経験者や「体を動かしたい!」、「何か運動がしたい!」という職員が集まり、今では十数人程で活動しています。活動内容は主に試合形式での練習であり、時には真剣に、時には笑いを交えながら活動を続けています。また、他職種間での交流の場にもなっているので、自身が勤める職種以外の仕事内容の話ができ、病院でも職種間の隔たりを気にすることもなくなり、仕事がとてもしやすくなりました。

2019 年からコロナが広まったことでクラブ活動が中止されていましたが、昨年度から活動再開し、今ではコロナ禍前のような和気藹々とした雰囲気を取り戻してきました。今年度も新人が加わり、益々盛り上がりを見せています。



2024 年 2 月には、医療従事者によるバスケの大会が広島と岡山で開催されました。広島での大会は県内の 14 の医療施設が集まり、JA 広総は決勝リーグにすすみ、4 位という好成績を残しました。岡山では全国から 47 のクラブチームが参加し、2 日間にわたって熱戦が繰り広げられました。しかもこの大会は、初心者の方も参加しやすい内容となっており、バスケ経験のある人もそうでない人も楽しめる 2 日間となりました。



現在も経験・未経験、男女問わず部員を募集しています。最近運動不足だからちょっと運動してみよう、体を動かしてストレスを発散しよう、ダイエットをしたい、なんていうきっかけからの参加・入部も大歓迎です。一緒にバスケ楽しみましょう!

■ Annual Report 2023 2023年(令和5年)度 年報 ■

資 料

診療科別外来患者数

2023 年度 月別外来患者数 (4～7 月)

科 別	4 月 (診療日数 20 日)				5 月 (診療日数 20 日)			
	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	5,034	793	5,827	291.4	4,897	753	5,650	282.5
（呼 吸 器 内 科）	650	113	763	38.2	631	108	739	37.0
（循 環 器 内 科）	928	199	1,127	56.4	873	191	1,064	53.2
（腎 臓 内 科）	647	50	697	34.9	655	32	687	34.4
（糖 尿 病 内 科）	1,153	89	1,242	62.1	1,162	95	1,257	62.9
（消 化 器 内 科）	1,383	291	1,674	83.7	1,290	259	1,549	77.5
（神 経 内 科）	58	13	71	3.6	70	10	80	4.0
（緩 和 ケ ア 科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（血 液 内 科）	18	4	22	1.1	17	8	25	1.3
（リウマチ膠原病科）	137	8	145	7.3	148	21	169	8.5
（総 合 診 療 科）	60	26	86	4.3	51	29	80	4.0
精 神 科	14	10	24	1.2	14	6	20	1.0
小 児 科	468	60	528	26.4	517	63	580	29.0
外 科	1,309	89	1,398	69.9	1,278	72	1,350	67.5
乳 腺 外 科	448	19	467	23.4	494	19	513	25.7
整 形 外 科	1,154	164	1,318	65.9	1,079	196	1,275	63.8
形 成 外 科	268	33	301	15.1	233	32	265	13.3
脳 神 経 外 科	499	72	571	28.6	526	84	610	30.5
呼 吸 器 外 科	304	19	323	16.2	293	25	318	15.9
心 臓 外 科	480	40	520	26.0	526	31	557	27.9
皮 膚 科	697	127	824	41.2	587	108	695	34.8
泌 尿 器 科	1,746	124	1,870	93.5	1,834	114	1,948	97.4
産 婦 人 科	726	133	859	43.0	707	133	840	42.0
眼 科	626	51	677	33.9	613	64	677	33.9
耳 鼻 科	630	136	766	38.3	622	153	775	38.8
治 療 科	596	23	619	31.0	490	22	512	25.6
麻 酔 科	61	284	345	17.3	72	295	367	18.4
救急・集中治療科	36	221	257	12.9	52	237	289	14.5
画 像 診 断 部	19	75	94	4.7	16	65	81	4.1
歯 口 腔 外 科	537	209	746	37.3	569	182	751	37.6
遺 伝 子 診 療 部	0	0	0	0.0	1	1	2	0.1
計	15,652	2,682	18,334	916.7	15,420	2,655	18,075	903.8
栗 谷 診 療 所	36	5	41	2.1	34	2	36	1.8
合 計	15,688	2,687	18,375	919	15,454	2,657	18,111	906

科 別	6 月 (診療日数 22 日)				7 月 (診療日数 20 日)			
	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	5,462	851	6,313	287.0	4,856	684	5,540	277.0
（呼 吸 器 内 科）	702	102	804	36.5	609	99	708	35.4
（循 環 器 内 科）	960	217	1,177	53.5	810	130	940	47.0
（腎 臓 内 科）	718	42	760	34.5	673	35	708	35.4
（糖 尿 病 内 科）	1,250	99	1,349	61.3	1,113	70	1,183	59.2
（消 化 器 内 科）	1,524	313	1,837	83.5	1,353	277	1,630	81.5
（神 経 内 科）	68	13	81	3.7	77	12	89	4.5
（緩 和 ケ ア 科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（血 液 内 科）	10	4	14	0.6	11	9	20	1.0
（リウマチ膠原病科）	172	30	202	9.2	163	22	185	9.3
（総 合 診 療 科）	58	31	89	4.0	47	30	77	3.9
精 神 科	11	9	20	0.9	19	10	29	1.5
小 児 科	500	87	587	26.7	548	69	617	30.9
外 科	1,419	97	1,516	68.9	1,248	93	1,341	67.1
乳 腺 外 科	515	27	542	24.6	445	28	473	23.7
整 形 外 科	1,252	212	1,464	66.5	1,190	204	1,394	69.7
形 成 外 科	325	41	366	16.6	321	32	353	17.7
脳 神 経 外 科	510	70	580	26.4	521	69	590	29.5
呼 吸 器 外 科	308	11	319	14.5	285	24	309	15.5
心 臓 外 科	482	44	526	23.9	502	31	533	26.7
皮 膚 科	709	136	845	38.4	651	151	802	40.1
泌 尿 器 科	1,892	96	1,988	90.4	1,641	93	1,734	86.7
産 婦 人 科	763	154	917	41.7	656	147	803	40.2
眼 科	612	43	655	29.8	553	46	599	30.0
耳 鼻 科	721	164	885	40.2	654	138	792	39.6
治 療 科	688	22	710	32.3	550	126	676	33.8
麻 酔 科	59	313	372	16.9	70	319	389	19.5
救急・集中治療科	59	236	295	13.4	70	227	297	14.9
画 像 診 断 部	18	56	74	3.4	18	55	73	3.7
歯 口 腔 外 科	617	226	843	38.3	549	196	745	37.3
遺 伝 子 診 療 部	1	0	1	0.0	1	0	1	0.1
計	16,923	2,895	19,818	900.8	15,348	2,742	18,090	904.5
栗 谷 診 療 所	31	1	32	1.5	40	1	41	2.1
合 計	16,954	2,896	19,850	902	15,388	2,743	18,131	907

2023 年度 月別外来患者数 (8～11月)

科 別	8 月 (診療日数 22 日)				9 月 (診療日数 20 日)			
	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	5,218	758	5,976	271.6	4,992	699	5,691	284.6
（呼 吸 器 内 科）	704	124	828	37.6	608	102	710	35.5
（循 環 器 内 科）	880	158	1,038	47.2	823	163	986	49.3
（腎 臓 内 科）	710	49	759	34.5	725	43	768	38.4
（糖 尿 病 内 科）	1,166	88	1,254	57.0	1,059	49	1,108	55.4
（消 化 器 内 科）	1,430	251	1,681	76.4	1,465	265	1,730	86.5
（神 経 内 科）	69	16	85	3.9	70	11	81	4.1
（緩 和 ケ ア 科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（血 液 内 科）	17	13	30	1.4	15	8	23	1.2
（リウマチ膠原病科）	189	26	215	9.8	175	19	194	9.7
（総 合 診 療 科）	53	33	86	3.9	52	39	91	4.6
精 神 科	18	11	29	1.3	17	9	26	1.3
小 児 科	630	59	689	31.3	527	59	586	29.3
外 科	1,329	93	1,422	64.6	1,339	76	1,415	70.8
乳 腺 外 科	514	28	542	24.6	494	32	526	26.3
整 形 外 科	1,309	184	1,493	67.9	1,050	165	1,215	60.8
形 成 外 科	283	28	311	14.1	282	24	306	15.3
脳 神 経 外 科	410	69	479	21.8	404	61	465	23.3
呼 吸 器 外 科	276	44	320	14.5	315	20	335	16.8
心 臓 外 科	416	25	441	20.0	511	25	536	26.8
皮 膚 科	681	129	810	36.8	660	133	793	39.7
泌 尿 器 科	1,847	112	1,959	89.0	1,854	99	1,953	97.7
産 婦 人 科	739	172	911	41.4	732	179	911	45.6
眼 科	634	40	674	30.6	542	46	588	29.4
耳 鼻 科	727	142	869	39.5	677	130	807	40.4
治 療 科	663	23	686	31.2	705	53	758	37.9
麻 酔 科	78	310	388	17.6	66	279	345	17.3
救 急 ・ 集 中 治 療 科	77	228	305	13.9	63	224	287	14.4
画 像 診 断 部	21	58	79	3.6	16	60	76	3.8
歯 口 腔 外 科	560	224	784	35.6	589	225	814	40.7
遺 伝 子 診 療 部	1	0	1	0.0	1	0	1	0.1
計	16,431	2,737	19,168	871.3	15,836	2,598	18,434	921.7
栗 谷 診 療 所	26	1	27	1.2	43	2	45	2.3
合 計	16,457	2,738	19,195	873	15,879	2,600	18,479	924

科 別	10 月 (診療日数 21 日)				11 月 (診療日数 20 日)			
	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	5,259	760	6,019	286.6	5,164	748	5,912	295.6
（呼 吸 器 内 科）	640	118	758	36.1	597	87	684	34.2
（循 環 器 内 科）	958	158	1,116	53.1	903	167	1,070	53.5
（腎 臓 内 科）	674	51	725	34.5	698	39	737	36.9
（糖 尿 病 内 科）	1,124	69	1,193	56.8	1,147	90	1,237	61.9
（消 化 器 内 科）	1,534	287	1,821	86.7	1,494	297	1,791	89.6
（神 経 内 科）	61	14	75	3.6	70	16	86	4.3
（緩 和 ケ ア 科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（血 液 内 科）	29	9	38	1.8	14	4	18	0.9
（リウマチ膠原病科）	182	24	206	9.8	182	20	202	10.1
（総 合 診 療 科）	57	30	87	4.1	59	28	87	4.4
精 神 科	26	9	35	1.7	10	10	20	1.0
小 児 科	505	55	560	26.7	480	77	557	27.9
外 科	1,361	80	1,441	68.6	1,371	90	1,461	73.1
乳 腺 外 科	481	37	518	24.7	472	28	500	25.0
整 形 外 科	1,191	169	1,360	64.8	1,213	190	1,403	70.2
形 成 外 科	296	42	338	16.1	245	43	288	14.4
脳 神 経 外 科	511	81	592	28.2	380	58	438	21.9
呼 吸 器 外 科	345	22	367	17.5	311	28	339	17.0
心 臓 外 科	544	42	586	27.9	458	39	497	24.9
皮 膚 科	651	144	795	37.9	652	143	795	39.8
泌 尿 器 科	1,887	128	2,015	96.0	1,724	99	1,823	91.2
産 婦 人 科	763	194	957	45.6	719	218	937	46.9
眼 科	542	56	598	28.5	570	55	625	31.3
耳 鼻 科	691	128	819	39.0	674	129	803	40.2
治 療 科	706	24	730	34.8	633	24	657	32.9
麻 酔 科	60	346	406	19.3	54	314	368	18.4
救 急 ・ 集 中 治 療 科	51	235	286	13.6	63	233	296	14.8
画 像 診 断 部	23	75	98	4.7	18	65	83	4.2
歯 口 腔 外 科	623	215	838	39.9	580	175	755	37.8
遺 伝 子 診 療 部	2	0	2	0.1	3	0	3	0.2
計	16,518	2,842	19,360	921.9	15,794	2,766	18,560	928.0
栗 谷 診 療 所	32	2	34	1.6	38	2	40	2.0
合 計	16,550	2,844	19,394	924	15,832	2,768	18,600	930

2023 年度 月別外来患者数 (12～3月)

科 別	12 月 (診療日数 21 日)				1 月 (診療日数 19 日)			
	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	5,269	803	6,072	289.1	5,018	695	5,713	300.7
（呼 吸 器 内 科）	635	109	744	35.4	597	92	689	36.3
（循 環 器 内 科）	907	175	1,082	51.5	845	149	994	52.3
（腎 臓 内 科）	711	45	756	36.0	738	50	788	41.5
（糖 尿 病 内 科）	1,176	72	1,248	59.4	1,142	83	1,225	64.5
（消 化 器 内 科）	1,518	329	1,847	88.0	1,410	254	1,664	87.6
（神 経 内 科）	70	16	86	4.1	65	15	80	4.2
（緩 和 ケ ア 科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（血 液 内 科）	11	6	17	0.8	10	6	16	0.8
（リウマチ膠原病科）	177	18	195	9.3	168	20	188	9.9
（総 合 診 療 科）	64	33	97	4.6	43	26	69	3.6
精 神 科	14	11	25	1.2	11	4	15	0.8
小 児 科	557	55	612	29.1	465	55	520	27.4
外 科	1,389	85	1,474	70.2	1,213	73	1,286	67.7
乳 腺 外 科	501	43	544	25.9	447	30	477	25.1
整 形 外 科	1,211	162	1,373	65.4	1,174	154	1,328	69.9
形 成 外 科	341	40	381	18.1	299	43	342	18.0
脳 神 経 外 科	475	61	536	25.5	470	78	548	28.8
呼 吸 器 外 科	303	16	319	15.2	273	26	299	15.7
心 臓 外 科	522	29	551	26.2	457	41	498	26.2
皮 膚 科	621	111	732	34.9	573	149	722	38.0
泌 尿 器 科	1,861	103	1,964	93.5	1,630	100	1,730	91.1
産 婦 人 科	750	192	942	44.9	637	139	776	40.8
眼 科	632	49	681	32.4	567	35	602	31.7
耳 鼻 科	665	142	807	38.4	627	139	766	40.3
治 療 科	617	23	640	30.5	646	23	669	35.2
麻 酔 科	55	299	354	16.9	46	297	343	18.1
救急・集中治療科	74	279	353	16.8	66	296	362	19.1
画 像 診 断 部	17	64	81	3.9	17	51	68	3.6
歯 口 腔 外 科	606	211	817	38.9	581	236	817	43.0
遺 伝 子 診 療 部	3	0	3	0.1	6	0	6	0.3
計	16,483	2,778	19,261	917.2	15,223	2,664	17,887	941.4
栗 谷 診 療 所	40	3	43	2.0	33	2	35	1.8
合 計	16,523	2,781	19,304	919	15,256	2,666	17,922	943

科 別	2 月 (診療日数 19 日)				3 月 (診療日数 20 日)			
	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	5,015	720	5,735	301.8	5,148	734	5,882	294.1
（呼 吸 器 内 科）	626	111	737	38.8	627	129	756	37.8
（循 環 器 内 科）	847	166	1,013	53.3	942	158	1,100	55.0
（腎 臓 内 科）	700	36	736	38.7	735	39	774	38.7
（糖 尿 病 内 科）	1,143	81	1,224	64.4	1,045	64	1,109	55.5
（消 化 器 内 科）	1,390	259	1,649	86.8	1,490	265	1,755	87.8
（神 経 内 科）	67	10	77	4.1	60	10	70	3.5
（緩 和 ケ ア 科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（血 液 内 科）	12	9	21	1.1	13	5	18	0.9
（リウマチ膠原病科）	192	24	216	11.4	174	18	192	9.6
（総 合 診 療 科）	38	24	62	3.3	62	46	108	5.4
精 神 科	12	5	17	0.9	15	15	30	1.5
小 児 科	497	52	549	28.9	610	54	664	33.2
外 科	1,215	79	1,294	68.1	1,370	74	1,444	72.2
乳 腺 外 科	472	30	502	26.4	531	32	563	28.2
整 形 外 科	1,193	155	1,348	70.9	1,097	80	1,177	58.9
形 成 外 科	308	35	343	18.1	315	43	358	17.9
脳 神 経 外 科	401	52	453	23.8	490	59	549	27.5
呼 吸 器 外 科	279	19	298	15.7	291	18	309	15.5
心 臓 外 科	415	27	442	23.3	588	37	625	31.3
皮 膚 科	552	128	680	35.8	591	132	723	36.2
泌 尿 器 科	1,653	114	1,767	93.0	1,866	97	1,963	98.2
産 婦 人 科	670	142	812	42.7	734	126	860	43.0
眼 科	591	25	616	32.4	450	27	477	23.9
耳 鼻 科	601	148	749	39.4	678	170	848	42.4
治 療 科	689	27	716	37.7	691	26	717	35.9
麻 酔 科	55	313	368	19.4	71	285	356	17.8
救急・集中治療科	100	241	341	17.9	55	242	297	14.9
画 像 診 断 部	19	46	65	3.4	20	57	77	3.9
歯 口 腔 外 科	515	230	745	39.2	506	315	821	41.1
遺 伝 子 診 療 部	2	0	2	0.1	4	0	4	0.2
計	15,254	2,588	17,842	939.1	16,121	2,623	18,744	937.2
栗 谷 診 療 所	33	1	34	1.8	43	1	44	2.2
合 計	15,287	2,589	17,876	941	16,164	2,624	18,788	939

診療科別入院患者数

2023 年度 月別入院患者数 (4～7月)

科 別	4月(診療日数 30日)				5月(診療日数 31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	263	312	3,733	124.4	285	333	3,681	118.7
(呼吸器内科)	42	59	900	30.0	61	77	1,018	32.8
(循環器内科)	58	72	868	28.9	70	75	931	30.0
(腎臓内科)	17	14	311	10.4	15	24	378	12.2
(糖尿病内科)	6	5	80	2.7	5	4	81	2.6
(消化器内科)	139	160	1,525	50.8	133	152	1,232	39.7
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(リウマチ膠原病科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	1	2	49	1.6	1	1	41	1.3
精 神 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	13	14	85	2.8	34	31	151	4.9
外 科	112	121	1,315	43.8	99	102	1,236	39.9
乳 腺 外 科	20	21	110	3.7	23	20	115	3.7
整 形 外 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
臨 床 腫 瘍 科	97	96	1,358	45.3	84	107	1,294	41.7
形 成 外 科	4	4	6	0.2	5	6	20	0.6
脳 神 経 外 科	37	55	839	28.0	45	53	786	25.4
呼 吸 器 外 科	28	31	288	9.6	27	29	259	8.4
心 臓 外 科	40	39	813	27.1	36	40	772	24.9
皮 膚 科	13	10	187	6.2	9	15	139	4.5
泌 尿 器 科	90	106	743	24.8	80	89	711	22.9
産 婦 人 科	54	53	333	11.1	57	62	422	13.6
眼 科	22	23	55	1.8	26	22	58	1.9
耳 鼻 科	31	45	393	13.1	39	37	335	10.8
治 療 科	0	1	23	0.8	0	0	0	0.0
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救急・集中治療科	171	48	481	16.0	178	67	605	19.5
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 口 腔 外 科	8	6	55	1.8	5	5	35	1.1
遺 伝 子 診 療 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
合 計	1,003	985	10,817	360.6	1,032	1,018	10,619	342.5

科 別	6月(診療日数 30日)				7月(診療日数 31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	311	375	4,076	135.9	265	337	3,975	128.2
(呼吸器内科)	53	78	963	32.1	38	61	943	30.4
(循環器内科)	61	83	837	27.9	64	78	872	28.1
(腎臓内科)	28	33	448	14.9	19	22	399	12.9
(糖尿病内科)	9	9	134	4.5	4	9	83	2.7
(消化器内科)	160	172	1,664	55.5	139	166	1,630	52.6
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(リウマチ膠原病科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	0	0	30	1.0	1	1	48	1.5
精 神 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	36	32	162	5.4	33	36	206	6.6
外 科	122	111	1,436	47.9	122	139	1,595	51.5
乳 腺 外 科	18	19	118	3.9	20	21	128	4.1
整 形 外 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
臨 床 腫 瘍 科	71	82	1,208	40.3	82	93	1,325	42.7
形 成 外 科	6	3	46	1.5	4	4	76	2.5
脳 神 経 外 科	34	51	678	22.6	26	41	612	19.7
呼 吸 器 外 科	22	26	316	10.5	24	27	234	7.5
心 臓 外 科	43	38	803	26.8	41	50	789	25.5
皮 膚 科	13	11	151	5.0	13	13	245	7.9
泌 尿 器 科	84	88	680	22.7	77	82	682	22.0
産 婦 人 科	47	41	382	12.7	55	55	406	13.1
眼 科	23	27	67	2.2	27	23	45	1.5
耳 鼻 科	39	47	332	11.1	48	48	420	13.5
治 療 科	1	0	15	0.5	1	2	8	0.3
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救急・集中治療科	185	69	573	19.1	181	60	606	19.5
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 口 腔 外 科	12	12	105	3.5	9	8	102	3.3
遺 伝 子 診 療 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
合 計	1,067	1,032	11,148	371.6	1,028	1,039	11,454	369.5

2023 年度 月別入院患者数 (8～11月)

科 別	8 月 (診療日数 31 日)				9 月 (診療日数 30 日)			
	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当
内 科	268	355	3,841	123.9	241	318	3,579	119.3
（呼 吸 器 内 科）	40	72	1,063	34.3	42	67	976	32.5
（循 環 器 内 科）	56	67	780	25.2	58	68	674	22.5
（腎 臓 内 科）	26	38	438	14.1	17	27	516	17.2
（糖 尿 病 内 科）	3	8	79	2.5	7	9	63	2.1
（消 化 器 内 科）	142	170	1,409	45.5	116	144	1,280	42.7
（神 経 内 科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（緩 和 ケ ア 科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（血 液 内 科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（リウマチ膠原病科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（総 合 診 療 科）	1	0	72	2.3	1	3	70	2.3
精 神 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	24	28	132	4.3	32	29	165	5.5
外 科	112	137	1,522	49.1	108	112	1,299	43.3
乳 腺 外 科	21	19	120	3.9	16	20	179	6.0
整 形 外 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
臨 床 腫 瘍 科	76	88	1,410	45.5	75	99	1,303	43.4
形 成 外 科	5	7	67	2.2	6	5	48	1.6
脳 神 経 外 科	38	52	631	20.4	35	46	618	20.6
呼 吸 器 外 科	31	30	347	11.2	28	38	379	12.6
心 臓 外 科	34	36	714	23.0	33	35	554	18.5
皮 膚 科	9	14	147	4.7	10	9	94	3.1
泌 尿 器 科	107	105	658	21.2	80	89	551	18.4
産 婦 人 科	43	54	314	10.1	59	51	412	13.7
眼 科	33	36	57	1.8	19	20	40	1.3
耳 鼻 科	48	50	348	11.2	37	46	407	13.6
治 療 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 ・ 集 中 治 療 科	178	46	578	18.6	190	72	734	24.5
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 口 腔 外 科	7	7	63	2.0	3	6	16	0.5
遺 伝 子 診 療 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
合 計	1,034	1,064	10,949	353.2	972	995	10,378	345.9

科 別	10 月 (診療日数 31 日)				11 月 (診療日数 30 日)			
	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当
内 科	289	341	4,038	130.3	268	340	3,578	119.3
（呼 吸 器 内 科）	43	65	1,201	38.7	50	68	1,019	34.0
（循 環 器 内 科）	73	79	709	22.9	54	78	707	23.6
（腎 臓 内 科）	22	30	475	15.3	17	29	460	15.3
（糖 尿 病 内 科）	5	8	63	2.0	6	8	76	2.5
（消 化 器 内 科）	146	158	1,549	50.0	140	156	1,260	42.0
（神 経 内 科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（緩 和 ケ ア 科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（血 液 内 科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（リウマチ膠原病科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（総 合 診 療 科）	0	1	41	1.3	1	1	56	1.9
精 神 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	23	27	130	4.2	18	20	96	3.2
外 科	117	123	1,349	43.5	114	126	1,338	44.6
乳 腺 外 科	27	26	182	5.9	23	23	176	5.9
整 形 外 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
臨 床 腫 瘍 科	105	110	1,428	46.1	80	100	1,354	45.1
形 成 外 科	3	5	69	2.2	5	3	66	2.2
脳 神 経 外 科	52	55	740	23.9	35	58	822	27.4
呼 吸 器 外 科	35	42	315	10.2	34	32	369	12.3
心 臓 外 科	43	42	719	23.2	34	35	574	19.1
皮 膚 科	11	17	177	5.7	10	12	100	3.3
泌 尿 器 科	99	107	754	24.3	80	85	642	21.4
産 婦 人 科	62	70	565	18.2	54	54	379	12.6
眼 科	25	21	34	1.1	31	33	55	1.8
耳 鼻 科	29	34	282	9.1	35	32	289	9.6
治 療 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 ・ 集 中 治 療 科	204	73	657	21.2	209	65	674	22.5
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 口 腔 外 科	11	8	100	3.2	8	10	96	3.2
遺 伝 子 診 療 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
合 計	1,135	1,101	11,539	372.2	1,038	1,028	10,608	353.6

2023 年度 月別入院患者数 (12～3月)

科 別	12 月 (診療日数 31 日)				1 月 (診療日数 31 日)			
	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当
内 科	278	360	3,918	126.4	311	348	4,400	141.9
（呼 吸 器 内 科）	51	74	964	31.1	51	72	1,140	36.8
（循 環 器 内 科）	70	71	906	29.2	70	80	1,006	32.5
（腎 臓 内 科）	17	32	451	14.5	27	33	523	16.9
（糖 尿 病 内 科）	8	9	112	3.6	11	9	159	5.1
（消 化 器 内 科）	132	172	1,437	46.4	151	151	1,524	49.2
（神 経 内 科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（緩 和 ケ ア 科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（血 液 内 科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（リウマチ膠原病科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（総 合 診 療 科）	0	2	48	1.5	1	3	48	1.5
精 神 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	22	18	117	3.8	29	29	133	4.3
外 科	111	138	1,339	43.2	110	98	1,275	41.1
乳 腺 外 科	24	28	171	5.5	24	19	174	5.6
整 形 外 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
臨 床 腫 瘍 科	78	101	1,328	42.8	70	70	1,283	41.4
形 成 外 科	6	7	55	1.8	3	4	35	1.1
脳 神 経 外 科	36	54	628	20.3	41	41	731	23.6
呼 吸 器 外 科	26	46	380	12.3	34	23	328	10.6
心 臓 外 科	38	51	781	25.2	47	40	718	23.2
皮 膚 科	13	12	144	4.6	5	3	104	3.4
泌 尿 器 科	77	110	712	23.0	99	93	669	21.6
産 婦 人 科	54	60	411	13.3	53	45	417	13.5
眼 科	26	28	60	1.9	31	31	61	2.0
耳 鼻 科	32	41	233	7.5	33	31	234	7.5
治 療 科	1	0	12	0.4	1	1	46	1.5
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救急・集中治療科	192	61	690	22.3	192	69	755	24.4
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 口 腔 外 科	7	7	49	1.6	8	6	76	2.5
遺 伝 子 診 療 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
合 計	1,021	1,122	11,028	355.7	1,091	951	11,439	369.0

科 別	2 月 (診療日数 29 日)				3 月 (診療日数 31 日)			
	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当
内 科	271	345	4,207	145.1	275	376	4,262	137.5
（呼 吸 器 内 科）	39	59	1,035	35.7	46	72	1,032	33.3
（循 環 器 内 科）	73	87	956	33.0	67	94	1,072	34.6
（腎 臓 内 科）	14	34	543	18.7	20	32	384	12.4
（糖 尿 病 内 科）	6	9	112	3.9	8	15	206	6.6
（消 化 器 内 科）	139	155	1,487	51.3	132	161	1,506	48.6
（神 経 内 科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（緩 和 ケ ア 科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（血 液 内 科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（リウマチ膠原病科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（総 合 診 療 科）	0	1	74	2.6	2	2	62	2.0
精 神 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	14	13	87	3.0	30	31	139	4.5
外 科	104	122	1,315	45.3	96	106	1,190	38.4
乳 腺 外 科	22	23	174	6.0	23	26	144	4.6
整 形 外 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
臨 床 腫 瘍 科	70	84	1,222	42.1	50	84	1,191	38.4
形 成 外 科	5	5	13	0.4	10	9	26	0.8
脳 神 経 外 科	32	49	706	24.3	45	60	846	27.3
呼 吸 器 外 科	28	29	319	11.0	18	27	332	10.7
心 臓 外 科	36	36	741	25.6	41	51	787	25.4
皮 膚 科	10	12	207	7.1	6	9	151	4.9
泌 尿 器 科	93	99	627	21.6	103	111	647	20.9
産 婦 人 科	50	57	315	10.9	47	48	335	10.8
眼 科	25	23	53	1.8	22	24	28	0.9
耳 鼻 科	38	42	261	9.0	33	32	275	8.9
治 療 科	1	2	17	0.6	0	0	0	0.0
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救急・集中治療科	183	59	738	25.4	174	56	645	20.8
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 口 腔 外 科	7	7	63	2.2	5	7	47	1.5
遺 伝 子 診 療 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
合 計	989	1,007	11,065	381.6	978	1,057	11,045	356.3

患者数の推移

年度別外来患者数

年 度	2020 年度（診療日数 244 日）				2021 年（診療日数 243 日）				2022 年度（診療日数 244 日）				2023 年度（診療日数 244 日）			
科 別	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	63,512	8,294	71,806	288.8	66,085	8,259	74,344	305.9	59,930	7,902	67,832	278.0	61,332	8,998	70,330	288.2
精神科・心療内科	195	91	286	1.1	206	100	306	1.3	259	77	336	1.4	181	109	290	1.2
小 児 科	7,323	835	8,158	40.8	6,914	844	7,758	31.9	6,175	801	6,976	28.6	6,304	745	7,049	28.9
外科・乳腺外科	20,253	1,602	21,855	93.3	16,344	1,179	17,523	72.1	21,649	1,461	23,110	94.7	21,655	1,354	23,009	94.3
整 形 外 科	12,323	2,118	14,441	62.4	14,356	2,265	16,621	68.4	13,908	2,122	16,030	65.7	14,113	2,035	16,148	66.2
形 成 外 科	2,827	325	3,152	16.0	3,245	321	3,566	14.7	3,216	308	3,524	14.4	3,516	436	3,952	16.2
脳 神 経 外 科	11,107	1,504	12,611	62.3	5,231	814	6,045	24.9	5,224	821	6,045	24.8	5,597	814	6,411	26.3
呼 吸 器 外 科	3,340	554	3,894	16.3	3,397	803	4,200	17.3	3,372	233	3,605	14.8	3,583	272	3,855	15.8
心臓・血管外科	5,434	341	5,775	25.3	5,704	331	6,035	24.8	5,666	361	6,027	24.7	5,901	411	6,312	25.9
皮 膚 科	7,729	1,591	9,320	52.1	8,187	1,589	9,776	40.2	8,238	1,521	9,759	40.0	7,625	1,591	9,216	37.8
泌 尿 器 科	22,522	1,277	23,799	95.8	22,939	1,273	24,212	99.6	21,636	1,282	22,918	93.9	21,435	1,279	22,714	93.1
産 婦 人 科	12,026	1,247	13,273	57.8	11,764	1,199	12,963	53.3	9,538	1,629	11,167	45.8	8,596	1,929	10,525	43.1
眼 科	8,892	560	9,452	42.4	8,732	570	9,302	38.3	7,520	570	8,090	33.2	6,932	537	7,469	30.6
耳 鼻 咽 喉 科	5,862	1,753	7,615	39.0	6,687	1,952	8,639	35.6	7,223	1,553	8,776	36.0	7,967	1,719	9,686	39.7
放射線治療科	7,720	286	8,006	36.3	7,347	323	7,670	31.6	7,261	294	7,555	31.0	7,674	416	8,090	33.2
麻 酔 科	549	3,454	4,003	19.6	671	3,661	4,332	17.8	711	3,465	4,176	17.1	747	3,654	4,401	18.0
救 急 科	606	2,270	2,876	16.0	635	2,387	3,022	12.4	644	2,492	3,136	12.9	766	2,899	3,665	15.0
画 像 診 断 部	229	630	859	4.0	194	637	831	3.4	204	717	921	3.8	222	727	949	3.9
歯科口腔外科	5,556	1,633	7,189	36.0	6,296	1,897	8,193	33.7	6,176	1,804	7,980	32.7	6,832	2,644	9,476	38.8
遺伝子診療部	4	3	7	0.0	2	4	6	0.0	2	4	6	0.0	25	1	26	0.1
計	198,009	30,368	228,377	1,004.8	200,878	30,841	231,719	954	188,552	29,417	217,969	893	191,003	32,570	223,573	916
栗谷診療所	496	26	522	2.6	487	16	503	2.1	445	10	455	1.9	429	23	452	1.9
合 計	198,505	30,394	228,899	1,007	201,365	30,857	232,222	956	188,997	29,427	218,424	895.2	191,432	32,593	224,025	918.1

年度別入院患者数

年 度	2020 年度（診療日数 365 日）				2021 年（診療日数 365 日）				2022 年度（診療日数 365 日）				2023 年度（診療日数 366 日）			
科 別	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当
内 科	3,157	3,810	44,569	149.1	3,318	3,903	42,829	117.3	2,972	3,621	43,014	117.8	3,325	4,140	47,288	129.2
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	366	365	2,001	10.4	313	311	1,496	4.1	246	249	1,412	3.9	308	308	1,603	4.4
外科・乳腺外科	1,437	1,549	18,196	61.4	1,246	1,335	16,862	46.2	1,475	1,604	18,105	49.6	1,588	1,700	18,000	49.2
整 形 外 科	1,098	1,240	15,580	55.6	1,174	1,298	16,948	46.4	1,062	1,190	15,969	43.8	938	1,114	15,704	42.9
形 成 外 科	56	59	713	2.7	54	54	442	1.2	48	51	308	0.8	62	62	527	1.4
脳 神 経 外 科	376	511	10,444	32.5	361	504	9,146	25.1	441	598	10,442	28.6	456	615	8,637	23.6
呼 吸 器 外 科	319	341	4,734	13.9	292	312	4,492	12.3	270	312	3,857	10.6	335	380	3,866	10.6
心臓・血管外科	424	462	7,782	28.7	397	410	7,779	21.3	375	432	8,669	23.8	466	493	8,765	23.9
皮 膚 科	142	161	2,021	4.7	109	133	1,901	5.2	110	130	1,495	4.1	122	137	1,846	5.0
泌 尿 器 科	988	1,069	8,163	26.3	967	1,039	7,331	20.1	1,021	1,119	8,707	23.9	1,069	1,164	8,076	22.1
産 婦 人 科	941	954	6,971	29.8	873	881	6,670	18.3	720	733	4,980	13.6	635	650	4,691	12.8
眼 科	373	379	1,286	3.9	350	346	1,136	3.1	312	315	976	2.7	310	311	613	1.7
耳 鼻 咽 喉 科	383	406	3,625	13.4	394	427	3,569	9.8	413	419	3,722	10.2	442	485	3,809	10.4
放射線治療科	25	30	740	5.1	12	14	342	0.9	8	8	150	0.4	5	6	121	0.3
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救急麻酔科	1,842	582	4,122	16.7	1,686	586	5,407	14.8	1,743	489	4,634	12.7	2,237	745	7,736	21.1
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯科口腔外科	95	96	821	4.2	64	64	613	1.7	76	77	552	1.5	90	89	807	2.2
計	12,022	12,014	131,768	458.3	11,873	11,884	128,805	352.9	11,292	11,347	126,992	347.9	12,307	12,327	131,921	360.4

平均在院日数

2023 年度 月別 診療科別 平均在院日数

(単位: 日数)

科別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内 科		14.5	13.4	13.4	15.0	13.4	14.4	14.2	13.3	13.6	14.6	15.1	14.5
小 児 科		6.3	4.6	4.8	6.0	5.1	5.4	5.2	5.1	6.0	4.6	6.4	4.6
外 科		13.0	13.9	13.4	14.0	13.8	13.4	11.9	13.4	12.7	14.1	13.7	13.0
整 形 外 科		14.1	13.4	16.1	14.9	17.1	14.9	13.7	14.9	14.7	18.5	16.1	18.0
形 成 外 科		1.5	3.6	10.2	19.0	11.2	8.0	17.3	16.5	8.5	10.0	2.6	2.7
乳 腺 外 科		5.4	5.5	6.4	6.4	6.4	10.3	7.1	7.6	6.6	8.1	7.7	5.9
脳 神 経 外 科		19.0	16.6	16.5	18.5	14.0	15.4	13.8	18.0	13.9	16.8	18.2	16.5
呼 吸 器 外 科		9.8	8.4	13.5	9.3	11.7	11.4	8.0	11.7	10.7	11.5	11.2	14.8
心 臓 血 管 外 科		20.7	19.0	18.5	17.3	20.2	15.2	16.0	16.8	18.1	16.9	20.6	17.9
皮 膚 科		16.0	12.5	12.6	18.8	12.8	9.9	13.0	8.0	9.0	18.3	18.3	20.1
泌 尿 器 科		9.9	10.4	9.4	10.0	8.2	8.1	8.6	9.6	8.9	8.3	7.7	7.4
産 婦 人 科		6.7	8.0	11.0	8.9	7.1	8.4	10.3	7.8	8.6	9.6	6.3	8.5
眼 科		3.8	3.6	3.6	4.0	2.2	4.2	3.2	2.9	6.5	3.1	4.2	2.3
耳 鼻 咽 喉 科		10.2	8.8	7.7	8.4	6.4	9.8	8.4	8.0	6.5	7.3	6.5	8.5
放 射 線 治 療 科		46.0		30.0	5.3					24.0	46.0	11.3	
歯 科 口 腔 外 科		7.9	7.0	8.8	12.0	9.0	3.6	10.5	8.4	7.0	10.9	9.0	7.8
緩 和 ケ ア 科													
総 合 診 療 科		32.7	41.0		48.0	144.0	35.0	82.0	56.0	48.0	24.0	148.0	31.0
救 急 科 ・ 麻 酔 科		4.3	4.9	4.6	5.2	4.9	5.5	4.7	4.8	5.6	5.7	6.1	5.4
計		11.9	11.2	11.5	12.1	11.3	11.4	11.1	11.3	11.3	12.1	12.2	11.9

2023 年度 月別 病棟別 平均在院日数

(単位: 日数)

科別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
西 病 棟	3 F	12.5	15.9	14.1	16.5	11.4	13.2	9.2	21.7	13.5	10.5	15.3	16.8
	4 F	7.1	7.9	9.3	8.7	6.9	8.7	8.7	7.8	8.6	9.1	7.3	7.9
	5 F	13.4	12.2	14.3	14.2	16.9	14.5	12.6	14.0	14.4	17.2	15.8	17.1
	6 F	13.1	13.3	13.9	13.9	14.8	12.9	11.4	13.4	12.2	13.7	14.1	14.5
	7 F	15.1	12.5	14.5	15.5	12.0	14.1	15.0	12.2	12.9	13.3	13.0	13.7
	8 F	7.2	7.1	9.5	12.6	9.9	13.2	15.6	13.3	11.1	14.4	19.3	15.9
	救 命	3.3	2.5	3.2	3.0	4.2	3.3	2.7	2.4	2.8	3.2	3.8	3.5
東 病 棟	3 F	16.5	15.7	12.0	14.3	15.9	13.1	12.0	11.8	16.6	16.0	13.3	14.6
	4 F	9.2	8.5	7.0	8.3	6.8	7.8	7.6	8.1	7.7	6.8	6.6	6.8
	5 F	13.8	13.8	13.1	16.7	12.0	11.4	13.9	14.1	12.7	14.9	15.6	12.8
	6 F					34.0							
	7 F	14.3	13.4	15.7	11.9	12.9	14.2	12.0	13.0	12.5	13.9	15.1	13.2
計		11.9	11.2	11.5	12.1	11.3	11.4	11.1	11.3	11.3	12.1	12.2	11.9

資
料

地域医療支援病院紹介率・逆紹介率

2023 年度
地域医療支援病院紹介率（月別）

月別	紹介率
4月	91.2%
5月	93.5%
6月	92.4%
7月	90.4%
8月	91.1%
9月	91.6%
10月	90.6%
11月	92.4%
12月	92.2%
1月	92.7%
2月	93.0%
3月	93.8%
合 計	92.1%

2023 年度
地域医療支援病院逆紹介率（月別）

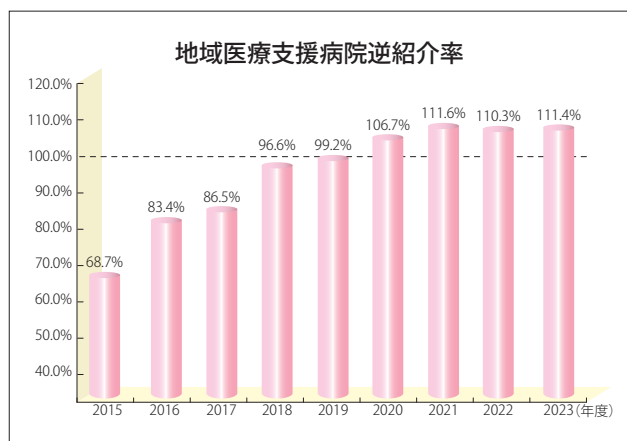
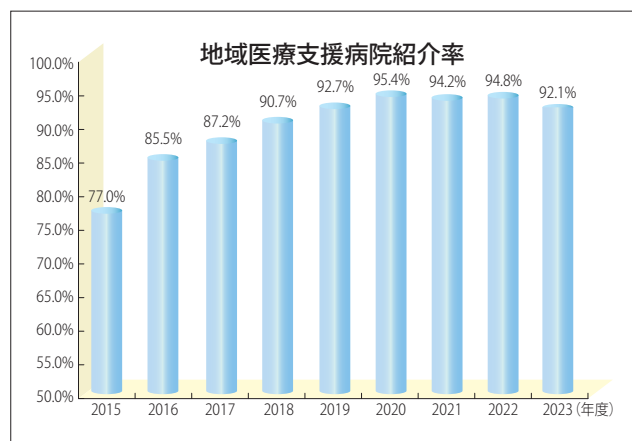
月別	逆紹介率
4月	110.7%
5月	109.0%
6月	112.1%
7月	110.0%
8月	107.6%
9月	107.1%
10月	110.6%
11月	105.5%
12月	101.9%
1月	104.7%
2月	125.0%
3月	132.8%
合 計	111.4%

2023 年度
地域医療支援病院紹介率（診療科別）

科 別	紹介率
総 合 診 療 科	96.81%
呼 吸 器 内 科	107.6%
循 環 器 内 科	104.0%
腎 臓 内 科	105.8%
糖尿病代謝内科・糖尿病センター	98.9%
消 化 器 内 科	100.3%
神 経 内 科	100.0%
緩 和 ケ ア 科	—
リウマチ・膠原病科	100.0%
精 神・心 療 内 科	—
小 児 科	69.2%
外 科	100.2%
乳 腺 外 科	94.8%
整 形 外 科	99.3%
形 成 外 科	88.7%
脳 神 経 外 科	100.8%
呼 吸 器 外 科	98.9%
心 臓 血 管 外 科	100.0%
皮 膚 科	97.7%
泌 尿 器 科	90.4%
産 婦 人 科	93.1%
眼 科	95.4%
耳 鼻 咽 喉 科	98.4%
放 射 線 治 療 科	86.4%
麻 酔 科	64.3%
画 像 診 断 部	100.0%
歯 科 口 腔 外 科	42.5%
救 急・集 中 治 療 科	536.9%
合 計	92.1%

2023 年度
地域医療支援病院逆紹介率（診療科別）

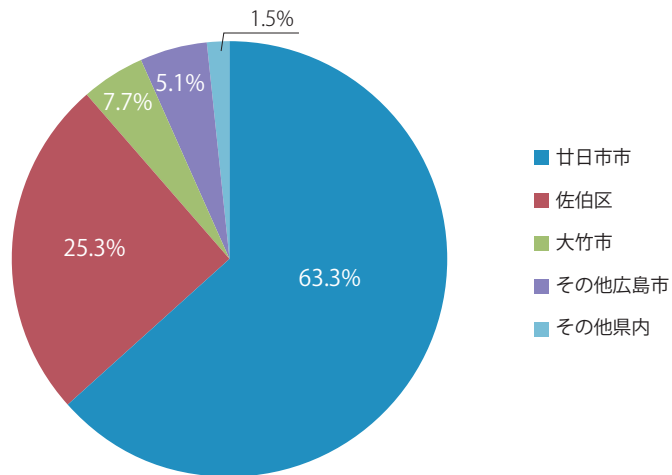
科 別	紹介率
総 合 診 療 科	266.7%
呼 吸 器 内 科	134.2%
循 環 器 内 科	268.2%
腎 臓 内 科	128.7%
糖尿病代謝内科・糖尿病センター	69.7%
消 化 器 内 科	101.6%
神 経 内 科	77.4%
緩 和 ケ ア 科	—
リウマチ・膠原病科	29.3%
精 神・心 療 内 科	1857.1%
小 児 科	29.7%
外 科	122.4%
乳 腺 外 科	116.5%
整 形 外 科	178.0%
形 成 外 科	29.9%
脳 神 経 外 科	94.8%
呼 吸 器 外 科	207.2%
心 臓 血 管 外 科	69.6%
皮 膚 科	50.5%
泌 尿 器 科	55.6%
産 婦 人 科	33.6%
眼 科	112.0%
耳 鼻 咽 喉 科	75.5%
放 射 線 治 療 科	15.5%
麻 酔 科	28.7%
画 像 診 断 部	0.0%
歯 科 口 腔 外 科	151.1%
救 急・集 中 治 療 科	2406.4%
合 計	111.4%



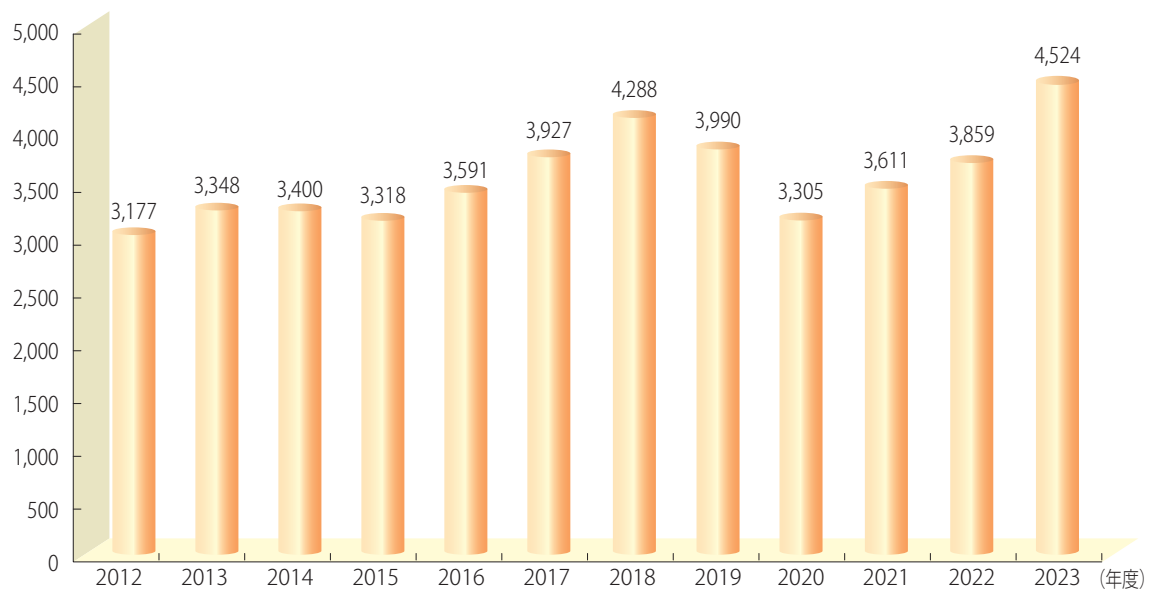
救急車来院件数

2023 年度
救急車来院件数（管轄別）

2023 年度	
廿 日 市 市	2,864
佐 伯 区	1,146
大 竹 市	213
そ の 他 広 島 市	231
そ の 他	70
合 計	4,524



救急車来院件数



資
料

医療行為統計表

2023 年度 医療行為統計表

【手術件数】		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	累計
内 科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 児 科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精 神 診 療 内 科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外 科		83	83	98	100	95	83	91	100	101	91	91	90	1,106
整 形 外 科		105	99	82	90	100	91	116	100	98	83	87	72	1,123
形 成 外 科		7	12	12	16	11	14	10	10	12	11	18	15	148
脳 神 経 外 科		11	12	12	9	11	14	16	12	9	17	11	15	149
産 婦 人 科		27	25	25	23	27	27	27	30	31	26	25	25	318
眼 科		51	60	54	50	65	41	51	61	64	58	52	49	656
耳 鼻 咽 喉 科		16	20	23	21	31	22	19	15	13	13	22	16	231
皮 膚 科		20	17	19	14	18	17	20	13	12	11	19	20	200
泌 尿 器 科		44	46	49	52	48	40	48	47	51	49	50	59	583
歯 科 口 腔 外 科		5	7	11	8	8	4	9	8	7	5	7	5	84
救 急 科・麻 酔 科		0	3	1	2	0	2	0	2	3	1	1	0	15
放 射 線 治 療 科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
画 像 診 断 部		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心 臓 血 管 外 科		23	18	27	14	25	15	21	15	22	24	19	24	247
呼 吸 器 外 科		15	14	14	15	22	14	15	23	17	18	19	16	202
乳 腺 外 科		11	15	12	10	13	10	15	18	17	17	15	15	168
計		418	431	439	424	474	394	458	454	457	424	436	421	5,230
手術（外来件数）（再掲）		47	55	54	47	79	44	49	51	54	47	55	51	633
（ 口 腔 外 科 ）		(96)	(94)	(125)	(134)	(126)	(104)	(125)	(112)	(129)	(107)	(97)	(105)	(1,354)
ア ン ギ オ 室 手 術		6	9	5	6	9	3	13	7	6	3	4	4	75
内視鏡下手術（VPP）		115	111	107	136	107	117	111	116	117	114	109	116	1,376
全 身 麻 酔 件 数		320	322	334	331	351	297	357	344	348	315	326	321	3,966

【放射線業務】		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	累計
一 般 撮 影		3,549	3,577	4,045	3,772	3,798	3,675	3,942	3,869	3,869	3,673	3,830	3,410	45,009
パ ン ト モ		1	1	1	1	0	0	0	1	0	1	1	0	7
骨 密 度 測 定		119	116	142	117	134	112	124	117	120	124	123	101	1,449
造 影 透 視 撮 影		73	88	92	78	83	54	71	69	56	75	74	40	853
上 部 消 化 管		63	54	125	129	137	117	128	95	77	62	64	27	1,078
注 腸		3	10	5	1	0	3	1	0	1	4	4	4	36
血 管 連 続 撮 影		48	56	57	50	47	47	61	46	44	44	40	39	579
心臓血管連続撮影		51	54	59	48	46	51	67	51	56	46	57	57	643
C T 各 科		1,768	1,829	1,938	1,777	1,811	1,796	1,926	1,818	1,918	1,811	1,798	1,790	21,980
C T 画 診		32	34	37	33	37	37	52	42	38	32	31	35	440
M R I		621	576	695	613	652	595	644	651	652	592	565	583	7,439
R I		135	108	128	88	101	98	106	115	108	92	113	88	1,280
リニアック（件数）		444	316	491	435	519	543	530	465	408	447	504	499	5,601
リニアック（門数）		1,661	1,239	2,012	1,783	2,295	2,093	2,129	1,998	1,746	1,890	1,976	1,941	22,763

【検査業務】		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	累計
心 電 図 検 査		1,756	1,770	1,960	1,705	1,658	1,719	1,880	1,861	1,910	1,882	1,786	1,821	21,708
ト レ ッ ド ミ ル		3	2	0	1	2	0	0	0	2	0	0	2	12
ホ ル タ ー 型		65	39	41	16	34	37	26	28	18	25	21	22	372
心 臓 エ コ ー		660	639	680	588	564	546	647	636	622	609	594	581	7,366
脳 波		25	7	10	20	39	21	20	21	28	11	13	31	246
肺 機 能 検 査		104	101	112	113	121	73	118	99	104	117	99	114	1,275
神経伝達速度・電流知覚閾値測定		132	119	123	107	124	112	99	116	97	121	109	123	1,382
重 心 動 揺 検 査		7	7	3	6	3	6	5	3	4	9	4	7	64
サ－モク*ラフィー検査		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脈波図・心電図・心臓・心臓・心臓検査		218	230	240	249	221	228	233	242	234	244	226	254	2,819
体 液 量 測 定		93	96	99	97	95	83	92	112	90	100	111	96	1,164
病 理 組 織 検 査		585	564	616	591	632	548	642	625	623	573	646	577	7,222
解 剖 件 数		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

【薬剤業務】		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	累計
外 来	処 方 箋 枚 数	9,284	9,628	10,165	9,428	10,080	9,634	9,860	9,494	10,755	9,566	9,612	9,987	117,493
	剤 数（件数）	28,915	28,925	30,806	28,705	30,471	28,919	29,571	28,901	32,574	29,044	29,311	30,434	356,576
	延 べ 剤 数	878,206	875,261	935,689	896,402	942,266	890,928	920,967	896,472	1,039,179	859,838	875,921	1,026,712	11,037,841
入 院	処 方 箋 枚 数	9,441	9,531	9,769	9,698	10,065	9,189	10,494	9,638	10,017	10,559	9,901	9,546	117,848
	剤 数（件数）	16,911	16,485	17,424	16,867	17,639	15,777	17,958	16,598	17,487	17,908	17,620	17,069	205,743
	延 べ 剤 数	96,783	99,828	101,871	97,620	102,036	89,330	104,444	99,316	108,423	101,522	107,379	99,256	1,207,808
	服薬指導件数	563	561	551	454	508	472	522	473	423	497	435	438	5,897
薬 合 診 療 所	処 方 箋 枚 数	27	42	30	30	33	41	34	38	45	40	30	41	431
	剤 数（件数）	131	202	153	132	174	184	165	168	196	175	143	178	2,001
	延 べ 剤 数	3,405	5,557	3,997	3,780	4,664	5,098	4,779	4,749	6,021	5,095	4,053	5,122	56,320

【その他業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
在宅療法指導	77	65	74	72	80	61	60	51	62	49	67	69	787
分 娩	14	31	16	22	19	25	32	19	25	20	23	18	264
そ の 他 分 娩	1	0	0	1	1	0	1	1	0	1	0	0	6
腎尿管結石破碎	9	6	8	6	4	6	3	4	2	5	4	6	63
化学療法件数（外来）	448	479	499	466	515	483	492	521	484	492	505	462	5,846
化学療法件数（入院）	124	105	89	76	91	74	77	80	63	82	88	80	1,029
（超音波内訳）													
内 科	195	217	241	192	208	198	234	188	227	219	202	220	2,541
小 児 科	13	14	16	15	13	22	31	22	26	14	23	13	222
精神科・心療内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外 科	166	160	187	145	193	164	165	180	192	135	145	166	1,998
整 形 外 科	10	8	14	8	11	11	12	10	12	4	7	3	110
脳神経外科	13	22	21	21	14	24	20	25	13	14	11	13	211
産婦人科	313	321	350	334	349	365	361	373	353	314	321	335	4,089
眼 科	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	1	4	9
耳鼻咽喉科	107	115	122	113	108	123	132	136	124	105	102	143	1,430
皮 膚 科	1	0	3	3	2	2	3	2	6	7	9	8	46
泌尿器科	118	137	101	96	136	147	156	135	112	107	119	147	1,511
歯科口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急科・麻酔科	90	85	79	72	1	91	101	81	111	72	91	78	952
放射線治療科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
画像診断部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	13	2	3	5	5	3	11	4	4	7	7	9	73
呼吸器外科	2	0	5	2	2	1	0	1	1	2	1	2	19
健康管理課	132	164	216	224	252	250	244	250	255	212	215	132	2,546
超音波診断計	1,173	1,245	1,358	1,230	1,294	1,402	1,471	1,408	1,437	1,212	1,254	1,273	15,757

【内視鏡業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
胃ファイバー検査 内科	270	245	294	252	272	246	316	281	289	243	254	253	3,215
胃ファイバー検査 ドック	126	145	222	216	214	233	230	225	205	166	168	98	2,248
気管支ファイバー検査	14	20	21	8	10	9	12	16	8	15	12	14	159
大腸ファイバー検査	137	121	158	127	129	131	139	124	114	109	102	119	1,510
上部止血（消化管止血術）	17	15	22	24	27	21	24	16	19	23	19	19	246
EVL（食道静脈瘤血紮術）	1	0	1	0	1	1	1	1	1	3	2	2	14
PEG（胃瘻造設術）	7	6	8	3	1	3	7	7	7	2	6	4	61
上部EMR（粘膜切除）、ESD	10	13	16	14	15	6	8	13	5	12	12	8	132
下部ポリペク（ポリプ切除）	6	9	10	21	11	29	44	35	33	42	45	25	310
下部EMR（粘膜切除）	48	49	56	52	52	41	43	45	45	46	50	46	573
ERCP（膵胆管造影）、ERBD	6	2	5	3	2	1	6	2	2	5	6	4	44
EST（乳頭切開術）	26	27	43	37	36	27	42	33	43	41	27	33	415

【リハビリテーション業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
消炎鎮痛等（器具）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
運動器リハビリテーション	612	644	842	814	837	833	800	819	940	816	882	787	9,626
脳血管疾患リハビリテーション	1,610	1,348	1,577	1,174	1,398	1,469	1,826	1,707	1,511	1,587	1,529	1,555	18,291
呼吸器リハビリテーション	623	840	792	581	768	739	928	675	791	774	654	696	8,861
疾患対象外	839	769	927	960	867	800	972	814	945	922	959	933	10,707
心大血管疾患リハビリテーション	723	698	743	560	639	488	524	535	661	557	580	692	7,400
A D L 加 算													0
早期リハ加算	2,053	2,103	2,220	1,809	2,179	2,354	2,707	2,548	2,715	2,511	2,368	2,563	28,130
リハビリテーション総合実施計画書	157	190	189	150	157	168	207	190	208	180	168	187	2,151
退院時リハ指導	66	50	61	47	42	55	57	69	65	36	60	44	652

【給食業務】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
常	食	2,267	2,296	2,564	2,674	2,257	2,262	2,954	2,822	2,770	2,568	2,427	2,378	30,239
全	粥	6,764	6,413	6,654	7,637	8,041	7,308	7,667	7,441	6,785	8,625	7,810	6,915	88,060
五	分	61	74	113	75	35	72	90	121	49	35	66	55	846
三	分	29	31	29	50	24	42	18	49	31	24	33	19	379
重	湯	88	31	146	235	87	66	107	76	41	83	64	126	1,150
特	別 食	18,861	18,775	19,083	19,094	18,024	17,201	19,092	16,885	18,953	18,585	18,721	20,042	223,316
計		28,070	27,620	28,589	29,765	28,468	26,951	29,928	27,394	28,629	29,920	29,121	29,535	343,990

【栄養指導業務】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
外 来	栄 養 指 導	162	154	156	148	112	139	127	141	144	118	135	136	1,672
入 院	栄 養 指 導	71	89	82	68	78	64	72	85	85	62	78	101	935
集 団	栄 養 指 導	1	2	2	4	1	3	4	2	2	5	4	6	36

医師科別人員／職員数

2023 年度 医師科別人員

部署名		2023 年 4 月
総 合 診 療 科		1
内科	呼 吸 器 内 科	4
	腎 臓 内 科	4
	糖尿病代謝内科	4
	消 化 器 内 科	10
	循 環 器 内 科	7
	合 計	30
小 児 科		6
外 科		13
整 形 外 科		7
脳 神 経 外 科		3
心 臓 血 管 外 科		4
産 婦 人 科		5
眼 科		2
耳 鼻 科		3
皮 膚 科		5
泌 尿 器 科		5
歯 科		2
放 射 線 治 療 科		1
画 像 診 断 部		6
麻 酔 科		10
救 急 ・ 集 中 治 療 科		10
精 神 科		—
形 成 外 科		1
呼 吸 器 外 科		3
健 康 管 理 科		1
臨 床 研 究 検 査 科		1
病 理 研 究 検 査 科		1
臨 床 研 修 医 2 年 次		10
臨 床 研 修 医 1 年 次		12
合 計		141

職員数

区 分	2023 年 4 月
医 師	117
歯 科 医 師	2
臨 床 研 修 医	22
専 修 医	—
医 師 部 門 計	141
助 産 師	26
保 健 師	119
看 護 師	510
准 看 護 師	2
看 護 部 門 計	657
薬 剤 師	36
放 射 線 技 師	26
臨 床 検 査 技 師	52
臨 床 工 学 技 士	16
理 学 療 法 士	13
マ ッ サ ー ジ 師	—
作 業 療 法 士	5
管 理 栄 養 士	12
歯 科 衛 生 士	3
歯 科 技 工 士	—
視 能 訓 練 士	3
言 語 聴 覚 士	4
臨 床 心 理 士	1
社 会 福 祉 士	5
介 護 福 祉 士	—
医 療 技 術 部 門 計	176
事 務	82
事 務 部 門 計	82
ボ イ ラ 技 師	1
電 気 技 師	1
運 転 手	—
調 理 師	—
保 清 員	—
保 育 士	—
看 護 助 手	25
介 護 員	—
技 術 助 手	4
労 務 部 門 計	31
出 向	—
合 計	1,087

学会施設認定

認定種別
日本内科学会認定内科専門医教育関連病院
日本内科学会認定内科専門医制度研修医指導
日本呼吸器学会教育関連施設
日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本消化器病学会認定施設
日本肝臓学会認定施設
日本胆道学会指導施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本腎臓学会研修施設
日本透析医学会認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本小児科学会認定医制度研修施設
日本小児科学会小児科専門医研修施設
日本外科学会認定医制度修練施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設
日本肝胆膵外科学会認定肝胆膵外科高度技能専門医修練施設 B
日本消化器外科学会専門医修練施設証
日本大腸肛門病学会関連施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
乳房再建用エキスパンダー・インプラント実施施設
日本脳神経外科学会指定専門医訓練施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本整形外科学会認定医制度研修施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本脊椎椎間病学会 椎間板酵素注入療法実施可能施設
日本胸部外科学会（認定医）指定施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設

認定種別
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本女性医学学会専門医制度認定研修施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本気管食道科学会専門医研修施設
日本麻酔科学会認定病院
日本ペインクリニック学会ペインクリニック専門医指定研修施設
日本救急医学会認定救急科専門医指定施設
日本集中治療医学会専門医研修施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
日本老年医学会認定施設
日本呼吸器外科学会指導医制度基幹施設
呼吸器外科専門医制度関連施設
日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
日本放射線腫瘍学会準認定施設
日本口腔外科学会専門医制度研修機関
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本病態栄養学会認定「栄養管理・NST 実施施設」
日本栄養療法推進協議会認定 NST 稼働施設
日本静脈経腸栄養学会認定 NST 稼働施設
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定マンモグラフィ検診施設
日本高血圧学会専門医認定施設
PEG・在宅医療研究会専門胃瘻造設施設・管理施設
人間ドック健診施設機能評価認定施設
腹部ステントグラフト実施施設
胸部ステントグラフト実施施設
下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設
日本脈管学会認定研修指定施設
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
日本膵臓学会指導施設
緩和医療専門薬剤師研修施設
日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修施設

編集後記

2023 年度の JA 広島総合病院 “Annual Report” が完成いたしました。

2023 年度の広島最大の出来事は“広島サミット”だと思います。道路が急にきれいになったことは良かったですが、交通規制など不便な点もありました。内容を見れば唐突に来日したゼレンスキー大統領に振り回された感じで、被爆都市広島で開催のサミットにしては核兵器廃絶に関しては極めて乏しい内容だったと感じます。非核・平和といったテーマでの議論を期待していたので。

2024 年の年明けは大きな事件が連続しました。元旦に発生した「能登半島地震」にいきなり正月気分を吹き飛ばされた上に 2 日には羽田空港地上衝突事故が発生、滑走路上で航空機同士が衝突する事故が日本で発生したことは信じられません。エンジンが燃え盛る中、日航機の乗客・乗員 379 人が全員無事脱出できたことは称賛され、日本航空の評価は一時的に高まりました。

明るい話題として将棋の藤井聡太竜王の史上初の八冠獲得、陸上世界選手権での北口榛花選手の優勝、小田凱人選手の全仏・全英・全豪での優勝がありますが、最も注目を集め続けているのは大谷翔平選手で、2023 年のア・リーグ本塁打王と MVP を獲得した上に 2 月には結婚を発表し今後のますますの活躍が期待されます。皆様の努力と活躍に敬意を表したいと思います。

さて 2023 年度多くの方が亡くなりました。八代亜紀さん、谷村新司さん、鳥山明さんなど自分の青春時代を彩った方々の訃報に接するのはつらいものです。中でも最もショックを受けたのは小沢征爾先生の訃報です。若い頃からファンでしたし、ボストン交響楽団を率いて来日した時に聴いた演奏では、「弦のボストン」と称されていた美しい弦楽器の演奏に感動したことをよく覚えています。皆様のご冥福をお祈りいたします。

一方多くの事件も起こりました。先に書いた羽田空港の事故原因は今後の調査待ちですが、海上保安庁機の勘違いの可能性があります。ビックモーターの保険金不正請求やジャニー喜多川氏による性加害問題においては関係者が噂を聞きあるいは疑いを持ちながら見過ごしてきた事件であることも大きな問題で、自浄作用の欠如、日本社会の劣化を示しているのではと考えます。

医療の現場においては COVID-19 感染症が 5 類へ変更されましたが、入院における患者隔離のみならず、外来診療においても一般受診患者との接触を防ぐ対応が求められ、医療機関の負担は相変わらずです。もう一つの問題が“マイナ保険証”です。情報紐付けの誤りや窓口での確認エラーなどトラブルが多発しました。任意取得のマイナンバーカードに健康保険証を統合するなど問題も多く、また現場の混乱を無視して一方的かつ急激に推し進める姿勢は問題があると思います。我々はこの様なことにならぬ様日々の診療に誠意を持って全力であたりたいと思います。

取り留めない話を書き綴りましたが、本年も多くの方の御協力により年報が完成したことを感謝いたします。本年報が地域の方々に我々の診療の実際を知っていただく端緒となれば幸いです。

2025 年 3 月
年報編集委員会委員長
辻山 修司

年報編集委員会

小林 平	鶴谷 理恵	大和真一郎	上村 浩司
小松 浩基	上田 雅美	荒田 晋二	森下空青羽

JA広島総合病院 年報 2023年度

2025 年 3 月 発行

発 行 広島県厚生農業協同組合連合会
広島総合病院

広島県廿日市市地御前 1-3-3

TEL 0829-36-3111

印 刷 株式会社 タカトープ rintメディア



JA 広島総合病院
JA. HIROSHIMA General Hospital